

平成 2 8 年度

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

報 告 書

平成 28 年 9 月

株式会社エヌ・イー サポート

目 次

1 調査概要.....	1
1-1 調査名称-----	1
1-2 目 的-----	1
1-3 調査場所-----	1
1-4 調査内容-----	1
1-5 履行期間-----	1
1-6 請負者-----	1
2 調査方法.....	4
2-1 事前周知・手続き等-----	4
2-2 坪刈りによる付着動植物調査-----	4
2-3 目視による付着動植物調査-----	7
2-4 遊泳魚類等調査-----	8
2-5 水質調査-----	9
2-6 藻場分布調査-----	10
3 調査結果.....	14
3-1 調査実施日-----	14
3-2 坪刈りによる付着動植物調査-----	15
3-2-1 植物（海藻）-----	15
(1) 神戸沖埋立処分場-----	15
(2) 大阪沖埋立処分場-----	16
(3) 泉大津沖埋立処分場-----	17
3-2-2 動物（付着動物）-----	19
(1) 神戸沖埋立処分場-----	19
(2) 大阪沖埋立処分場-----	19
(3) 泉大津沖埋立処分場-----	19
3-3 目視による付着動植物調査-----	26
3-3-1 植物（海藻）-----	26
(1) 神戸沖埋立処分場-----	26
(2) 大阪沖埋立処分場-----	29
(3) 泉大津沖埋立処分場-----	32
3-3-2 動物（付着動物）-----	36
(1) 神戸沖埋立処分場-----	36
(2) 大阪沖埋立処分場-----	39
(3) 泉大津沖埋立処分場-----	42
3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物）-----	47
(1) 神戸沖埋立処分場-----	47
(2) 大阪沖埋立処分場-----	51
(3) 泉大津沖埋立処分場-----	55

3-4 遊泳魚類等調査	57
(1) 神戸沖埋立処分場	57
(2) 大阪沖埋立処分場	59
(3) 泉大津沖埋立処分場	61
3-5 水質調査	64
(1) 神戸沖埋立処分場	64
(2) 大阪沖埋立処分場	69
(3) 泉大津沖埋立処分場	74
3-6 藻場分布調査	79
3-6-1 代表地点における目視観察結果	79
(1) 神戸沖埋立処分場	79
(2) 大阪沖埋立処分場	80
3-6-2 代表地点における定量採取結果	82
(1) 神戸沖埋立処分場	82
(2) 大阪沖埋立処分場	84
3-6-3 藻場構成種等の化学組成 (CNP) 分析結果	86
(1) 神戸沖埋立処分場	86
(2) 大阪沖埋立処分場	87
3-6-4 藻場分布状況	88
(1) 神戸沖埋立処分場	88
(2) 大阪沖埋立処分場	130
4 結果のまとめ	171
4-1 付着動植物の状況	171
(1) 神戸沖埋立処分場	171
(2) 大阪沖埋立処分場	178
(3) 泉大津沖埋立処分場	185
4-2 遊泳魚類等の状況	192
(1) 神戸沖埋立処分場	192
(2) 大阪沖埋立処分場	192
(3) 泉大津沖埋立処分場	193
4-3 水質等の状況	194
(1) 神戸沖埋立処分場	194
(2) 大阪沖埋立処分場	195
(3) 泉大津沖埋立処分場	196
4-4 藻場分布の状況	197
(1) 神戸沖埋立処分場	197
(2) 大阪沖埋立処分場	198
4-5 まとめ(要約)	199
4-5-1 神戸沖埋立処分場	199
4-5-2 大阪沖埋立処分場	200
4-5-3 泉大津沖埋立処分場	201

- ・資料編
- ・写真集

1 調査概要

1-1 調査名称

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

1-2 目 的

本調査は、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場及び泉大津沖埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として実施した。

1-3 調査場所

神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場及び泉大津沖埋立処分場の護岸（図 1-1）

1-4 調査内容

調査内容を表 1-1 に示す。

表 1-1 調査内容

名 称	項 目	単位	数量	摘 要
計画・準備	計画準備	式	1	
調査実施	坪刈りによる付着動植物調査	地点	4	神戸、大阪 各 1 地点、泉大津 2 地点 1 回
	目視による付着動植物調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点 1 回
	遊泳魚類等調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点 1 回
	水質調査	地点	9	神戸、大阪、泉大津 各 3 地点 1 回
	藻場分布調査	km	7.5	神戸 3.8km、大阪 3.7km 1 回
解析評価	調査結果等の解析評価	式	1	
	報告書の作成	式	1	

1-5 履行期間

自：平成 28 年 4 月 14 日 ～ 至：平成 28 年 9 月 30 日

1-6 請負者

株式会社エヌ・イー サポート 大阪支店

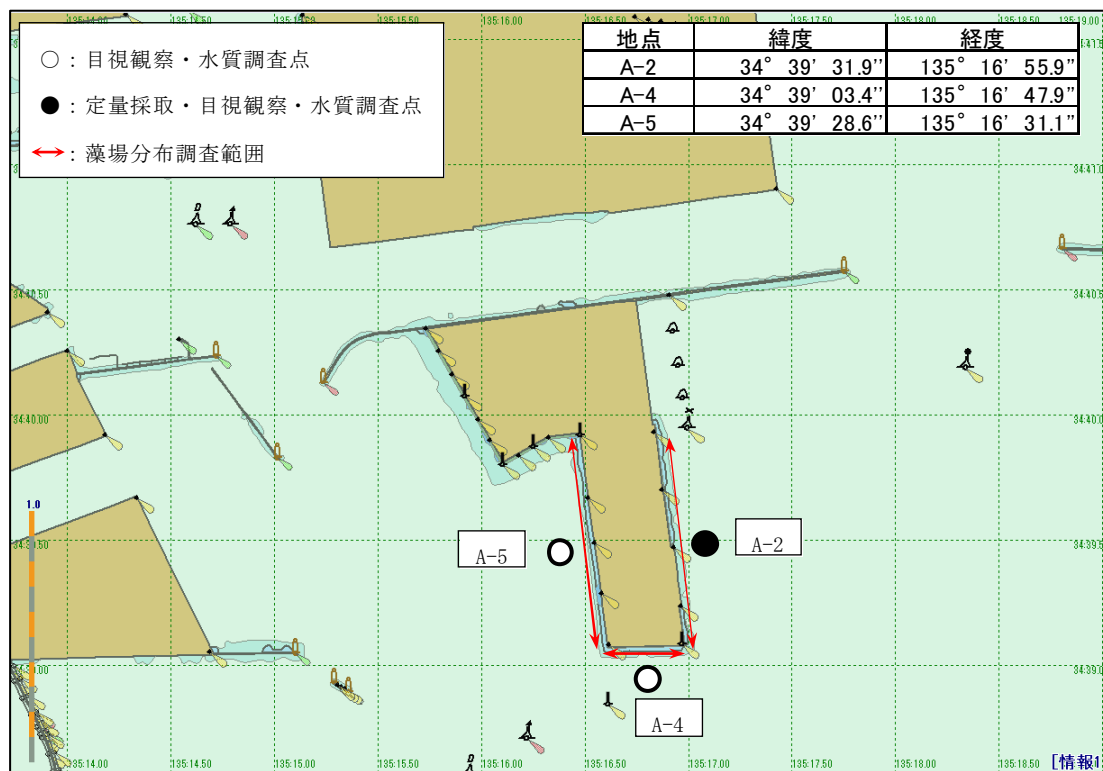


図 1-1 (1) 調査位置図 (神戸沖埋立処分場)

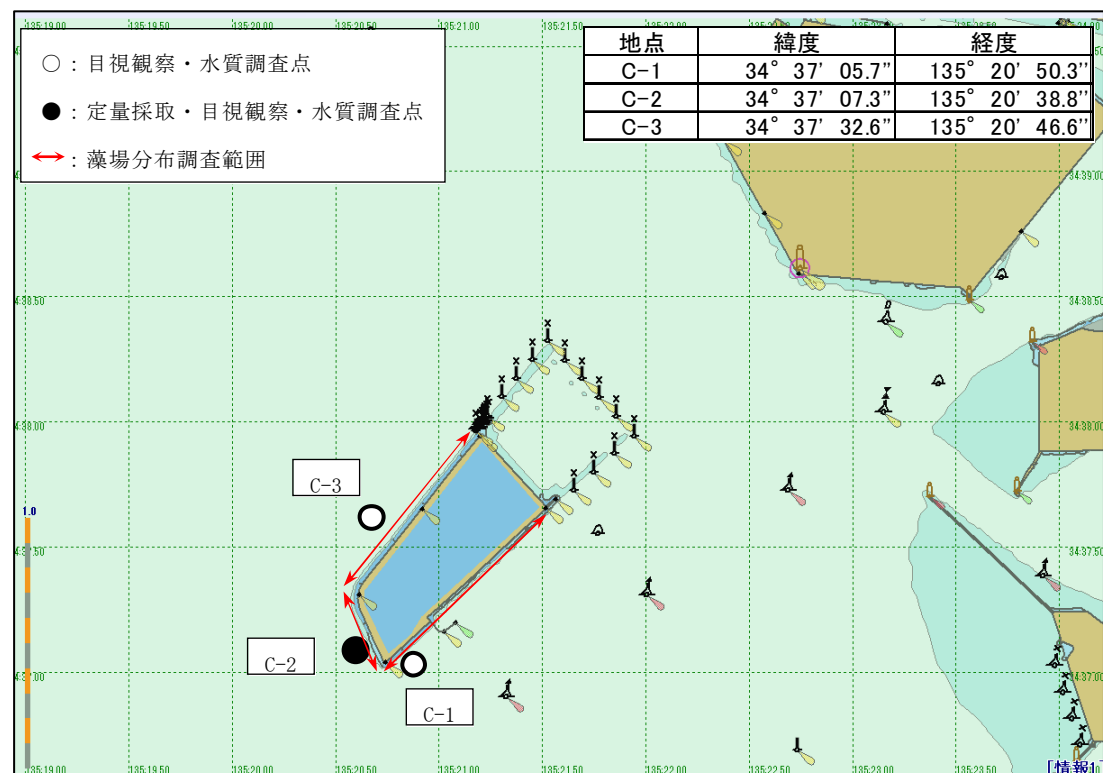


図 1-1 (2) 調査位置図 (大阪沖埋立処分場)

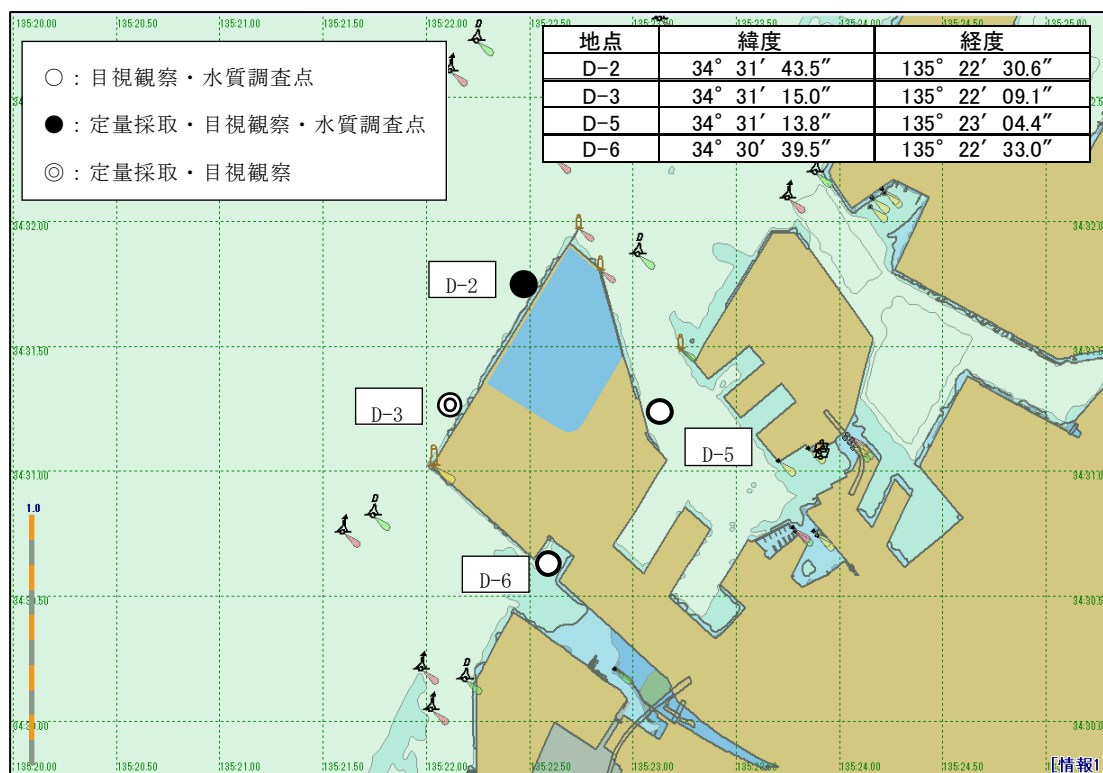


図 1-1 (3) 調査位置図 (泉大津沖埋立処分場)

2 調査方法

2-1 事前周知・手続き等

関係機関に対して、調査実施に係る内容説明の周知を行った。また同時に、海上保安部（阪神港長宛）に対する港内作業許可申請、兵庫県および大阪府に対して特別採捕許可の申請を行った。

2-2 坪刈りによる付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 1 点（A-2）、大阪沖埋立処分場 1 点（C-2）、泉大津沖埋立処分場：2 点（D-2、D-3）の計 4 点において、坪刈りによる動植物の定量採取を行った。

各調査地点で鉛直方向の上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で、50cm×50cm の方形枠を設置し、水中カメラを用いて撮影後、採取した。現地で 1mm 目のフルイでふるい分けを行った後、試料容器に分取し持ち帰り、植物については種の同定、種類別湿重量の測定、CNP 組成分析、動物については種の同定、種類別個体数の計測、種類別湿重量の測定を行った。

表 2-1 坪刈りによる付着動植物調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
植物（種の同定・種類別湿重量・CNP 組成） 動物（種の同定・種類別個体数・湿重量）	坪刈り水深（各点、3 層） 上層：平均海面±0m 中層：平均海面－2m 下層：平均海面－4m	神戸沖埋立処分場：1 点（A-2） 大阪沖埋立処分場：1 点（C-2） 泉大津沖埋立処分場：2 点（D-2、D-3）

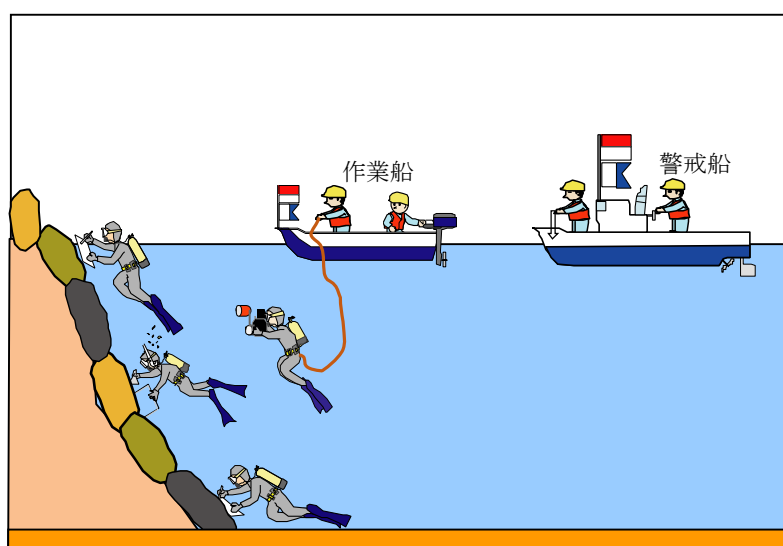


図 2-1 坪刈り、目視等潜水調査 実施状況模式図

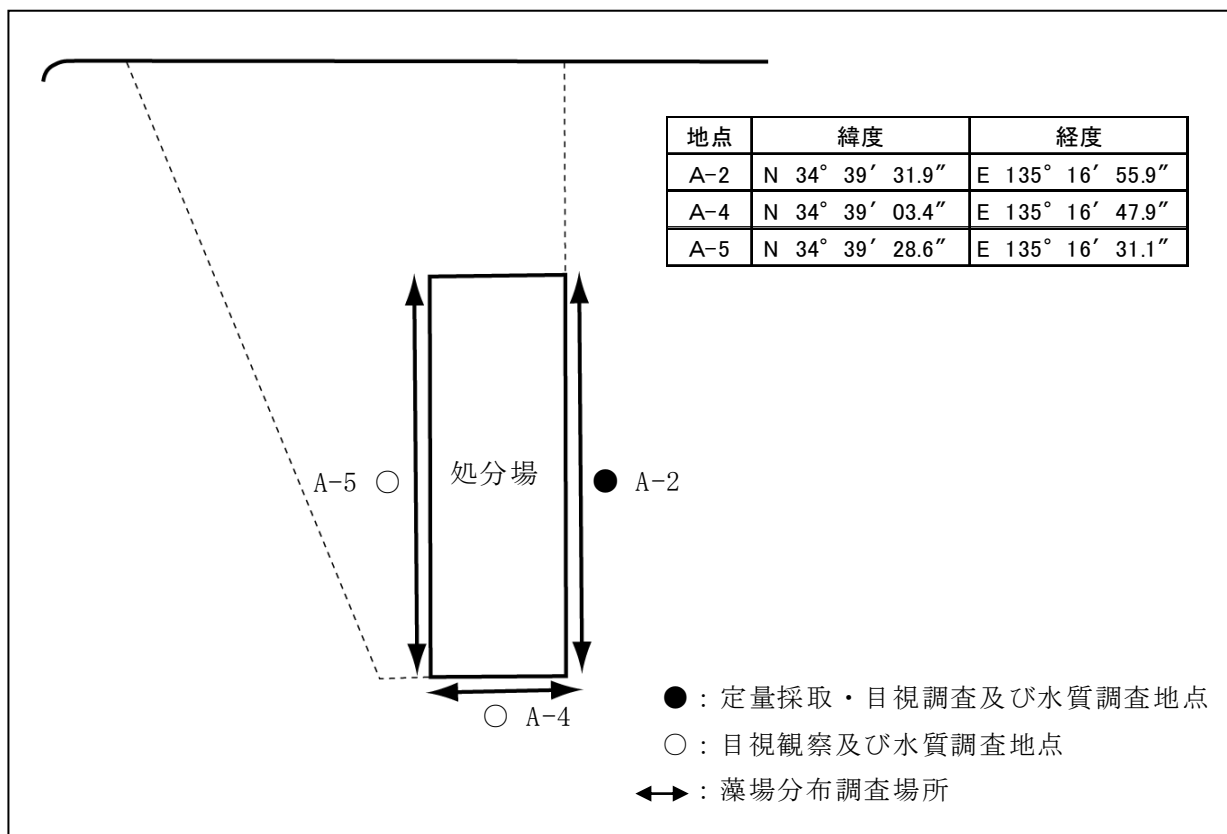


図 2-2 (1) 現地調査地点等位置図（神戸沖埋立処分場）

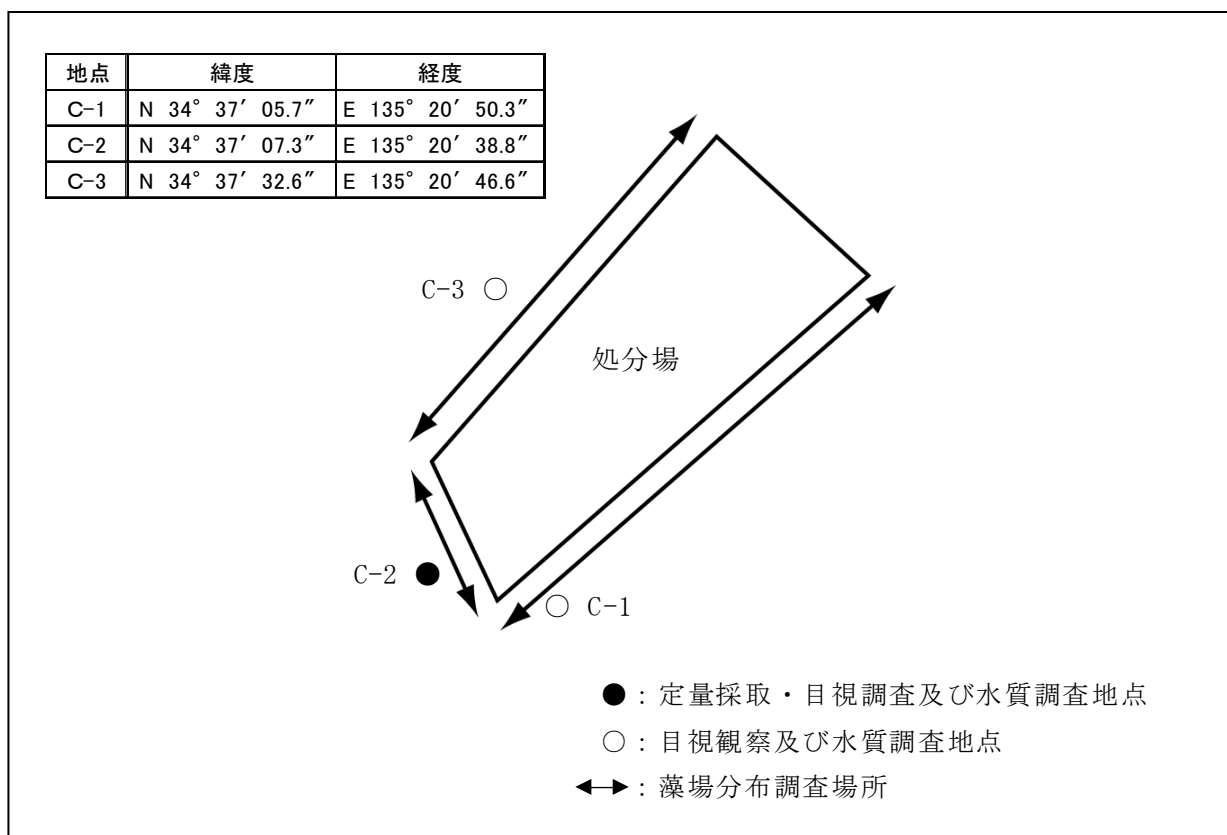


図 2-2 (2) 現地調査地点等位置図（大阪沖埋立処分場）

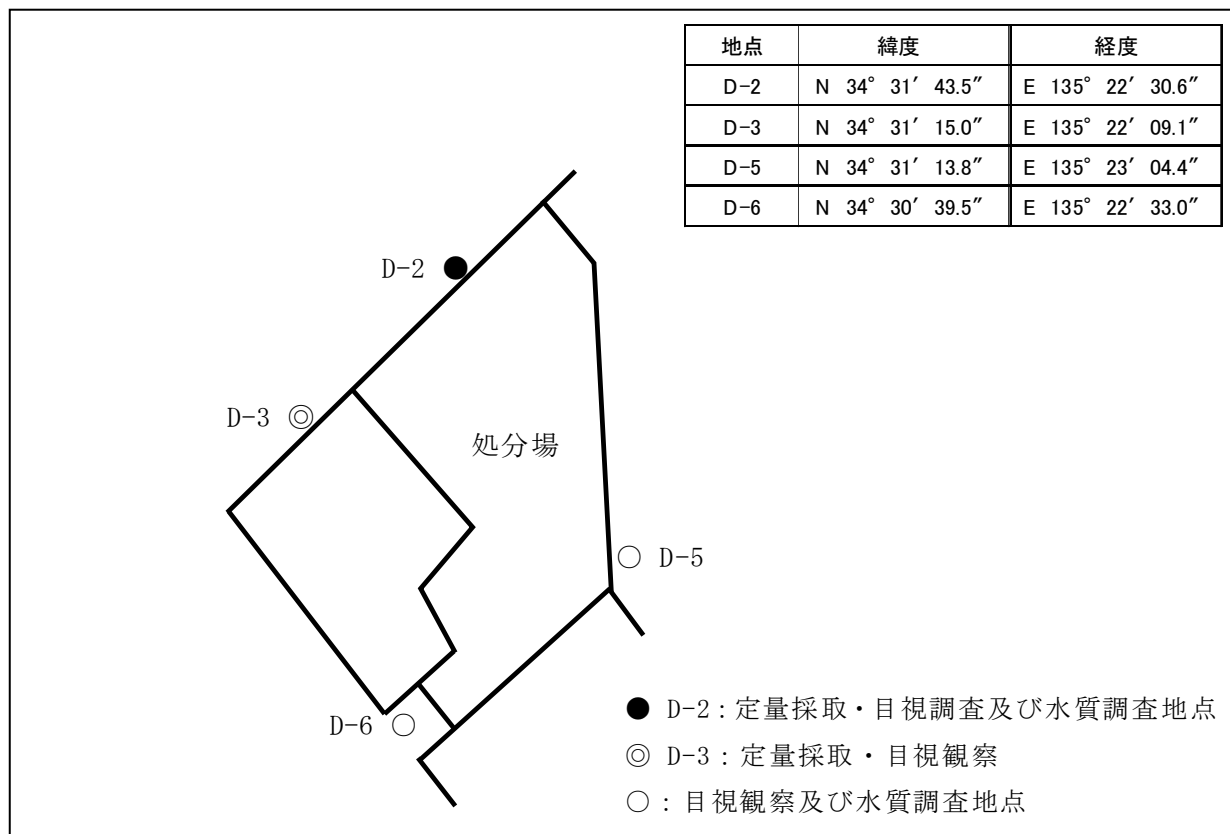


図 2-2 (3) 現地調査地点等位置図（泉大津沖埋立処分場）

2-3 目視による付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 点 (D-2、D-3、D-5、D-6) の計 10 点において、目視観察による動植物の観察を行った。

各調査地点で平均水面+1m から 1m 間隔で海底面まで、水深 1m 毎に 50×50cm の方形枠を設置し、枠内の植物（種類別被度）、動物（種類別被度または個体数）の観察を行った。泉大津沖埋立処分場の 2 地点 (D-5、D-6) については、エコ岸壁が設置されていたため、遊水室内の上面、側面、下面に分けて全体面の観察を実施した。また、観察箇所については写真撮影による記録を行った。

表 2-2 目視観察による付着動植物調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
目視観察	観察水深帯（各点、1 側線） 平均水面+1m から 1m 間隔で海底面までを対象	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5)
植物（種類別被度）		大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3)
動物（種類別被度または個体数）		泉大津沖埋立処分場：4 点 (D-2、D-3、D-5、D-6)

2-4 遊泳魚類等調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 点 (D-2、D-3、D-5、D-6) の計 10 点において、目視観察による遊泳魚類、イカ・タコ類の観察を行った。

各調査地点の護岸周辺に生息している魚類、イカ・タコ類を対象として、潜水目視観察を行い、種類別個体数の記録を行った。なお、個体数は CR 法（表 2-4）によって概略的に把握した。

表 2-3 遊泳魚類調査 調査方法等

調査方法等		調査地点
潜水目視観察による種類別個体数（CR 法※による）の記録	護岸周辺に生息する魚類	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5) 大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：4 点 (D-2、D-3、D-5、D-6)

※：CR 法 目視観察により確認できた生物の量を段階的に cc（非常に多い）～rr（非常に少ない）の表記で示す目視観察調査結果の記録方法。

表 2-4 CR 法による個体数区分

記 号	個体数区分
rr	1～2 個体
r	3～10 個体
c	11～50 個体
cc	51 個体以上

2-5 水質調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 3 点 (D-2、D-5、D-6) の計 9 点において、多項目水質計による水質調査を行った。

調査船を GPS 測位により所定の位置に誘導した後、調査船上より透明度板を垂下して透明度を計測した。その後、多項目水質計を用いて水温、塩分、D O、光量子束密度の鉛直測定（海面～海底まで 1m 間隔、海面下 0.5m、海底面上 1m）を行った。

また、調査時の一般気象・海象、水色の記録を行った。

水質調査の調査項目及び方法を表 2-5 に示した。

表 2-5 水質調査 調査方法等

調査項目	調査方法等		調査地点
水温・塩分・D O	多項目水質計による鉛直測定	海面～海底まで 1m 間隔、 海面下 0.5m 及び海底面 +1.0m 透明度は船上から観測	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5) 大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：3 点 (D-2、D-5、D-6)
光量子束密度			
透明度	透明度板による測定		

表 2-6 水質調査 使用機器埋立

項 目	使用機器
水温・塩分 溶存酸素 (D O) 光量子束密度	多項目水質計 AAQ176 (JFE アドバンテック社製) 

2-6 藻場分布調査

図 2-3 に示した、神戸沖埋立処分場では陸揚げ栈橋の範囲と北護岸を除く護岸(3.8km)、大阪沖埋立処分場では東護岸を除く護岸(3.7km)を調査対象として、藻場分布調査を実施した。

調査範囲の護岸に沿って、水中スクーター等を使用して移動しながら藻場の分布状況、構成種の目視観察を行った。

図 2-3、表 2-8 に示した各調査対象護岸で代表的な地点(各 10 地点)で、地点付近の藻場構成種の目視観察と水中写真撮影を行うとともに、方形枠(50 cm×50 cm)内の植物を採取し、持ち帰って種類別湿重量と C N P 組成分析を行った。

藻場分布の分析項目及び分析内容を表 2-7 に示す。

これらの結果と付着動植物調査の結果から、護岸延長を 50m 毎、平均海面から法尻までを 1m 間隔で区切ったメッシュ状の藻場分布図を作成した。

表 2-7 藻場分布調査 調査方法等

調査方法等	分析内容等	調査地点(範囲)
藻場構成種の目視観察を各処分場 10 点(測線)で実施。測線間については、水中スクーターを使用して藻場分布範囲の目視確認を行った。坪刈り調査は、各処分場あたり、10 地点で実施した。	種の同定 種類別湿重量の測定 主要種 10 種の CNP 組成分析	神戸沖埋立処分場： 周囲 3.8km 大阪沖埋立処分場： 周囲 3.7km

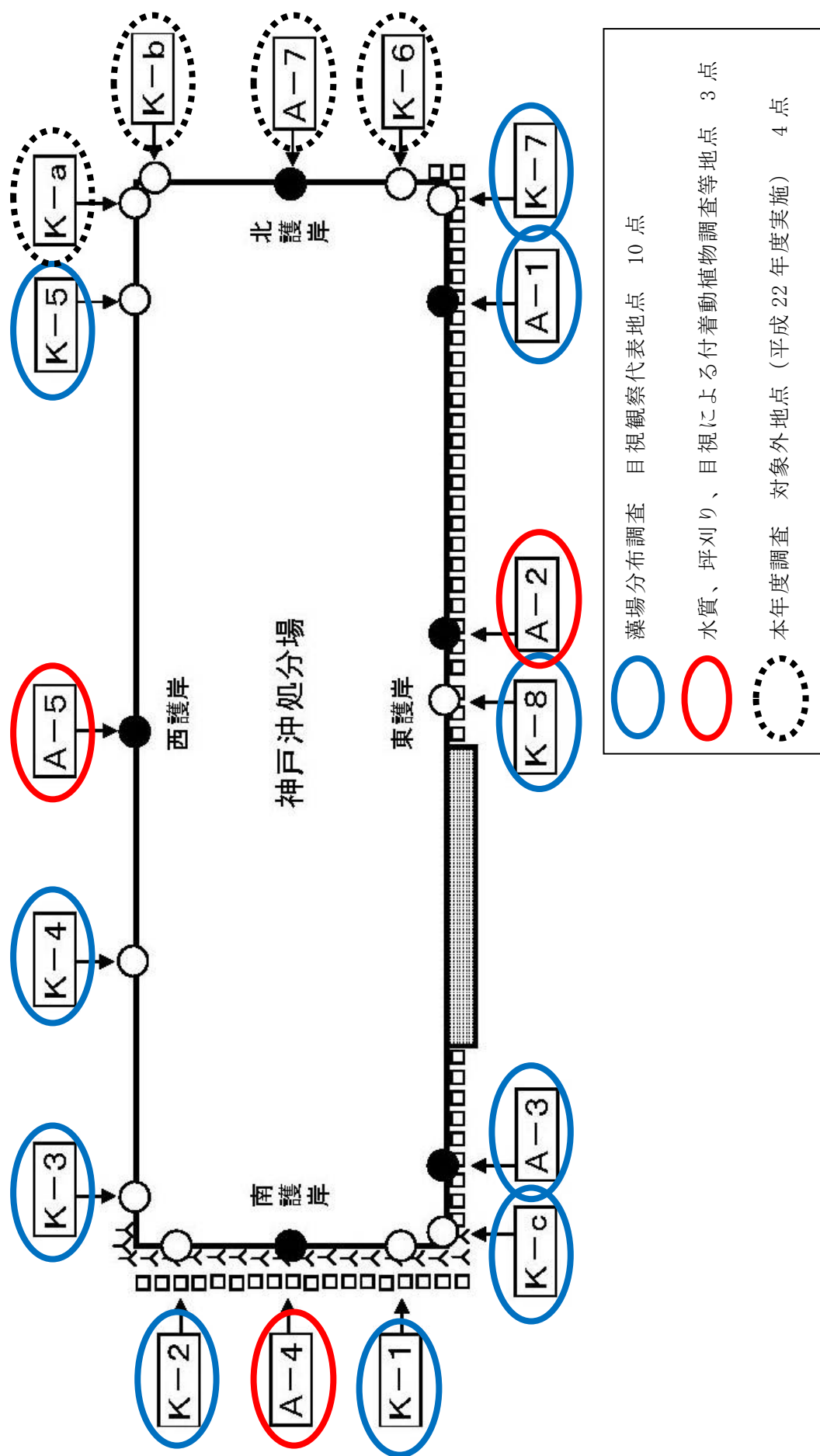


図 2-3 (1) 藻場分布調査 目視観察 代表地点位置図 神戸沖埋立処分場

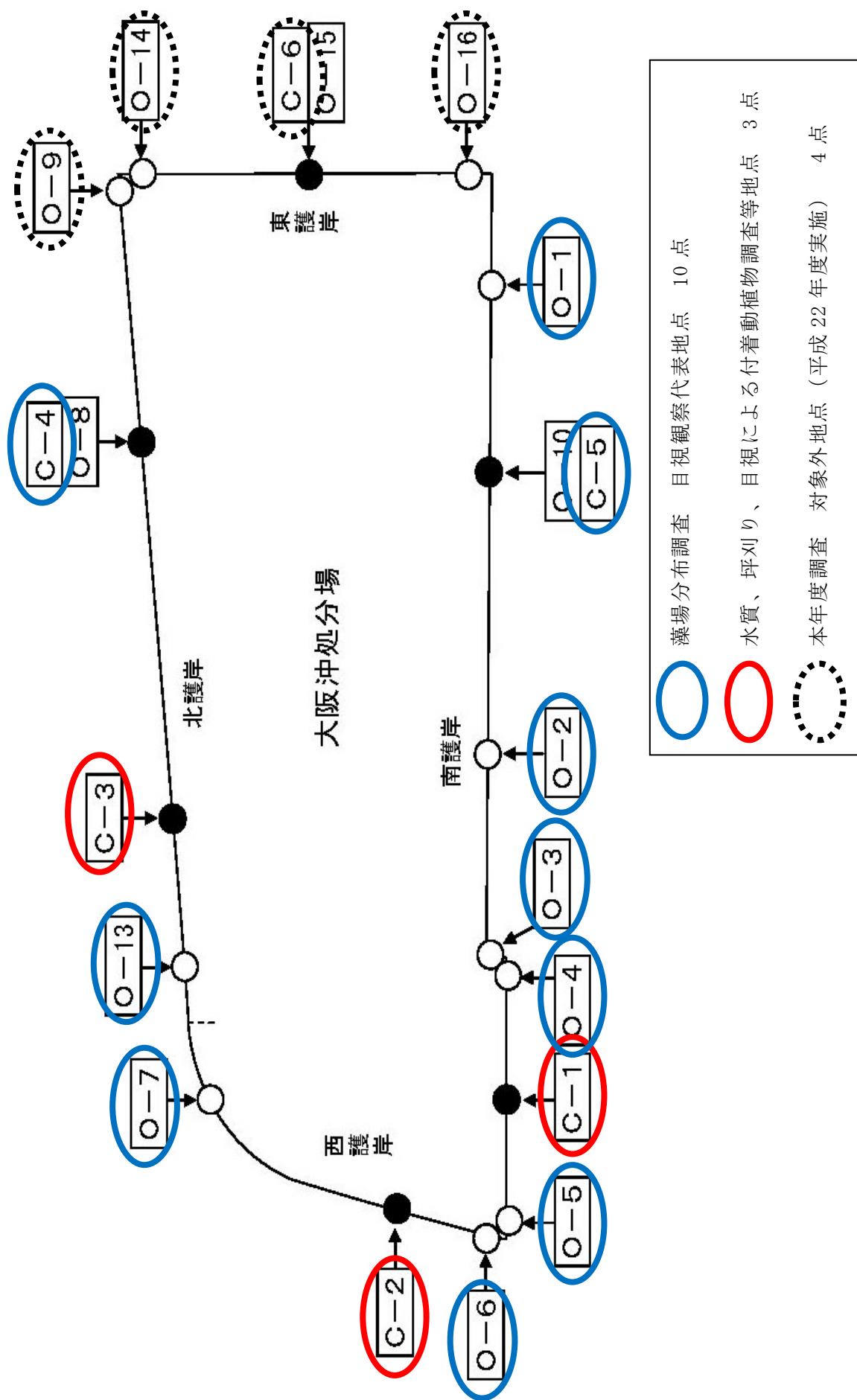


図 2-3 (2) 藻場分布調査 目視観察 代表地点位置図 大阪沖埋立処分場

表 2-8 (1) 藻場分布調査 目視観察代表地点等位置 緯度経度 【神戸沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
A-1	N 34° 39' 53.7"	E 135° 16' 51.7"	藻場分布調査 代表地点
A-2	N 34° 39' 31.9"	E 135° 16' 55.9"	水質、付着動植物等調査地点
A-3	N 34° 39' 10.3"	E 135° 16' 59.9"	藻場分布調査 代表地点
A-4	N 34° 39' 03.4"	E 135° 16' 47.9"	水質、付着動植物等調査地点
A-5	N 34° 39' 28.6"	E 135° 16' 31.1"	水質、付着動植物等調査地点
A-7	N 34° 39' 58.2"	E 135° 16' 39.1"	本年度調査対象外
K-1	N 34° 39' 02.9"	E 135° 16' 58.0"	藻場分布調査 代表地点
K-2	N 34° 39' 03.4"	E 135° 16' 36.2"	藻場分布調査 代表地点
K-3	N 34° 39' 04.8"	E 135° 16' 34.9"	藻場分布調査 代表地点
K-4	N 34° 39' 09.4"	E 135° 16' 33.4"	藻場分布調査 代表地点
K-5	N 34° 39' 53.5"	E 135° 16' 26.3"	藻場分布調査 代表地点
K-6	N 34° 39' 59.2"	E 135° 16' 50.2"	本年度調査対象外
K-7	N 34° 39' 58.0"	E 135° 16' 52.1"	藻場分布調査 代表地点
K-8	N 34° 39' 31.6"	E 135° 16' 55.4"	藻場分布調査 代表地点
K-a	N 34° 39' 54.8"	E 135° 16' 26.9"	本年度調査対象外
K-b	N 34° 39' 58.2"	E 135° 16' 28.9"	本年度調査対象外
K-c	N 34° 39' 05.5"	E 135° 17' 00.4"	藻場分布調査 代表地点

表 2-8 (2) 藻場分布調査 目視観察代表地点等位置 緯度経度 【大阪沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
C-1	N 34° 37' 05.7"	E 135° 20' 50.3"	水質、付着動植物等調査地点
C-2	N 34° 37' 07.3"	E 135° 20' 38.8"	水質、付着動植物等調査地点
C-3	N 34° 37' 32.6"	E 135° 20' 46.6"	水質、付着動植物等調査地点
C-4	N 34° 37' 47.0"	E 135° 20' 59.0"	藻場分布調査 代表地点
C-5	N 34° 37' 29.2"	E 135° 21' 20.1"	藻場分布調査 代表地点
C-6	N 34° 37' 48.8"	E 135° 21' 21.5"	本年度調査対象外
O-1	N 34° 37' 35.6"	E 135° 21' 28.7"	藻場分布調査 代表地点
O-2	N 34° 37' 18.2"	E 135° 21' 05.8"	藻場分布調査 代表地点
O-3	N 34° 37' 11.9"	E 135° 20' 59.3"	藻場分布調査 代表地点
O-4	N 34° 37' 10.9"	E 135° 20' 57.1"	藻場分布調査 代表地点
O-5	N 34° 37' 01.9"	E 135° 20' 45.2"	藻場分布調査 代表地点
O-6	N 34° 37' 02.9"	E 135° 20' 42.4"	藻場分布調査 代表地点
O-7	N 34° 37' 19.0"	E 135° 20' 34.8"	藻場分布調査 代表地点
O-9	N 34° 37' 56.6"	E 135° 21' 09.7"	本年度調査対象外
O-13	N 34° 37' 25.8"	E 135° 20' 39.4"	藻場分布調査 代表地点
O-14	N 34° 37' 56.5"	E 135° 21' 12.6"	本年度調査対象外
O-16	N 34° 37' 40.2"	E 135° 21' 30.6"	本年度調査対象外

3 調査結果

3-1 調査実施日

各現地調査は、関係機関との調整、港内作業および特別採捕の許可を受け（表 3-2）、表 3-1 に示す平成 28 年 5 月 28 日（神戸沖埋立処分場）、平成 28 年 5 月 29 日（大阪沖埋立処分場）および平成 28 年 6 月 4 日（泉大津沖埋立処分場）に実施した。

表 3-1 現地調査実施日

調査箇所	調査実施日
神戸沖埋立処分場	平成 28 年 5 月 28 日（土）
大阪沖埋立処分場	平成 28 年 5 月 29 日（日）
泉大津沖埋立処分場	平成 28 年 6 月 4 日（土）

表 3-2 現地調査に関する港内作業および特別採捕許可

種 別	調査箇所	海 域	許可者	許可日	許可番号等
港内作業許可	大阪沖	阪神港大阪区	阪神港長	平成 28 年 5 月 13 日	大第 277 号
	神戸沖	阪神港神戸区	阪神港長	平成 28 年 5 月 16 日	神第 240 号
	泉大津沖	阪神港堺泉北区	阪神港長	平成 28 年 5 月 17 日	堺第 135 号
特別採捕許可	大阪沖	大阪市地先	大阪府知事	平成 28 年 5 月 20 日	水 第 1198-12 号 特 第 28-12 号
	泉大津沖	泉大津市地先			
	神戸沖	神戸市地先	兵庫県知事	平成 28 年 5 月 11 日	28 加特第 4 号

3-2 坪刈りによる付着動植物調査

3-2-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-3 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の3層で50×50cmの枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測とCNP組成分析（炭素含有量（C）、窒素含有量（N）、りん含有量（P））を行った。図 3-1 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

神戸沖では、6～14 種の海藻が出現し、中層、下層の種類数が多かった。湿重量では 4.70～159.32（g/0.25 m²）の海藻が採取され、ワカメの繁茂する中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではアオサ属、中層ではワカメ、下層ではマクサが最も多く確認され、藻場を形成する大型褐藻として、中層ではワカメ、タマハハキモクがみられた。

表 3-3 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場（A-2 海藻）

調査地点						神戸沖		
枠番号						A-2-上	A-2-中	A-2-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	藍色植物	藍藻	—	—	Cyanophyceae	藍藻綱	+	
2	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Enteromorpha sp.	ワサノ属		0.01
3	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Ulva sp.	ワサノ属	93.07	0.05
4	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Cladophora sp.	ワサノ属	0.02	0.12
5	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Codium fragile	ワサノ属		+
6	黄色植物	褐藻	ワサ	ワサ	Colpomenia sinuosa	ワサノ属		0.04
7	黄色植物	褐藻	ワサ	ワサ	Undaria pinnatifida	ワサノ属		138.65
8	黄色植物	褐藻	ワサ	ワサ	Sargassum muticum	ワサノ属		0.52
9	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Pyropia suborbiculata	ワサノ属	+	
10	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Gelidium elegans	ワサノ属		13.92
11	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Caulacanthus ustulatus	ワサノ属	+	3.70
12	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Halarachnion latissimum	ワサノ属		
13	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Chondrus giganteus	ワサノ属		
14	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Chondrus ocellatus	ワサノ属		
15	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Chondrus sp.	ワサノ属		0.03
16	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Grateloupia filicina	ワサノ属		0.08
17	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Grateloupia lanceolata	ワサノ属		0.09
18	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Grateloupia turuturu	ワサノ属		
19	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Grateloupia sp.	ワサノ属		
20	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Hypnea sp.	ワサノ属		0.01
21	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Peyssonneliaceae	ワサノ属		
22	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Schizymenia dubyi	ワサノ属		0.06
23	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Gracilaria textorii	ワサノ属	5.87	0.35
24	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Champia parvula	ワサノ属		
25	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Lomentaria hakodatensis	ワサノ属		
26	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Chrysomenia wrightii	ワサノ属		
27	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Antithamnion sp.	ワサノ属	0.02	+
28	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Ceramium sp.	ワサノ属	+	+
29	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Pterothamnion sp.	ワサノ属	+	+
30	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Ceramiales	ワサノ属	+	0.43
31	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Polysiphonia sp.	ワサノ属	+	+
32	赤色植物	紅藻	ワサ	ワサ	Symphyocladia linearis	ワサノ属	0.04	+
種類数						6	14	14
湿重量 (g) 合計						93.09	159.32	4.70
乾燥重量 (g) 合計						8.82	12.26	0.70
炭素含有量C(mg/g)						288.55	341.39	395.17
窒素含有量N(mg/g)						33.10	32.93	28.33
りん含有量P(mg/g)						1.56	1.84	1.20

注1：単位は湿重量(g)/0.25m²を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

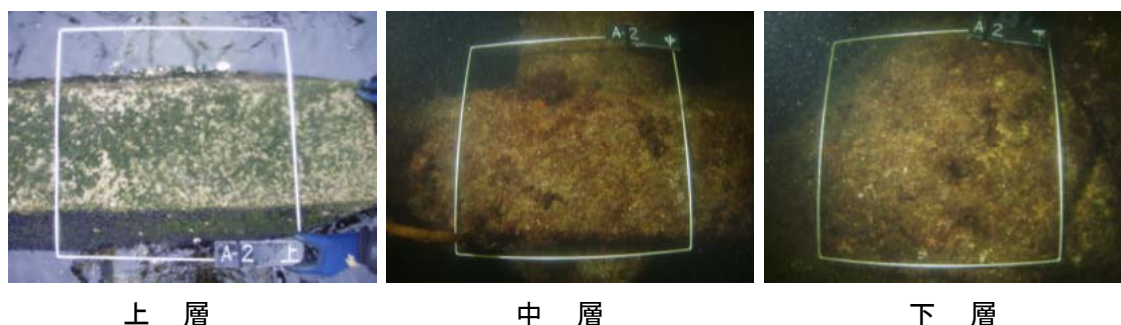


図 3-1 坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-4 に大阪沖埋立処分場（C-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の3層で50×50cmの枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測とCNP組成分析（炭素含有量（C）、窒素含有量（N）、りん含有量（P））を行った。図 3-2 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

大阪沖では、10～12 種の海藻が確認され、湿重量では 4.69～465.33（g/0.25 m²）の海藻が採取され、中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではアオサ属、中層ではツノマタ、下層ではフクロノリが最も多く、藻場を形成する大型褐藻として、下層でワカメが少量みられた。

表 3-4 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場（C-2）

調査地点						大阪沖		
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	枠番号	C-2-上	C-2-中
						項目	湿重量	湿重量
1	藍色植物	藍藻	—	—	Cyanophyceae	藍藻綱	+	+
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサノ属	0.23	+
3	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサノ属	9.85	2.14
4	緑色植物	緑藻	シオグサ	シオグサ	Cladophora sp.	シオグサ属	1.99	+
5	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル		
6	黄色植物	褐藻	カサノリ	カサノリ	Colpomenia sinuosa	ワカメノリ		1.01
7	黄色植物	褐藻	コンブ	カサノリ	Undaria pinnatifida	ワカメ		2.86
8	黄色植物	褐藻	ヒメマタ	ヒメマタ	Sargassum muticum	ヒメマタ		0.64
9	紅色植物	紅藻	ウシケリ	ウシケリ	Pyropia suborbiculata	マサノアサノリ		
10	紅色植物	紅藻	ツノマタ	ツノマタ	Gelidium elegans	マサノ		
11	紅色植物	紅藻	イソマタ	イソマタ	Caulacanthus ustulatus	イソマタ		
12	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Halarachnion latissimum	スサノベ		
13	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Chondrus giganteus	スサノベ		69.58
14	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Chondrus ocellatus	スサノベ	0.45	266.17
15	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Chondrus sp.	スサノベ		0.09
16	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Grateloupia filicina	スサノベ		59.52
17	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Grateloupia lanceolata	スサノベ		63.11
18	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Grateloupia turuturu	スサノベ	+	0.51
19	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Grateloupia sp.	スサノベ	0.04	0.22
20	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Hypnea sp.	スサノベ		
21	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Peyssonneliaceae	スサノベ		*
22	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Schizymenia dubyi	スサノベ		0.02
23	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Gracilaria textorii	スサノベ	0.01	3.05
24	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Champia parvula	スサノベ		0.02
25	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Lomentaria hakodatensis	スサノベ		
26	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Chrysomenia wrightii	スサノベ		
27	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Antithamnion sp.	スサノベ		+
28	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Ceramium sp.	スサノベ	0.03	
29	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Pterothamnion sp.	スサノベ		
30	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Ceramiales	スサノベ		0.32
31	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Polysiphonia sp.	スサノベ	+	+
32	紅色植物	紅藻	スサノベ	スサノベ	Symphocladia linearis	スサノベ		
種類数							10	12
湿重量(g)合計							12.60	465.33
乾燥重量(g)合計							2.21	55.54
炭素含有量C(mg/g)							270.99	316.25
窒素含有量N(mg/g)							47.12	42.76
りん含有量P(mg/g)							1.46	1.70

注1：単位は湿重量(g)/0.25m²を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



図 3-2 坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-5 に泉大津沖埋立処分場の 2 点 (D-2、D-3) における坪刈り調査の結果を示した。上層 (平均海面±0m)、中層 (平均海面-2m)、下層 (平均海面-4m) の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、湿重量および乾燥重量の計測と C N P 組成分析 (炭素含有量 (C)、窒素含有量 (N)、りん含有量 (P)) を行った。図 3-3 には調査箇所 (海藻類採取前) の状況 (海藻類採取前) を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、11~19 種の海藻が確認され、上層、中層で種類数が多かった。湿重量では 391.83~1,080.39 (g/0.25 m²) の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた中層で最も多くなっていた。

種別では上層、中層、下層ともにワカメが最も多く、藻場を形成する大型褐藻としてのワカメがすべての層で繁茂していた。

表 3-5 (1) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2)

調査地点						泉大津沖		
枠番号						D-2-上	D-2-中	D-2-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	藍色植物	藍藻	—	—	Cyanophyceae	藍藻綱	+	
2	緑色植物	緑藻	フサ	フサ	Enteromorpha sp.	フサノ属	0.05	0.02
3	緑色植物	緑藻	フサ	フサ	Ulva sp.	フサノ属	4.71	0.47
4	緑色植物	緑藻	シロクサ	シロクサ	Cladophora sp.	シロクサ属	+	0.18
5	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル		0.38
6	黄色植物	褐藻	カモリ	カモリ	Colpomenia sinuosa	フクロノリ	0.10	
7	黄色植物	褐藻	コンブ	フサノ	Undaria pinnatifida	ワカメ	437.15	1064.87
8	黄色植物	褐藻	ヒバマタ	ヒバマタ	Sargassum muticum	ヒバマタノリ		
9	黄色植物	褐藻	ウシケノリ	ウシケノリ	Pyropia suborbiculata	マサノ		
10	紅色植物	紅藻	フシグサ	フシグサ	Gelidium elegans	マサノ	7.43	0.92
11	紅色植物	紅藻	スギノリ	イモカ	Caulacanthus ustulatus	イモノリ	0.86	
12	紅色植物	紅藻	スギノリ	スサカベニ	Halarachnion latissimum	スサカベニ		
13	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus giganteus	オホノリ		
14	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus ocellatus	ウツタ	0.07	0.25
15	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus sp.	ウツタ属		
16	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムサノリ	Grateloupia filicina	ムサノリ	12.57	
17	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムサノリ	Grateloupia lanceolata	ムサノリ	90.01	8.97
18	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムサノリ	Grateloupia turuturu	ムサノリ	32.12	0.15
19	紅色植物	紅藻	スギノリ	ムサノリ	Grateloupia sp.	ムサノリ属	1.91	2.24
20	紅色植物	紅藻	スギノリ	イハノリ	Hypnea sp.	イハノリ属		
21	紅色植物	紅藻	スギノリ	イハノリ	Peyssonneliaceae	イハノリ科		
22	紅色植物	紅藻	スギノリ	ベニシホ	Schizymenia dubyi	ベニシホ		
23	紅色植物	紅藻	スギノリ	ワカメ	Gracilaria textorii	ワカメ	4.74	1.24
24	紅色植物	紅藻	マサノリ	マサノリ	Champia parvula	マサノリ	+	0.09
25	紅色植物	紅藻	マサノリ	マサノリ	Lomentaria hakodatensis	マサノリ	0.36	0.46
26	紅色植物	紅藻	マサノリ	マサノリ	Chrysmenia wrightii	マサノリ		25.12
27	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Antithamnion sp.	イサノリ属		
28	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Ceramium sp.	イサノリ属	+	0.01
29	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Pterothamnion sp.	イサノリ属		+
30	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Ceramiales	イサノリ科	+	0.01
31	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Polysiphonia sp.	イサノリ属	0.02	+
32	紅色植物	紅藻	イサ	イサ	Symphocladia linearis	イサノリ属		0.13
種類数						18	19	11
湿重量 (g) 合計						592.10	1080.39	391.83
乾燥重量 (g) 合計						45.67	65.03	23.44
炭素含有量 C (mg/g)						357.97	330.55	381.54
窒素含有量 N (mg/g)						28.20	29.89	28.07
りん含有量 P (mg/g)						1.28	1.42	1.49

注1: 単位は湿重量 (g) / 0.25m² を示す。

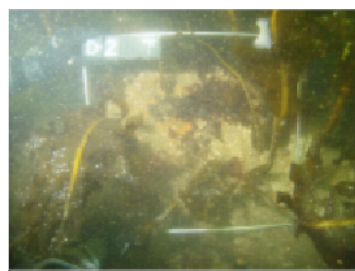
注2: *は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層



中 層



下 層

図 3-3 (1) 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

・地点 D-3

D-3 の地点では、2～12 種の海藻が確認され、中層、下層で種類数が多くなっていた。湿重量では 0.49～136.19 (g/0.25 m²) の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた下層で最も多くなっていた。

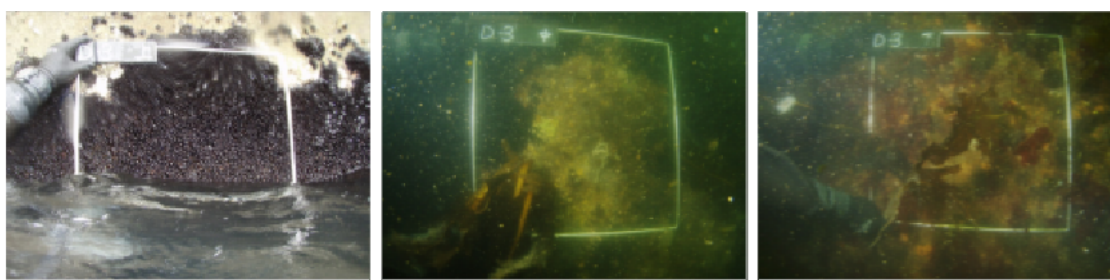
種別では上層ではシオグサ属、中層、下層ではワカメが多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層、下層でワカメがみられた。

表 3-5 (2) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-3)

調査地点						泉大津沖		
採番号						D-3-上	D-3-中	D-3-下
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	藍色植物	藍藻	—	—	Cyanophyceae	藍藻綱	0.47	
2	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Enteromorpha sp.	アサリ属	+	0.03
3	緑色植物	緑藻	アサ	アサ	Ulva sp.	アサ属	+	0.09
4	緑色植物	緑藻	シオグサ	シオグサ	Cladophora sp.	シオグサ属	0.49	0.02
5	緑色植物	緑藻	ミル	ミル	Codium fragile	ミル		
6	緑色植物	褐藻	カキモリ	カキモリ	Colpomenia sinuosa	ワカノリ		
7	黄色植物	褐藻	カンブ	カンブ	Undaria pinnatifida	ワカメ	44.73	59.58
8	黄色植物	褐藻	カンマ	カンマ	Sargassum muticum	カンマ		
9	紅色植物	紅藻	カンナリ	カンナリ	Pyropia suborbiculata	カンナリ		
10	紅色植物	紅藻	カンナリ	カンナリ	Gelidium elegans	カンナリ		
11	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Caulacanthus ustulatus	スギノリ		
12	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Halarachnion latissimum	スギノリ		30.73
13	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus giganteus	スギノリ		
14	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus ocellatus	スギノリ		
15	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chondrus sp.	スギノリ		
16	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Grateloupia filicina	スギノリ		
17	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Grateloupia lanceolata	スギノリ		
18	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Grateloupia turuturu	スギノリ		0.06
19	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Grateloupia sp.	スギノリ		
20	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Hypnea sp.	スギノリ		
21	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Pyrosomellaceae	スギノリ		
22	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Schizmenia dubvi	スギノリ	0.50	0.92
23	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Gracilaria textorii	スギノリ		5.50
24	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Champia parvula	スギノリ		
25	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Lomentaria hakodatensis	スギノリ		
26	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Chrysomenia wrightii	スギノリ	0.02	38.74
27	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Antithamnion sp.	スギノリ	+	0.22
28	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Ceramium sp.	スギノリ	+	+
29	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Pterothamnion sp.	スギノリ		
30	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Ceramiales	スギノリ	+	0.32
31	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Polysiphonia sp.	スギノリ	0.05	+
32	紅色植物	紅藻	スギノリ	スギノリ	Symphocladia linearis	スギノリ		
種類数						2	11	12
湿重量 (g) 合計						0.49	45.80	136.19
乾燥重量 (g) 合計						0.05	7.59	7.10
炭素含有量C(mg/g)						293.54	359.18	384.01
窒素含有量N(mg/g)						41.04	24.14	38.58
りん含有量P(mg/g)						0.97	1.40	1.26

注1: 単位は湿重量 (g)/0.25m²を示す。

注2: +は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上 層

中 層

下 層

図 3-3 (2) 坪刈り調査箇所 (坪刈り前) の状況

3-2-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-6 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、24～43 種の付着動物が出現し、個体数では 503～21,669（個体/0.25 m²）、湿重量では 11.47～265.77（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではミズヒキゴカイ科、下層では Aoroides 属（ユンボソコエビ科）が最も多く確認された。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-7 に大阪沖埋立処分場（C-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、26～57 種の付着動物が出現し、個体数では 1,655～14,125（個体/0.25 m²）、湿重量では 56.82～6,579.56（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではマルエワレカラ、下層では Aoroides 属（ユンボソコエビ科）が最も多く確認された。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-8 に泉大津沖埋立処分場の 2 点（D-2、D-3）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し、分析した。

D-2 の地点では、41～74 種の付着動物が出現し、個体数は 1,064～10,321（個体/0.25 m²）、湿重量では 31.24～202.80（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数ではムラサキイガイが多く出現した上層が、湿重量ではイボニシ、ムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

D-3 の地点では、30～89 種の付着動物が出現し、個体数は 2,069～60,745（個体/0.25 m²）、湿重量では 168.55～5,408.33（g/0.25 m²）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

表 3-6 (1) 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場 (A-2 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名	調査地点 採番号	神戸沖					
							A-2-上		A-2-中		A-2-下	
項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量						
1. 海綿動物	尋常海綿	-	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	2.45		
2. 刺胞動物	ヒドロ虫	ウツクサ	ウツクサ	ウツクサ	Campanulariidae	ウツクサ目						
3. 刺胞動物	花虫	イソノキ	イソノキ	イソノキ	Actiniaria	イソノキ目						
4. 扁形動物	渦虫	多岐腸	-	-	Polycladida	多岐腸目						
5. 紐形動物	-	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	17	0.11	8	+	12	0.12
6. 軟体動物	多板	新ビザラ	新ビザラ	新ビザラ	Ischnochitonidae	ウツクサ目			7	0.04		
7. 軟体動物	多板	新ビザラ	新ビザラ	新ビザラ	Mopalia retifera	ウツクサ目					1	0.01
8. 軟体動物	多板	新ビザラ	新ビザラ	新ビザラ	Mopaliidae	ウツクサ目						
9. 軟体動物	多板	新ビザラ	新ビザラ	新ビザラ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属						
10. 軟体動物	腹足	カサ	カサ	カサ	Cellana toreuma	カサ目						
11. 軟体動物	腹足	カサ	カサ	カサ	Lottia tenuisculpta	カサ目	13	0.14				
12. 軟体動物	腹足	古腹足	シキウ	シキウ	Omphalius rusticus	ウツクサ目						
13. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Peasiella habei	ウツクサ目						
14. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Littorina brevicula	カサ目	5	0.04				
15. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Alvania concinna	カサ目						
16. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Rissoidae	カサ目						
17. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Barleeia angustata	カサ目					2	+
18. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Crepidula onyx	カサ目					2	0.01
19. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Proterato callosa	カサ目						
20. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Triviidae	カサ目						
21. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Serpulorbis imbricatus	カサ目						
22. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Stictolima lentiginosa	カサ目						
23. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Eulimidae	カサ目						
24. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Cerithiopsidae	カサ目						
25. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Thais bronni	カサ目						
26. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Thais clavigera	カサ目	5	10.85			1	1.44
27. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Muricidae	カサ目						
28. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Mitrella bicincta	カサ目			42	1.88	26	0.67
29. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Pyreneola pleurotomoides	カサ目						
30. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Zafra mitriformis	カサ目						
31. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Zafra pumila	カサ目						
32. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Architectonidae	カサ目						
33. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Babellia caelator	カサ目						
34. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Cingulina cingulata	カサ目						
35. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Tropaeas sp.	Tropaeas属						
36. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Pyramidellidae	カサ目			16	0.06		
37. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Halos japonica	カサ目					1	0.07
38. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Pleurobranchaea japonica	カサ目						
39. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Nudibranchia	カサ目						
40. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Siphonaria sirius	カサ目						
41. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Siphonaria japonica	カサ目						
42. 軟体動物	腹足	腹足	腹足	腹足	Siphonariidae	カサ目						
43. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Mytilus galloprovincialis	カサ目	21.265	248.75			3	+
44. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Xenostrobus atratus	カサ目					1	+
45. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Xenostrobus securis	カサ目	26	0.25				
46. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Modiolus nipponicus	カサ目						
47. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Musculus cupreus	カサ目						
48. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Musculista senhousia	カサ目	6	0.22				
49. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Limaria sp.	カサ目						
50. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Anomia chinensis	カサ目						
51. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Crassostrea gigas	カサ目						
52. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Ostreidae	カサ目						
53. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Lasaea undulata	カサ目						
54. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Chamidae	カサ目						
55. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Irus macrophyllus	カサ目					1	0.05
56. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Claudioncha japonica	カサ目						
57. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Petricola sp. cf. lithophaga	カサ目						
58. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Petricola sp.	カサ目					1	0.03
59. 軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	イガイ	Hiattella orientalis	カサ目			239	2.48	114	1.21
60. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Halosydna brevisetosa	カサ目			2	1.67		
61. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Harmothoe imbricata	カサ目						
62. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Harmothoe praecleara	カサ目			2	0.04	1	0.04
63. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Lepidonotus spiculatus	カサ目						
64. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Lepidonotus sp.	カサ目						
65. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Eulalia sp.	カサ目			21	0.14	2	+
66. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Phyllodoceidae	カサ目			5	0.32	2	+
67. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Glycera sp.	カサ目						
68. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Ophiodromus sp.	カサ目			14	0.11		
69. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Hesionidae	カサ目					1	+
70. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Myrianida pachycera	カサ目						
71. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Typosyllis adamanteus kuriensis	カサ目	106	0.57			3	+
72. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Syllinae	カサ目	1	+	64	0.88	8	0.11
73. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Syllidae	カサ目						
74. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Neanthes caudata	カサ目					1	0.02
75. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Nereis heterocirrata	カサ目	23	0.89				
76. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Nereis multigemma	カサ目					1	+
77. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Nereis neoneanthes	カサ目						
78. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Nereis pelagica	カサ目						
79. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Perinereis cultrifera	カサ目						
80. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Platynereis bicanaliculata	カサ目						
81. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Perinereis cultrifera floridana	カサ目	36	3.51				
82. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Eunice sp.	カサ目			10	0.98	2	0.48
83. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Lumbrineris japonica	カサ目						
84. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Scoletoma longifolia	カサ目						
85. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Arabella iricolor	カサ目						
86. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Schistomeringos sp.	カサ目			4	0.02		
87. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Polydora sp.	カサ目			24	0.09		
88. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Cirratulus sp.	カサ目						
89. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Cirriiformia sp.	カサ目			9	0.09	13	0.14
90. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Tharyx sp.	カサ目			17	0.86		
91. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Cirratulidae	カサ目			1.651	87.96	3	0.12
92. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Acrocirrus validus	カサ目			35	0.11	4	+
93. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Polyophthalmus pictus	カサ目						
94. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Lanice sp.	カサ目						
95. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Nicolea sp.	カサ目						
96. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Thelepus sp.	カサ目			29	4.41	2	0.61
97. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Terebellidae	カサ目			14	0.97		
98. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Sabellidae	カサ目						
99. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Hydroides ezoensis	カサ目						
100. 環形動物	多毛	イガイ	イガイ	イガイ	Pomatoeolis kraussii	カサ目						

注1: 単位は個体数・湿重量 (g)/0.25㎡を示す。

注2: *は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-6 (2) 坪刈り調査結果 神戸沖埋立処分場 (A-2 付着動物)

						調査地点	神戸沖					
						標号	A-2-上		A-2-中		A-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目		個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	環形動物	多毛	ケリムシ	カザシヨカイ	Spirobranchus giganteus	イハラカザシヨカイ						
102	環形動物	多毛	ケリムシ	カザシヨカイ	Serpulidae	カンザシヨカイ科						
103	星口動物	スジホシムシ	-	-	SIPUNCULIDEA	スジホシムシ綱	1	+				
104	星口動物	サハタホシムシ	タホシムシ	アサドシムシ	Aspidosiphonidae	アサドシムシ科						
105	節足動物	ウミダモ	-	-	PYCNOGONIDA	ウミダモ綱						
106	節足動物	頭脚	無柄	イワフジツバ	Chthamalus challengerii	イワフジツバ	2	+				
107	節足動物	頭脚	無柄	ツバツバ	Amphibalanus amphitrite	アサシマツバ	1	0.02				
108	節足動物	頭脚	無柄	ツバツバ	Amphibalanus improvisus	ヨコウツバ						
109	節足動物	頭脚	無柄	ツバツバ	Balanus trigonus	サンカフジツバ					12	0.47
110	節足動物	軟甲	遊甲	コノハヒ	Nebalia japonensis	コノハヒ					1	+
111	節足動物	軟甲	端脚	ヒメナガヨコヒ	Ampithoe sp.	Ampithoe属	6	+	2	+		
112	節足動物	軟甲	端脚	コノハヨコヒ	Grandidierella sp.	Grandidierella属			10	0.02		
113	節足動物	軟甲	端脚	コノハヨコヒ	Aoroides sp.	Aoroides属			188	0.11	224	0.13
114	節足動物	軟甲	端脚	ドロカムシ	Monocorophium sp.	Monocorophium属					2	+
115	節足動物	軟甲	端脚	ドロカムシ	Erichthonius pugnae	ホソヨコヒ			14	+		
116	節足動物	軟甲	端脚	イシヨコヒ	Isaidae	イシヨコヒ科						
117	節足動物	軟甲	端脚	カサヨコヒ	Jassa sp.	Jassa属	1	+	37	0.03		
118	節足動物	軟甲	端脚	エマヨコヒ	Paradexamine sp.	Paradexamine属						
119	節足動物	軟甲	端脚	メリタヨコヒ	Melita sp.	Melita属						
120	節足動物	軟甲	端脚	ヒメヨコヒ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属						
121	節足動物	軟甲	端脚	シロカサヨコヒ	Leucothoe sp.	Leucothoe属						
122	節足動物	軟甲	端脚	シロヨコヒ	Stenothoe sp.	Stenothoe属						
123	節足動物	軟甲	端脚	ヒメヨコヒ	Hyalae sp.	Hyalae属	55	0.11				
124	節足動物	軟甲	端脚	カサカサ	Caprella equilibra	カサカサ科						
125	節足動物	軟甲	端脚	カサカサ	Caprella penantia	カサカサ科	6	0.01	16	0.01	1	+
126	節足動物	軟甲	端脚	カサカサ	Caprella scaura	カサカサ科			131	0.13	7	0.01
127	節足動物	軟甲	端脚	カサカサ	Caprella simia	カサカサ科			15	0.02	2	+
128	節足動物	軟甲	端脚	カサカサ	Caprella sp.	Caprella属	1	+	473	0.30	9	+
129	節足動物	軟甲	等脚	ムナナ	Munnidae	ムナナ科						
130	節足動物	軟甲	等脚	カサカサ	Janiridae	カサカサ科			6	+		
131	節足動物	軟甲	等脚	コサカサ	Dynoides dentisinus	シロカサカサ	63	0.10				
132	節足動物	軟甲	等脚	コサカサ	Paracerceis japonica	シロカサカサ						
133	節足動物	軟甲	タリス	タリス	Zeuxo sp.	Zeuxo属	3	+	3	+	18	0.01
134	節足動物	軟甲	十脚	ヒメ	Hippolytidae	ヒメ科						
135	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Porcellanidae	カサカサ科						
136	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Paguridae	カサカサ科						
137	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Cancer gibbosulus	カサカサ科						
138	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Cancer sp.	Cancer属			16	0.08	6	0.03
139	節足動物	軟甲	十脚	Monippidae	Sphaerolius nitidus	カサカサ科						
140	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Pugettia quadridens	カサカサ科						
141	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Pugettia sp.	Pugettia属			42	0.16	3	+
142	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Plumulus minutus	カサカサ科					2	0.11
143	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Plumulus sp.	Plumulus属						
144	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Xanthidae	カサカサ科						
145	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Nanosarisma minutum	カサカサ科	1	0.05				
146	節足動物	軟甲	十脚	カサカサ	Hemigrapsus sp.	カサカサ科	1	0.12				
147	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	カサカサ科			2	+	1	+
148	節足動物	昆虫	ハエ	ムシカ	Chironomidae	ムシカ科	25	0.03				
149	環形動物	-	カサカサ	カサカサ	Phoronis sp.	Phoronis属						
150	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Tubuliporidae	カサカサ科						
151	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Calloporidae	カサカサ科						
152	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Bugulidae	カサカサ科						
153	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Scrupocellariidae	カサカサ科						
154	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Watersipora subovoidea	カサカサ科			*	+		
155	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Schizoporellidae	カサカサ科			*	0.07		
156	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Microporidae	カサカサ科						
157	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Reteporidae	カサカサ科						
158	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Smittinidae	カサカサ科						
159	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Cryptosulidae	カサカサ科						
160	触手動物	苔虫	管口	カサカサ	Celleporinidae	カサカサ科						
161	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterina pectinifera	ヒト			5	8.93	1	4.61
162	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterias amurensis	ヒト					5	0.97
163	棘皮動物	ヒト	-	-	ASTEROIDEA	ヒト綱						
164	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiactidae	ヒト科			16	0.06	1	+
165	棘皮動物	ヒト	-	-	OPHIUROIDEA	ヒト綱			1	0.01		
166	棘皮動物	ウニ	ウニ	ウニ	Temnopleurus toreumaticus	ウニ						
167	棘皮動物	ウニ	ウニ	ウニ	Echinoida	ウニ目						
168	棘皮動物	ナマコ	ナマコ	ナマコ	Cucumariidae	ナマコ科						
169	棘皮動物	ナマコ	ナマコ	ナマコ	Holothuridae	ナマコ科						
170	脊索動物	イサ	イサ	イサ	Didemnidae	イサ科						
171	脊索動物	イサ	イサ	イサ	Ascididae	イサ科			4	1.04		
172	脊索動物	イサ	イサ	イサ	Botryllidae	イサ科			*	0.60		
173	脊索動物	イサ	イサ	イサ	Stvela clava	イサ						
174	脊索動物	イサ	イサ	イサ	Stvelidae	イサ						
175	脊索動物	イサ	-	-	ASCIDIACEA(colony)	イサ綱(群体イサ)						
176	脊索動物	イサ	-	-	ASCIDIACEA	イサ綱			3	0.12		
種類数							24		43		41	
個体数・湿重量(g)合計							21,669	265.77	3,197	117.25	503	11.47

注1: 単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。

注2: *は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7 (1) 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場 (C-2 付着動物)

No.	門	綱	目	科	種名	項目	調査地点 大阪沖埋立処分場 (C-2 付着動物)					
							C-2-上		C-2-中		C-2-下	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1.	海綿動物	尋常海綿	—	—	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	0.84	*	22.75
2.	刺胞動物	ヒドロ虫	ヤクザガ	カサガキガキ	Campanulariidae	カサガキガキ科						
3.	刺胞動物	花虫	イシノチヤク	—	Actiniaria	イシノチヤク目	4	0.88				
4.	扁形動物	渦虫	多岐腸	—	Polycladida	多岐腸目			22	0.76		
5.	紐形動物	—	—	—	NEMERTINEA	紐形動物門	35	0.58	10	0.09	1	+
6.	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	カヒザラガイ	Ischnochitonidae	カヒザラガイ科			1	+		
7.	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラガイ	Mopalia retifera	ヒザラガイ科						
8.	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒザラガイ	Mopaliidae	ヒザラガイ科					1	0.01
9.	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	カハヒザラガイ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属	1	0.21	1	0.73		
10.	軟体動物	腹足	カサ	カサガイ	Cellana toreuma	カサガイ						
11.	軟体動物	腹足	カサ	カサガイ	Lottia tenuisculpta	カサガイ	25	0.38				
12.	軟体動物	腹足	古腹足	シキナガイ	Omphalius rusticus	シキナガイ						
13.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Peasiella habei	カサガイ	4	+	1	+		
14.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Littorina brevicula	カサガイ						
15.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Alvania concinna	カサガイ			1	+		
16.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Rissoidae	カサガイ科					10	0.03
17.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Barleeia angustata	カサガイ						
18.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Crepidula onyx	シマカサガイ			3	0.03		
19.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Proterato callosa	カサガイ						
20.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Triviidae	シラカサガイ科						
21.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Serpulorbis imbricatus	カサガイ			3	1.55	2	12.44
22.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Stictelasma lentiginosa	カサガイ						
23.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Eulimidae	カサガイ						
24.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Cerithiopsidae	カサガイ			1	+		
25.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Thais bronni	カサガイ						
26.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Thais clavigera	カサガイ						
27.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Muricidae	カサガイ科						
28.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Mitrella bicincta	カサガイ			163	4.91	11	0.60
29.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Pyreneola pleurotomoides	カサガイ						
30.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Zafra mitriformis	カサガイ						
31.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Zafra pumila	カサガイ						
32.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Architectonicidae	カサガイ科						
33.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Babellia caelator	カサガイ						
34.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Cingulina cingulata	カサガイ						
35.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Tropaeas sp.	Tropaeas属						
36.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Pyramidellidae	カサガイ科						
37.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Halos japonica	カサガイ					5	0.25
38.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Pleurobranchaea japonica	カサガイ						
39.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Nudibranchia	カサガイ						
40.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Siphonaria sirius	カサガイ	1	0.32				
41.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Siphonaria japonica	カサガイ						
42.	軟体動物	腹足	腹足	カサ	Siphonariidae	カサガイ科	8	1.03				
43.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Mytilus galloprovincialis	カサガイ	11,712	6,011.00	652	2.52		
44.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Xenostrobus atratus	カサガイ					1	+
45.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Xenostrobus securis	カサガイ						
46.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Modiolus nipponicus	カサガイ			4	0.09	1	0.19
47.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Musculus cupreus	カサガイ			20	0.19	2	0.05
48.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Musculista senhousia	カサガイ	1	0.02				
49.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Limaria sp.	カサガイ			1	0.05		
50.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Anomia chinensis	カサガイ						
51.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Crassostrea gigas	カサガイ	18	348.25	1	27.34	1	0.07
52.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Ostreidae	カサガイ科	13	210.88				
53.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Lasaea undulata	カサガイ						
54.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Chamidae	カサガイ科						
55.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Irus macrophyllus	カサガイ						
56.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Claudioncha japonica	カサガイ	1	0.03				
57.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Petricola sp. cf. lithophaga	カサガイ						
58.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Petricola sp.	カサガイ						
59.	軟体動物	二枚貝	イガイ	カサ	Hiatella orientalis	カサガイ			452	3.37	75	1.00
60.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Halosydna brevisetosa	カサガイ	9	0.36	15	1.35	1	0.05
61.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Harmothoe imbricata	カサガイ						
62.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Harmothoe praecleara	カサガイ						
63.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Lepidonotus spiculatus	カサガイ					3	0.08
64.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Lepidonotus sp.	カサガイ						
65.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Eulalia sp.	カサガイ					1	0.03
66.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Phyllodoctidae	カサガイ	2	0.37				
67.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Glycera sp.	カサガイ						
68.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Onchodromus sp.	カサガイ						
69.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Hesionidae	カサガイ			1	0.02		
70.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Myrianida pachycera	カサガイ						
71.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Typosyllis adamanteus kurilensis	カサガイ	18	0.29	9	0.06		
72.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Syllinae	カサガイ	55	0.52	50	0.72	118	0.61
73.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Syllidae	カサガイ						
74.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Neanthes caudata	カサガイ						
75.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Nereis heterocirrata	カサガイ						
76.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Nereis multigenata	カサガイ	17	+	1	+	2	+
77.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Nereis neoneanthes	カサガイ						
78.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Nereis pelagica	カサガイ						
79.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Perinereis cultrifera	カサガイ						
80.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Platynereis bicanaliculata	カサガイ						
81.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Perinereis cultrifera floridana	カサガイ	14	0.40				
82.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Eunice sp.	カサガイ					1	0.03
83.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Lumbrineris japonica	カサガイ						
84.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Scoletoma longifolia	カサガイ					1	0.21
85.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Arabella iricolor	カサガイ						
86.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Schistomerings sp.	カサガイ					1	+
87.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Polydora sp.	カサガイ			6	0.03		
88.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Cirratulus sp.	カサガイ						
89.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Cirriformia sp.	カサガイ						
90.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Tharyx sp.	カサガイ						
91.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Cirratulidae	カサガイ			2	0.28	103	5.91
92.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Acrocirrus validus	カサガイ			1	+	1	+
93.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Polyophthalmus pictus	カサガイ						
94.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Lanice sp.	カサガイ						
95.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Nicolea sp.	カサガイ						
96.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Thelepus sp.	カサガイ			1	0.18	5	0.23
97.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Ierebellidae	カサガイ						
98.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Sabellidae	カサガイ			1	0.10	3	0.14
99.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Hydroides ezoensis	カサガイ			19	1.01		
100.	環形動物	多毛	カサ	カサ	Pomatoleios kraussii	カサガイ	3	+				

注1: 単位は個体数・湿重量 (g)/0.25㎡を示す。

注2: *は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7 (2) 坪刈り調査結果 大阪沖埋立処分場 (C-2 付着動物)

						調査地点 枠番号	大阪沖					
						項目	C-2-上		C-2-中		C-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名 /		個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	環形動物	多毛	ケリムシ	カザシヨカイ	Spirobranchus giganteus	イハラカザシヨカイ					1	0.16
102	環形動物	多毛	ケリムシ	カザシヨカイ	Serpulidae	カザシヨカイ科			1	+		
103	星口動物	スジホシムシ	-	-	SIPUNCULIDEA	スジホシムシ綱						
104	星口動物	サハタホシムシ	サハタホシムシ	アサドシホニidae	Aspidosiphonidae	アサドシホニ科						
105	節足動物	ウミダモ	-	-	PYGNOGONIDA	ウミダモ綱						
106	節足動物	蟹脚	無柄	イワフジツバ	Chthamalus challengerii	イワフジツバ	32	0.30				
107	節足動物	蟹脚	無柄	ツバツバ	Amphibalanus amphitrite	アサドシホニ科						
108	節足動物	蟹脚	無柄	ツバツバ	Amphibalanus improvisus	アサドシホニ科						
109	節足動物	蟹脚	無柄	ツバツバ	Balanus trigonus	アサドシホニ科						
110	節足動物	軟甲	海甲	コハニ	Nebalia japonensis	コハニ						
111	節足動物	軟甲	蟹脚	ヒメツバ	Ampithoe sp.	Ampithoe属	12	+	91	0.26	7	0.02
112	節足動物	軟甲	蟹脚	コハニ	Grandidierella sp.	Grandidierella属						
113	節足動物	軟甲	蟹脚	コハニ	Aoroides sp.	Aoroides属	16	+	598	0.35	617	0.15
114	節足動物	軟甲	蟹脚	ドコガムシ	Monocorophium sp.	Monocorophium属			24	0.02	40	0.02
115	節足動物	軟甲	蟹脚	ドコガムシ	Erichthonius pugna	アサドシホニ科			3	+		
116	節足動物	軟甲	蟹脚	イシヨコエ	Isaia sp.	イシヨコエ科					1	+
117	節足動物	軟甲	蟹脚	アサドシホニ	Jassa sp.	Jassa属	12	+	285	0.29	13	+
118	節足動物	軟甲	蟹脚	エミツバ	Paradexamine sp.	Paradexamine属						
119	節足動物	軟甲	蟹脚	メリタ	Melita sp.	Melita属			11	0.06		
120	節足動物	軟甲	蟹脚	ヒメツバ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属			4	+	2	+
121	節足動物	軟甲	蟹脚	アサドシホニ	Leucothoe sp.	Leucothoe属					3	+
122	節足動物	軟甲	蟹脚	アサドシホニ	Stenothoe sp.	Stenothoe属			9	+		
123	節足動物	軟甲	蟹脚	ヒメツバ	Hyalae sp.	Hyalae属	96	0.16	11	0.03		
124	節足動物	軟甲	蟹脚	カサツバ	Caprella equilibra	カサツバ科					5	+
125	節足動物	軟甲	蟹脚	カサツバ	Caprella penantia	カサツバ科	2,012	3.58	3,326	12.70	115	0.13
126	節足動物	軟甲	蟹脚	カサツバ	Caprella scaura	カサツバ科					42	0.05
127	節足動物	軟甲	蟹脚	カサツバ	Caprella simia	カサツバ科					8	+
128	節足動物	軟甲	蟹脚	カサツバ	Caprella sp.	Caprella属	4	+			366	0.11
129	節足動物	軟甲	等脚	ムナ	Munnidae	ムナ科			15	+		
130	節足動物	軟甲	等脚	ムナ	Janiridae	ムナ科					1	+
131	節足動物	軟甲	等脚	ムナ	Dynoides dentisinus	ムナ科						
132	節足動物	軟甲	等脚	ムナ	Paracerceis japonica	ムナ科						
133	節足動物	軟甲	タイス	タイス	Zeuxo sp.	Zeuxo属			6	+	33	0.02
134	節足動物	軟甲	十脚	ヒメ	Hippolytidae	ヒメ科						
135	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Porcellanidae	カサツバ科						
136	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Paguridae	カサツバ科					2	0.33
137	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Cancer gibbosulus	カサツバ科						
138	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Cancer sp.	Cancer属			4	0.04	12	0.05
139	節足動物	軟甲	十脚	Monippidae	Sphaerozius nitidus	カサツバ科						
140	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Pugettia quadridens	カサツバ科			3	3.80		
141	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Pugettia sp.	Pugettia属			5	0.03	14	0.05
142	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Plumulus minutus	カサツバ科			1	0.05	3	0.27
143	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Plumulus sp.	Plumulus属						
144	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Xanthidae	カサツバ科						
145	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Nanosarmin minutum	カサツバ科						
146	節足動物	軟甲	十脚	カサツバ	Hemigrapsus sp.	カサツバ科						
147	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	カサツバ科			1	+		
148	節足動物	昆虫	ハエ	ムシ	Chironomidae	ムシ科						
149	環形動物	-	カサツバ	カサツバ	Phoronis sp.	Phoronis属						
150	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Tubuliporidae	カサツバ科			*	0.08		
151	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Calliporidae	カサツバ科			*	0.06		
152	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Bugulidae	カサツバ科					*	0.03
153	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Scrupocellariidae	カサツバ科			*	0.10		
154	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Watersipora subovoidea	カサツバ科			*	+		
155	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Schizoporellidae	カサツバ科			*	0.01	*	0.24
156	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Microporidae	カサツバ科			*	0.04		
157	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Reteporidae	カサツバ科			*		*	+
158	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Smittinidae	カサツバ科			*	+		
159	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Cryptosulidae	カサツバ科						
160	触手動物	苔虫	管口	カサツバ	Celleporinidae	カサツバ科						
161	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterina pectinifera	ヒト科						
162	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Asterias amurensis	ヒト科			4	2.94		
163	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	ASTEROIDEA	ヒト綱			1	0.03	1	0.27
164	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ophiactidae	ヒト科			16	0.13	7	0.08
165	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	OPHIUROIDEA	ヒト綱						
166	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Temnopleurus toreumaticus	ヒト科						
167	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Echinoida	ヒト綱			2	0.07		
168	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Cucumariidae	ヒト科						
169	棘皮動物	ヒト	ヒト	ヒト	Holothuridae	ヒト科						
170	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Didemniidae	ヒト科					*	4.24
171	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Ascididae	ヒト科						
172	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Botryllidae	ヒト科						
173	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Stvela clava	ヒト科					2	3.27
174	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	Stvelidae	ヒト科					9	2.65
175	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	ASCIDIACEA (colony)	ヒト綱 (群体ヒト)						
176	脊索動物	ヒト	ヒト	ヒト	ASCIDIACEA	ヒト綱						
種類数							26		57		52	
個体数・湿重量 (g) 合計							14,125	6,579.56	5,863	67.31	1,655	56.82

注1: 単位は個体数・湿重量 (g) / 0.25m²を示す。

注2: *は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-8 (1) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2、D-3 付着動物)

調査地点						泉大津沖												
No.	門	綱	目	科	種名	科番号	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	海綿綱			DEMOSPONGIAE	海綿綱	*	1.69	*	2.00			*		*	3.22		
2	刺胞動物	刺胞綱			CAMPANULARIAE	刺胞綱	*		*	1.88	*							*
3	刺胞動物	刺胞綱			Actinaria sp.	刺胞綱	1	0.09					1	0.08		4	0.39	
4	刺胞動物	刺胞綱			Polycladida	刺胞綱	7	0.44		7	0.06	2	0.02	16	1.22	35	3.66	6
5	刺胞動物	刺胞綱			NERITINA	刺胞綱	1	0.02		11	0.08	6	0.03	299	10.50	9	0.32	4
6	刺胞動物	多板綱			Ischnochitonidae	刺胞綱				3	0.03							
7	刺胞動物	多板綱			Mopalia retifera	刺胞綱				4	1.10							
8	刺胞動物	多板綱			Mopalia sp.	刺胞綱												
9	刺胞動物	多板綱			Acanthochitona sp.	刺胞綱	10	2.91		9	1.33			14	0.90	2	0.35	
10	刺胞動物	腹足綱			Ocellana toreuma	刺胞綱	15	8.28										
11	刺胞動物	腹足綱			Lottia tenuisculpta	刺胞綱	10	0.11					27	0.51			1	
12	刺胞動物	腹足綱			Onchalius rusticus	刺胞綱				1	3.90							0.02
13	刺胞動物	腹足綱			Peasiella habei	刺胞綱							17	0.02				
14	刺胞動物	腹足綱			Littorina brevicula	刺胞綱	1	0.02					63	0.62			1	
15	刺胞動物	腹足綱			Alvania concinna	刺胞綱				7	0.01							+
16	刺胞動物	腹足綱			Rissoidea	刺胞綱			1	+								2
17	刺胞動物	腹足綱			Barleeia angustata	刺胞綱				1	+							
18	刺胞動物	腹足綱			Gracilidula onyx	刺胞綱	2	0.05			9	0.12			26	0.35	14	0.18
19	刺胞動物	腹足綱			Proterato callosa	刺胞綱					1	0.10					7	0.42
20	刺胞動物	腹足綱			Trivulidae	刺胞綱					1	0.04						
21	刺胞動物	腹足綱			Serpulorbis imbricatus	刺胞綱												
22	刺胞動物	腹足綱			Stictocaulis lentiginosa	刺胞綱				1	+		6	0.04				
23	刺胞動物	腹足綱			Fulmaria	刺胞綱											1	+
24	刺胞動物	腹足綱			Gerrithopsis	刺胞綱			3	0.01	4	0.02				1	0.01	
25	刺胞動物	腹足綱			Thais bronni	刺胞綱	3	10.96							17	9.59		
26	刺胞動物	腹足綱			Thais clavulera	刺胞綱	69	96.39					18	4.98	35	9.09		
27	刺胞動物	腹足綱			Muricea	刺胞綱					2	0.23			8	1.63	2	0.73
28	刺胞動物	腹足綱			Mitrella bicincta	刺胞綱			30	1.00	37	1.29			120	8.63	50	2.48
29	刺胞動物	腹足綱			Pyreneola pleurotomoides	刺胞綱											1	0.03
30	刺胞動物	腹足綱			Zafra mitriformis	刺胞綱					10	0.03					15	0.10
31	刺胞動物	腹足綱			Zafra pumila	刺胞綱					1	+						
32	刺胞動物	腹足綱			Architectonidae	刺胞綱									11	0.73	1	0.03
33	刺胞動物	腹足綱			Bahella caelator	刺胞綱					6	0.03						
34	刺胞動物	腹足綱			Cingulina cingulata	刺胞綱					3	+						
35	刺胞動物	腹足綱			Tropaeas sp.	刺胞綱					1	+						
36	刺胞動物	腹足綱			Pyramidellidae	刺胞綱				2	+	5	0.01					
37	刺胞動物	腹足綱			Helina japonica	刺胞綱				2	0.05							
38	刺胞動物	腹足綱			Pleurobranchaea japonica	刺胞綱				1	0.06							
39	刺胞動物	腹足綱			Nudibranchia	刺胞綱				1	22.95							
40	刺胞動物	腹足綱			Siphonaria sirius	刺胞綱	12	1.76					3	1.09				
41	刺胞動物	腹足綱			Siphonaria japonica	刺胞綱							9	0.83				
42	刺胞動物	腹足綱			Siphonariidae	刺胞綱	1	+										
43	刺胞動物	二枚貝綱			Mytilus galloprovincialis	刺胞綱	9	460	76.47	215	0.42	7	0.04	59	495	4,818.96	5,205	1,133.94
44	刺胞動物	二枚貝綱			Xenostrobus stratus	刺胞綱											154	15.60
45	刺胞動物	二枚貝綱			Xenostrobus securis	刺胞綱												
46	刺胞動物	二枚貝綱			Modiolus nipponicus	刺胞綱					15	2.15					3	1.04
47	刺胞動物	二枚貝綱			Musculista senhousia	刺胞綱	11	0.10	9	0.05	18	1.03	4	0.08	138	7.21	35	1.44
48	刺胞動物	二枚貝綱			Musculista senhousia	刺胞綱					3	0.14	4	+				
49	刺胞動物	二枚貝綱			Limaria sp.	刺胞綱					1	0.01					3	0.30
50	刺胞動物	二枚貝綱			Anomia chinensis	刺胞綱					1	0.01						
51	刺胞動物	二枚貝綱			Grassostrea gigas	刺胞綱	1	0.01					12	555.02				
52	刺胞動物	二枚貝綱			Chamaelea	刺胞綱												
53	刺胞動物	二枚貝綱			Lasaea undulata	刺胞綱				1	+							
54	刺胞動物	二枚貝綱			Chamaelea	刺胞綱					1	0.03						
55	刺胞動物	二枚貝綱			Ilirus macrophyllus	刺胞綱					2	0.14						
56	刺胞動物	二枚貝綱			Crepidula japonica	刺胞綱												
57	刺胞動物	二枚貝綱			Petricola sp. cf. lithophaga	刺胞綱					18	0.95				8	0.66	6
58	刺胞動物	二枚貝綱			Petricola sp.	刺胞綱												
59	刺胞動物	二枚貝綱			Hiatella orientalis	刺胞綱	89	0.54	243	1.63	538	5.62	7	0.02	714	21.56	527	7.52
60	環形動物	多毛綱			Halosydna brevisetosa	環形動物	4	0.36	6	0.82	2	0.15	68	4.49	18	2.88	9	0.18
61	環形動物	多毛綱			Harmothoe imbricata	環形動物	1	0.02	5	0.27					8	0.12	4	0.17
62	環形動物	多毛綱			Harmothoe gracilior	環形動物												
63	環形動物	多毛綱			Leiodonotus spiculius	環形動物												
64	環形動物	多毛綱			Leiodonotus sp.	環形動物												
65	環形動物	多毛綱			Eulalia sp.	環形動物	2	0.05	1	+			65	1.19	9	0.17		
66	環形動物	多毛綱			Phyllodoce	環形動物											2	0.07
67	環形動物	多毛綱			Glycera sp.	環形動物					1	+						
68	環形動物	多毛綱			Glycera sp.	環形動物					22	0.17	12	0.08			58	0.84
69	環形動物	多毛綱			Hesionidae	環形動物	1	+									99	0.74
70	環形動物	多毛綱			Myrianida pachycera	環形動物					2	+						
71	環形動物	多毛綱			Tyrosyllis adamantus kurilensis	環形動物	2	+	30	0.10	5	0.01	6	0.08	7	0.02	7	0.03
72	環形動物	多毛綱			Syllinae	環形動物	33	0.27	104	0.64	10	0.09	386	4.26	23	0.23	22	0.13
73	環形動物	多毛綱			Syllinae	環形動物					4	+	1	+				
74	環形動物	多毛綱			Neanthes caudata	環形動物									6	0.05		
75	環形動物	多毛綱			Nereis heterocirrata	環形動物											2	0.02
76	環形動物	多毛綱			Nereis multigata	環形動物	2	+			1	0.05			30	1.02	49	2.41
77	環形動物	多毛綱			Nereis neoneanthes	環形動物											2	0.31
78	環形動物	多毛綱			Nereis pelagica	環形動物											6	0.10
79	環形動物	多毛綱			Perinereis cultrifera	環形動物					1	0.29					1	0.09
80	環形動物	多毛綱			Platynereis bicanaliculata	環形動物					1	0.21			3	0.35	4	0.41
81	環形動物	多毛綱			Perinereis cultrifera floridana	環形動物	2	+										
82	環形動物	多毛綱			Eunice sp.	環形動物					1	1.02			18	2.77	18	2.13
83	環形動物	多毛綱			Lumbrineris japonica	環形動物	1	0.16										
84	環形動物	多毛綱			Scoleletope longicollis	環形動物												
85	環形動物	多毛綱			Arabella ricciole	環形動物					1	0.03						
86	環形動物	多毛綱			Schistomeringos sp.	環形動物					8	0.03	3	+	45	0.47	36	0.17
87	環形動物	多毛綱			Polidora sp.	環形動物					1	0.01	27	0.25	2	0.05	12	0.23
88	環形動物	多毛綱			Cirratulus sp.	環形動物					2	0.01						
89	環形動物	多毛綱			Cirratulus sp.	環形動物					35	0.89			13	1.17	23	1.68
90	環形動物	多毛綱			Tharyx sp.	環形動物												
91	環形動物	多毛綱			Cirratulidae	環形動物												2
92	環形動物	多毛綱			Acroirrus validus	環形動物					1	+			56	0.33	10	0.04
93	環形動物	多毛綱			Polyophthalmus pictus	環形動物									2	0.1		

注1: 単位は個体数・湿重量 (g) / 0.25m²を示す。

表 3-8 (2) 坪刈り調査結果 泉大津沖埋立処分場 (D-2、D-3 付着動物)

No.		門 綱		目 科		種 名		調査地点		泉大津沖											
								特異帯		D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
								項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	
101	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Saccobrancheus giganteus	イサノシロコ														
102	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Serpulidae	イサノシロコ								3	0.14	0.13				
103	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	SIPHONULIDEA	イサノシロコ									31	+				
104	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Aspidosiphonidae	イサノシロコ														
105	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	PRIONOGLIDA	イサノシロコ														
106	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Onchides challenger	イサノシロコ			14	0.10										
107	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Amphibalanus amphitrite	イサノシロコ														
108	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Amphibalanus improvisus	イサノシロコ														
109	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Balanus trigonus	イサノシロコ														
110	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Nebalia japonensis	イサノシロコ														
111	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Amphitoe sp.	イサノシロコ			11	0.07	70	0.28								
112	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Grandidierella sp.	イサノシロコ														
113	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Acoroides sp.	イサノシロコ														
114	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Monocorophium sp.	イサノシロコ														
115	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Eriethonius pugnae	イサノシロコ														
116	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Isopoda sp.	イサノシロコ														
117	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Isopoda sp.	イサノシロコ														
118	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Paradeixamine sp.	イサノシロコ														
119	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Meilita sp.	イサノシロコ														
120	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Gitanopsis sp.	イサノシロコ														
121	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Leucothoe sp.	イサノシロコ														
122	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Stenothoe sp.	イサノシロコ														
123	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Hyalis sp.	イサノシロコ														
124	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Caprella equilibra	イサノシロコ														
125	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Caprella penantis	イサノシロコ														
126	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Caprella scaura	イサノシロコ														
127	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Caprella sima	イサノシロコ														
128	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Caprella sp.	イサノシロコ														
129	門 綱	多毛	多毛	多毛	多毛	Munida	イサノシロコ					</									

注1: 単位は個体数・湿重量(g)/0.25m²を示す。
注2: *は個体数計数困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す

3-3 目視による付着動植物調査

3-3-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-9 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における植物の目視観察結果を示した。図 3-4 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 1～9 種、全体で 17 種の海藻類が目視観察によって確認された。-2～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。±0m ではアオサ属の被度が高くなっていた。また、-2m では藻場構成種（大型褐藻）であるタマハハキモクが確認された。

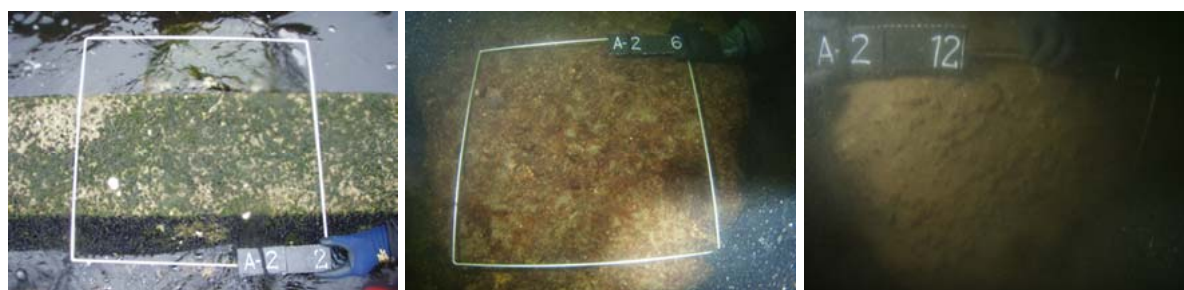
表 3-9 (1) 植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名 基 質	ケ-ソ	ブ'ロク	ブ'ロク	ブ'ロク	ブ'ロク	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属	+	+	+									
		アオサ属		30	+	+	+	+						
		シオグサ属				+	+							
黄色植物	褐藻	フクロノリ				+		+						
		タマハハキモク				+								
紅色植物	紅藻	ヒメテングサ		+										
		マクサ			+	+	+	5	5	+				
		ススカケベニ						+	+	+	+			
		ツノマタ属			+	+								
		ムカデノリ					+	+						
		ツルツル			+	+								
		ムカデノリ科							+	+	+			
		ベニスナゴ					+	+	+					
		カバノリ				+	+	+	+	+				
		タオヤギソウ									+	+		
		イギス目			+	5	10	20	20	10	5	+	+	+
藍色植物	藍藻	藍藻綱	5											
出現種類数			2	3	6	9	7	8	6	6	4	1	1	1

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0m

平均水面-4.0m

平均水面-10.0m

図 3-4 (1) 代表的な調査箇所の状況 (A-2)

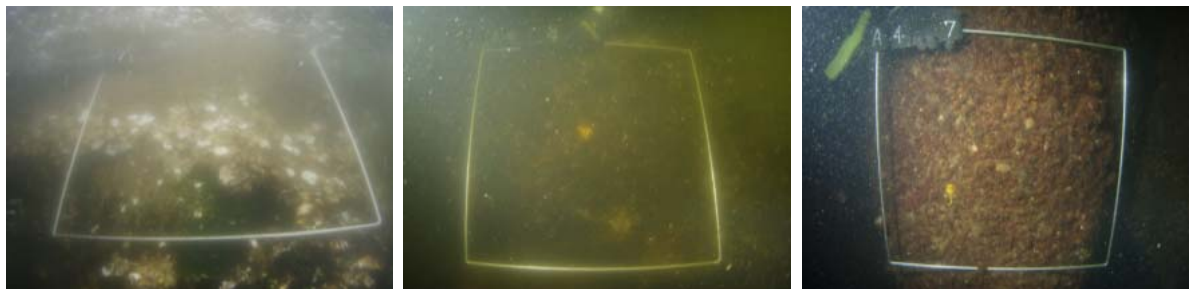
・ 地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 11 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m および-10m では海藻類は確認できず、-1～-3m で種類数が増える傾向がみられた。藻場構成種（大型褐藻）の生育は確認されなかった。

表 3-9（2） 植物 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-4 ）

調査日：平成28年5月28日														
平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	基 質											
			ブ'ロツク	フ'ロツク	ブ'ロツク	フ'ロツク	ブ'ロツク	フ'ロツク	ブ'ロツク	フ'ロツク	ブ'ロツク	フ'ロツク	ブ'ロツク	砂泥
緑色植物	緑藻	アオサ属		20	5	5	+	+		+				
		シオグサ属		+	+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ				+	+							
紅色植物	紅藻	アマノリ属		+										
		マクサ					+	+	+	+	+	+	+	
		ススカケベニ								+	+	+		
		ムカデノリ科				+	+	+						
		カバノリ				+	5	+	10	+	+	5	+	
		コスジフシツナギ				+								
		イギス目		+	5	5	5	10	20	20		10	5	+
藍色植物	藍藻	藍藻綱		+	+									
出現種類数			0	5	6	7	6	4	3	5	4	4	1	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m 平均水面-2.0m 平均水面-5.0m

図 3-4（2） 代表的な調査箇所 の 状 況（A-4）

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 0～4 種、全体で 6 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、±0m と-11m では海藻類は確認できず、-2～-6m で種類数がやや多くなっていた。藻場構成種（大型褐藻）の生育は確認されなかった。

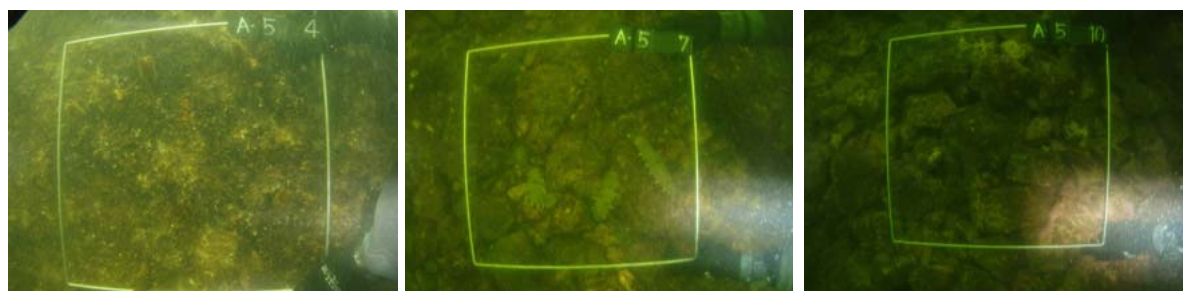
表 3-9 (3) 植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	
門	綱	基 質	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂泥
		種 名														
緑色植物	緑藻	アオノリ属			+	+	+									
		アオサ属			+	+	+	+	+	+						
		シオグサ属			+	+	+	+								
紅色植物	紅藻	サンゴモ科							5	+	+	5	+	+		
		マクサ							+	+						
		イギス目				10	10	10	+	+	+	+	+	+		
出現種類数			0	0	2	4	4	3	4	4	2	2	2	2	0	

備考1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-2.0m

平均水面-5.0m

平均水面-8.0m

図 3-4 (3) 代表的な調査箇所状況 (A-5)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-10 に大阪沖埋立処分場の 3 点 (C-1、C-2、C-3) における植物の目視観察結果を示した。図 3-5 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 14 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m および-10m では海藻は確認されず、-4～-5m で種類数が最も多くなっていた。-5m でツルツル、-7m でベニスナゴなどの紅藻の被度が高くなっていた。また、-4～-5m で藻場構成種 (大型褐藻) であるシダモクが確認された。

表 3-10 (1) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属		+										
		アオサ属		+	+	+		+						
		シオグサ属			+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ						+						
		シダモク						+	5					
紅色植物	紅藻	サンゴモ科						+	+	10	10	5		
		ススカケベニ							+	+	+	10	+	
		ツノマタ属						+	+					
		ムカデノリ							+					
		フダラク			5	+		+						
		ツルツル						5	40	+	+			
		ベニスナゴ							+	+	40	+		
		カバノリ			+	+		+	+	+	+		+	
		イギス目			+	+	+			+	+		+	
出現種類数			0	2	5	5	1	8	8	6	6	3	3	0

備考 1) 出現種の各数値は被度 (%) を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m

平均水面-7.0m

平均水面-9.0m

図 3-5 (1) 代表的な調査箇所の状況 (C-1)

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 13 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-2m で種類数が最も多くなっていた。-1m でアオサ属の被度が高くなっていた。また、-2m でワカメ、-3m と-5m でシダモクなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10 (2) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：平成28年5月29日

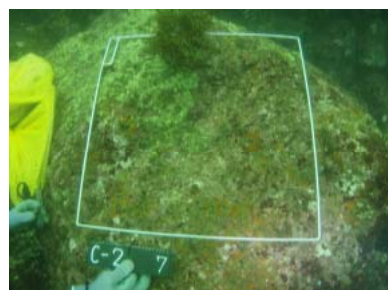
平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質 種 名	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	30	+	20	+						
		シオグサ属			+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ						+						
		ワカメ				20								
		シダモク					+		5					
紅色植物	紅藻	サンゴモ科					+	20	10	20	20	20	5	5
		ススカケベニ											+	+
		ツノマタ属			10	20	+							
		フダラク			10	+								
		ツルツル			+	+								
		ベニスナゴ						+	+					
		カバノリ				+			+					
		イギス目					+	+					+	
出現種類数			0	1	5	7	5	5	4	1	1	1	3	2

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

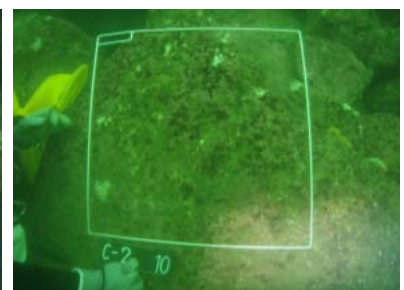
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-2.0m



平均水面-5.0m



平均水面-8.0m

図 3-5 (2) 代表的な調査箇所状況 (C-2)

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 12 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-1～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。±0m ではシオグサ属の被度が高くなっていた。また、-4m ではワカメ、-1m と-3～-4m ではタマハハキモクなどの藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10 (3) 植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質 種 名	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	+	5	20	5						
		シオグサ属		40	20	20	+		+					
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+	+						
		ワカメ						5						
		タマハハキモク			+		+	+						
紅色植物	紅藻	サンゴモ科			+	+	+	+	10	10	10	10	10	20
		ススカケベニ									+	+	+	
		フダラク		+	10	5	+	+						
		ツルツル			+	+								
		イワノカワ科							10	5	+	10	10	
		カバノリ			+	5	+	+						
		イギス目		+	+	+	+	+						
出現種類数			0	4	8	7	8	8	3	2	3	3	3	1

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m

平均水面-4.0m

平均水面-8.0m

図 3-5 (3) 代表的な調査箇所 の 状 況 (C-3)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-11 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における植物の目視観察結果を示した。図 3-6 には、調査側線における代表的な箇所を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 15 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-12～-13m では海藻は確認されず、-1～-3m で種類数が最も多くなっていた。-1m でアオサ属、±0m でフダラク、-6m ではタオヤギソウの被度が高くなっていた。また、±0～-6m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメの繁茂が観察された。

表 3-11 (1) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：平成28年6月4日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名 基 質	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑色植物	緑藻	アオノリ属					+										
		アオサ属			40	10	+										
		シオグサ属			+	+	+										
黄色植物	褐藻	ワカメ		10	30	60	60	60	10	+							
紅色植物	紅藻	サンゴモ科									+						
		マクサ			+	+	+				20	5					
		ススカケベニ							+	+	+	+	+	+	+		
		スギノリ属			+												
		ムカデノリ			+	+	+		+								
		フダラク		30	10	+											
		ツルツル			10	+				+	+						
		ベニスナゴ								+							
		カバノリ				+	+	20	5	20	20	+	+				
		タオヤギソウ							+	40	10	+					
		イギス目					+		+	+	+	+	+	+	+		
		出現種類数	0	2	8	8	8	2	6	7	7	5	3	2	2	0	0

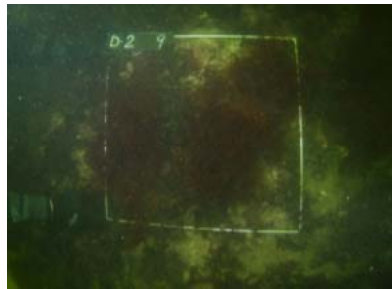
備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m



平均水面-3.0m



平均水面-7.0m

図 3-6 (1) 代表的な調査箇所の状況 (D-2)

・ 地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 0～6 種、全体で 7 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1～±0 m、-13m では海藻が確認されず、-2m で種類数が最も多くなっていて。-5m ではススカケベニ、-7m ではタオヤギソウなどの紅藻の被度が高くなっていて。また、-1～-5m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが繁茂していた。

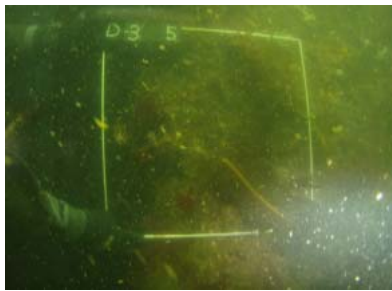
表 3-11（2） 植物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-3 ）

平均水面からの高さ(m)													調査日：平成28年6月4日						
門	綱	種 名	基 質		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
			ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属					+												
		ミル			+	+													
黄色植物	褐藻	ワカメ				20	20	30	30	10									
紅色植物	紅藻	ススカケベニ						10	10	30	10	20	10	+	+				
		カバノリ					+					+	+						
		タオヤギソウ							10	10	+	40							
		イギス目				+	+		+		+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			0	0	3	6	2	4	3	3	3	4	3	2	2	1	1	0	

備考 1）出現種の各数値は被度(%)を示す。
 2）+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m



平均水面-3.0m



平均水面-7.0m

図 3-6（2） 代表的な調査箇所 の 状況（D-3）

・ 地点 D-5

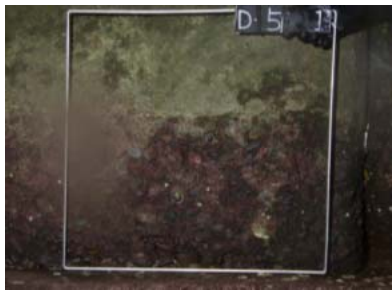
D-5 の地点では、藻類は確認されなかった。

表 3-11 (3) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：平成28年6月4日

				エコ岸壁							
				壁面					遊水室		
				+1	±0	-1	-2	-3			
門	綱	種 名	基 質	ケ-ソ	石 網	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面
出現種なし											
出現種類数				0	0	0	0	0	0	0	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。
 2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面+1.0m



平均水面-3.0m



遊水室側面

図 3-6 (3) 代表的な調査箇所の状況 (D-5)

・地点 D-6

D-6 の地点では、各水深帯で 0～8 種類、全体で 13 種類の海藻類が目視観察によって確認された。+1m と遊水室の上室の上面、側面、下室の上面では海藻が確認されず、-2m で最も種類数が多くなっていた。±0m ではフダラク、-1m ではムカデノリ、-5m ではタオヤギソウなどの紅藻の被度が高くなっていた。また、±0m と-3m では藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-11 (4) 植物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：平成28年6月4日

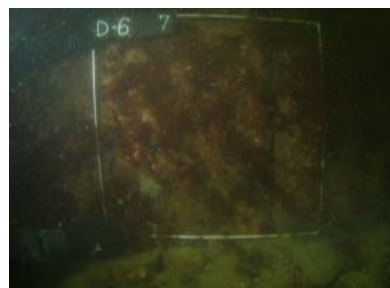
平均水面からの高さ (m)			エコ岸壁												
			壁面							遊水室					
			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
門	綱	基 質 種 名	ケ-ソ	石 網	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	+	+	+					+			+
		シオグサ属		+	+	+	+								
黄色植物	褐藻	ワカメ		10			20								
紅色植物	紅藻	マクサ				+									
		イソダンツウ		+											
		ススカケベニ				+		20	10						+
		ムカデノリ		+	30	5						+			+
		フダラク		30											+
		ツルツル					+					+			
		ムカデノリ科			+	+									
		カバノリ				5								+	+
		タオヤギソウ				+	10	20	60					+	+
		イギス目		+	+										
出現種類数			0	7	5	8	5	2	2	0	0	3	0	2	6

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m



平均水面-5.0m



遊水室上室下面

図 3-6 (4) 代表的な調査箇所状況 (D-6)

3-3-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-12 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認された。-10m では付着生物は確認されず、-5～-6m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m で二枚貝のムラサキイガイ、-3～-4m でカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-12 (1) 動物 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-2 ）

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質 種 名	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
触手動物	蠕虫	Phoronis属					+	+						
	苔虫	苔虫綱						+	+	+		+		
軟体動物	腹足	タマキビ	(8)											
		アラレタマキビ	(168)											
		カゴメガイ								(1)				
		レイシガイ			(1)									
		イボニシ		(2)	(2)									
	二枚貝	ムラサキイガイ		10	5									
		イタボガキ科		+										
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科				+	5	+	+		+			
		カンザシゴカイ科			+	+	10	10	5	+	+			
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+										
		サンカクフジツボ			+	+	+	+	+	+	+	+	+	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ							(1)	(1)				
		キヒトデ			(1)	(1)	(3)			(2)		(1)	(1)	
	ナマコ	マナマコ							(1)					
脊索動物	ホヤ	エボヤ						+	+	+				
		ホヤ綱（群性性）							+	+				
		ホヤ綱（単体性）							+	+	+			
出現種類数			3	5	6	4	5	6	9	9	4	3	2	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 2～11 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0m で二枚貝のイタボガキ科、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-2～-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-3～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-12 (2) 動物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック	フ' ロック 砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	+			+			
触手動物	帚虫	Phoronis属				+	+	+	+	+	+			
	苔虫	苔虫綱			+	+	5	+	+	+	+	+	+	
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(3)										
		アラレタマキビ	(38)											
		オオヘビガイ					+			+				
		レイシガイ		(1)	(6)									
		イボニシ		(2)										
		裸鰓目						(3)	(2)					
	二枚貝	ムラサキイガイ		20	30	+								
		イタボガキ科		20	5		+							
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					+	+	+	+	+			
		カンザシゴカイ科		+	+	10	20	5	+					
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	5										
		サンカクフジツボ			+	+	+	+	+			+	+	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(2)	(1)			(1)
		キヒトデ					(4)	(3)	(2)	(4)		(2)	(1)	(1)
脊索動物	ホヤ	エボヤ					+	+					+	
		ホヤ綱 (群体性)				+	+			+	+			
		ホヤ綱 (単体性)						+	+		+	+		
出現種類数			2	7	7	7	11	10	8	7	7	4	4	2

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 0～12 種、全体で 24 種の付着動物が目視観察によって確認された。-11m では付着生物は確認されず、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0m ではイワフジツボ、±0～-2m で二枚貝のムラサキガイ、-1～-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-3～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-12 (3) 動物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種 名 基 質	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	ケソソ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+		+								
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+	+	+			+				
	花虫	タテジマイソギンチャク		+											
触手動物	筈虫	Phoronis属			+	+	5								
	苔虫	苔虫綱			+	+	5	+	+	+		+	+	+	
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(28)												
		カゴメガイ										(1)	(1)		
		レイシガイ			(7)	(2)		(1)							
		イボニシ		(1)											
		ムギガイ							(1)						
		カラマツガイ		(2)											
	二枚貝	ムラサキガイ		10	20	20	+								
		イタボガキ科		5			+	+	+						
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科					+								
		ケヤリ科							+		+	+	+		
		カンザシゴカイ科		+	50	10	10	+	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	40											
		サンカクフジツボ				+	+	+	+	+	+	+	+	+	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ					(2)	(7)	(2)	(1)	(2)	(1)			
		キヒトデ						(3)	(1)			(1)	(2)	(1)	
	ウニ	サンショウウニ							(1)	(1)					
	ナマコ	マナマコ							(3)				(1)	(1)	
脊索動物	ホヤ	エボヤ			+	+	+	+		+	+				
		ホヤ綱 (群体性)			+	+	+								
出現種類数			2	7	8	9	12	9	10	6	6	7	7	5	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-13 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 2～9 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では同じく巻貝のカラマツガイが多くみられ、二枚貝のムラサキガイ、マガキの被度が高くなっていた。また、-1m と -3m では尋常海綿綱、カンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-13 (1) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔	巨磔
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			10	5	10	5	+					
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
		イソギンチャク目			+	+	+	+						
触手動物	蓐虫	Phoronis属					+	+						
	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(8)										
		アラレタマキビ	(112)											
		シマメノウフネガイ									(2)			
		オオヘビガイ								+				
		イボニシ		(3)										
		カラマツガイ		(14)										
	二枚貝	ムラサキガイ		60	5	+	+							
		マガキ		20										
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	10	5	10	+	+			+		+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+										
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ										(1)		
		キヒトデ							(1)	(1)	(2)			
脊索動物	ホヤ	エボヤ				+	+						+	
		ホヤ綱（群体性）			+	+	+	+	+					
		ホヤ綱（単体性）					+			+				
出現種類数			2	8	6	7	9	6	5	4	3	3	2	2

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 2～10 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認され、±0m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では巻貝のコモレビコガモガイが多く見られ、二枚貝のイタボガキ科の被度が高くなっていた。また、-3m ではカンザシゴカイ科、-5m では尋常海綿綱、-6m では苔虫綱の被度が高くなっていた。

表 3-13 (2) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			5	+	+		20	+				
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
		イソギンチャク目		+	+									
		シオガマサンゴ科										+		
触手動物	筍虫	Phoronis属					+	+						
	苔虫	苔虫綱			5	+	+	+	5	30	5	+	+	+
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(18)										
		アラレタマキビ	(128)											
		オオヘビガイ				+	+		+					
		レイシガイ			(2)									
		イボニシ		(3)										
		カラマツガイ		(4)										
		キクノハナガイ		(5)										
	二枚貝	イタボガキ科		50		+								
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	+	5	20	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	カメノテ		+										
		イワフジツボ	+	5										
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)				
		キヒトデ							(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱 (群体性)			+	+	+	+						
出現種類数			2	10	6	6	6	4	5	5	3	4	3	2

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 16 種の付着動物が目視観察によって確認された。-10m では付着動物は確認されず、-2～-4m で種類数が多くなっていた。
+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイ、-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。

表 3-13 (3) 動物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱					+	+						
触手動物	筍虫	Phoronis属				+	+	+						
	苔虫	苔虫綱				+	+	+	+	+		+	+	
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(52)											
		オオヘビガイ				+	+	+	+					
		カゴメガイ								(1)				
		レイシガイ						(1)						
		イボニシ		(2)	(3)									
		ムギガイ							(2)					
		カラマツガイ		(2)										
		キクノハナガイ		(3)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		20	10	+	+							
		Chama属				+								
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	5	20	5	+	+	+	+		
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱 (群体性)				+	+	+						
		ホヤ綱 (単体性)								+	+			
出現種類数			1	4	3	7	7	7	4	4	2	2	1	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-14 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 30 種の付着動物が目視観察によって確認された。-13m では付着動物は確認されず、±0～-7m で種類数が多くなる傾向を示した。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではイワフジツボの被度が高かった。-2m で尋常海綿綱とヒドロ虫綱、-3m で Phoronis 属、-3m と -5m で苔虫綱、-4～-5m でカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、-4～-12m の広い範囲でサンショウウニが見られた。

表 3-14 (1) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：平成28年6月4日																	
平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			5	10	+	+									
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+	10	+	+	+	+							
	花虫	タテジマイソギンチャク		+		+											
		シオガマサンゴ科										+		+			
触手動物	筍虫	Phoronis属			+	+	10										
	苔虫	苔虫綱			+	+	30	+	10	+	+	+	+	+	+	+	
軟体動物	多板	ヒザラガイ		(1)													
		ヒメケハダヒザラガイ			(1)												
	腹足	ベッコウガサ		(1)													
		ヨメガカサ		(2)													
		コモレビコガモガイ		(7)													
		ウノアシ		(5)													
		コシダカガンガラ								(4)	(3)						
		アラレタマキビ	(208)														
		シマメノウフネガイ														(1)	
		レイシガイ									(1)	(1)					
		イボニシ		(4)	(1)												
		キクノハナガイ		(2)	(1)												
		裸鰓目					(1)	(2)	(1)								
	二枚貝	ナミマガシワ							+								
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	+	+	10	10	+	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	20													
		サンカクフジツボ					+			+	+	+	+	+	+	+	
		クロフジツボ	+														
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ						(1)		(1)			(1)				
		キヒトデ											(1)	(1)			
	ウニ	サンショウウニ						(1)		(3)	(2)	(2)	(3)	(5)	(4)	(1)	
	ナマコ	マナマコ								(2)	(1)						
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+	+		+								
		ホヤ綱（単体性）					+		+								
出現種類数			3	9	9	7	9	7	7	8	7	6	6	6	5	2	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 0～11 種、全体で 24 種の付着動物が目視観察によって確認された。-13m では付着動物は確認されず、-3m で最も種類数が多かった。+1m でアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではコモレビコガモガイ、アラレタマキビなどの巻貝が多くみられた。±0～-3m では二枚貝のムラサキイガイの被度が非常に高く、-1～-2m で尋常海綿綱、-3m で Phoronis 属、-3～-6m と-11m で苔虫綱、-4～-6m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、-5～-12m の広い範囲でサンショウウニがみられ、-8～-9m で多く出現した。

表 3-14 (2) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-3)

調査日：平成28年6月4日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			20	10	+										
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱					+	+									
	花虫	タテジマイソギンチャク		+													
		イソギンチャク目				+	+										
触手動物	苔虫	Phoronis属					10										
	苔虫	苔虫綱			+	+	10	20	40	10	+	+	+	5	10	5	
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(12)													
		ウノアシ		(2)													
		アラレタマキビ	(256)	(16)													
		シマメノウフネガイ									(1)	(3)					
		レイシガイ			(2)	(3)	(2)										
		イボニシ		(8)													
		カラマツガイ		(3)													
		ウミフクロウ						(1)	(1)	(1)							
	二枚貝	ムラサキイガイ		80	60	70	20	+									
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科				+	+	10	10	20	+	+	+	+	+	+	
節足動物	頭脚	イワフジツボ		+													
		サンカクフジツボ								+	+	+	+	+			
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ						(1)	(3)	(2)							
	海星	キヒトデ			(1)	(1)				(1)			(1)				
	ウニ	サンショウウニ							(1)	(1)	(4)	(9)	(8)	(3)	(3)	(2)	
	ナマコ	マナマコ						(1)		(1)	(2)						
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱 (群体性)				+	+	+	+	+							
		ホヤ綱 (単体性)					+	+	+	+					+		
出現種類数			1	8	3	8	11	9	7	10	6	5	6	4	4	3	0

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、各水深帯で 1～10 種、全体で 17 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2～-3m 付近や遊水室の上面、下面で種類数が多くなる傾向がみられた。±0m では巻貝のイボニシが多くみられ、-1m では同じく巻貝のレイシガイが非常に多くみられた。また、±0m では二枚貝のムラサキイガイ、-1～-3m では苔虫綱の被度が非常に高く、±0～-3m ではカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。なお、遊水室内では苔虫綱やカンザシゴカイ科の被度が高く、レイシガイ、イトマキヒトデ、マナマコなども多数みられた。

表 3-14 (3) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：平成28年6月4日

平均水面からの高さ(m)			エコ岸壁							
			壁面					遊水室		
			+1	±0	-1	-2	-3			
門	綱	種 名	ケ-ソ	石網	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	+	+	+
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+		+	+	+
触手動物	苔虫	苔虫綱			40	40	70	50	60	+
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(5)							
		シマメノウフネガイ					(1)			
		レイシガイ			(336)	(1)	(2)			cc
		イボニシ		(49)						
		ウミフクロウ					(2)			
	二枚貝	ムラサキイガイ		80	+			+	+	+
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		10	10	30	10	+	10	5
節足動物	軟甲	イシガニ				(1)		rr		
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ			(1)	(3)		c	r	c
		キヒトデ			(1)		(1)	r	rr	r
	ウニ	サンショウウニ				(2)				r
	ナマコ	マナマコ					(1)	r	r	c
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）				+	+	+		
		ホヤ綱（単体性）			+					
出現種類数			1	3	8	9	9	10	8	10

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

3) 遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

・地点 D-6

D-6 の地点では、各水深帯で 3～16 種、全体で 23 種の付着動物が目視観察によって確認され、遊水室内で種類数が多くなる傾向がみられた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、イワフジツボの被度が高くなっていた。また、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイ、-1～-3m で苔虫綱、-2m と-4m でカンザシゴカイ科、-3m でサンカクフジツボ、-3～-4m でホヤ綱（単体性）の被度が高くなっていた。遊水室内では上室、下室ともに苔虫綱やカンザシゴカイ科の被度が高く、上室の下面ではムラサキイガイの被度も高くなっていた。その他、巻貝のシマメノウフネガイ、ヤドカリ上科、イトマキヒトデなどが多数みられた。

表 3-14 (4) 動物 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：平成28年6月4日

調査日：平成28年0月4日

平均水面からの高さ (m)			エコ岸壁												
			壁面							遊水室					
			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
門	綱	種 名 基 質	ケーソン	石網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱								+	+	+	+	+	+
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱								+	+	+	+	+	+
触手動物	筍虫	Phoronis属								+	+				
	苔虫	苔虫綱			40	60	30	+	+	40	80	20	50	20	5
軟体動物	腹足	コシダカガンガラ				(2)					rr	rr			r
		タマキビ	(2)												
		アラレタマキビ	(224)												
		シマメノウフネガイ													cc
		レイシガイ		(2)						r	r	r	r	r	r
		ウミフクロウ				(1)		(1)	(1)					r	r
	二枚貝	ホトトギスガイ		+											
		ムラサキイガイ		50	20	+				+	+	10	+	+	+
		ナミマガシワ										+			
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	+	10	+	10	+	30	+	5	10	30	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	10												
		サンカクフジツボ				+	10		+		+				+
	軟甲	ヤドカリ上科										c			r
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ			(2)			(2)		c	rr	r	c	r	r
		キヒトデ		(1)	(3)	(1)			(2)			r			r
	ウニ	サンショウウニ			(1)	(1)	(7)	(2)						r	r
	ナマコ	マナマコ						(1)	(1)						r
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+			+	+	+	+	+	+	+	+
		ホヤ綱（単体性）			+	+	20	30	+		+			+	
出現種類数			3	5	8	9	5	8	8	9	12	12	8	11	16

備考 1) 出現種の各数値は被度(%)を、()内の値は個体数を示す。

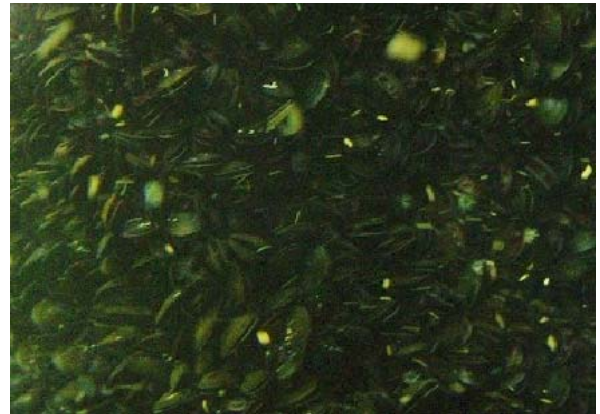
2) +表示は被度が5%未満であることを示す。

3) 遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上



アラレタマキビ



ムラサキイガイ



イワフジツボ



イトマキヒトデ



マナマコ



ホヤ綱（単体性）・サンショウウニ

図 3-7 目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物）

各処分場において護岸にブロックを用いている神戸沖埋立処分場の2点(A-2、A-4)、大阪沖埋立処分場の2点(C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場の1点(D-2)においては、ブロック側面、裏面の状況を、目視および写真撮影により確認した。

(1) 神戸沖埋立処分場

表3-15に神戸沖埋立処分場の2点(A-2、A-4)におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図3-8には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 A-2

±0mでは各面でアオサ属、二枚貝のムラサキイガイなどが、-1～-3mではカンザシゴカイ科、Phoronis 属、キヒトデなどが確認された。全体的に、上面、側面、裏面での付着生物相の大きな変化は認められなかった。

表 3-15 (1) 動植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

A-2	平均水面(m)	±0	-1	-2	-3
	位置 基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アオサ属 ムラサキイガイ	—	—	イギス目 カンザシゴカイ科 キヒトデ
	右側面	アオサ属 ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	ミズヒキゴカイ科 Phoronis属
	左側面	アオサ属 ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科 Phoronis属 キヒトデ	カンザシゴカイ科 Phoronis属 キヒトデ
	裏面	アオサ属 ムラサキイガイ イワフジツボ	イトマキヒトデ ホヤ綱(単体性)	カンザシゴカイ科 Phoronis属	カンザシゴカイ科 Phoronis属 イトマキヒトデ

※主要種: 上面については観察時の被度が10%以上または個体数が3個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

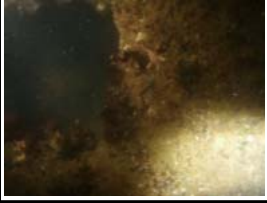
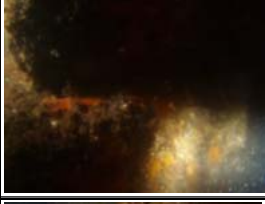
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
±0				
-1				
-2				
-3				

図 3-8 (1) ブロック各位置の付着動植物の状況 (神戸沖埋立処分場 A-2)

・地点 A-4

+1m では上面を主体として小型の巻貝のアラレタマキビが、裏面には比較的大型の巻貝のベッコウガサ、マツバガイがみられた。±0～-1m では上面にアオサ属がよく繁茂し、各面にはイタボガキ科が多くみられた。-2～-3m では各面でカンザシゴカイ科、キヒトデなどがよくみられた。-4m 以深の上面では、カバノリ、イギス目などの海藻が繁茂し、各面で尋常海綿綱、苔虫綱、カンザシゴカイ科、キヒトデなどがみられた。また、-2m の側面と-4m の裏面では藻場構成種（大型褐藻）であるワカメも確認された。

表 3-15 (2) 動植物 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	位置 基質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック砂泥
主要種※	上面	アラレタマキビ	アオサ属 コモレビコガモガイ ムラサキイガイ イタボガキ科	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カバノリ イギス目 裸鰓目 キヒトデ	イギス目	イギス目 キヒトデ	イギス目	—	—	—
	右側面	—	イタボガキ科 イワフジツボ	イタボガキ科	Phoronis 属 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	ミズヒキゴカイ科 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	尋常海綿綱 裸鰓目 ミズヒキゴカイ科	Phoronis 属 苔虫綱 キヒトデ	Phoronis 属 苔虫綱 マボヤ	キヒトデ	苔虫綱 ホヤ綱(単体性)	イソギンチャク目 苔虫綱	イトマキヒトデ サンショウウニ
	左側面	—	イタボガキ科	ムラサキイガイ イタボガキ科	ワカメ	カンザシゴカイ科 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	ミズヒキゴカイ科 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 ミズヒキゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱 キヒトデ	キヒトデ	苔虫綱 キヒトデ マボヤ	マボヤ	苔虫綱
	裏面	ベッコウガサ マツバガイ	イボニシ イタボガキ科	尋常海綿綱 ヒドロ虫綱 イソギンチャク目	尋常海綿綱 苔虫綱 キヒトデ	尋常海綿綱 ミズヒキゴカイ科 カンザシゴカイ科	ワカメ ミズヒキゴカイ科 キヒトデ	ミズヒキゴカイ科 Phoronis 属 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ	ホヤ綱(単体性)	裸鰓目 キヒトデ マボヤ	マボヤ	—

※主要種: 上面については観察時の被度が 10% 以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				
-5				
-6				
-7				
-8				
-9				
-10				

図 3-8 (2) ブロック各位置の付着動植物の状況 (神戸沖埋立処分場 A-4)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-16 に大阪沖埋立処分場の 2 点（C-2、C-3）におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図 3-9 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 C-2

+1m では各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息していた。±0m では上面と側面で二枚貝のイタボガキ科が、裏面で二枚貝のムラサキイガイが多くみられ、-1m では各面で紅藻のフダラクが繁茂していた。-2m 以深では、各面で尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱などが確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1m の裏面、-2m の上面と右側面、-3m の左側面でワカメが、-3m の右側面でシダモクが確認された。

表 3-16 (1) 動植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

C-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置	基質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック
主要種※	上面	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ イタボガキ科	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツノマタ属	アオサ属 カンザシゴカイ科	サンゴモ科
	右側面	アラレタマキビ	タテジマイソギンチャク ムラサキイガイ イタボガキ科	フダラク ツルツル ムラサキイガイ	ワカメ 尋常海綿綱	シダモク 尋常海綿綱 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科
	左側面	アラレタマキビ	タテジマイソギンチャク イタボガキ科 クロフジツボ	尋常海綿綱 ムラサキイガイ キヒトデ	タマハハキモク フダラク 尋常海綿綱	ワカメ 尋常海綿綱 苔虫綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)
	裏面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	ワカメ フダラク ツルツル	Phoronis属 苔虫綱	苔虫綱	苔虫綱 エボヤ

※主要種: 上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

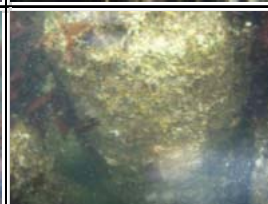
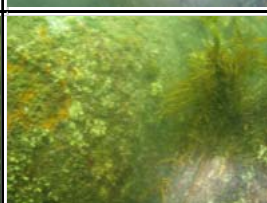
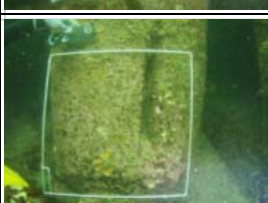
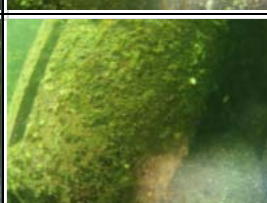
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

図 3-9 (1) ブロック各位置の付着動植物の状況 (大阪沖埋立処分場 C-2)

・地点 C-3

+1m では裏面以外の各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息していた。±0～-1m では各面で紅藻のフダラクがよく繁茂し、巻貝のイボニシが多くみられた。-2m 以深では、各面で尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱などが確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1m の左側面と裏面でワカメが、-3～-4m の裏面でシダモクが確認された。

表 3-16 (2) 動植物 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

C-3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置 基質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック
主要種※	上面	アラレタマキビ	シオグサ属 キクノハナガイ ムラサキイガイ	シオグサ属 フダラク イボニシ ムラサキイガイ	シオグサ属	アオサ属 カンザシゴカイ科	-
	右側面	アラレタマキビ	フダラク イボニシ	フダラク カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 Phoronis属 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 Phoronis属 キヒトデ	オオヘビガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱
	左側面	アラレタマキビ	フダラク イボニシ	ワカメ フダラク カンザシゴカイ科	Phoronis属 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	オオヘビガイ Phoronis属 カンザシゴカイ科
	裏面	-	フダラク イボニシ ムラサキイガイ	ワカメ フダラク	フダラク 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	シダモク カンザシゴカイ科 苔虫綱	シダモク カンザシゴカイ科 苔虫綱

※主要種: 上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

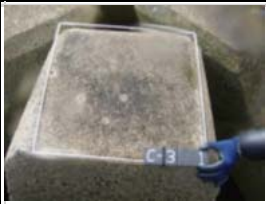
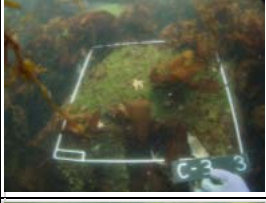
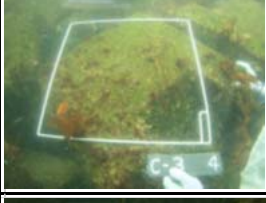
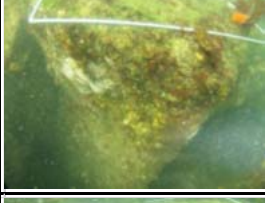
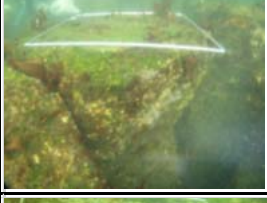
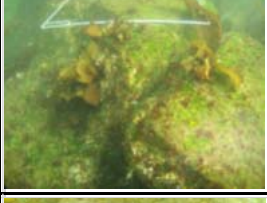
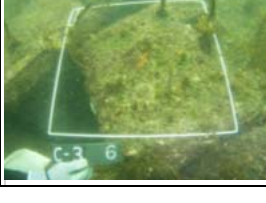
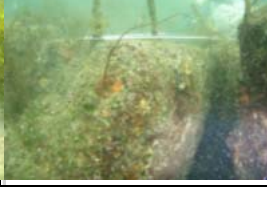
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

図 3-9 (2) ブロック各位置の付着動植物の状況 (大阪沖埋立処分場 C-3)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-17 に泉大津沖埋立処分場の 1 点 (D-2) におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図 3-10 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 D-2

ワカメの繁茂により部分的に写真撮影や観察が困難な箇所があったが、±0～-5m では-4～-5m の裏面を除いて、各面で藻場構成種（大型褐藻）のワカメが繁茂していた。その他、-1m 以深では尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱がよくみられた。

表 3-17 動植物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-2 ）

D-2	平均水面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
	位置	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック
主要種※	上面	アラレタマキビ		ワカメ フダラク コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ イワフジツボ	アオサ属 ワカメ ムカデノリ カバノリ	アオサ属 ワカメ 尋常海綿綱 ヒドロ虫綱	ワカメ Phoronis属 苔虫綱	ワカメ カバノリ カンザシゴカイ科	ワカメ カンザシゴカイ科 苔虫綱
	右側面			ワカメ	ワカメ 尋常海綿綱	ワカメ 尋常海綿綱 苔虫綱	ワカメ レイシガイ 苔虫綱	ワカメ カンザシゴカイ科 苔虫綱	ワカメ カンザシゴカイ科 苔虫綱
	左側面			ワカメ	ワカメ 尋常海綿綱	ワカメ ヒドロ虫綱 苔虫綱	ワカメ 苔虫綱	ワカメ カンザシゴカイ科 苔虫綱	ワカメ タオヤギソウ 苔虫綱
	裏面			ワカメ	ワカメ	ワカメ	ワカメ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱

※主要種: 上面については観察時の被度が 10% 以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出

側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注 1) 緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

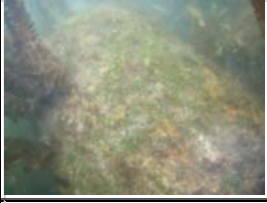
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				
-5				

図 3-10 ブロック各位置の付着動植物の状況 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

3-4 遊泳魚類等調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-18 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、クロダイ、カサゴの 2 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。

表 3-18 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	ケ-ソ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
		基 質												
脊索動物	硬骨魚	クロダイ(40)					rr							
		カサゴ(5)								r			r	
出現種類数			0	0		1		0		1		1		0

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1~2個体, r:3~10個体, c:11~50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、カサゴ、メバル、アイナメ、キチヌ、スズメダイ、メジナ、コブダイ、キュウセン、アサシアナハゼの 9 種が目視観察で確認された。-6~-7m の水深帯での確認種が最も多かった。

表 3-18 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基 質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ 砂泥
		種 名												
脊索動物	硬骨魚	カサゴ (5～20)					r		rr		rr		rr	
		メバル (5～10)									r		r	
		アイナメ (20)									rr			
		キチヌ (40)					rr							
		スズメダイ (15)									rr			
		メジナ (15)					rr							
		コブダイ (40)					rr				rr			
		キュウセン (10～20)									r			
		アサヒアナハゼ (10)												rr
出現種類数			0	0		4		1		6		2		1

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1~2個体, r:3~10個体, c:11~50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、カサゴ、メバル、スズメダイ、キュウセン、マダコの 5 種が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が多かった。また、-8～-9m ではメバルが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-18 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 A-5)

調査日：平成28年5月28日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	種 名	基 質												
			ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 小礫	大礫 巨礫	砂 泥
脊索動物	硬骨魚	カサゴ (5～10)								r		r		rr	
		メバル (5～10)										c		r	
		スズメダイ (10)								rr					
		キュウセン (20)								rr					
軟体動物	頭足	マダコ (20)								rr					
出現種類数			0	0		0		0		4		2		2	

備考 1) イカ・タコ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) イカ・タコ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-19 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、メバル、メジナ、ホシササノハベラ、キュウセンの 4 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯では全種が確認され、-2～-5m ではメバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-19 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名 基 質	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～5)				c		c		r				
		メジナ(15～20)						r						
		ホシササノハベラ(20)						rr						
		キュウセン(20)						rr						
出現種類数			0	0		1		4		1		0		0

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、ボラ、カサゴ、メバル、スズメダイ、ホシササノハベラの 5 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯では全種が確認され、-4～-5m ではメバル、-2～-5m ではスズメダイが 11～50 個体（c）と比較的多く確認された。

表 3-19 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-2)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名 基 質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	ボラ(50～60)				r		rr						
		カサゴ(5～10)						rr		r		rr		
		メバル(3～5)						c		r		r		
		スズメダイ(10～15)				c		c		r		r		
		ホシササノハベラ(10)						rr						
出現種類数			0	0		2		5		3		3		0

備考 1) ｲｶﾞﾀ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) ｲｶﾞﾀ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、ボラ、メバル、スズメダイ、メジナ、ホシササノハベラの 5 種が目視観察によって確認された。-2~-3m ではメバル、-2~-5m ではスズメダイが 11~50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-19 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 C-3)

調査日：平成28年5月29日

平均水面からの高さ (m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	種 名	基 質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	ボラ (40)					rr							
		メバル (3~5)					c		r		r			
		スズメダイ (10~15)					c		c		r			
		メジナ (20)							r					
		ホシササノハベラ (20)							rr		rr			
出現種類数			0	0		3		4		3		0		0

備考 1) いか・タコ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1~2個体, r:3~10個体, c:11~50個体, cc:51個体以上

2) いか・タコ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-20 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における遊泳魚類の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、メバル、アイナメ、ウミタナゴ、スズメダイ、ホシササノハベラの 5 種が目視観察によって確認された。-2～-3m の水深帯で種類数が多かった。

表 3-20 (1) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：平成28年6月4日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	種 名	基 質														
			フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	フ'ロツク	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(4～5)					r		r		r				rr		
		アイナメ(20)									r						
		ウミタナゴ(3～5)							r								
		スズメダイ(10～15)					rr										
		ホシササノハベラ(10)					r										
出現種類数			0	0		3		2		2		0		1		0	

備考 1) いか類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) いか類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、ボラ、カサゴ、メバル、クロダイ、ウミタナゴ、キュウセンの 6 種が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が多かった。また、-2～-7m ではメバル、-6～-7m ではウミタナゴが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-20 (2) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-3)

調査日：平成28年6月4日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13	
門	綱	種 名	基 質															
			ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	ケ-ソソ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂 泥
脊索動物	硬骨魚	ボラ (60)										FF						
		カサゴ (20)													FF			
		メバル (4～5)					C		C		C		r					
		クロダイ (40)										FF						
		ウミタナゴ (4)										C						
		キュウセン (10～15)										FF				c		
出現種類数			0	0		1		1		5		1		2		0		

備考 1) いか類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) いか類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-5

D-3 の地点では、ボラ科、カサゴ、メバル、キジハタ、キチヌ、ウミタナゴ、スズメダイ、メジナ、キュウセン、クサフグの 10 種が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺においてほとんどの種類が確認され、ボラ科とメバルが 11～50 個体 (c) と比較的多く観察され、ウミタナゴは 51 個体以上 (cc) と極めて多くみられた。

表 3-20 (3) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-5)

調査日：平成28年6月4日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種 名 / 基 質	ヶ-ソソ	ヶ-ソソ	ヶ-ソソ
脊索動物	硬骨魚	ボラ科 (3～5)		c	
		カサゴ (10～15)	rr	rr	
		メバル (5～15)	rr	c	
		キジハタ (15)	rr	r	
		キチヌ (30)		rr	
		ウミタナゴ (5)		cc	
		スズメダイ (10～15)		r	
		メジナ (10～20)		r	
		キュウセン (10～15)		rr	
		クサフグ (20)		rr	
出現種類数			3	10	0

備考 1) イカ・タコ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) イカ・タコ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-6

D-3 の地点では、ゴンズイ、カサゴ、メバル、アナハゼ、ウミタナゴ、ウマヅラハギの 6 種類が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺においてメバルが 51 個体以上 (cc) と非常に多く観察された他、ウミタナゴが 11～50 個体 (c) と比較的多くみられた。

表 3-20 (4) 遊泳魚類 目視観察結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：平成28年6月4日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	種 名 基 質	ヶ-ソソ	ヶ-ソソ	ヶ-ソソ
脊索動物	硬骨魚	ゴンズイ (15)	rr		
		カサゴ (3～20)		r	r
		メバル (5～15)	r	cc	
		アナハゼ (10)		rr	
		ウミタナゴ (5)		c	
		ウマヅラハギ (40)	rr		
出現種類数			3	4	1

備考 1) イカ・タコ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上

2) イカ・タコ類及び魚類の種名欄における()内の範囲は全長(cm)を示す。



メバル



アイナメ



スズメダイ



ホシササノハベラ



アサヒアナハゼ



ウマヅラハギ

図 3-11 目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-5 水質調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-21 に神戸沖埋立処分場 3 点 (A-2、A-4、A-5) における水質調査結果を示した。
図 3-12 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 A-2

A-2 の調査時(平成 28 年 5 月 28 日 14:10)の天候は雨、作業船上での気温は 22.3℃、南の風 4.7m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 2.3m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.56～20.96℃の範囲にあり、水深 1～2m に水温躍層はみられた。

塩分は 23.09～32.03 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量 (DO) は 2.56～11.32mg/L の範囲にあり、水深 10m においても海藻はみられたが、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示した。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、13m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-21 (1) 水質調査結果 (神戸沖埋立処分場 A-2)

調査日：平成 28 年 5 月 28 日

調査地点 A-2		調査時刻 14:10		天候 雨	気温 22.3℃
風向 S		風速 4.7m/s		雲量 10	風浪階級 3
水深 15.5m		透明度 2.3m	水色 dark grayish green		
水深 (m)	水温 (℃)	塩分 (ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量 (%)	DO (mg/L)
0	20.96	23.09	44.9	100.0	11.32
0.5	20.92	23.51	28.9	64.4	11.27
1	20.79	24.50	15.1	33.6	10.47
2	18.57	29.47	7.9	17.6	6.33
3	18.33	29.93	5.0	11.1	5.36
4	18.01	30.17	3.7	8.2	4.92
5	17.56	31.10	3.0	6.7	4.69
6	17.61	31.25	2.3	5.1	5.07
7	17.29	31.31	2.0	4.5	4.51
8	17.23	31.63	1.7	3.8	4.50
9	17.20	31.72	1.5	3.3	4.56
10	17.07	31.77	1.2	2.7	4.30
11	16.56	31.90	1.0	2.2	2.69
12	16.60	31.95	0.6	1.3	2.56
13	16.78	31.94	0.3	0.7	3.10
14	16.78	32.03	0.1	0.2	3.40
15	16.66	32.03	0.1	0.2	2.71

・地点 A-4

A-4 の調査時（平成 28 年 5 月 28 日 11:21）の天候は曇り、作業船上での気温は 24.8℃、北北東の風 0.6m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 2.2m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.76～20.88℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 22.76～32.04 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 2.85～10.50mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 9m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、11m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-21 (2) 水質調査結果 (神戸沖埋立処分場 A-4)

調査日：平成 28 年 5 月 28 日

調査地点 A-4		調査時刻 11:21		天候 曇	気温 24.8℃
風向 NNE		風速 0.6m/s		雲量 8	風浪階級 1
水深 15.6m		透明度 2.2m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.88	22.76	226.5	100.0	10.49
0.5	20.86	22.85	174.3	77.0	10.50
1	20.72	23.34	85.5	37.7	10.24
2	20.61	24.59	36.3	16.0	9.94
3	20.34	26.59	17.7	7.8	9.71
4	19.43	29.12	10.4	4.6	7.33
5	18.88	30.30	7.7	3.4	7.45
6	18.59	30.67	6.3	2.8	6.88
7	18.05	30.78	5.3	2.3	5.48
8	18.01	31.05	3.8	1.7	5.44
9	17.92	31.36	3.1	1.4	5.54
10	18.06	31.90	2.4	1.1	6.46
11	17.83	31.97	1.9	0.8	6.11
12	17.50	31.98	1.4	0.6	5.00
13	17.21	31.94	1.1	0.5	4.19
14	17.10	32.02	0.9	0.4	3.80
15	16.76	32.04	0.6	0.3	2.85

・地点 A-5

A-5 の調査時（平成 28 年 5 月 28 日 9:05）の天候は曇り、作業船上での気温は 22.9℃、北の風 1.4m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green で、透明度は 2.9m とやや低い値であったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.10～20.11℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 27.65～32.01 の範囲にあり、水深 5m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 3.26～8.76mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 10m 以浅では 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 4m 以深で急激に低下し、13m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-21 (3) 水質調査結果 （神戸沖埋立処分場 A-5）

調査日：平成 28 年 5 月 28 日

調査地点 A-5		調査時刻 9:05		天候 曇	気温 22.9℃
風向 N		風速 1.4m/s		雲量 8	風浪階級 1
水深 16.1m		透明度 2.9m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.11	27.65	217.9	100.0	8.76
0.5	20.06	27.79	188.6	86.6	8.54
1	20.08	27.81	139.3	63.9	8.55
2	20.10	27.90	87.9	40.3	8.56
3	20.05	28.08	54.6	25.1	8.27
4	19.26	29.21	32.2	14.8	6.99
5	19.02	29.53	21.2	9.7	6.67
6	18.64	30.18	13.8	6.3	6.16
7	18.56	30.38	9.6	4.4	6.02
8	18.45	30.73	7.8	3.6	5.74
9	18.09	32.01	6.1	2.8	6.70
10	17.95	32.00	4.9	2.2	6.37
11	17.66	31.98	3.4	1.6	5.59
12	17.50	31.96	2.3	1.1	4.91
13	17.39	31.99	1.6	0.7	4.63
14	17.16	31.98	1.0	0.5	3.67
15	17.15	31.98	0.8	0.4	3.56
16	17.10	31.97	0.7	0.3	3.26

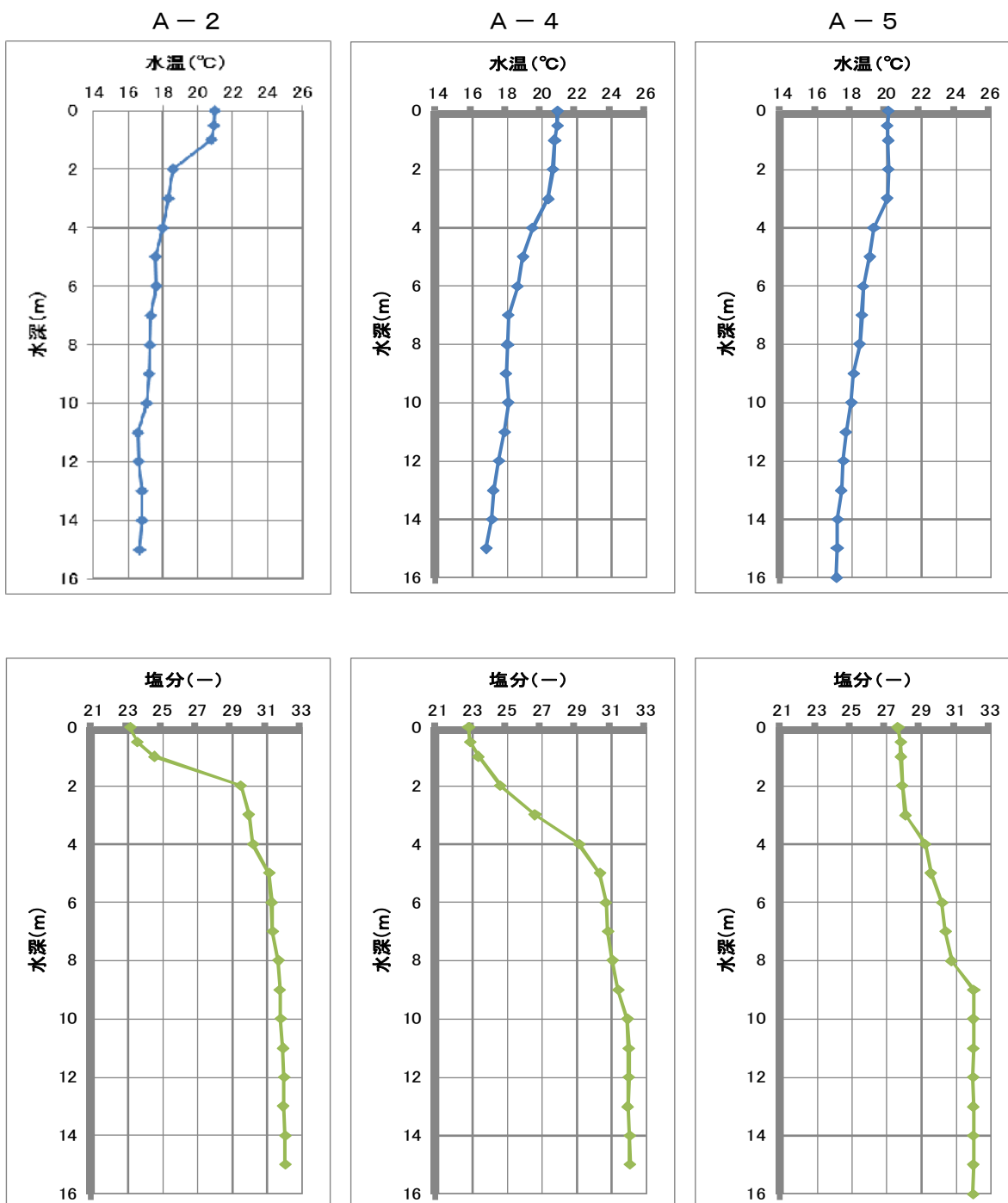


図 3-12 (1) 水質の鉛直分布 (神戸沖埋立処分場 水温 塩分)

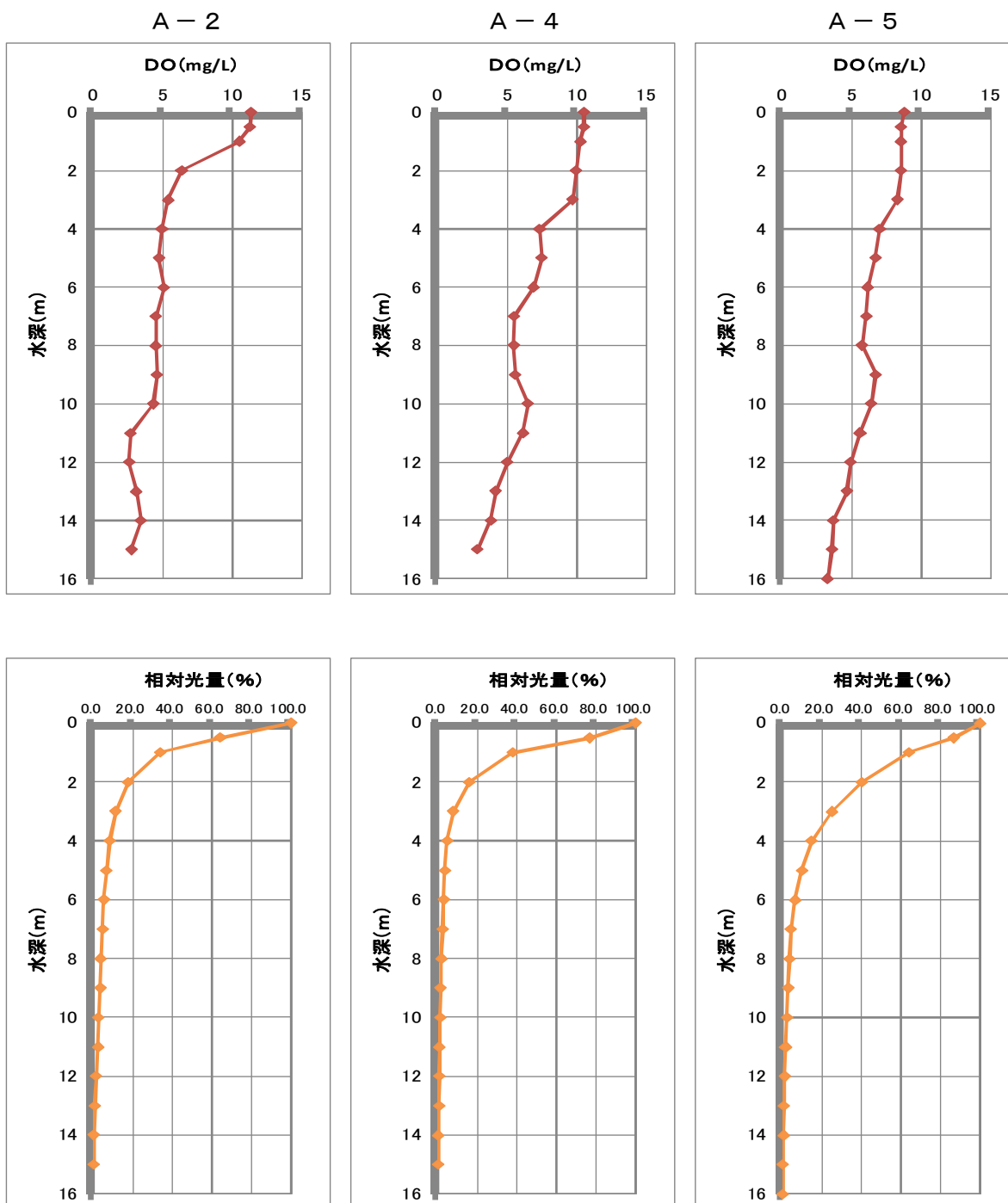


図 3-12 (2) 水質の鉛直分布 (神戸沖埋立処分場 DO 相対光量)

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-22 に大阪沖埋立処分場 3 点 (C-1、C-2、C-3) における水質調査結果を示した。
図 3-13 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 C-1

C-1 の調査時 (平成 28 年 5 月 29 日 14:32) の天候は曇り、作業船上での気温は 23.0℃、西南西の風 3.8m/s で風浪階級は 2 と海況はやや波のある状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 4.8m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.11～20.12℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 26.50～32.06 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量 (DO) は 3.46～8.83mg/L の範囲にあり、海藻の生育する水深 9m 以浅で 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下し、水深 13m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-22 (1) 水質調査結果 (大阪沖埋立処分場 C-1)

調査日：平成 28 年 5 月 29 日

調査地点 C-1		調査時刻 14:32		天候 曇	気温 23.0℃
風向 WSW		風速 3.8m/s		雲量 10	風浪階級 2
水深 14.9m		透明度 4.8m	水色 dark grayish green		
水深 (m)	水温 (℃)	塩分 (ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量 (%)	DO (mg/L)
0	20.12	26.50	130.7	100.0	8.21
0.5	19.99	27.09	111.7	85.5	8.62
1	19.75	28.12	76.8	58.8	8.83
2	19.01	29.90	33.2	25.4	7.12
3	18.57	30.33	27.4	21.0	6.81
4	18.40	31.31	21.1	16.1	6.64
5	18.19	31.57	17.5	13.4	6.15
6	18.03	31.80	15.9	12.2	6.15
7	17.78	31.84	14.0	10.7	5.80
8	17.57	31.94	11.3	8.6	5.36
9	17.46	31.94	8.3	6.4	5.03
10	17.43	31.97	5.8	4.4	4.93
11	17.36	32.00	3.6	2.8	4.63
12	17.26	32.03	2.1	1.6	4.27
13	17.19	32.06	1.3	1.0	3.92
14	17.11	32.03	0.8	0.6	3.46

・地点 C-2

C-2 の調査時（平成 28 年 5 月 29 日 11:11）の天候は曇り、作業船上での気温は 30.1℃、北の風 0.6m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 6.2m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 18.05～20.47℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 22.60～32.08 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（DO）は 5.68～8.09mg/L の範囲にあり、水底近くまで 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 4m 以深で急激に低下していた。

表 3-22（2） 水質調査結果 （大阪沖埋立処分場 C-2）

調査日：平成 28 年 5 月 29 日

調査地点 C-2		調査時刻 11:11		天候 曇	気温 30.1℃
風向 N		風速 0.6m/s		雲量 10	風浪階級 0
水深 12.7m		透明度 6.2m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.47	22.60	509.3	100.0	8.09
0.5	19.90	28.03	462.1	90.7	7.44
1	19.75	28.55	337.6	66.3	6.97
2	19.22	29.53	213.3	41.9	7.14
3	19.05	28.76	157.0	30.8	6.67
4	18.85	30.02	117.2	23.0	6.46
5	18.25	30.67	97.1	19.1	5.68
6	18.28	30.88	78.8	15.5	6.05
7	18.35	31.63	59.3	11.6	7.15
8	18.37	31.77	50.7	10.0	7.33
9	18.36	31.83	41.7	8.2	7.41
10	18.20	32.02	34.8	6.8	7.11
11	18.13	32.08	28.1	5.5	6.85
12	18.05	32.08	22.8	4.5	6.54

・地点 C-3

C-3 の調査時（平成 28 年 5 月 29 日 9:22）の天候は晴れ、作業船上での気温は 27.4℃、北の風 1.0m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は forest green、透明度は 7.1m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.84～19.74℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 28.93～32.15 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（D O）は 5.88～7.22mg/L の範囲にあり、水底近くまで 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下していた。

表 3-22 (3) 水質調査結果 （大阪沖埋立処分場 C-3）

調査日：平成 28 年 5 月 29 日

調査地点 C-3		調査時刻 9:22		天候 晴	気温 27.4℃
風向 N		風速 1.0m/s		雲量 7	風浪階級 1
水深 14.2m		透明度 7.1m	水色 forest green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	D0(mg/L)
0	19.74	28.93	884.8	100.0	6.72
0.5	19.44	29.18	812.7	91.9	6.68
1	19.18	29.42	561.9	63.5	6.70
2	19.01	29.72	298.1	33.7	6.60
3	18.66	30.29	171.6	19.4	6.11
4	18.33	30.73	129.0	14.6	5.98
5	18.39	31.43	105.8	12.0	6.80
6	18.32	31.77	73.1	8.3	7.22
7	18.22	31.98	61.5	7.0	7.18
8	18.09	32.02	60.4	6.8	6.84
9	17.93	32.07	58.8	6.6	6.27
10	18.04	32.14	47.1	5.3	6.48
11	18.05	32.15	32.8	3.7	6.55
12	18.11	32.14	23.3	2.6	6.40
13	18.00	32.14	19.6	2.2	6.32
14	17.84	32.08	12.1	1.4	5.88

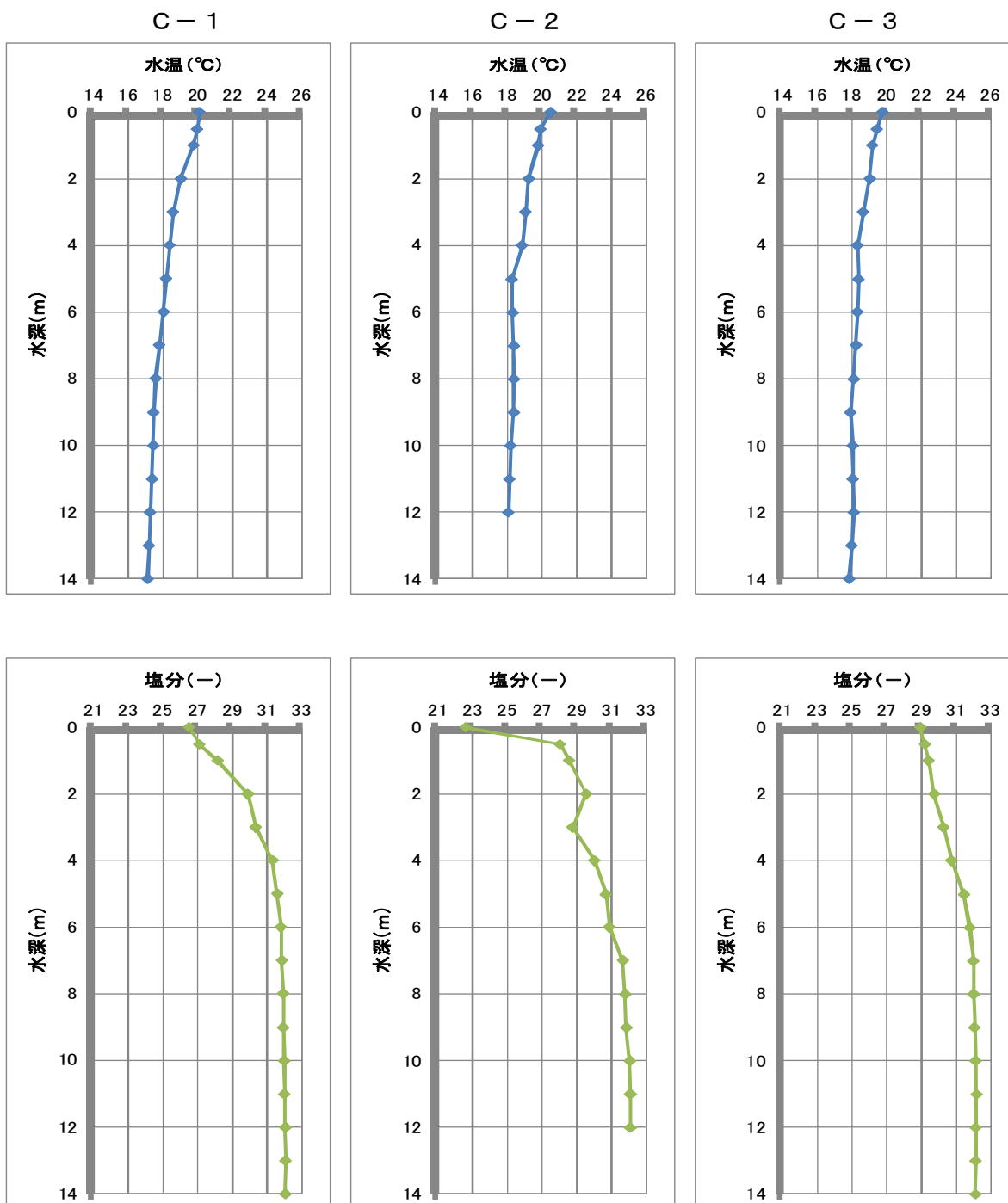


図 3-13 (1) 水質の鉛直分布 (大阪沖埋立処分場 水温 塩分)

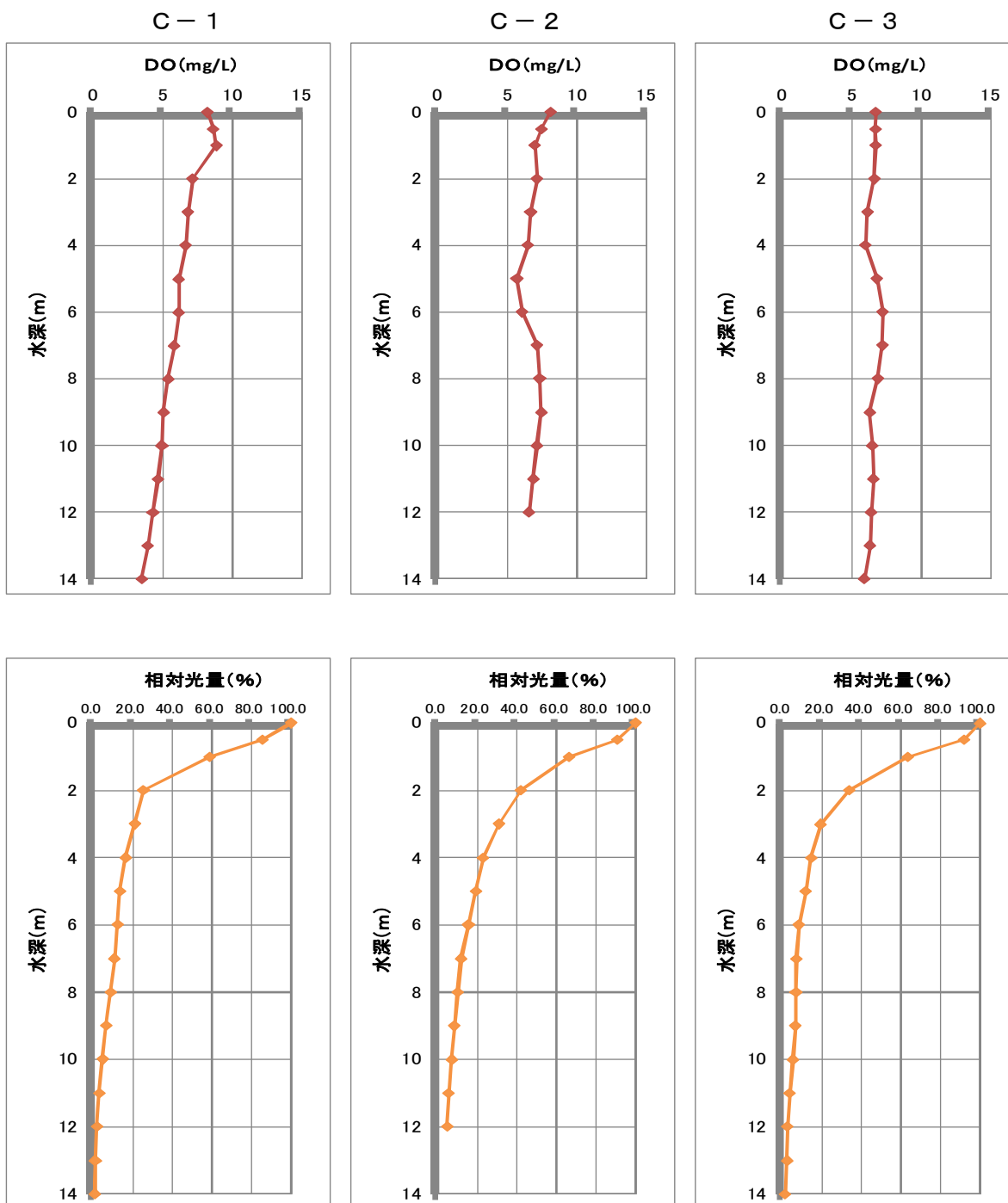


図 3-13 (2) 水質の鉛直分布 (大阪沖埋立処分場 DO 相対光量)

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-23 に泉大津沖埋立処分場 3 点 (D-2、D-5、D-6) における水質調査結果を示した。図 3-14 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 D-2

D-2 の調査時 (平成 28 年 6 月 4 日 10:40) の天候は曇り、作業船上での気温は 23.6℃、北の風 1.0m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green で、透明度は 2.2m とやや低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.78～19.89℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 30.92～32.08 の範囲にあった

溶存酸素量 (DO) は 2.86～13.12mg/L の範囲にあり、水深 11m においても海藻はみられたが、水深 5m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示した。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、水深 8m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-23 (1) 水質調査結果 (泉大津沖埋立処分場 D-2)

調査日：平成 28 年 6 月 4 日

調査地点 D-2		調査時刻 10:40		天候 曇	気温 23.6℃
風向 N		風速 1.0m/s		雲量 10	風浪階級 1
水深 12.3m		透明度 2.2m	水色 dark grayish green		
水深 (m)	水温 (℃)	塩分 (ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量 (%)	DO (mg/L)
0	19.89	30.93	745.4	100.0	13.12
0.5	19.88	30.92	259.6	34.8	11.52
1	19.87	30.93	172.3	23.1	10.97
2	19.59	30.99	85.0	11.4	7.68
3	19.14	31.41	54.9	7.4	7.63
4	18.63	31.72	32.0	4.3	5.77
5	18.31	31.91	21.5	2.9	4.16
6	18.06	32.01	14.6	2.0	4.09
7	18.05	32.01	9.8	1.3	3.88
8	17.96	32.03	7.5	1.0	3.24
9	17.85	32.07	5.5	0.7	2.98
10	17.81	32.07	3.3	0.4	3.04
11	17.81	32.08	2.2	0.3	3.14
12	17.78	31.75	1.4	0.2	2.86

・地点 D-5

D-5 の調査時（平成 28 年 6 月 4 日 11:57）の天候は曇り、作業船上での気温は 23.2℃、北北東の風 1.7m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green で、透明度は 2.3m とやや低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.98～20.14℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 30.55～32.08 の範囲にあった。

溶存酸素量（D O）は 3.00～11.19mg/L の範囲にあり、水深 4m 以浅で 5 mg/L 以下となっていた。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、水深 9m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-23（2） 水質調査結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-5 ）

調査日：平成 28 年 6 月 4 日

調査地点 D-5		調査時刻 11:57		天候 曇	気温 23.2℃
風向 NNE		風速 1.7m/s		雲量 10	風浪階級 1
水深 11.4m		透明度 2.3m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	D0(mg/L)
0	20.01	30.55	515.6	100.0	10.03
0.5	20.14	30.69	244.3	47.4	10.90
1	20.14	30.77	139.2	27.0	11.19
2	20.07	30.87	79.0	15.3	10.79
3	19.66	31.07	49.8	9.7	9.09
4	19.22	31.30	26.3	5.1	7.17
5	18.32	31.91	17.5	3.4	3.79
6	17.93	31.89	11.2	2.2	3.60
7	17.81	31.93	7.1	1.4	3.40
8	17.84	31.93	5.7	1.1	3.28
9	17.82	32.04	3.1	0.4	3.07
10	17.80	32.05	1.9	0.3	3.13
11	16.98	32.08	1.4	0.2	3.00

・地点 D-6

D-6 の調査時(平成 28 年 6 月 4 日 8:34)の天候は曇り、作業船上での気温は 24.7℃、北の風 1.5m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 3.0m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 17.79～20.16℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 27.18～32.06 の範囲にあり、水深 0m で 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量(DO)は 2.82～9.74mg/L の範囲にあり、水深 5m 以浅で 5 mg/L 以上となっていた。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下し、水深 9m では 1%以下となっていた。

表 3-23 (3) 水質調査結果 (泉大津沖埋立処分場 D-6)

調査日：平成 28 年 6 月 4 日

調査地点 D-6		調査時刻 8:34		天候 曇	気温 24.7℃
風向 N		風速 1.5m/s		雲量 10	風浪階級 1
水深 9.2m		透明度 3.0m	水色 dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(ー)	光量子 ($\mu\text{mol}/\text{cm}^2\cdot\text{s}$)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.01	27.18	841.6	100.0	9.32
0.5	20.13	31.09	451.2	53.6	9.54
1	20.16	31.20	310.2	36.9	9.74
2	20.05	31.24	178.9	21.3	9.32
3	19.88	31.47	98.9	11.8	8.56
4	19.73	31.57	60.5	7.2	8.49
5	18.66	31.95	39.8	4.7	6.09
6	18.22	32.04	25.7	3.1	4.35
7	18.02	32.05	17.6	2.1	3.73
8	17.83	32.06	11.3	1.3	2.82
9	17.79	32.05	5.5	0.7	2.85

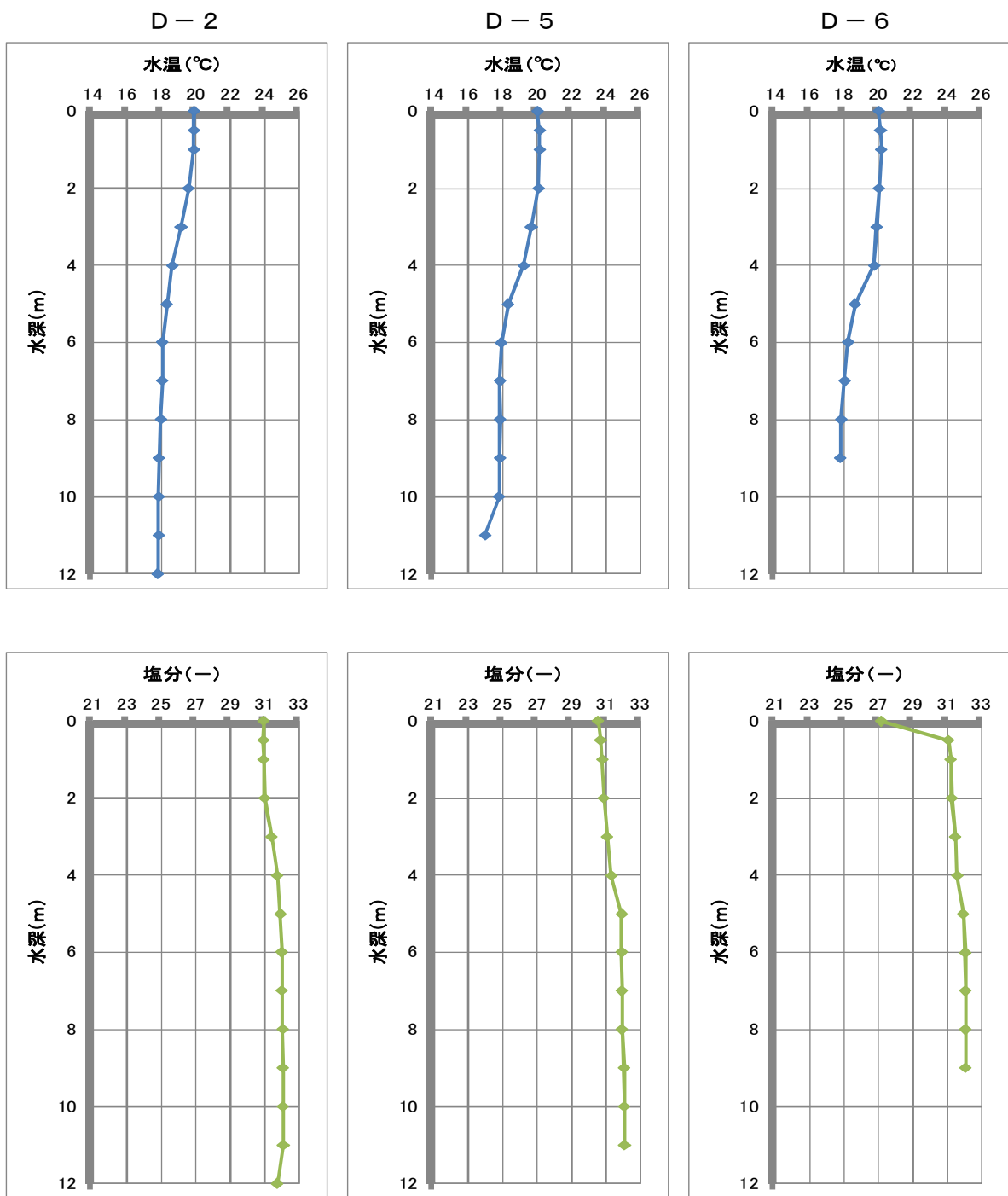


図 3-14 (1) 水質の鉛直分布 (泉大津沖埋立処分場 水温 塩分)

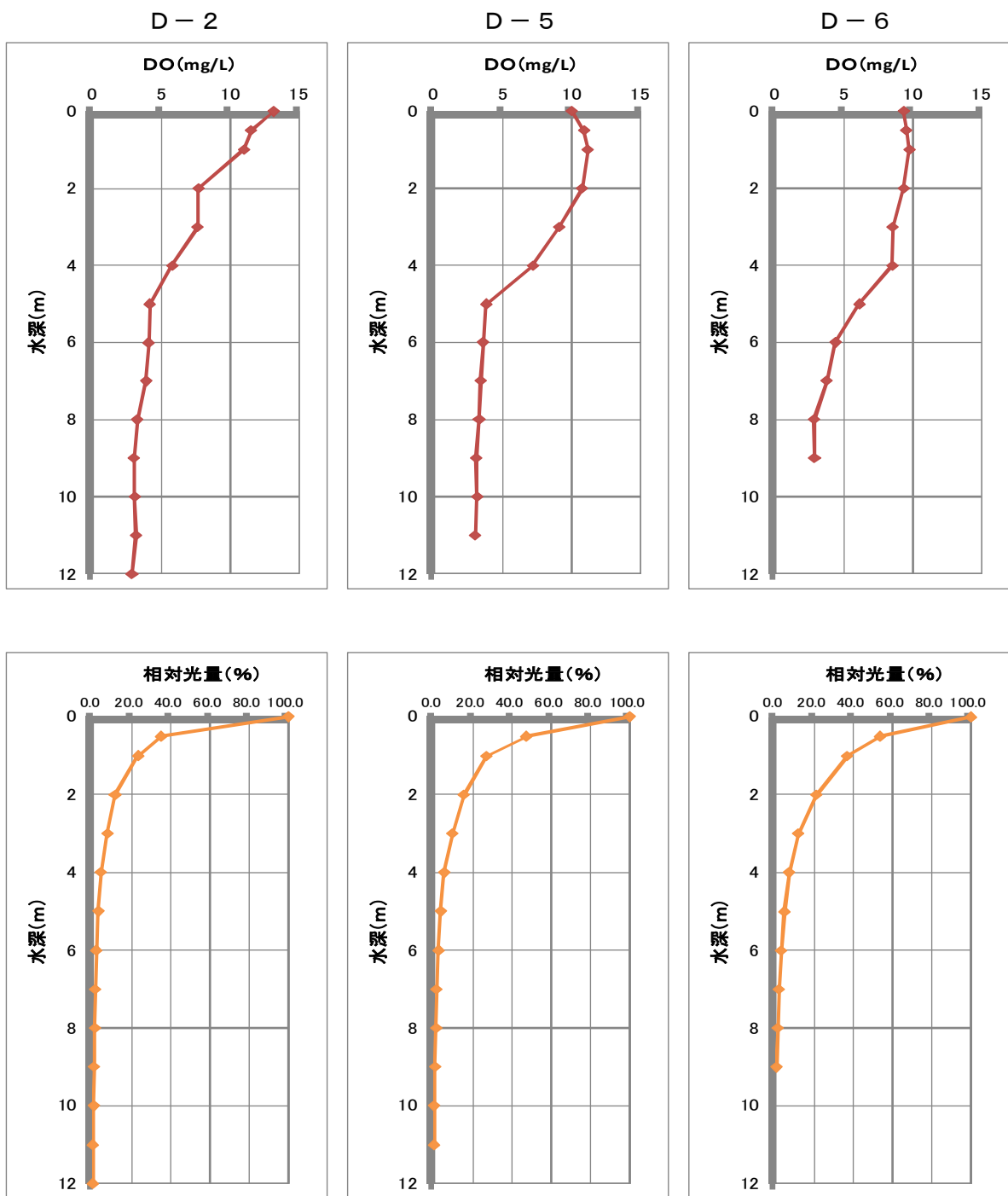


図 3-14 (2) 水質の鉛直分布 (泉大津沖埋立処分場 DO 相対光量)

3-6 藻場分布調査

3-6-1 代表地点における目視観察結果

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-24 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点 (p. 11 図 2-3 (1)) における藻場構成種 (植物) の目視観察結果を示した。図 3-15 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種を示した。

1～9 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (4 地点)、シダモク (5 地点)、タマハハキモク (7 地点)、ヨレモクモドキ (1 地点) の 4 種が確認された。確認地点でのワカメの被度は 5%未満～25%、シダモクは 5%未満、タマハハキモクは 5%未満～25%、ヨレモクモドキは 5%未満であった。

表 3-24 藻場構成種の目視観察結果 (神戸沖埋立処分場 10 地点)

調査日：平成28年5月28日

調査地点		A-1										A-3										K-1										K-2											
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
緑藻綱	アサヅキ	2	1	1			1						1	1	1									2	3	2	2	1	1					2	3	3	1	1					
褐藻綱	ワカメ												1	2	1									2	2	1								1	2	1							
	シダモク																1													1													
	タマハハキモク			2	1												1	1									1								1	1	1						
	ヨレモクモドキ																									1																	
紅藻綱	マササキ		1	1	1	2	1						1	1	1	1								1	1	1	1								1	1	1						
	フグノクサ													1											1																		
	ススガハハニ																								1												1	1					
	カハハリ			1		1	1	1	1				1		1	1								1	2	2	1	1						1	1	1							

調査地点		K-3										K-4										K-5																
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
緑藻綱	アサヅキ					2							1		1	1								1	1	1	1											
褐藻綱	ワカメ																																					
	シダモク																																					
	タマハハキモク																																					
	ヨレモクモドキ																																					
紅藻綱	マササキ																																					
	フグノクサ																								1	1	2	3										
	ススガハハニ																																					
	カハハリ																																					

調査地点		K-7										K-8										K-c															
出現種	水深(m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
緑藻綱	アサヅキ	2	1											1	1									3	3	2	1	1									
褐藻綱	ワカメ																								2	2	1										
	シダモク																																				
	タマハハキモク																																				
	ヨレモクモドキ						1																														
紅藻綱	マササキ			1	1	1	2	1						1	2	2	2	1	1	1	1																
	フグノクサ													1																							
	ススガハハニ																																				
	カハハリ			1	1	1	1	1						1	2	2									1	2			1								

(被度区分)
5：76～100%
4：51～75%
3：26～50%
2：5～25%
1：5%未満

(被度区分)
 5: 76～100%
 4: 51～75%
 3: 26～50%
 2: 5～25%
 1: 5%未満

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-25 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点 (p. 12 図 2-3 (2)) における藻場構成種 (植物) の目視観察結果を示した。図 3-15 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種を示した。

代表地点では 6~9 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (9 地点)、シダモク (9 地点)、タマハハキモク (5 地点) の 3 種が確認された。確認地点でのワカメの被度は 5%未満~75%、シダモクの被度は 5%未満~75%、タマハハキモクは 5%未満~50%であった。

表 3-25 藻場構成種の目視観察結果 (大阪沖埋立処分場 10 地点)

調査日：平成28年5月29日

調査地点		C-4										C-5										O-1										O-2																
出現種	水深 (m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
緑藻綱	アサザ属		2	2	1								1																																			
褐藻綱	ワカメ		2	3	3		1						1	2		2	2									1	1	1																				
	シダモク			4	3	1											3											1	1																			
	タマハハキモク		2	1																																												
紅藻綱	マサキ																																															
	ワカメ												2												1																							
	シダモク	3	2										1	2	1										2																							
	タマハハキモク			1					1	1	2		1				1	2	4	1	1	1	1				2	3	3	1	1	1	1	1														
	マサキ							1	1	1																																						
	ワカメ	1	1	1										1	1	1									1	2																						

調査地点		O-3										O-4										O-5										O-6																
出現種	水深 (m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
緑藻綱	アサザ属	1				1	1						1				1	1						1																								
褐藻綱	ワカメ		1	2	2	1	1						2	2	2	1	1	1								2	3	3	2																			
	シダモク					1	1									1												3	2	1																		
	タマハハキモク																																															
紅藻綱	マサキ																																															
	ワカメ												2																																			
	シダモク	2	1										1	2	1										1	3	2																					
	タマハハキモク			2	3	4	2	2	2	1			2	3	4	2	2	2	1	1				1	3	2																						
	マサキ						1	2																																								
	ワカメ							1	2																																							

調査地点		O-7										O-13												
出現種	水深 (m)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
緑藻綱	アサザ属	2	1	1	1								1	1	1	1								
褐藻綱	ワカメ		3	3	1	1							1	2	2	2	1							
	シダモク			3		1											3							
	タマハハキモク		3													2								
紅藻綱	マサキ																							
	ワカメ	2																						
	シダモク	3	3										3	3	1									
	タマハハキモク			1	1		1	1		1	1	1									1	1	1	1
	マサキ					1	1	1	1	1	1	1												
	ワカメ	1	1										1	1	1									

(被度区分)

5: 76~100%

4: 51~75%

3: 26~50%

2: 5~25%

1: 5%未満

(被度区分)
 5: 76~100%
 4: 51~75%
 3: 26~50%
 2: 5~25%
 1: 5%未満



タマハハキモク



シダモク



ワカメ

図 3-15 代表的な藻場構成種の状況（神戸沖・大阪沖埋立処分場）

3-6-2 代表地点における定量採取結果

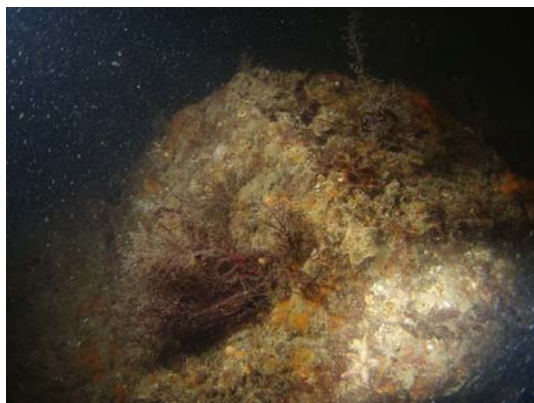
(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-26 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点 (p. 11 図 2-3 (1)) において坪刈り採取した藻場構成種 (植物) の分析結果 (種別湿重量) を示した。

10 地点全体で 27 種の海藻類が確認され、各地点では 7~18 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (4 地点)、シダモク (1 地点)、タマハハキモク (6 地点) の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は $53.67 \sim 335.52 \text{g}/0.25 \text{ m}^2$ 、シダモクの湿重量は $15.93 \text{g}/0.25 \text{ m}^2$ 、タマハハキモクは $13.92 \sim 68.94 \text{g}/0.25 \text{ m}^2$ であった。

藻場構成種以外では、マクサ、フダラク、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた (図 3-16)。



マクサ



カバノリ

図 3-16 藻場構成種以外の主な海藻類 (神戸沖埋立処分場)

表 3-26 定量採取分析結果 神戸沖埋立処分場 代表地点 10 点 海藻類湿重量

調査地点																		
神戸沖																		
No.	門	綱	目	科	種名	/	項目	株番号	A-1 湿重量	A-3 湿重量	K-1 湿重量	K-2 湿重量	K-3 湿重量	K-4 湿重量	K-5 湿重量	K-7 湿重量	K-8 湿重量	K-C 湿重量
1	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Enteromorpha sp.		ワサノ属		0.03	+	+	+		0.01			+	
2	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Ulva sp.		ワサノ属		0.24	0.07	30.79	4.50	0.04	0.61	0.76		1.42	+
3	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Cladophora sp.		ワサノ属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
4	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Ectocarpus sp.		ワサノノ属											
5	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sphaelaria fusca		ワサノノ属											
6	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Colpomenia sinuosa		ワサノノ属		1.49	1.93			3.60	0.34	0.04		0.03	1.20
7	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Seytosiphon lomentaria		ワサノノ属			1.01								
8	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Undaria pinnatifida		ワサノノ属			195.52	253.81	335.52						53.67
9	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sargassum filicinum		ワサノノ属				15.93							
10	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sargassum muticum		ワサノノ属		46.96	13.92	45.63				+	37.14	15.55	68.94
11	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Amphiroa sp.		ワサノノ属											
12	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Corallina pilulifera		ワサノノ属				4.19							
13	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Gelidium elegans		ワサノノ属		1.05	5.32					5.31	0.53	13.68	
14	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Halarachnion latissimum		ワサノノ属											
15	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus giganteus		ワサノノ属				0.77					1.14		1.54
16	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus ocellatus		ワサノノ属				0.16	7.76				0.31	0.40	0.39
17	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus sp.		ワサノノ属		0.02	0.08		0.05	0.05		+		0.12	
18	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia filicina		ワサノノ属		0.59						0.44	1.42	2.61	1.56
19	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia lanceolata		ワサノノ属				2.93	28.02					4.38	15.47
20	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia turuturu		ワサノノ属					1.97					0.18	0.10
21	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia sp.		ワサノノ属											
22	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ahnfeltiopsis flabelliformis		ワサノノ属										0.34	
23	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Schizymenia dubyi		ワサノノ属		0.02					0.06				
24	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Gracilaria textorii		ワサノノ属		1.46	2.96	5.60				40.78	2.85	1.07	
25	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Champia parvula		ワサノノ属											
26	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Lomentaria nakodatenensis		ワサノノ属							+			+	
27	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chrysomenia wrighitii		ワサノノ属											
28	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Rhodomenia intricata		ワサノノ属			0.11					+		+	+
29	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Antithamnion sp.		ワサノノ属		+	0.02	+				+		+	+
30	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ceramium sp.		ワサノノ属		0.02	0.03	1.65	0.26	0.02	+		0.01	+	0.09
31	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ceramiales		ワサノノ属			+	+	+	+	0.50	+	+	+	
32	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Polysiphonia sp.		ワサノノ属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	
33	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Symphocladia linearis		ワサノノ属											
種類数								13	15	15	11	7	8	11	10	18	12	
湿重量 (g) 合計								51.88	220.97	361.46	378.08	3.71	1.52	47.33	43.40	39.78	142.96	

注1：単位は湿重量 (g) / 0.25m² を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

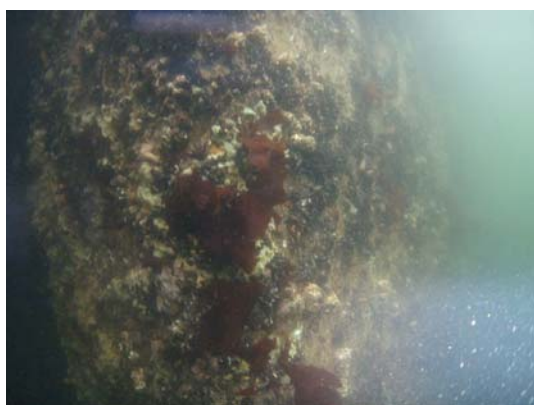
(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-27 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点 (p. 12 図 2-3 (2)) において坪刈り採取した藻場構成種 (植物) の分析結果 (種別湿重量) を示した。

10 地点全体で 28 種の海藻類が確認され、各地点では 7~15 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ (6 地点)、シダモク (6 地点)、タマハハキモク (2 地点) の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は 186.54~973.46 g/0.25 m²、シダモクは 7.17~250.74g/0.25 m²、タマハハキモクは 54.15~210.33g/0.25 m²であった。

藻場構成種以外では、フダラク、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた (図 3-17)。



フダラク



ベニスナゴ

図 3-17 藻場構成種以外の主な海藻類 (大阪沖埋立処分場)

表 3-27 定量採取分析結果 大阪沖埋立処分場 代表地点 10 点 海藻類湿重量

調査地点																		
大阪沖																		
No.	門	綱	目	科	種名	/	項目	種番号	0-4	0-5	0-1	0-2	0-3	0-4	0-5	0-6	0-7	0-13
									湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Enteromorpha sp.	ワサノ属			+									
2	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Ulva sp.	ワサノ属			0.14	0.11	0.72	+	0.59	0.04		7.80		0.03
3	緑色植物	緑藻	ワサ	ワサ	Gladophora sp.	ワサノ属			0.02	+	+	+	+					+
4	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Ectocarpus sp.	ワサノノ属							+					
5	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sphacelaria fusca	ワサノノ属			0.01									
6	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Colpomenia sinuosa	ワサノノ属			0.04									
7	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sextosiphon lomentaria	ワサノノ属											0.03	0.05
8	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Undaria pinnatifida	ワサノノ属			270.17		279.81		186.54		760.61	973.46		
9	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sargassum filicinum	ワサノノ属			55.46	250.74	157.82		126.81	121.07				7.17
10	黄色植物	褐藻	ワサノ	ワサノ	Sargassum muticum	ワサノノ属			54.15									210.33
11	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Amphiroa sp.	ワサノノ属												
12	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Coralina pilulifera	ワサノノ属			+	0.72	12.00			0.84				
13	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Gelidium elegans	ワサノノ属				2.70	0.70	7.12	47.54		0.62			1.84
14	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Halarachnion latissimum	ワサノノ属							1.85	4.22		22.10		
15	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus giganteus	ワサノノ属							6.40	11.22	1.62			
16	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus ocellatus	ワサノノ属												
17	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chondrus sp.	ワサノノ属				+			+				0.03	1.71
18	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia filicina	ワサノノ属					0.51		0.58	16.61	0.04	15.15		
19	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia lanceolata	ワサノノ属							2.33	9.30	7.40	6.52	292.28	215.55
20	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia turuturu	ワサノノ属								0.21	4.23	59.09	55.91	0.88
21	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Grateloupia sp.	ワサノノ属					+							
22	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ワサノノ属											1.41	
23	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Schizymenia dubyi	ワサノノ属			+	83.35		170.88	15.00	174.10	3.91		7.46	67.95
24	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Gracilaria textorii	ワサノノ属				11.95	61.23	27.87	98.54	10.84	5.06	1.39	24.60	
25	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Champia parvula	ワサノノ属										0.02		
26	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Lomentaria hakodatensis	ワサノノ属												
27	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Chrysomenia wrightii	ワサノノ属												
28	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Rhodomenia intricata	ワサノノ属										0.07		
29	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Antithamnion sp.	ワサノノ属			0.02	+	0.01	0.69	+	+	+		+	+
30	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ceramium sp.	ワサノノ属			+		0.01		+		+	0.07	+	+
31	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Ceramiales	ワサノノ属			+	+		+	+	+		+	+	
32	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Polysiphonia sp.	ワサノノ属					+			+		+		0.01
33	紅色植物	紅藻	ワサノ	ワサノ	Symphocladia linearis	ワサノノ属			0.04	+								0.02
種類数									15	12	13	7	15	13	10	13	11	15
湿重量 (g) 合計									380.05	429.25	512.81	206.56	486.18	348.45	783.49	1087.55	767.55	505.54

注1：単位は湿重量 (g) / 0.25m² を示す。

注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

3-6-3 藻場構成種等の化学組成（CNP）分析結果

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点および護岸周囲の目視観察時に採取した藻場構成種および主要出現種の合計 10 種について、湿重量および乾燥重量の計測と C N P 組成分析（炭素含有量（C）、窒素含有量（N）、りん含有量（P））を行った。表 3-28 にこれらの分析結果を示した。

藻場構成種の大型褐藻として、ワカメ、シダモク、タマハハキモクの 3 種、神戸沖埋立処分場において出現頻度の高いその他の主要海藻類として、アオサ属、フクロノリ、マクサ、ツノマタ、ムカデノリ、フダラク、カバノリの 7 種、合計 10 種について分析を行った。

表 3-28 藻場構成種を含む主要海藻類の化学組成分析結果（神戸沖埋立処分場）

区 分	種 名	湿重量 W.W.(g)	乾重量 D.W.(g)	炭素含有量 C(mg/g)	窒素含有量 N(mg/g)	りん含有量 P(mg/g)
藻場構成種	ワカメ	838.5	74.13	317	20.0	1.6
	シダモク	15.9	1.66	340	19.0	0.7
	タマハハキモク	228.1	25.01	355	22.0	0.8
その他 主要な海藻類	アオサ属	38.4	2.86	217	29.7	1.1
	フクロノリ	8.6	0.61	267	34.7	1.0
	マクサ	25.9	4.19	395	33.3	1.3
	ツノマタ	8.9	1.65	236	36.6	1.6
	ムカデノリ	6.6	1.01	302	35.3	1.1
	フダラク	50.8	6.70	322	23.4	1.5
	カバノリ	54.7	6.36	281	34.9	1.4

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 10 点および護岸周囲の目視観察時に採取した藻場構成種および主要出現種の合計 10 種について、湿重量および乾燥重量の計測と C N P 組成分析（炭素含有量（C）、窒素含有量（N）、りん含有量（P））を行った。表 3-29 にこれらの分析結果を示した。

藻場構成種の大型褐藻として、ワカメ、シダモク、タマハハキモクの 3 種、大阪沖埋立処分場において出現頻度の高いその他の主要海藻類として、ススカケベニ、ムカデノリ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリ、マサゴシバリの 7 種、合計 10 種について分析を行った。

表 3-29 藻場構成種を含む主要海藻類の化学組成分析結果（大阪沖埋立処分場）

区 分	種 名	湿重量 W.W.(g)	乾重量 D.W.(g)	炭素含有量 C(mg/g)	窒素含有量 N(mg/g)	りん含有量 P(mg/g)
藻場構成種	ワカメ	2856.4	277.82	355	25.6	1.7
	シダモク	719.1	43.22	326	23.7	0.6
	タマハハキモク	264.5	33.65	364	25.4	1.0
その他 主要な海藻類	ススカケベニ	60.5	4.85	363	33.3	1.0
	ムカデノリ	32.9	3.86	312	32.8	1.5
	フダラク	533.4	51.20	329	22.9	1.1
	ツルツル	120.3	11.03	331	23.8	1.3
	ベニスナゴ	522.7	52.99	352	27.7	1.6
	カバノリ	241.5	26.30	303	34.6	1.2
	マサゴシバリ	79.8	6.79	435	26.4	1.4

3-6-4 藻場分布状況

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-18～30 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 26 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、タマハハキモク、ヒジキ、ヨレモクモドキの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヒジキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-18）

ワカメは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に南護岸の-3～-5m 付近で分布が確認された。平成 26 年度では南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-5m で分布が確認され、濃密域がみられるなど分布範囲と被度の増加がみられた。今回の調査では、平成 26 年度と同様に南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-4m で分布が確認されたが、被度は濃密域がみられるほどではなかった。

② カジメ（図 3-19）

カジメは、平成 21 年度に南護岸の 1 箇所で分布が確認されたが、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-20）

シダモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の-2～-5m で分布が確認されたが、引き続き分布範囲は減少傾向にあった。

④ タマハハキモク（図 3-21）

タマハハキモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-5m 付近で分布が確認された。今回の調査でも南護岸と東護岸では分布が確認され、分布範囲も前回までとほぼ同様の傾向がみられたが、西護岸では分布が確認されなかった。

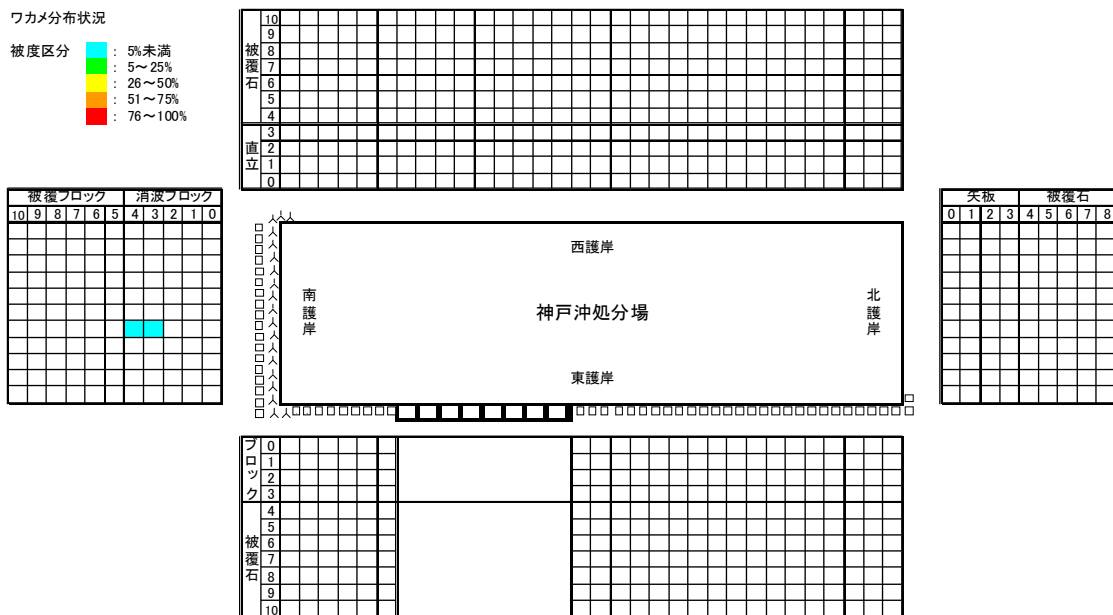
⑤ ヒジキ（図 3-22）

ヒジキは、平成 21～22 年度に西護岸の 1 箇所で確認されたが、平成 24 年度、平成 26 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

⑥ ヨレモクモドキ (図 3-23)

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸と東護岸の各 1 箇所、平成 24 年度に南護岸の 1 箇所、平成 26 年度に南護岸の 2 箇所で分布が確認された。今回の調査では、西護岸の 1 箇所、南護岸の 4 箇所、東護岸の 1 箇所で分布が確認され、分布域の拡大がみられた。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

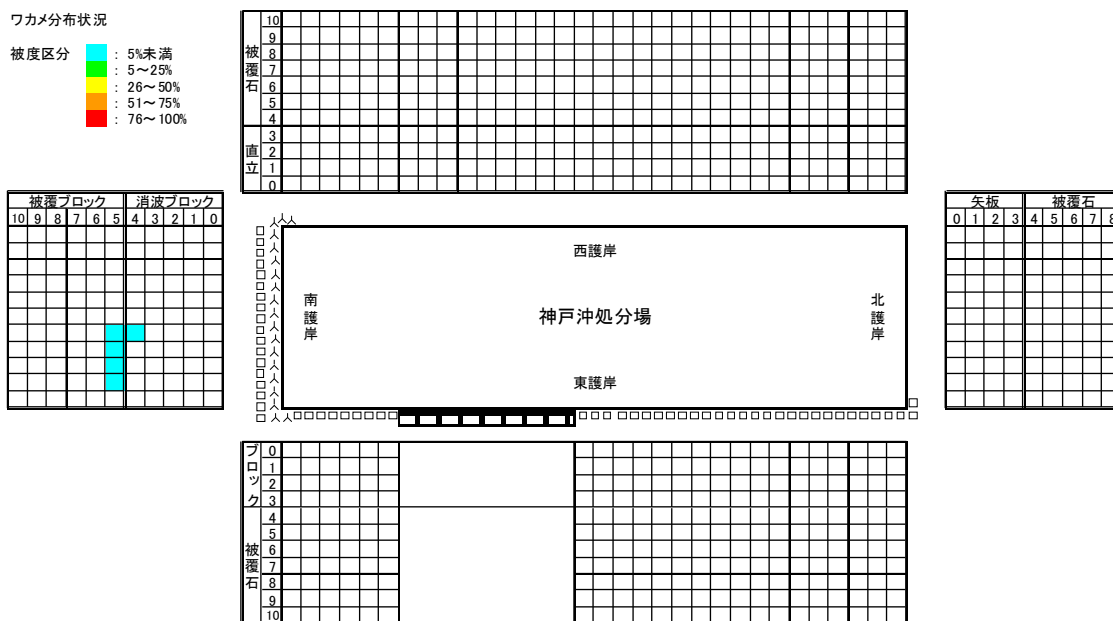
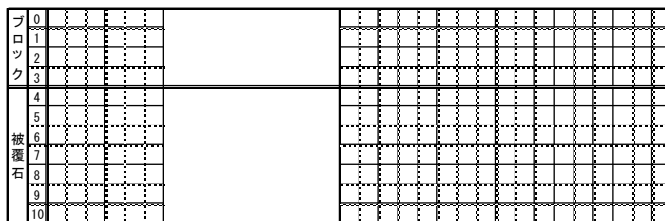
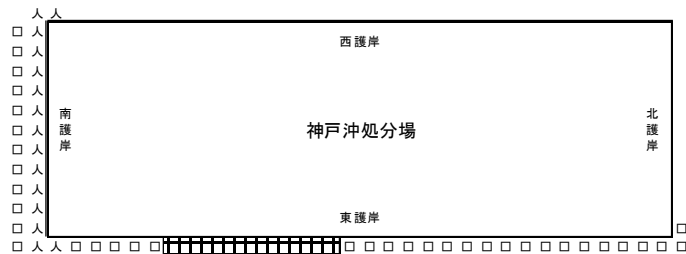
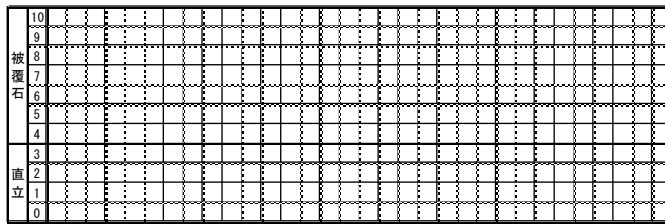
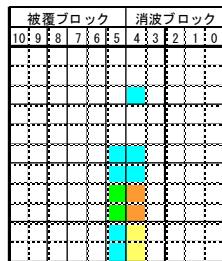


図 3-18 (1) 分布状況の推移 (ワカメ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

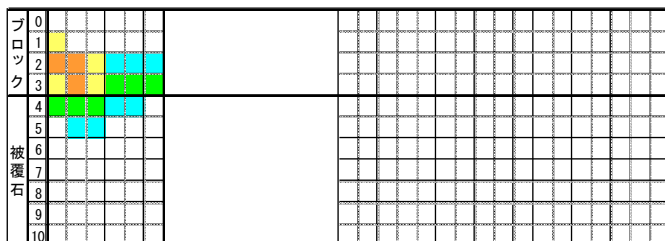
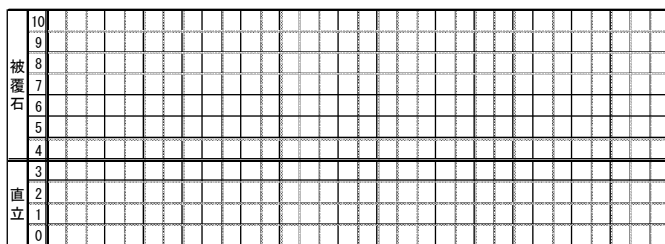
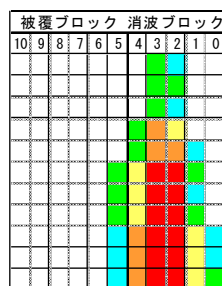
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



- 91 -

〔平成28年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分

■	: 5%未満
■	: 5～25%
■	: 26～50%
■	: 51～75%
■	: 76～100%

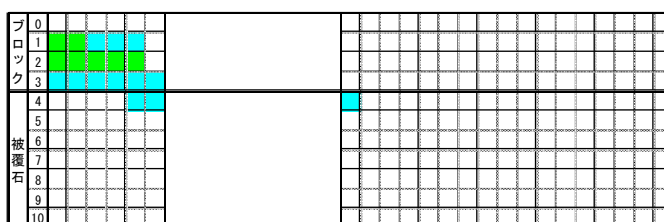
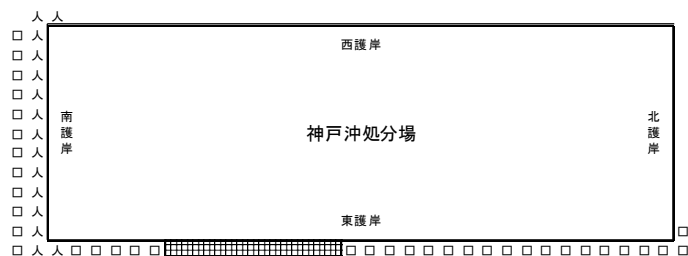
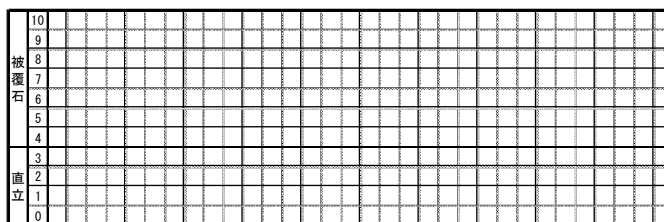
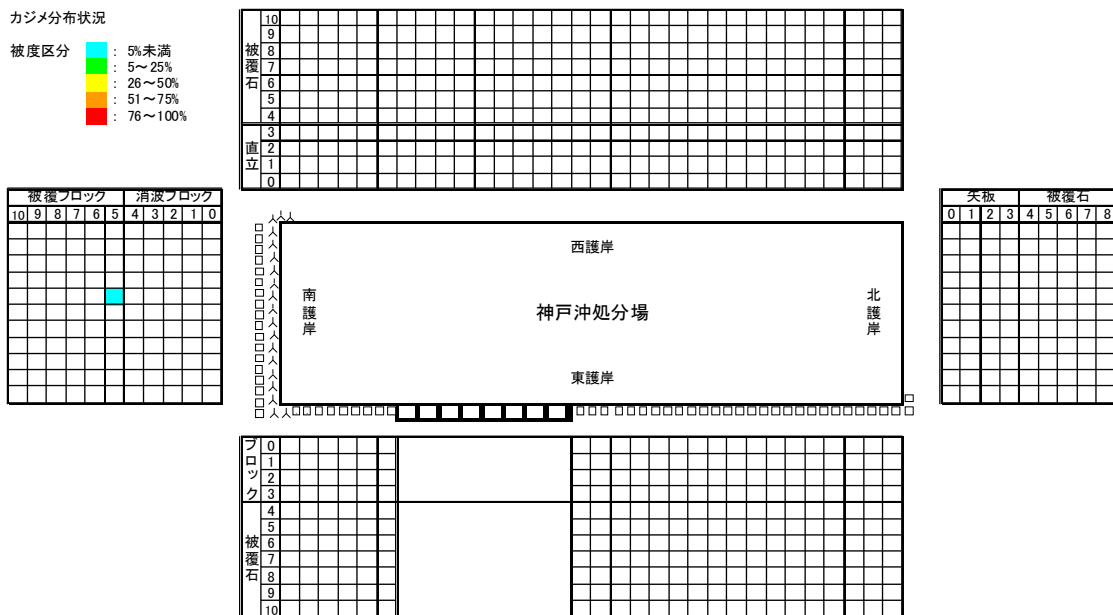


図 3-18 (3) 分布状況の推移 (ワカメ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

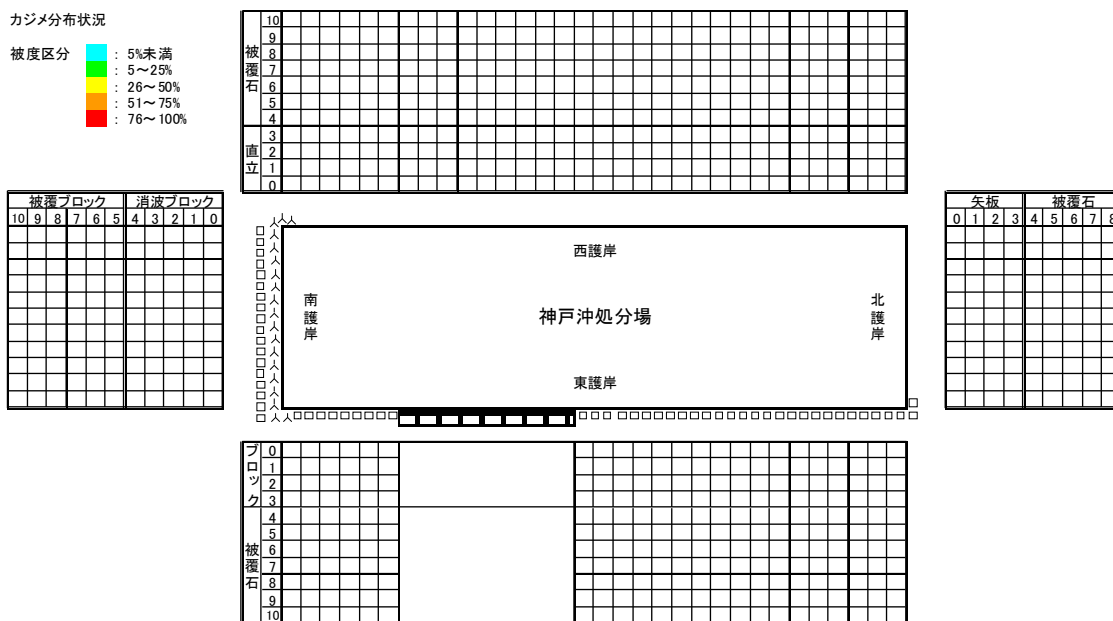
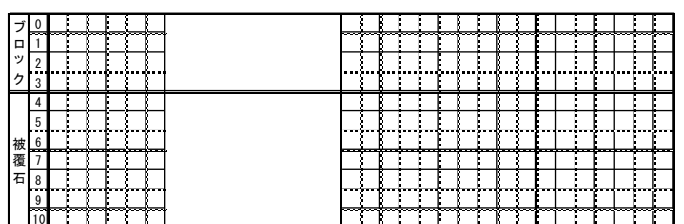
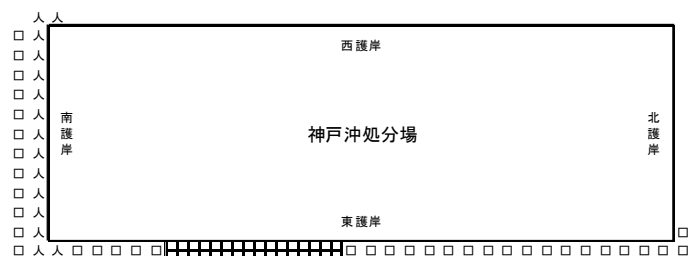
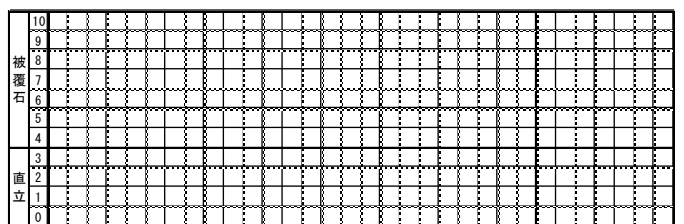
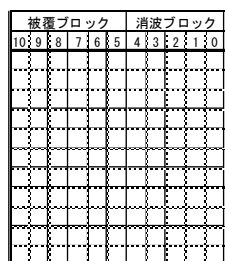


図 3-19 (1) 分布状況の推移 (カジメ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

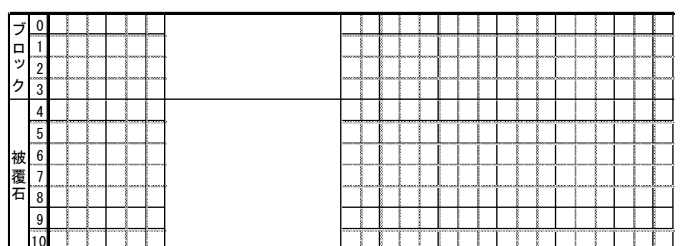
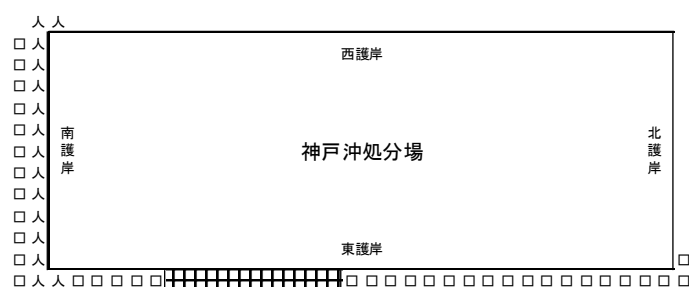
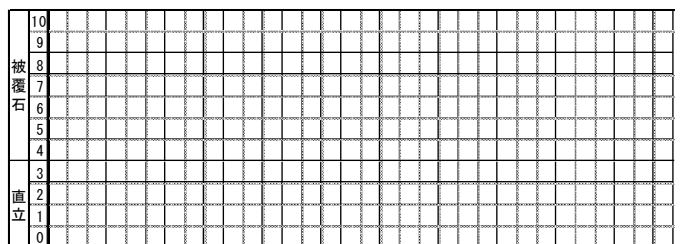
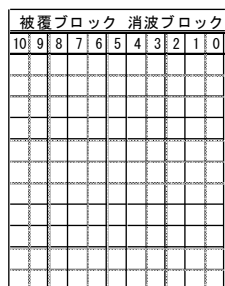
カジメ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～ 25%
		:	26～ 50%
		:	51～ 75%
		:	76～100%



カジメ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～25%
		:	26～50%
		:	51～75%
		:	76～100%



- 94 -

〔平成28年春季〕

カジメ分布状況
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

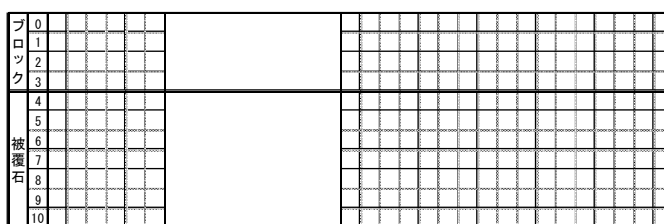
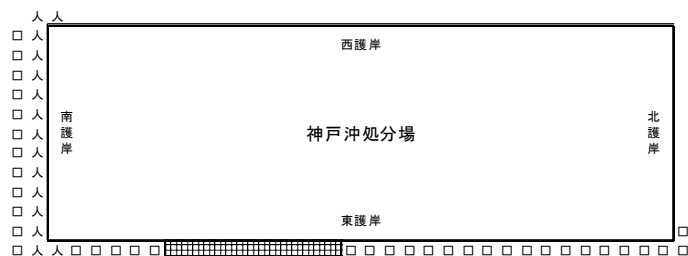
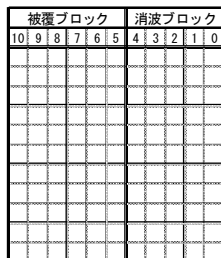
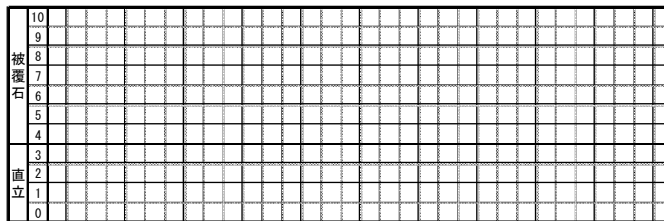
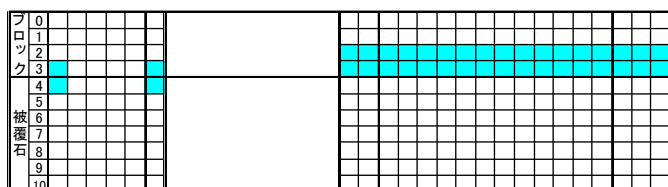
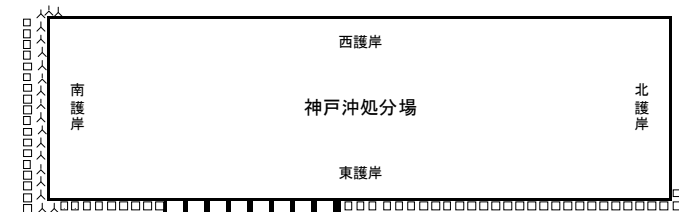
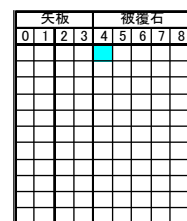
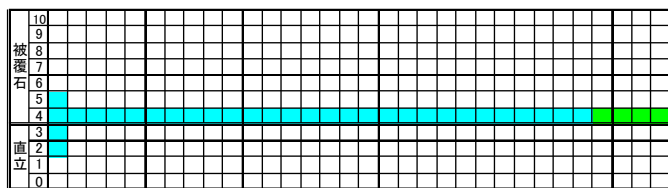
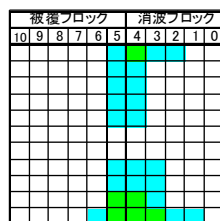


図 3-19 (3) 分布状況の推移 (カジメ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



[平成 22 年春季]

シダモク分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

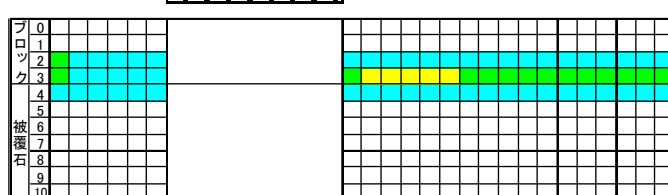
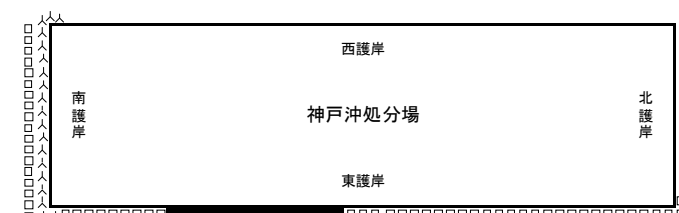
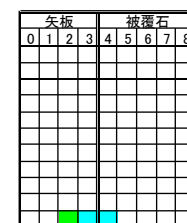
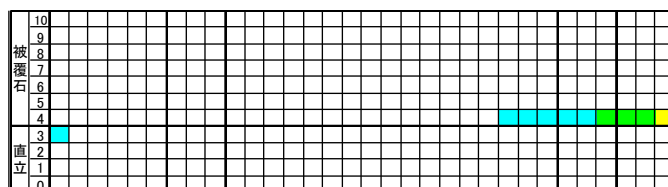
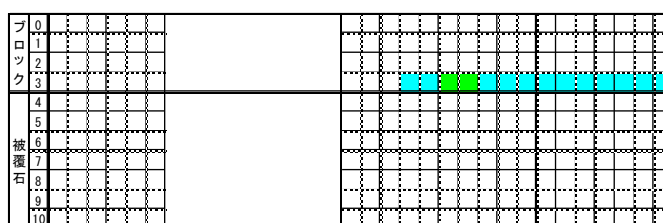
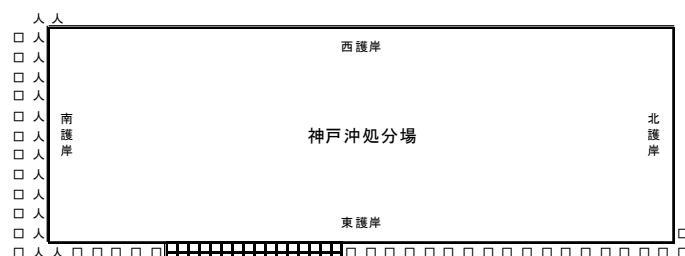
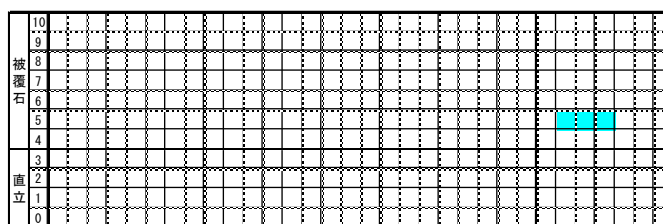


図 3-20 (1) 分布状況の推移 (シダモク) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

	:	5%未満
	:	5～25%
	:	26～50%
	:	51～75%
	:	76～100%

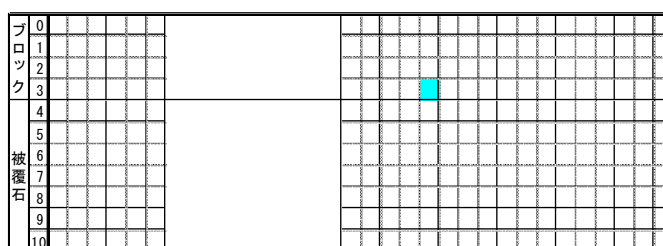
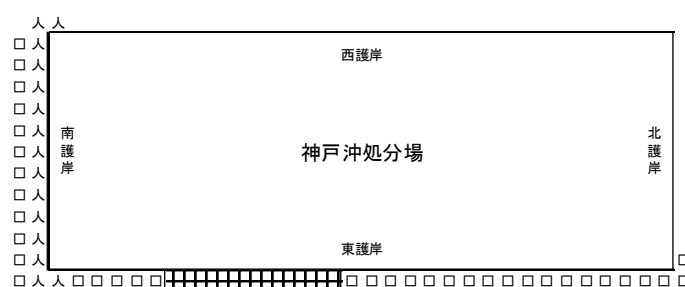
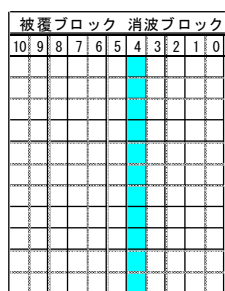
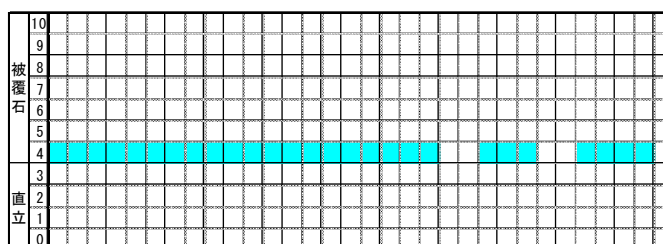


図 3-20 (2) 分布状況の推移 (シダモク) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

〔平成28年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

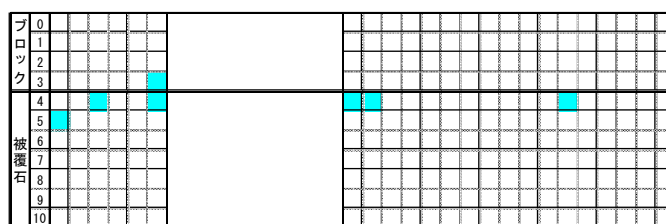
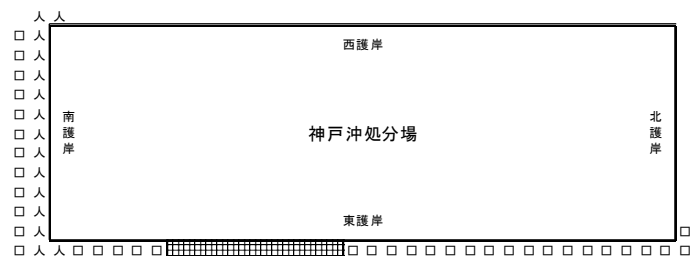
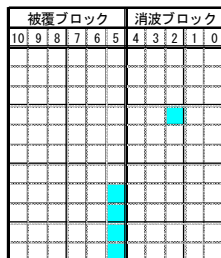
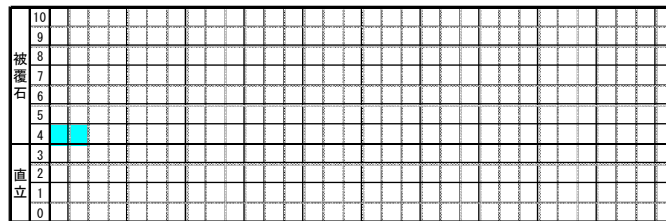
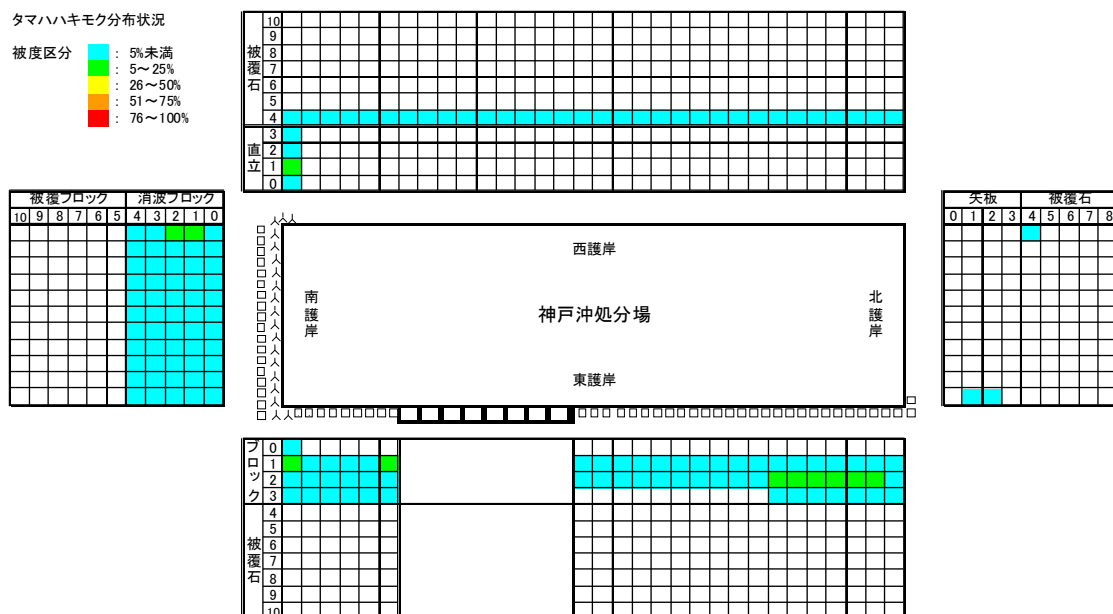


図 3-20 (3) 分布状況の推移 (シダモク) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

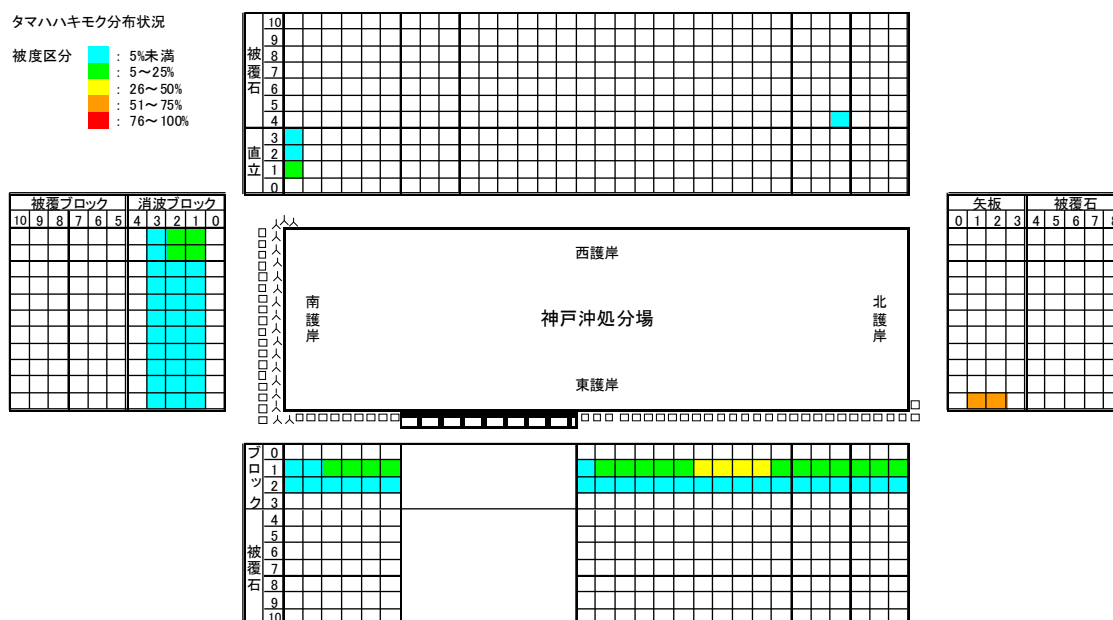
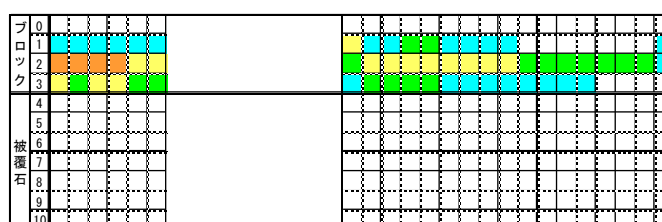
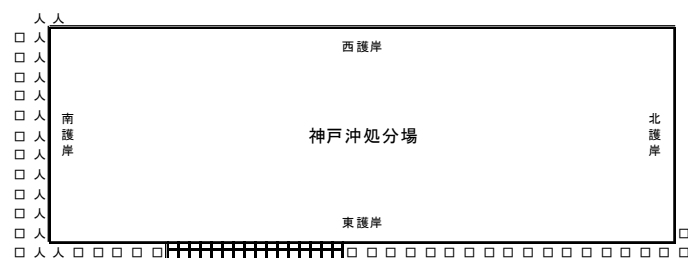
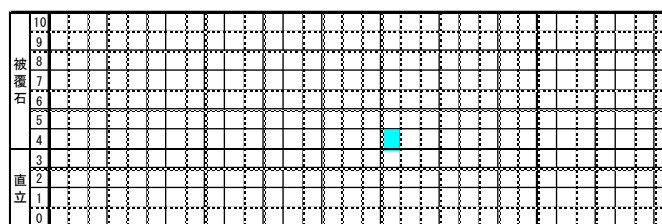


図 3-21 (1) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

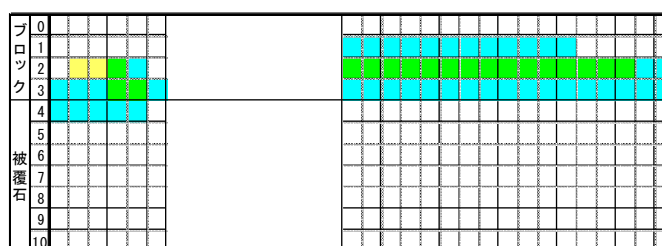
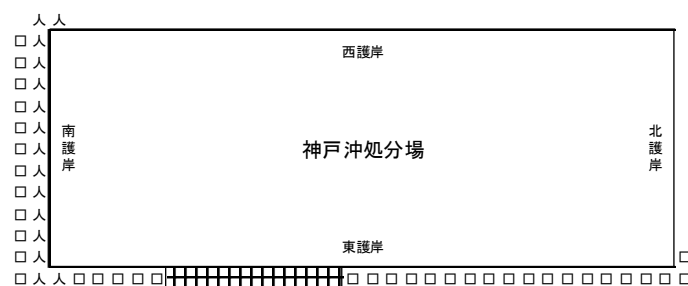
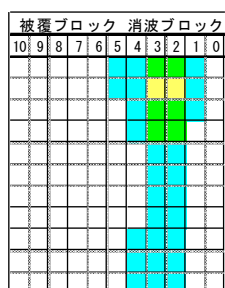
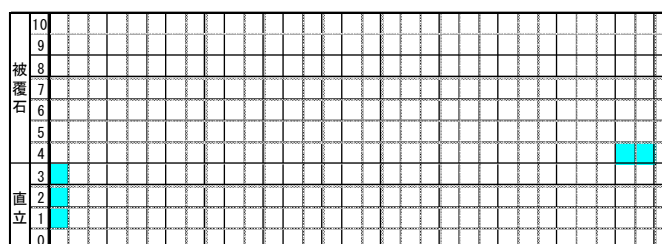
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

	:	5%未満
	:	5～25%
	:	26～50%
	:	51～75%
	:	76～100%



- 100 -

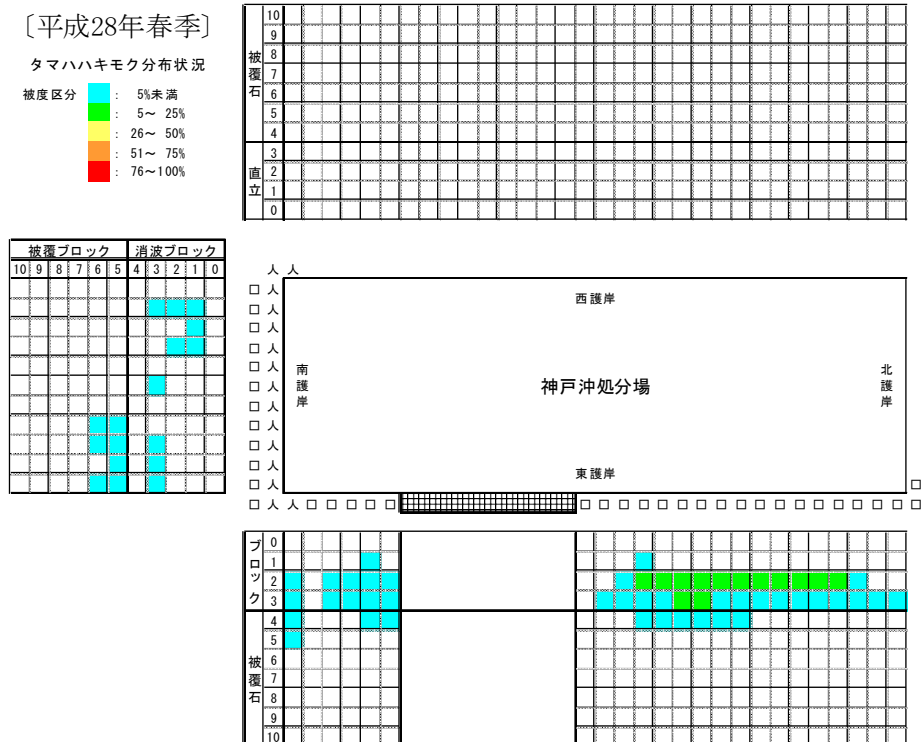
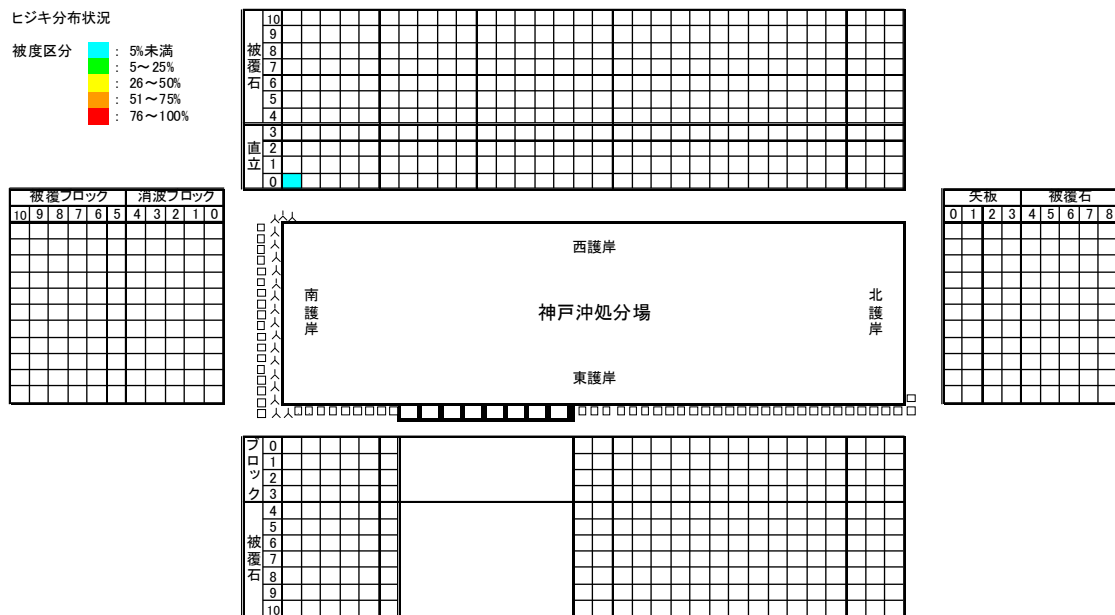


図 3-21 (3) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

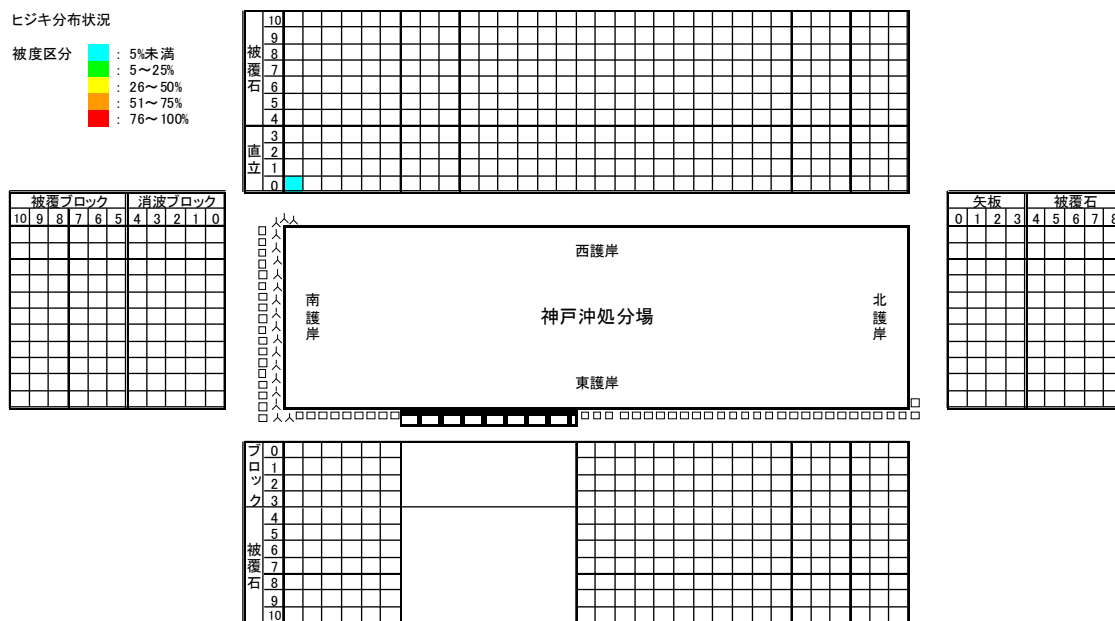
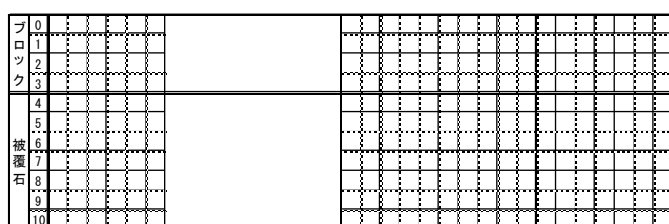
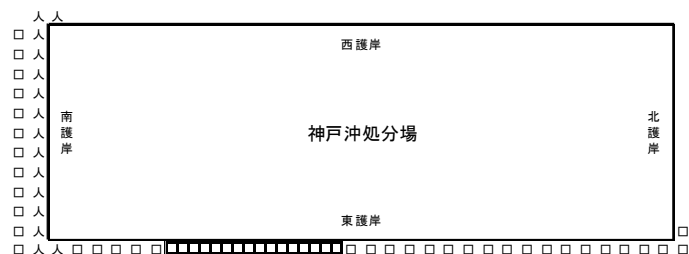
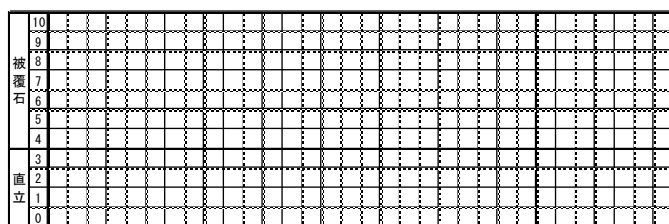
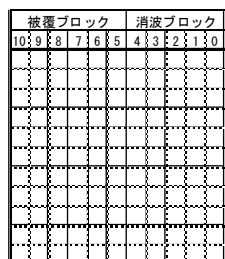


図 3-22 (1) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

ヒジキ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～ 25%
		:	26～ 50%
		:	51～ 75%
		:	76～100%



ヒジキ分布状況

被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%

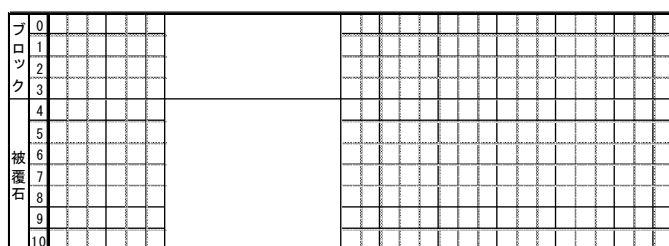
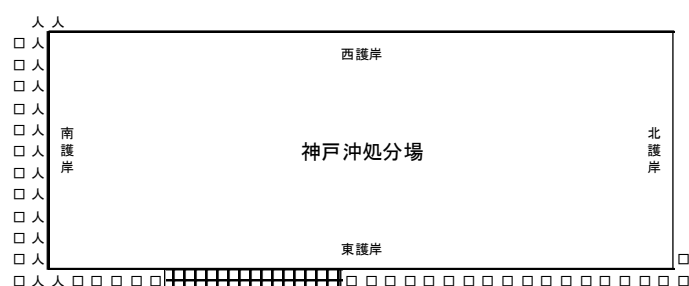
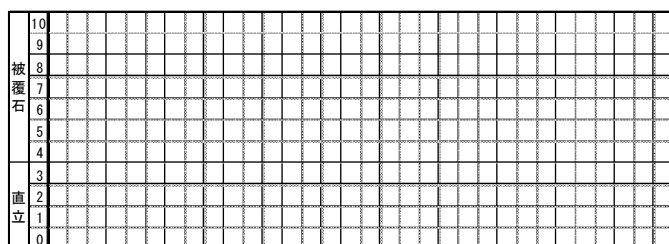
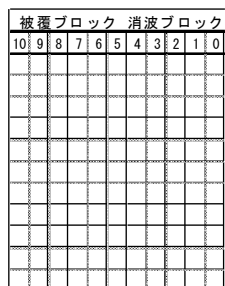


図 3-22 (2) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ヒジキ分布状況
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

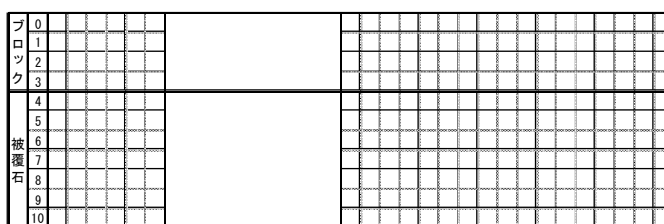
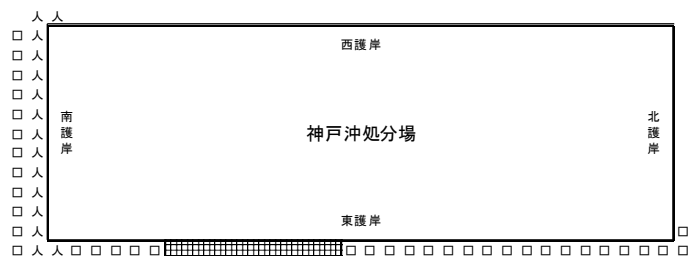
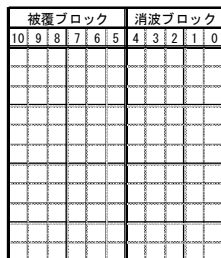
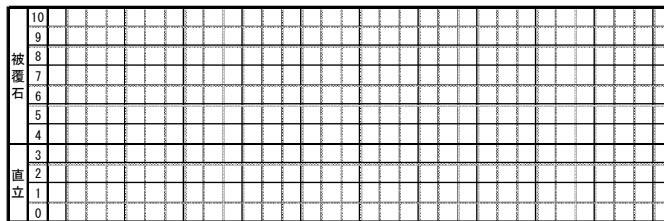
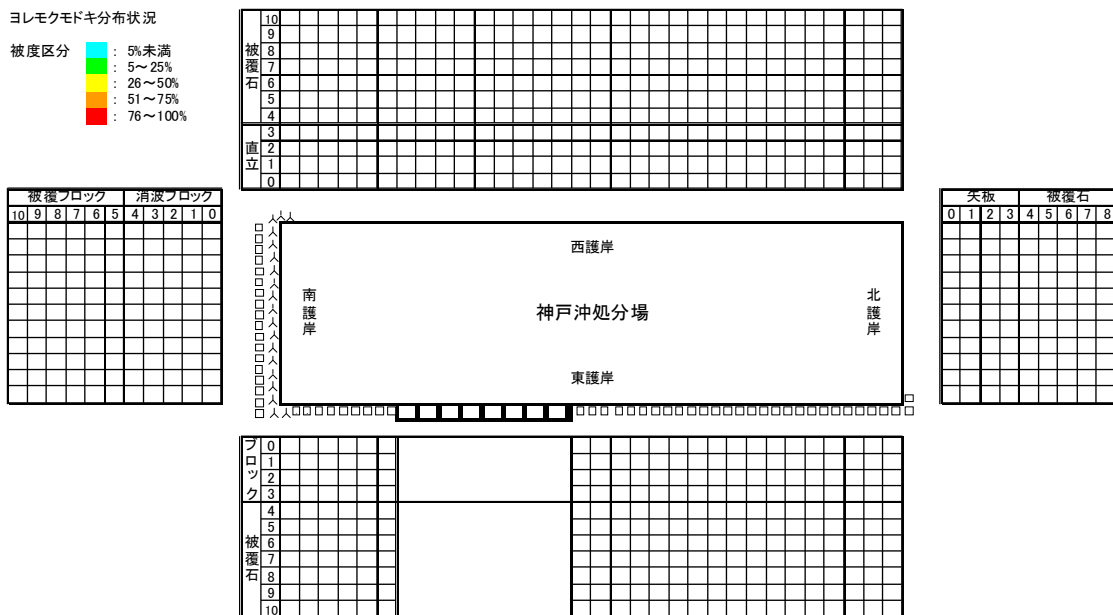


図 3-22 (3) 分布状況の推移 (ヒジキ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

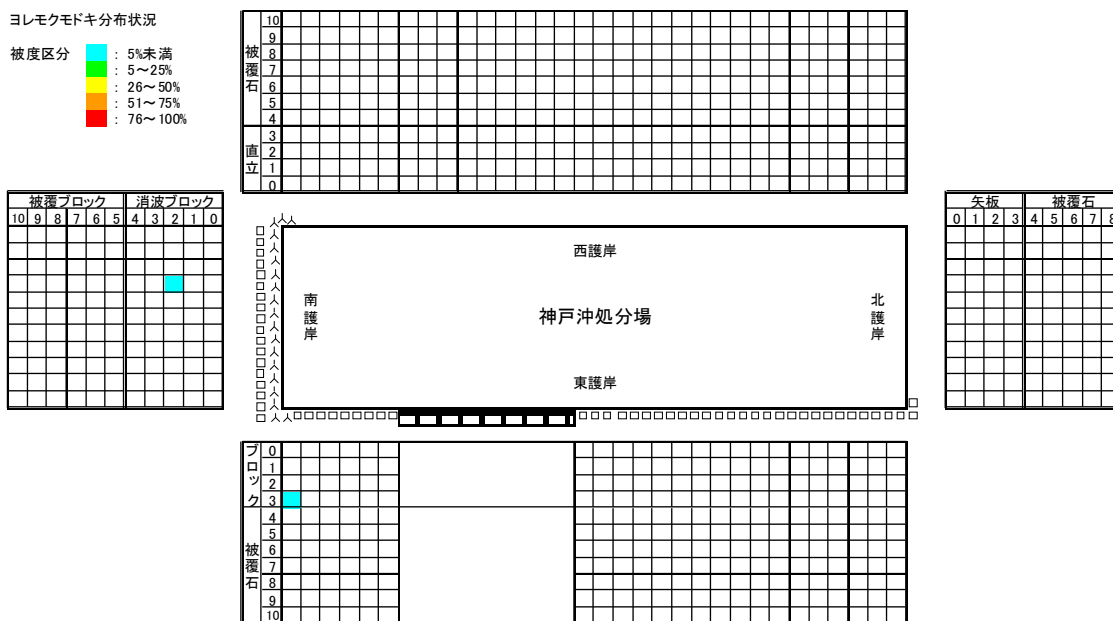


図 3-23 (1) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

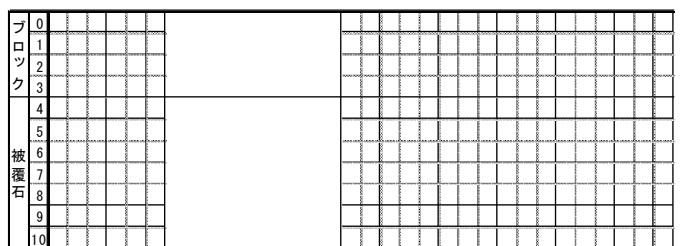
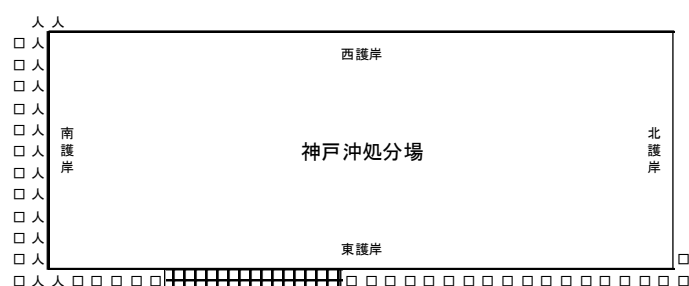
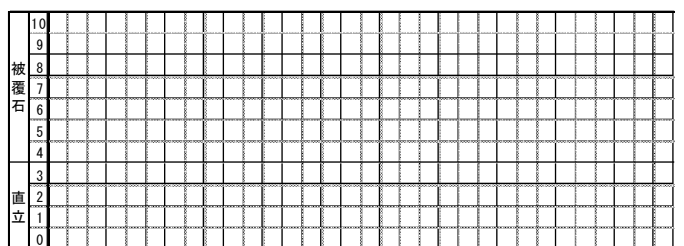
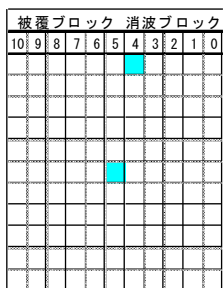
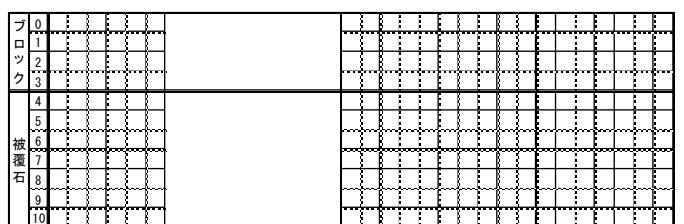
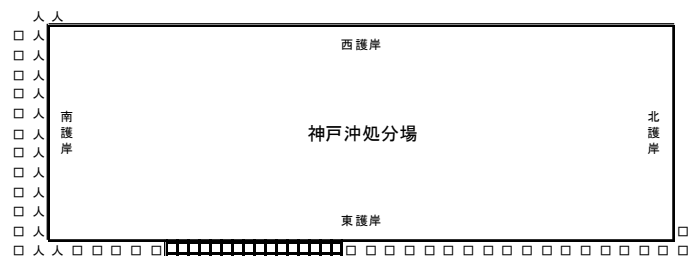
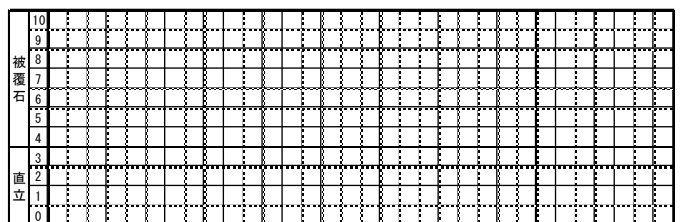


図 3-23 (2) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

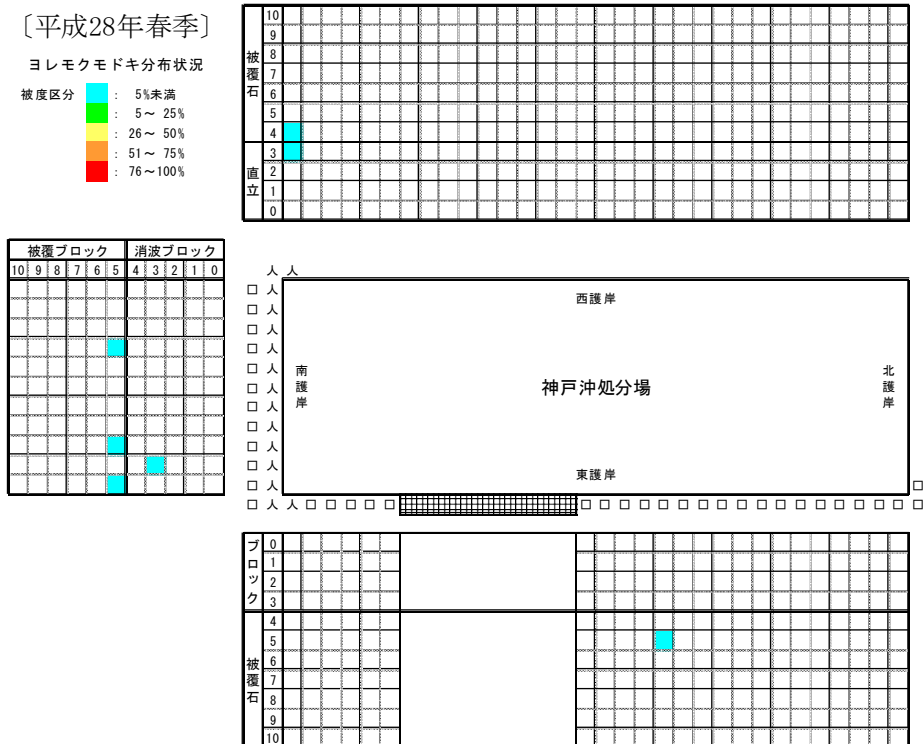


図 3-23 (3) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 神戸沖 平成 28 年度調査

【その他 主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 26 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、ツルツルの分布は確認されなかった。

① アオサ属（図 3-24）

アオサ属は、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-7m 付近に広く分布が確認されたが、平成 22 年度は平成 21 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度には広く分布が確認されたが、各護岸で被度の減少がみられた。今回の調査でも、広く分布が確認され、平成 26 年度に比べて、南護岸を中心に被度の増加がみられた。

② マクサ（図 3-25）

マクサは、平成 21～22 年度に南護岸、東護岸の-2～-6m 付近で広く分布が確認され、西護岸においても 2 箇所分布が確認された。平成 24 年度は前回までの調査でほとんど分布が確認されなかった西護岸を含む、各護岸の-1～-8m 付近で広く分布しており、平成 26 年度の調査でも、各護岸で広く分布が確認され、西護岸と南護岸では分布範囲が拡大していた。今回の調査では、同様に各護岸で広く分布が確認され、南護岸と東護岸では分布の拡大傾向がみられたが、西護岸では北側の一部に分布が縮小していた。

③ ススカケベニ（図 3-26）

ススカケベニは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に、各護岸の-2～-10m 付近で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、西護岸、東護岸の-3～-10m 付近で分布が確認されたが、南護岸では分布がみられず、東護岸の分布範囲は前回までと比較して減少していた。今回の調査では、各護岸の-4～-5m で分布が確認されたが、西護岸と東護岸では分布域の縮小がみられ、平成 26 年度に確認されなかった南護岸では 4 か所で分布が確認された。

④ フダラク（図 3-27）

フダラクは、平成 21～22 年度に各護岸の±0～-4m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、西護岸では分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度で分布範囲の減少がみられた西護岸で分布範囲が増加し、各護岸で広く分布が確認された。今回の調査では、各護岸で分布が確認されたが、各護岸で分布範囲の減少がみられた。

⑤ ベニスナゴ (図 3-28)

ベニスナゴは、平成 21～22 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、東護岸で分布範囲の減少、西護岸で分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査でも、被度の減少はみられたが、平成 24 年度の調査と同様に各護岸の-1～-7m で広く分布が確認された。今回の調査では、南護岸の 1 箇所を確認されたのみで、分布範囲が大きく減少していた。

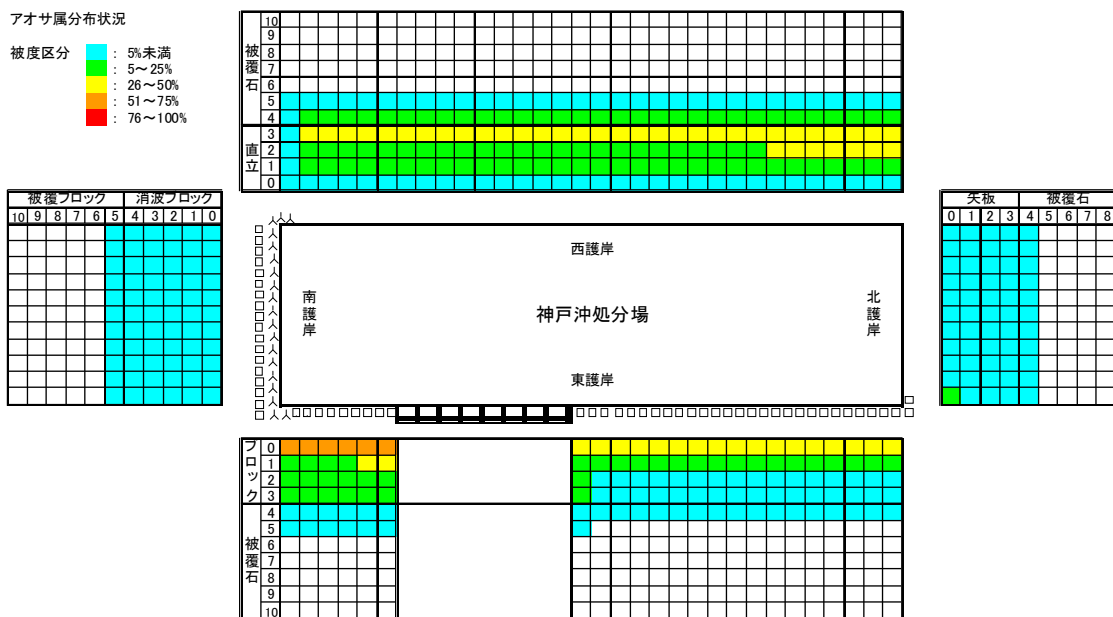
⑥ カバノリ (図 3-29)

カバノリは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度、平成 24 年度に各護岸の-2～-8m 付近で分布が確認された。平成 24 年度は平成 22 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-10m 付近で分布が確認され、平成 26 年度と比べると、東護岸では分布範囲の拡大を、西護岸では分布範囲の縮小を確認した。

⑦ ツルツル (図 3-30)

ツルツルは平成 21～22 年度には分布が確認されなかったが、平成 24 年度に、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、東護岸と西護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して分布範囲と被度の減少がみられた。今回の調査では分布が確認されなかった。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

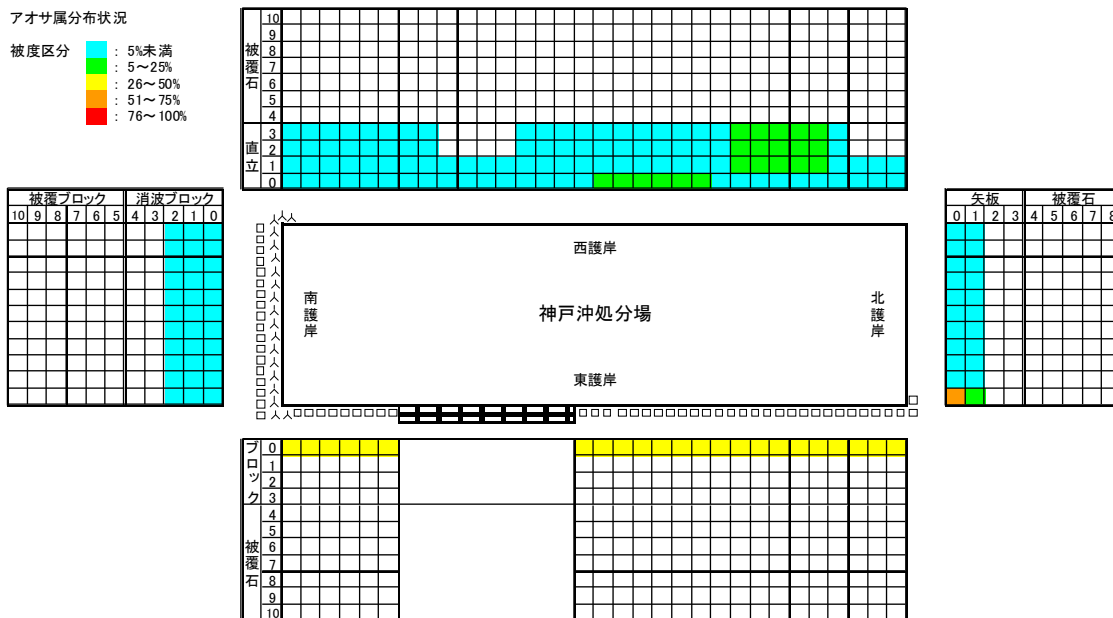
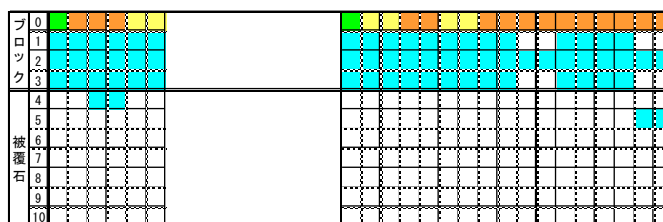
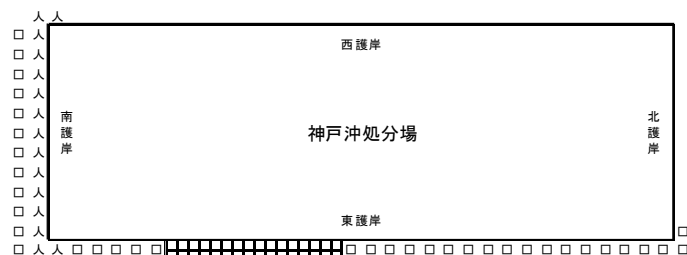
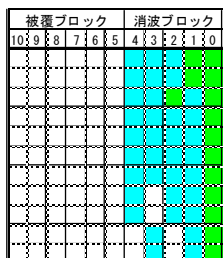
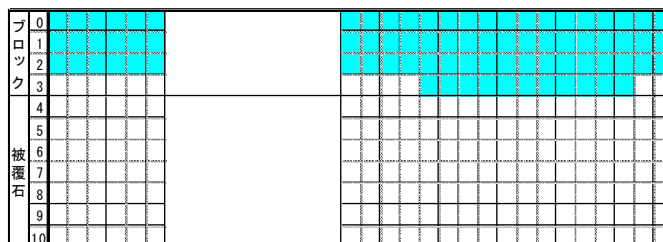
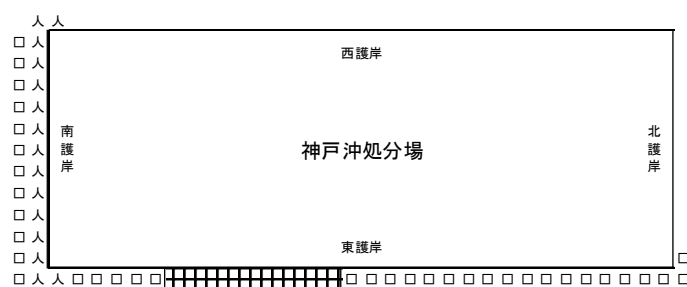
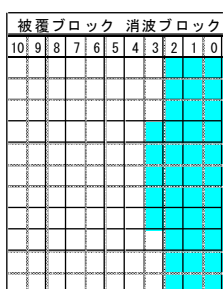


図 3-24 (1) 分布状況の推移 (アオサ属) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

アオサ属分布状況

[illegible]

アオサ属分布状況

[illegible]

- 111 -

〔平成28年春季〕

アオサ属分布状況

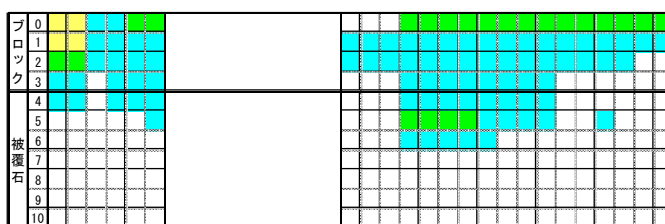
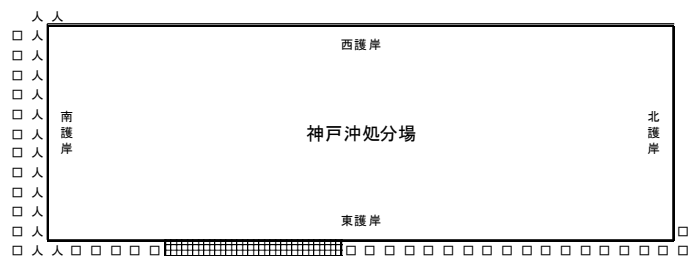
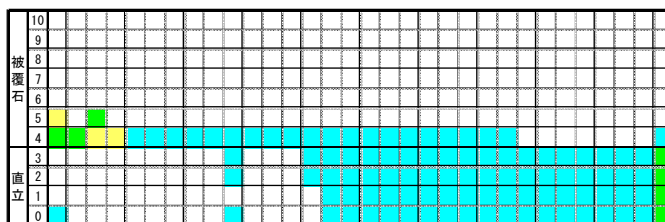
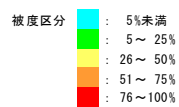
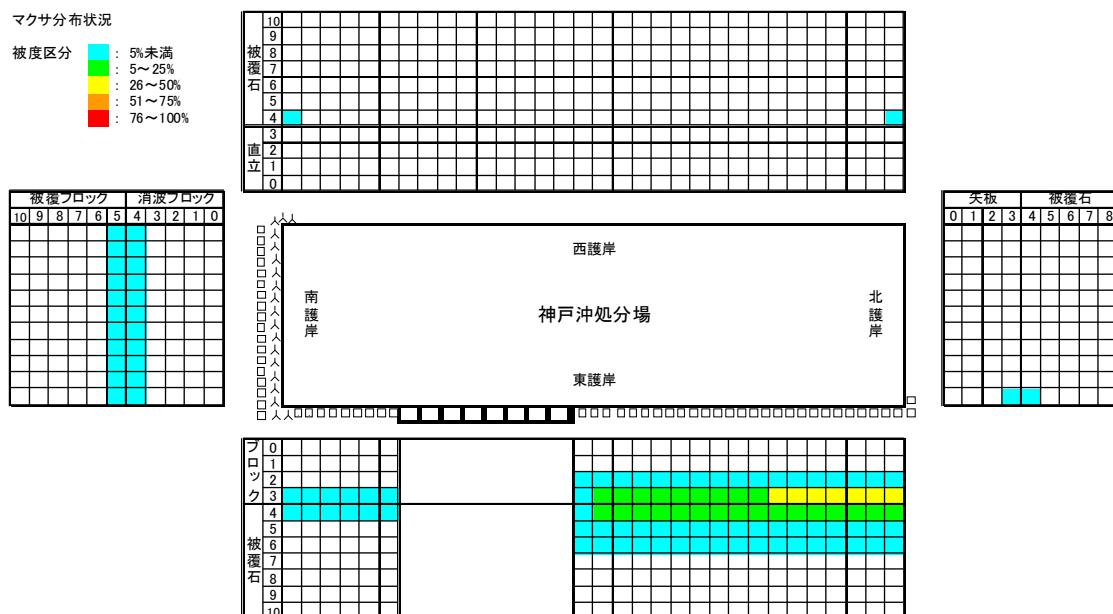


図 3-24 (3) 分布状況の推移 (アオサ属) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

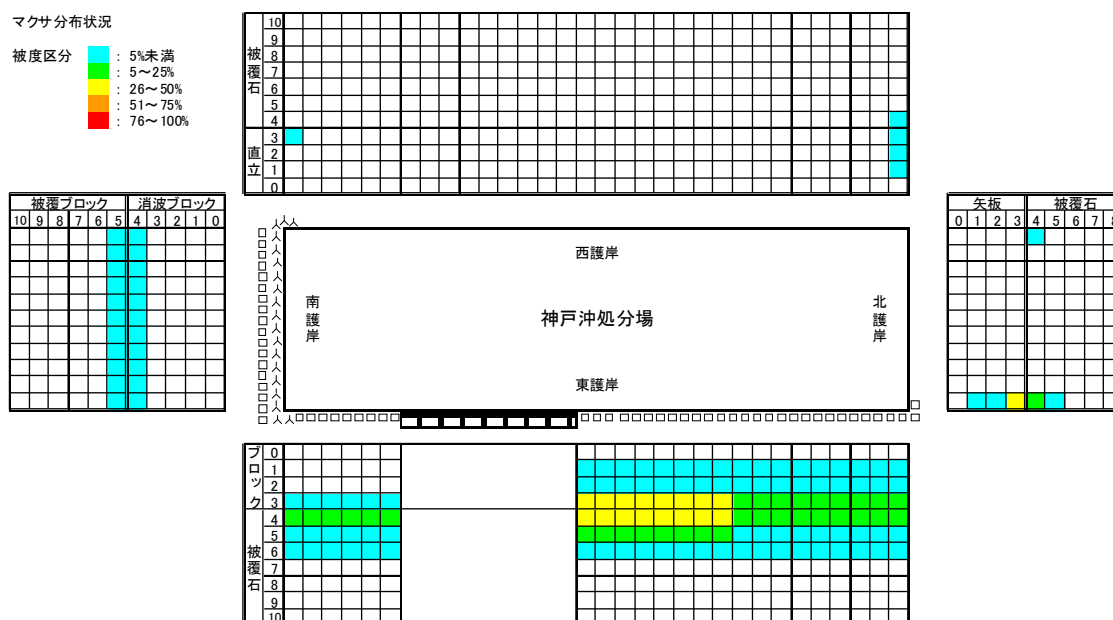
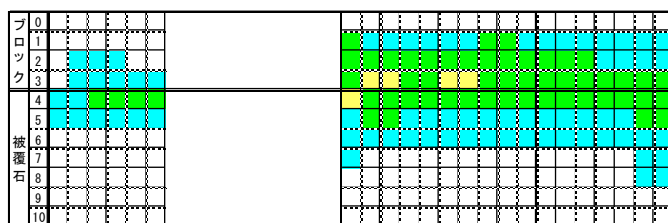
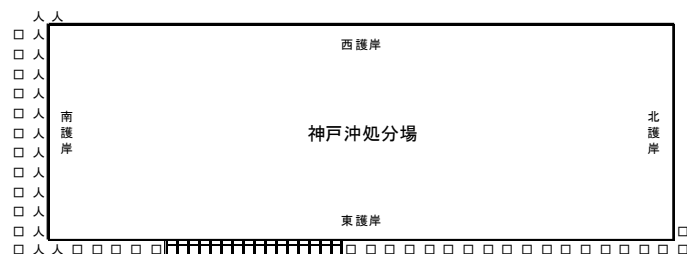
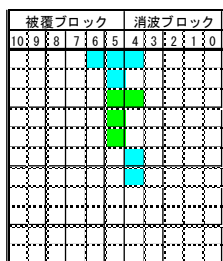
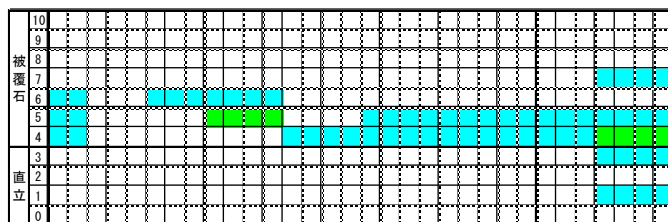
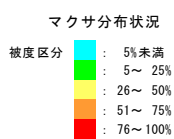


図 3-25 (1) 分布状況の推移 (マクサ) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

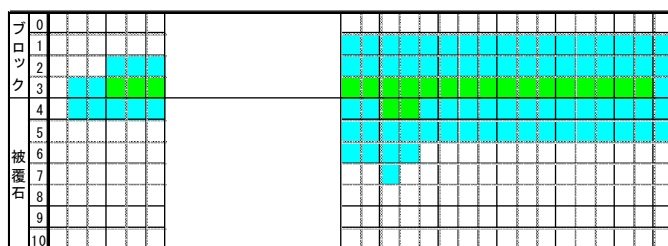
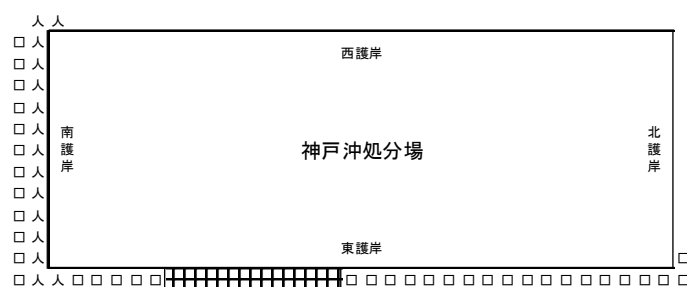
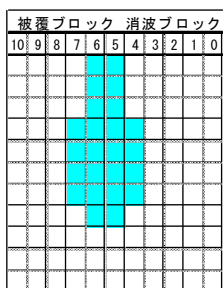
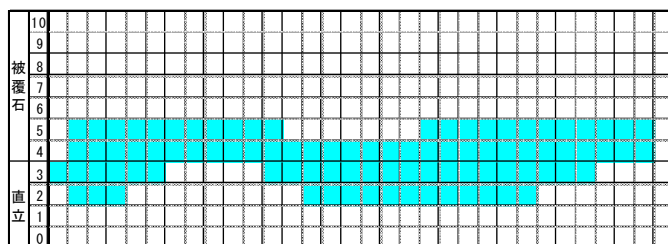
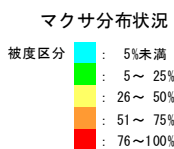


図 3-25 (2) 分布状況の推移 (マクサ) 神戸沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

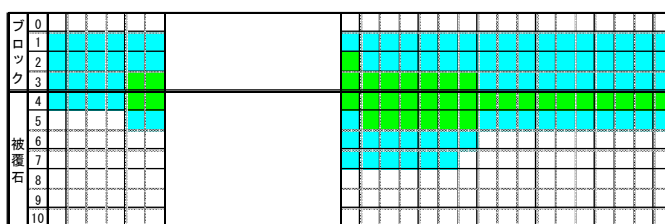
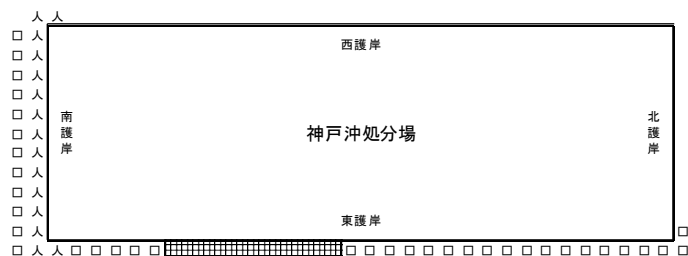
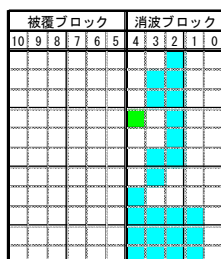
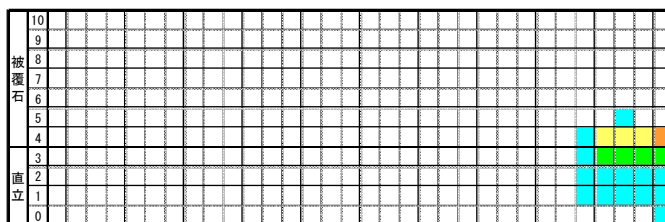
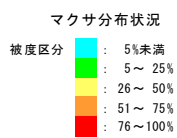
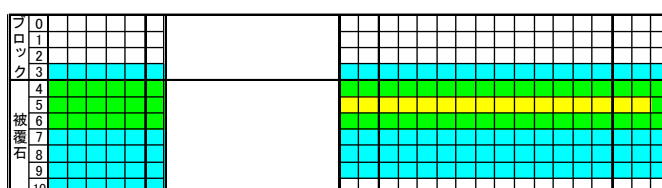
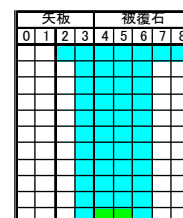
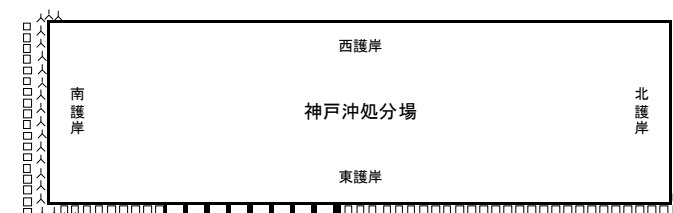


図 3-25 (3) 分布状況の推移 (マクサ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



[平成 22 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

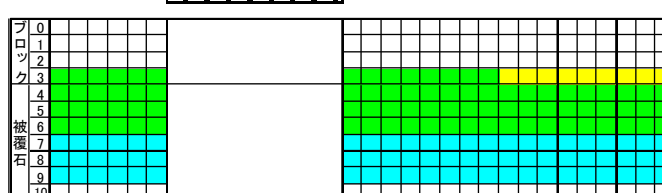
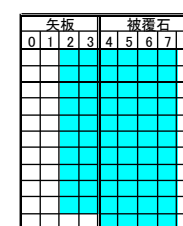
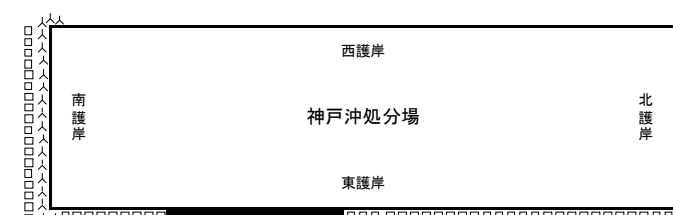
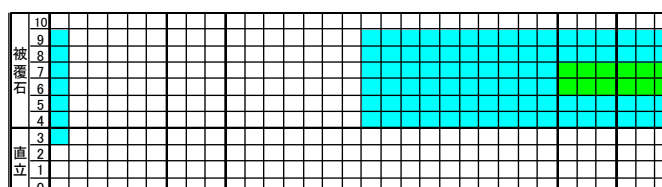
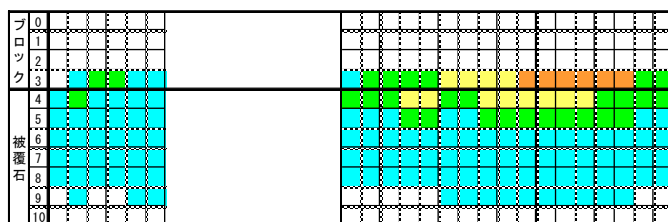
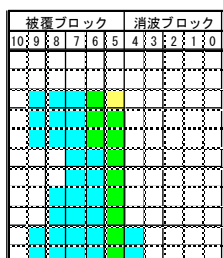
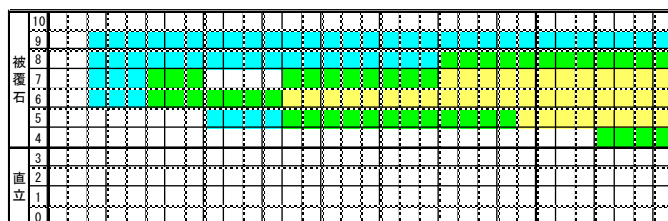
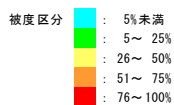


図 3-26 (1) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕

ススカケベニ分布状況



〔平成26年春季〕

ススカケベニ分布状況

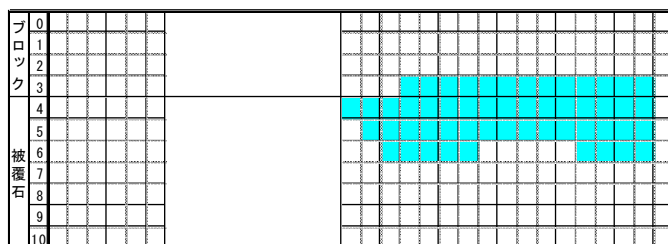
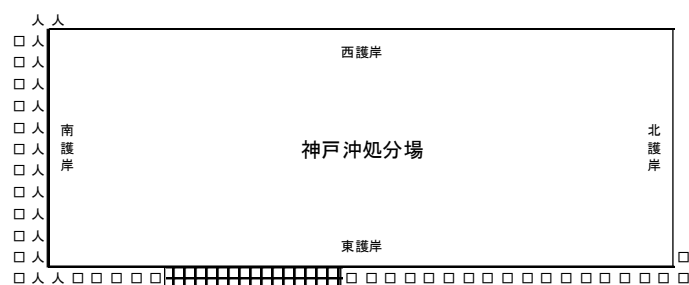
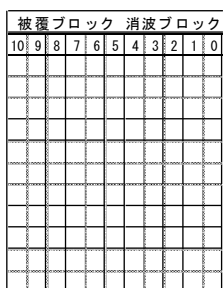
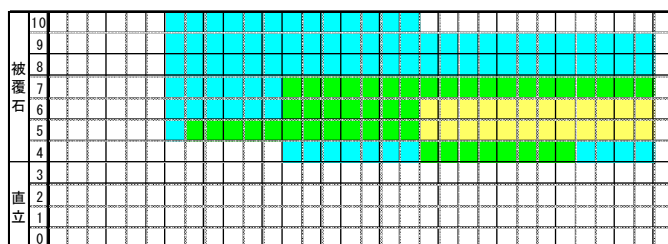
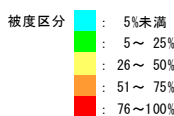


図 3-26 (2) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

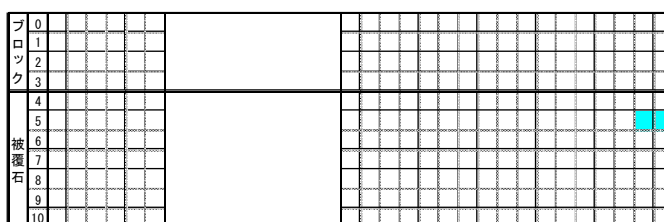
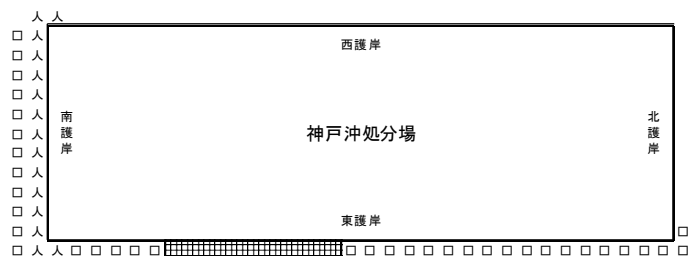
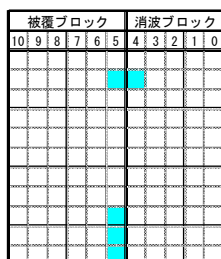
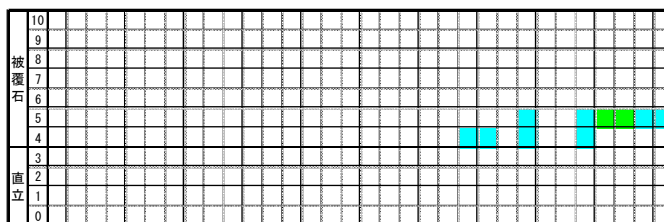
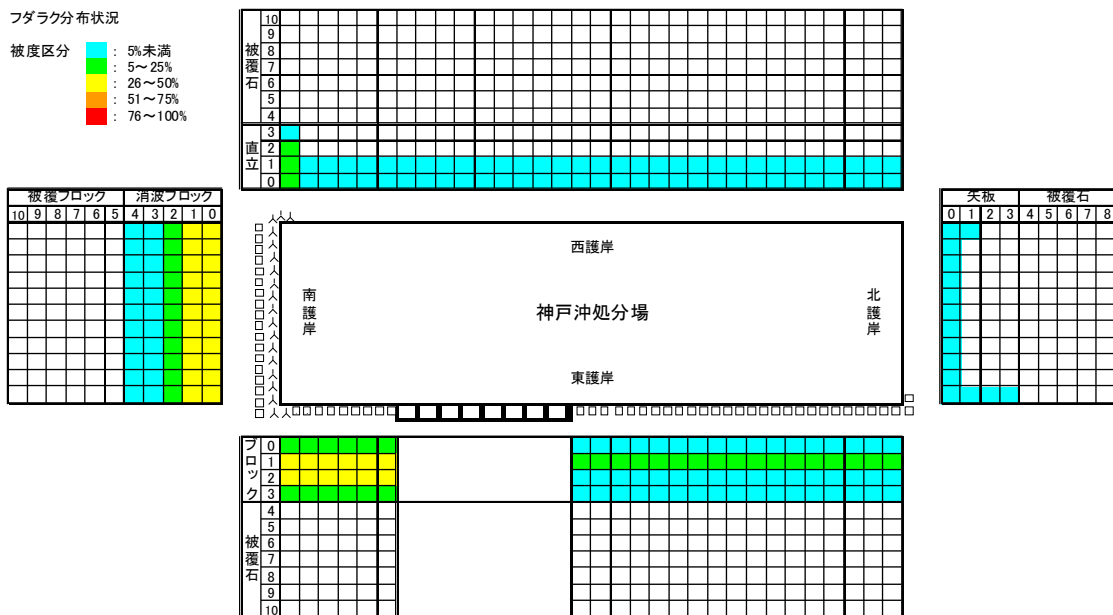


図 3-26 (3) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

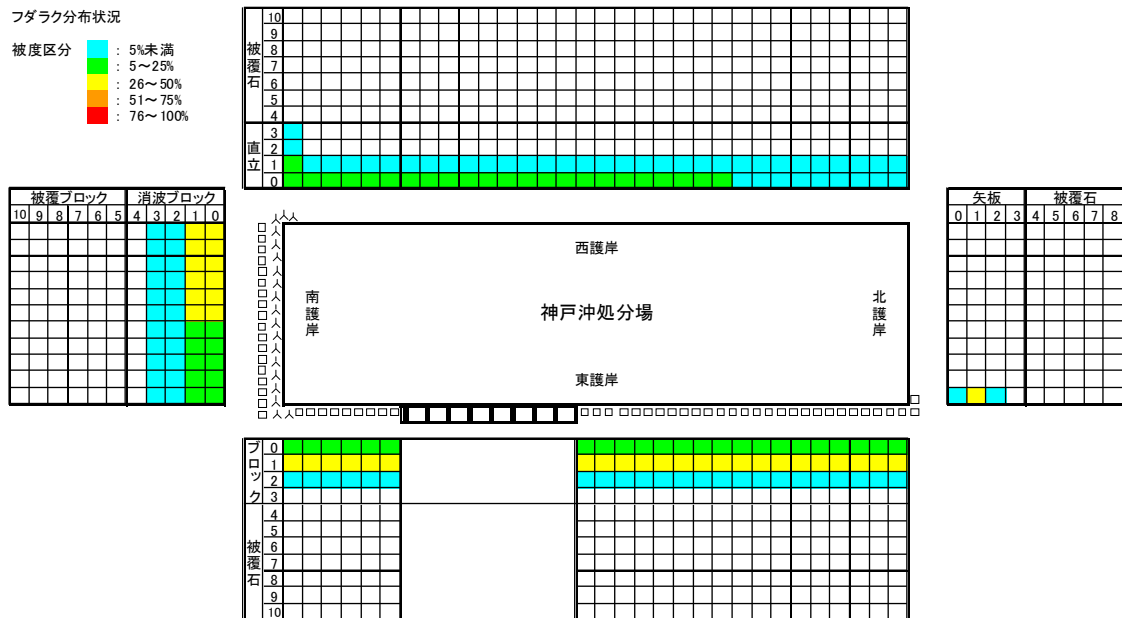
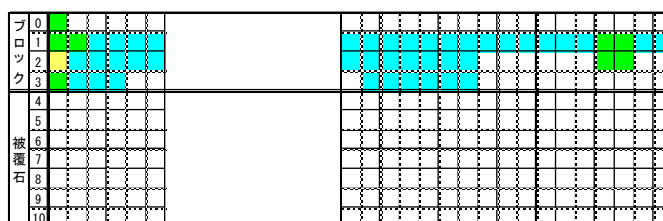
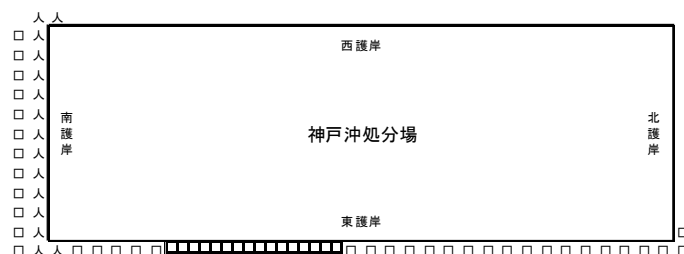
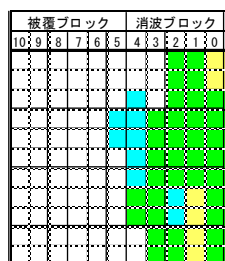


図 3-27 (1) 分布状況の推移 (フダラク) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

フダラク分布状況

[illegible]

フダラク分布状況

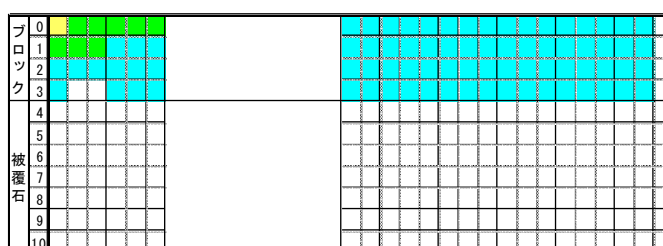
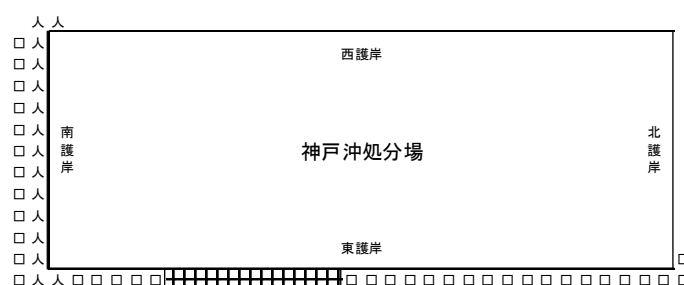
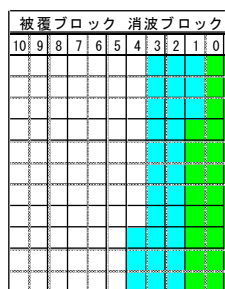


図 3-27 (2) 分布状況の推移 (フダラク) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

〔平成28年春季〕

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

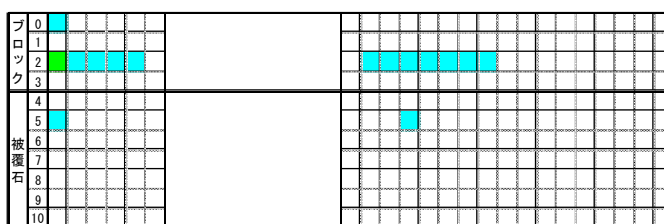
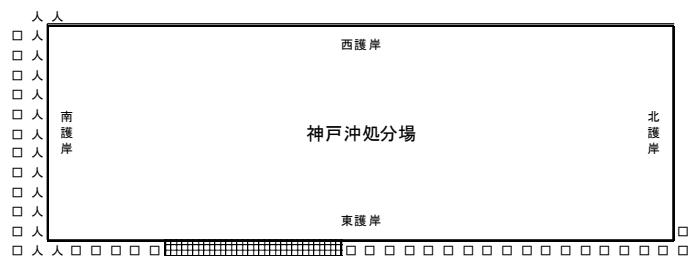
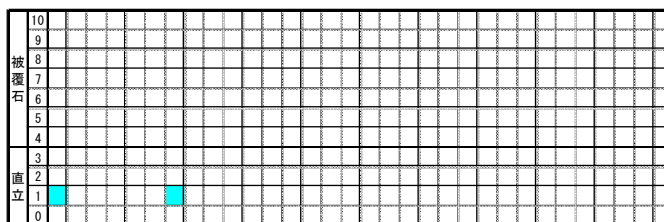
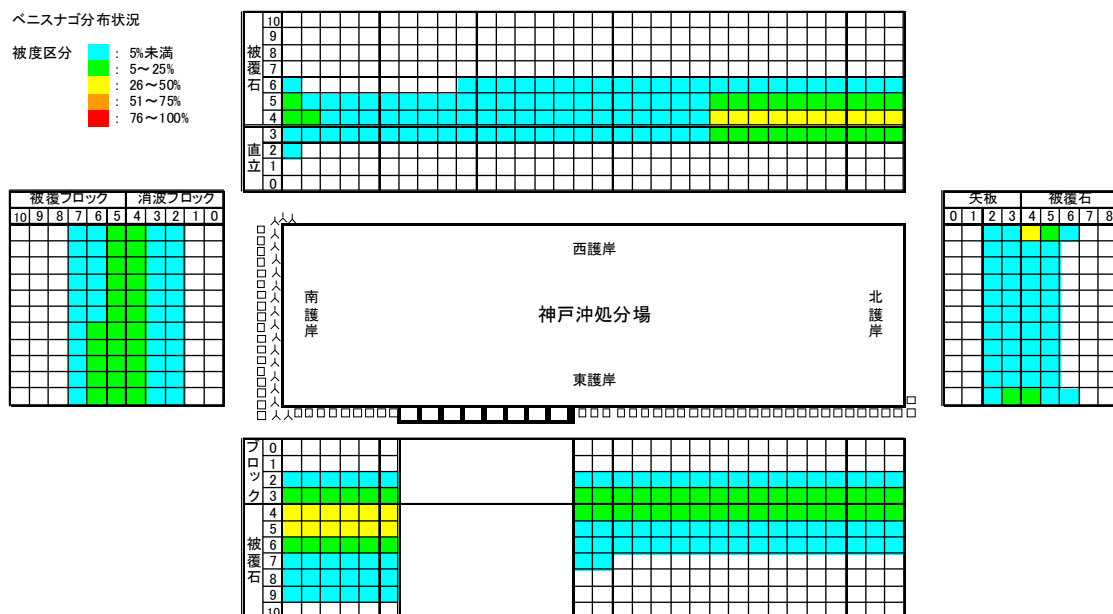


図 3-27 (3) 分布状況の推移 (フダラク) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

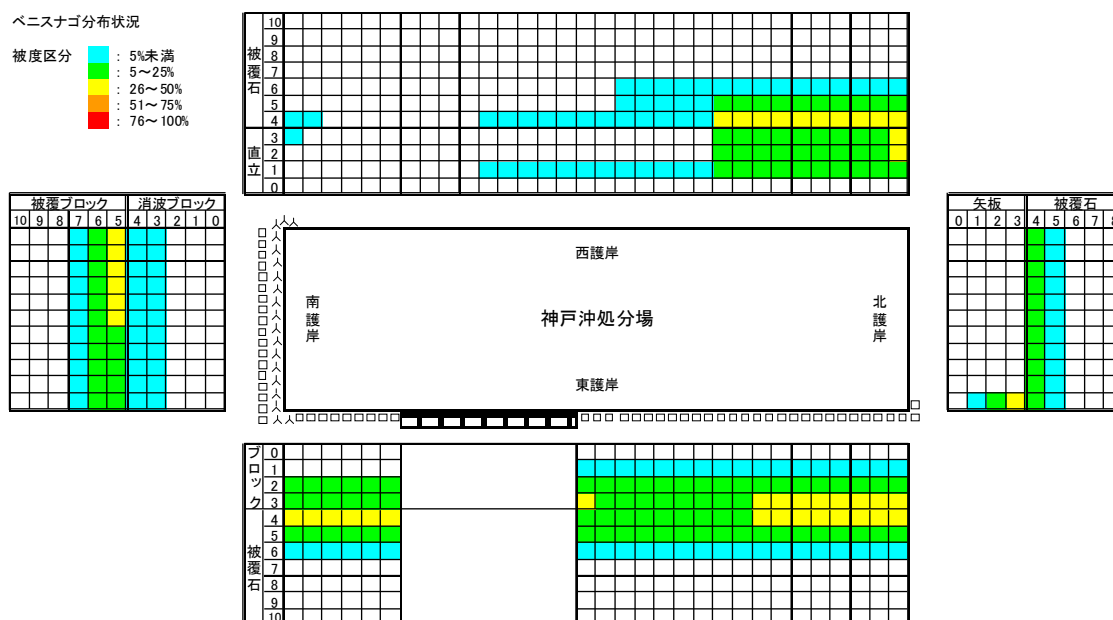


図 3-28 (1) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 神戸沖 平成 21～22 年度調査

〔平成28年春季〕

ベニスナゴ分布状況

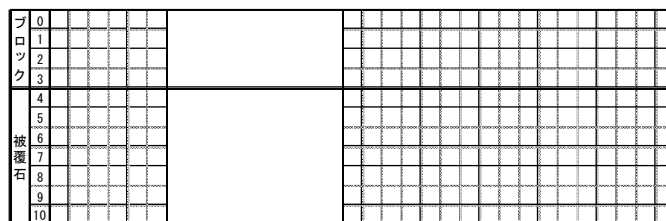
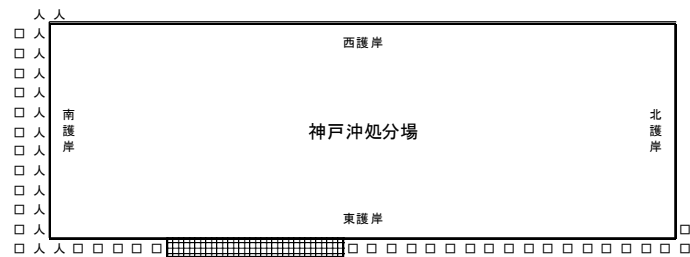
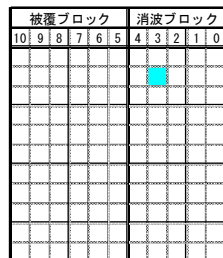
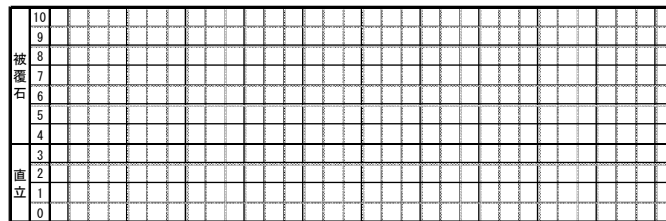
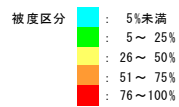
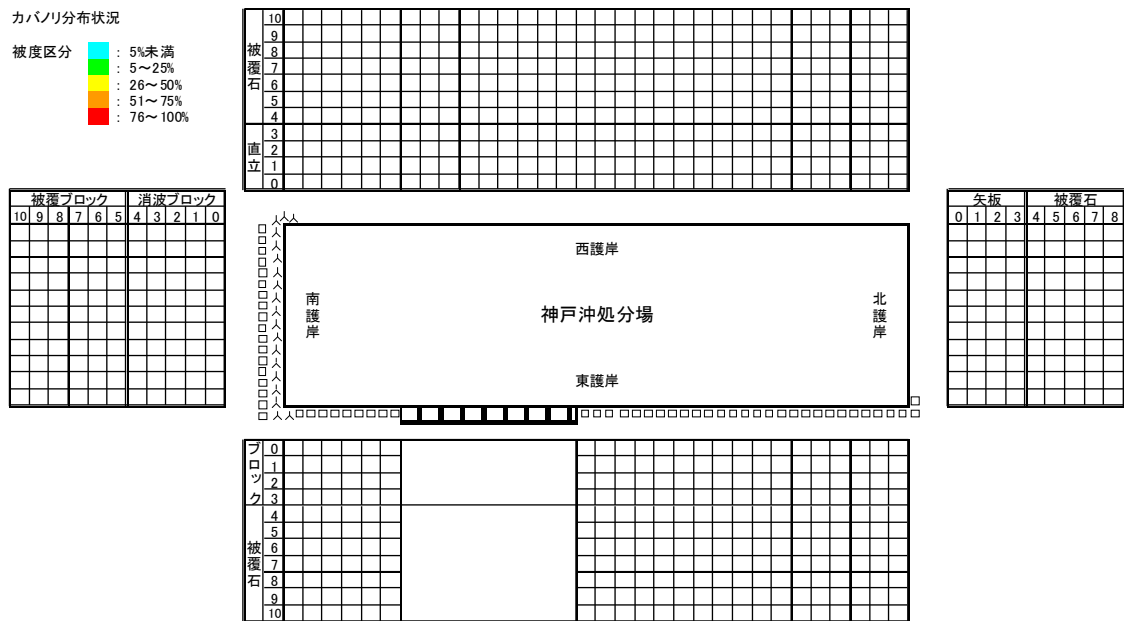


図 3-28 (3) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 神戸沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

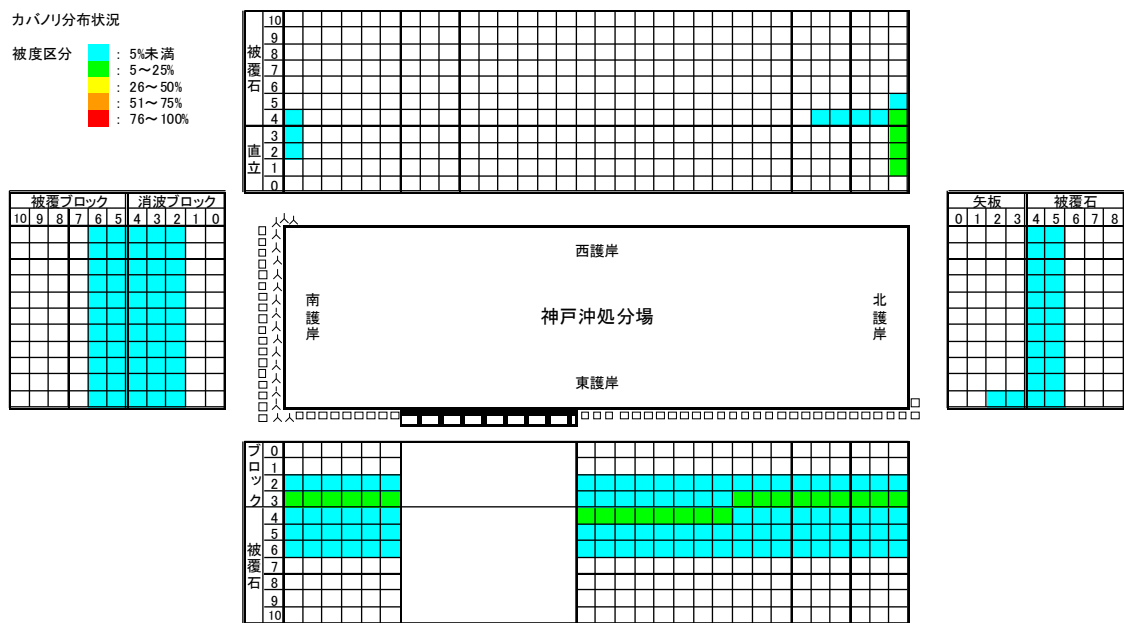
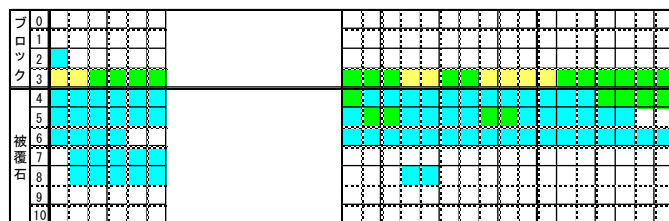
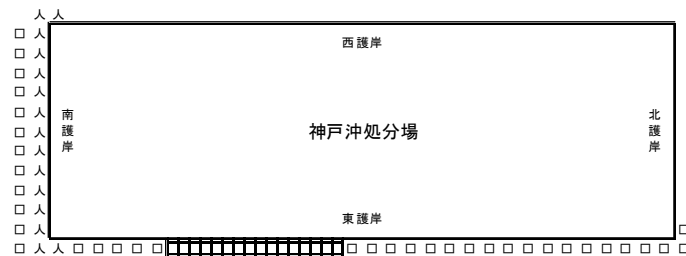
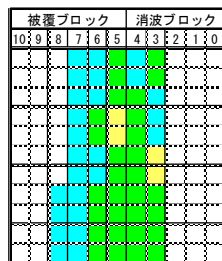
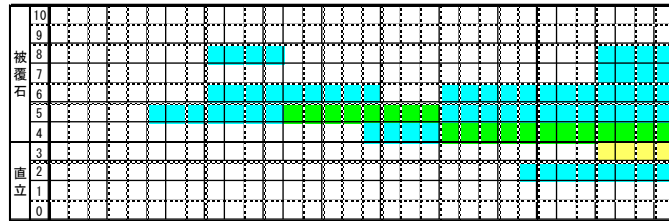


図 3-29 (1) 分布状況の推移 (カバノリ) 神戸沖 平成 21~22 年度調査

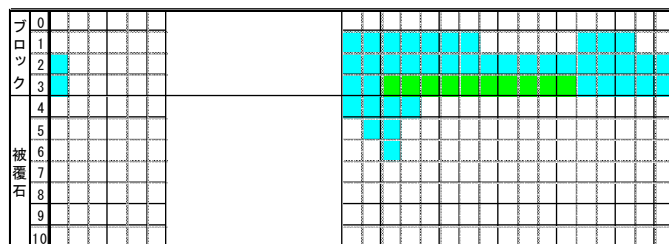
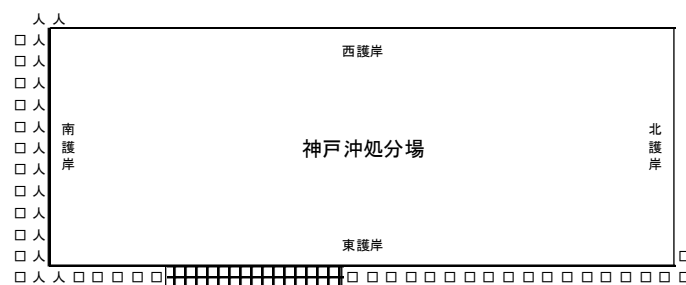
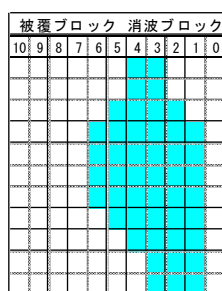
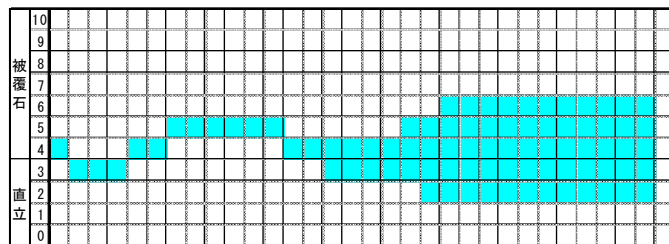
被度区分

	:	5%未満
	:	5～ 25%
	:	26～ 50%
	:	51～ 75%
	:	76～ 100%



被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



- 126 -

〔平成28年春季〕

カバノリ分布状況

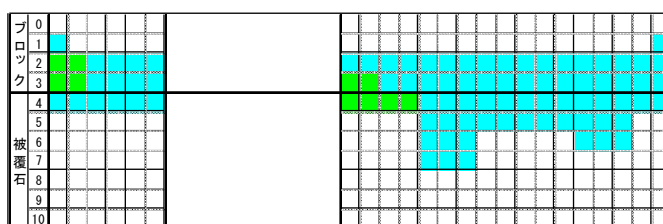
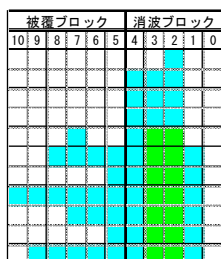
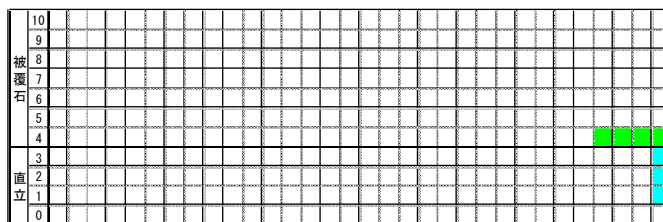
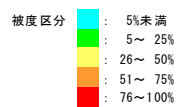
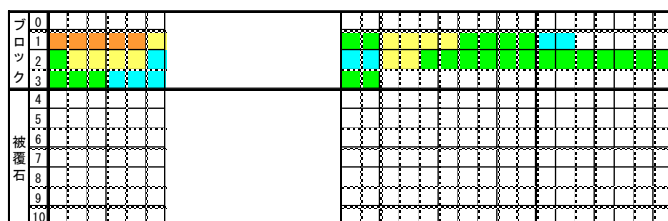
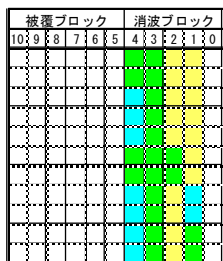
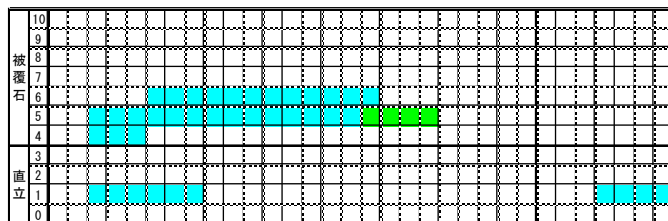


図 3-29 (3) 分布状況の推移 (カバノリ) 神戸沖 平成 28 年度調査

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



被度区分

	:	5%未満
	:	5～25%
	:	26～50%
	:	51～75%
	:	76～100%

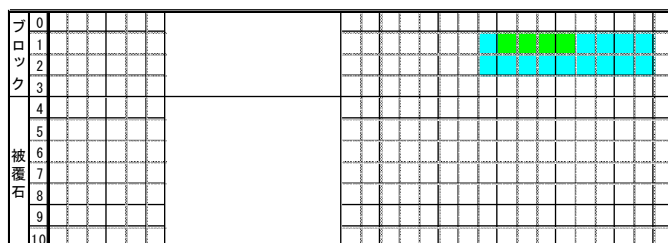
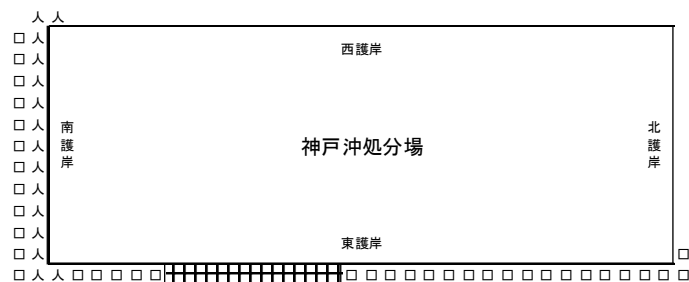
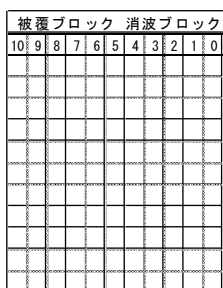
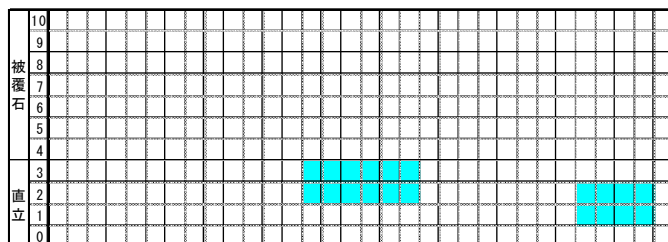


図 3-30 (1) 分布状況の推移 (ツルツル) 神戸沖 平成 24~26 年度調査

〔平成28年春季〕

ツルツル分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

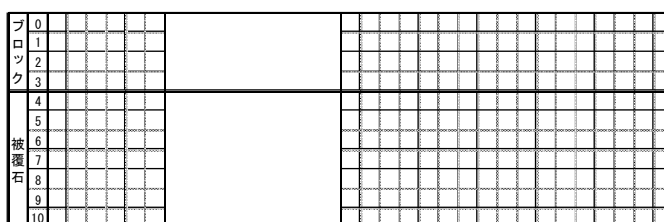
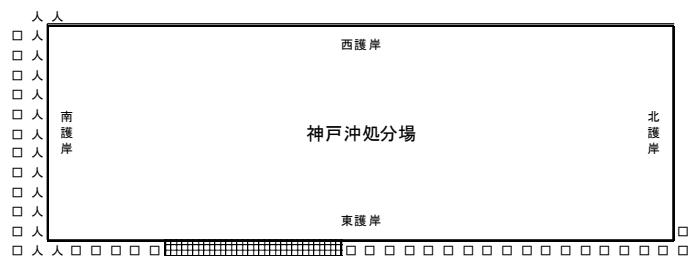
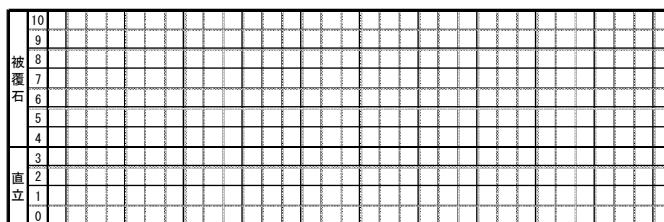


図 3-30 (2) 分布状況の推移 (ツルツル) 神戸沖 平成 28 年度調査

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-31～43 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 26 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、アカモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヨレモクモドキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-31）

ワカメは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度は北護岸と西護岸の各 1 箇所で、平成 24 年度は各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認され、平成 24 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。今回の調査では、平成 26 年度の調査よりもさらに分布範囲が拡大し、被度も増加していた。

② カジメ（図 3-32）

カジメは、平成 21 年度は分布が確認されなかったが、平成 22 年度は南護岸で 1 箇所、平成 24 年度は南護岸、西護岸の各 2 箇所で分布が確認された。平成 26 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-33）

シダモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～-6m 付近で広く分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲が減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、-2～-6m 付近で広く分布が確認され、平成 24 年度と比較して西護岸、南護岸で分布範囲の増加がみられた。今回の調査でも、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認され、過年度に比べて被度的にも増加傾向を示した。

④ アカモク（図 3-34）

アカモクは、平成 21 年度は北護岸と西護岸、平成 22、24 年度は南護岸と西護岸の-2～-5m 付近に分布が確認されたが、平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。今回の調査では、北護岸と南護岸の-3～-6m 付近で確認された。

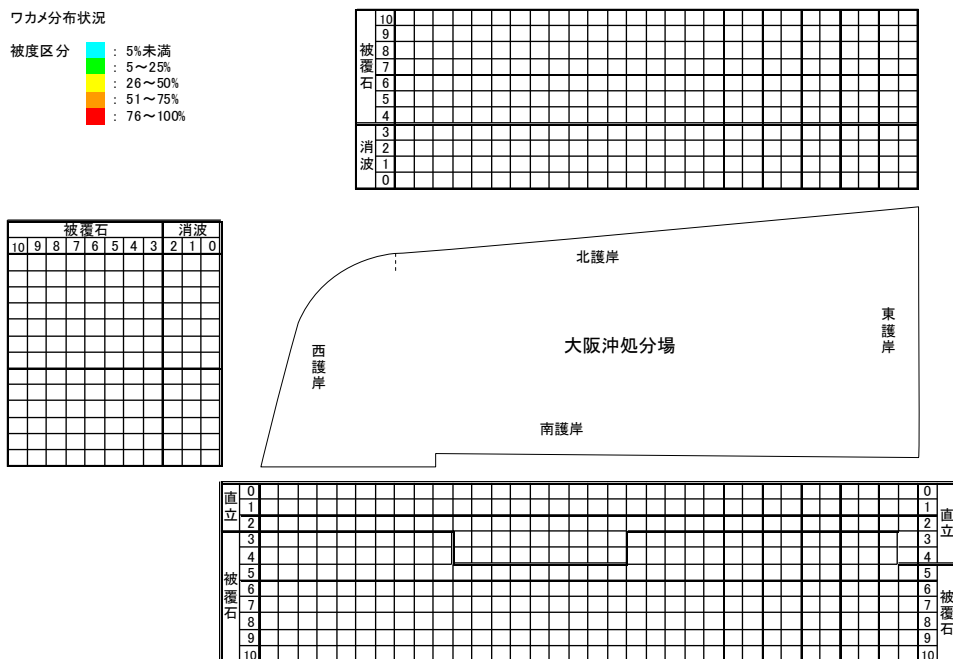
⑤ タマハハキモク (図 3-35)

タマハハキモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～-5m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲は減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度と比較して北護岸、南護岸で分布範囲、北護岸では被度の増加がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-4m 付近で分布が確認され、平成 26 年度調査時と大きな変化はみられなかった。

⑥ ヨレモクモドキ (図 3-36)

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸で 1 箇所の分布が確認されたが、今回の調査では平成 26 年度と同様に分布が確認されなかった。

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

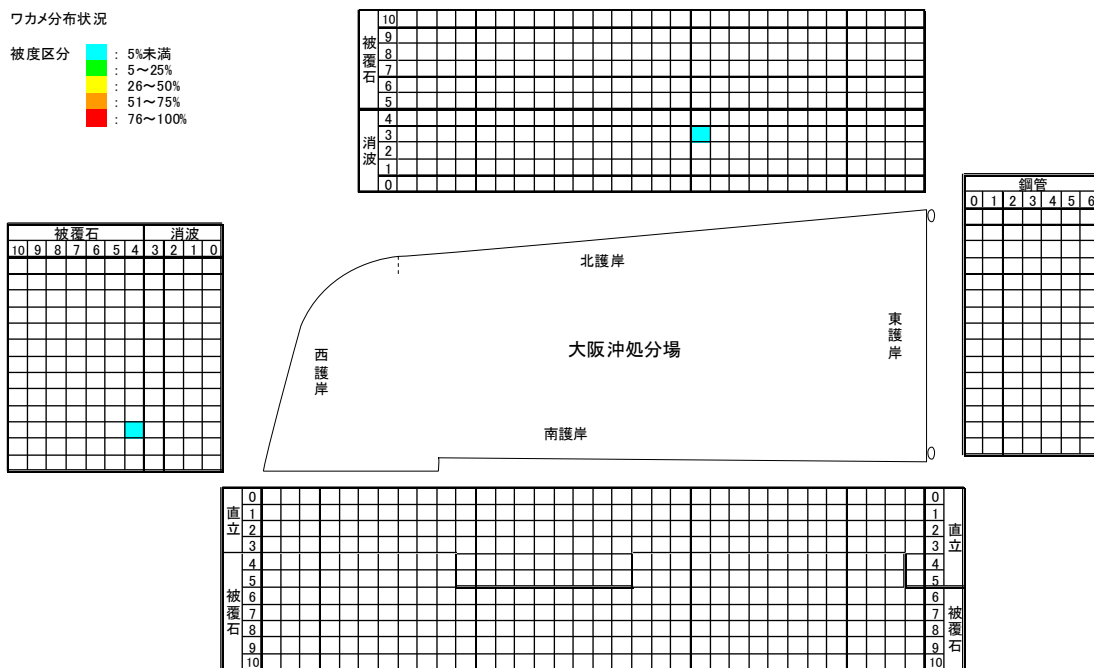
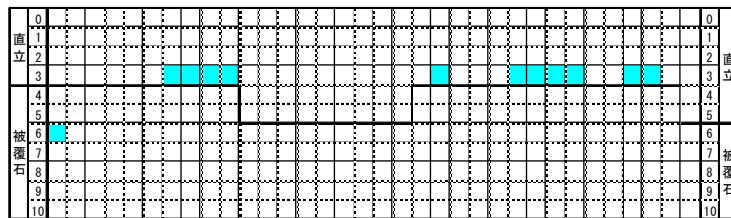
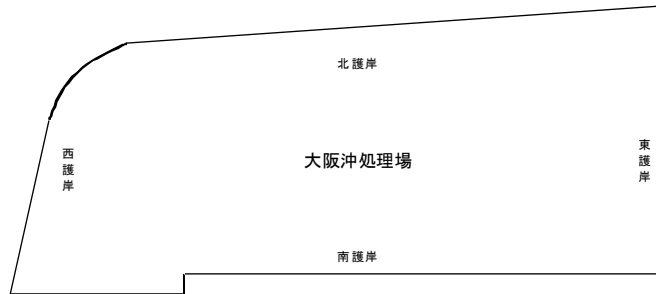
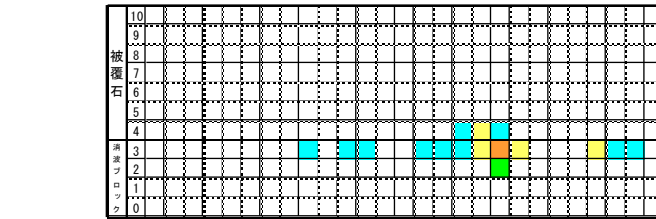
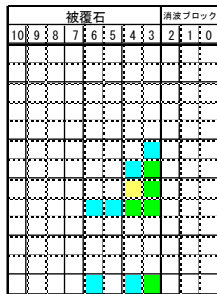


図 3-31 (1) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

ワカメ分布状況
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%



〔平成26年春季〕

ワカメ分布状況
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

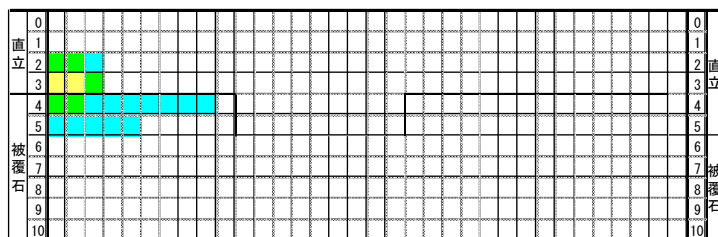
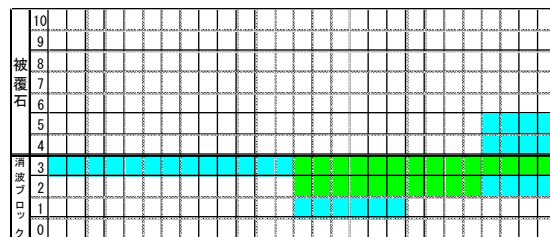
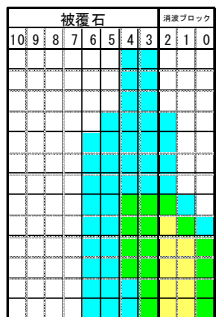


図 3-31 (2) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ワカメ分布状況

被度区分

- 5%未満
- 5～25%
- 26～50%
- 51～75%
- 76～100%

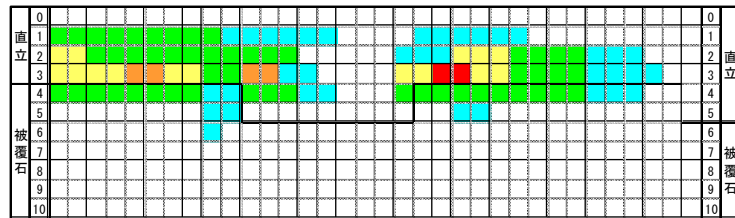
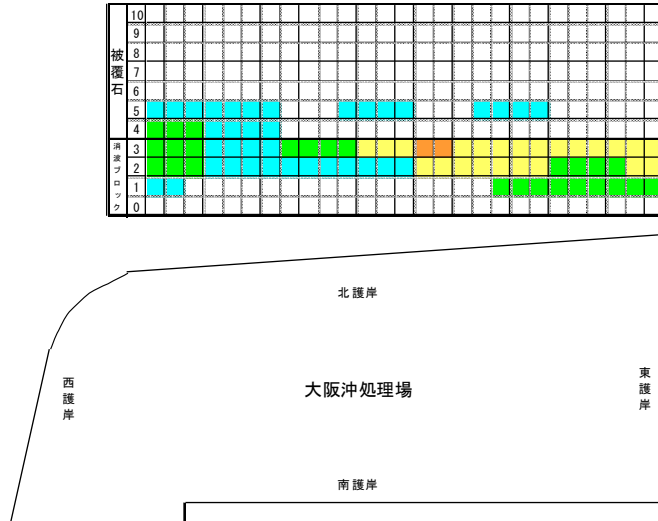
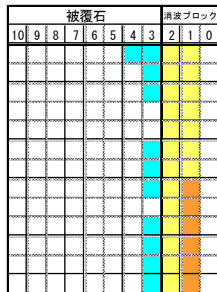
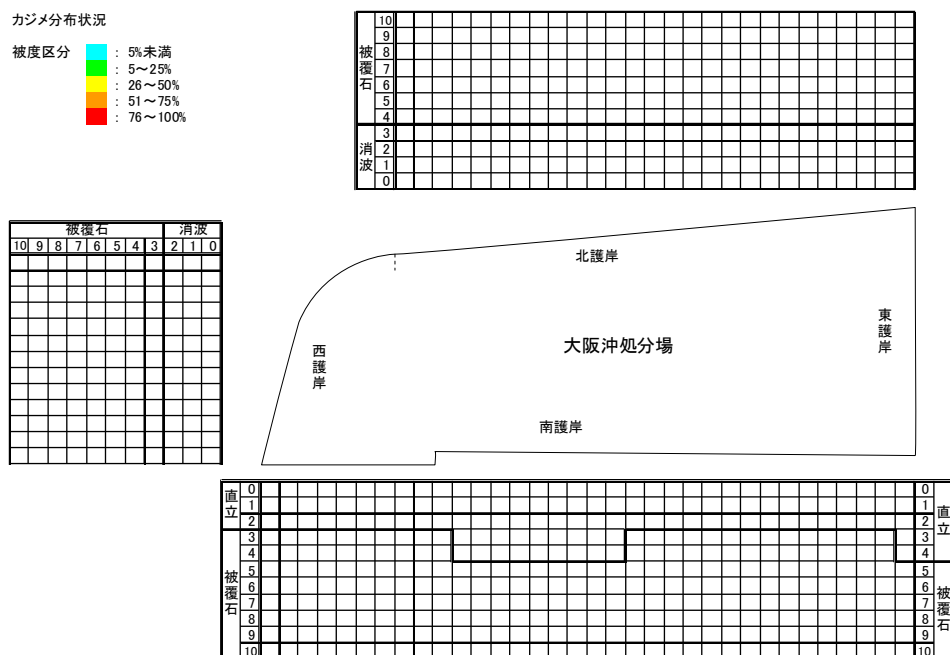


図 3-31 (3) 分布状況の推移 (ワカメ) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

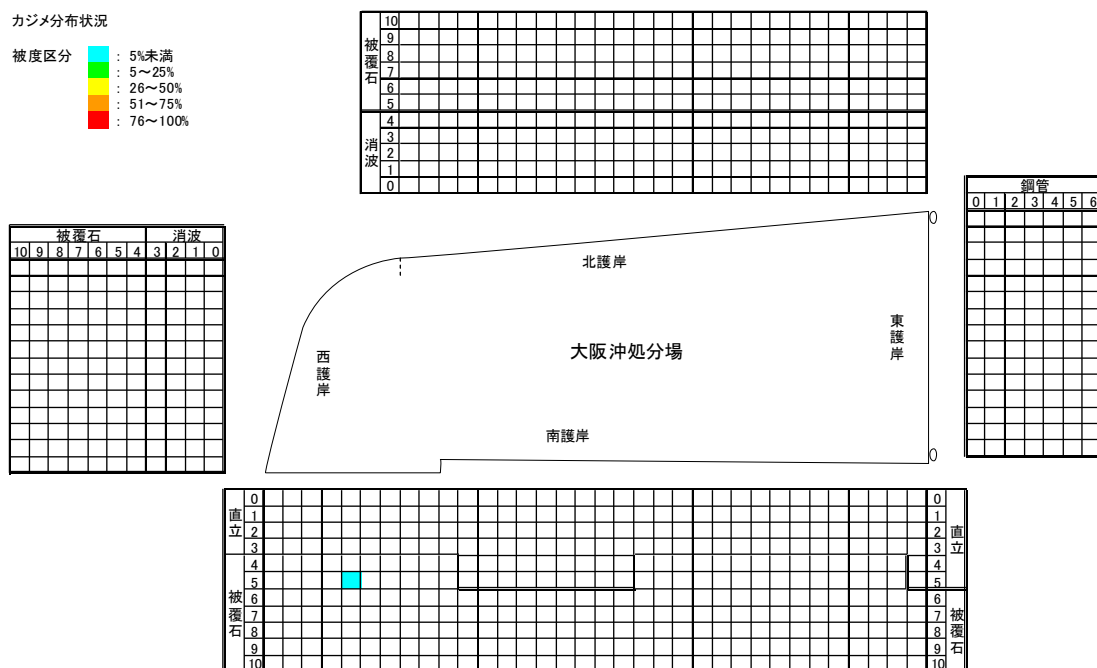
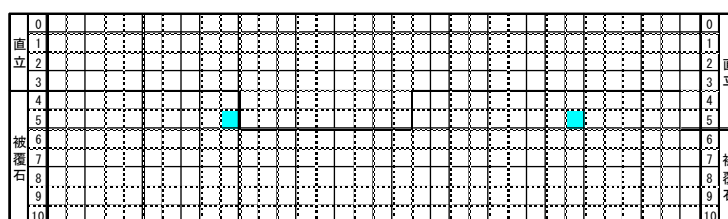
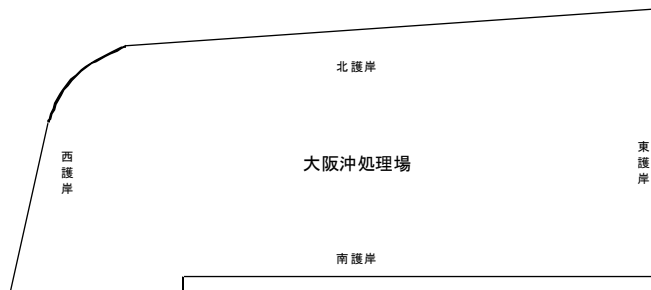
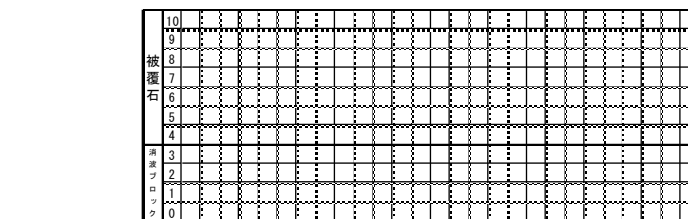
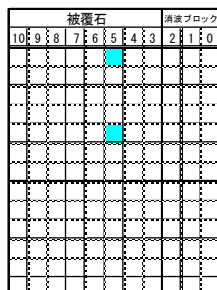


図 3-32 (1) 分布状況の推移 (カジメ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

カジメ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

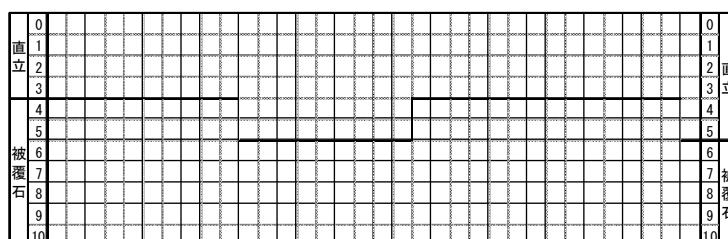
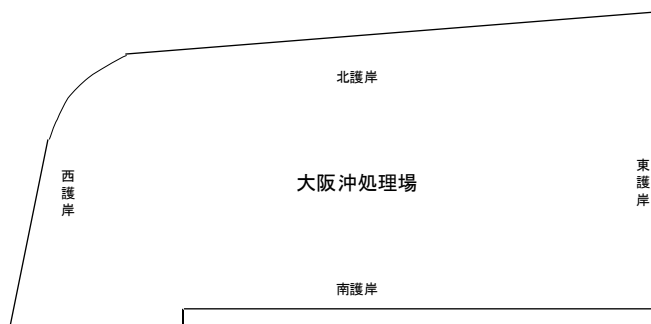
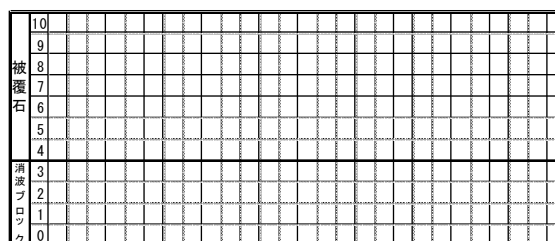
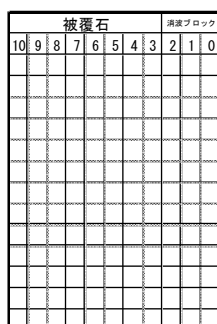


図 3-32 (2) 分布状況の推移 (カジメ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

カジメ分布状況
被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

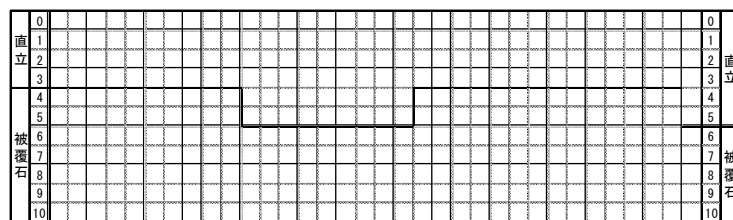
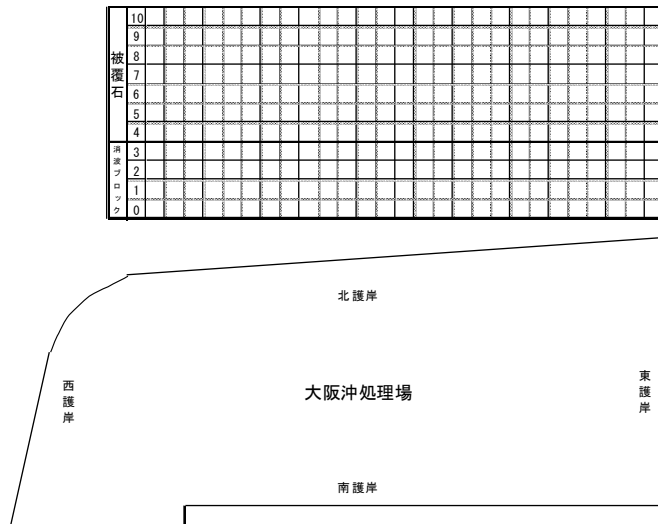
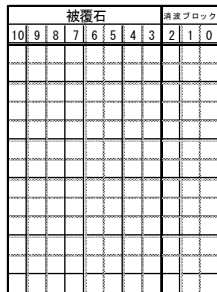
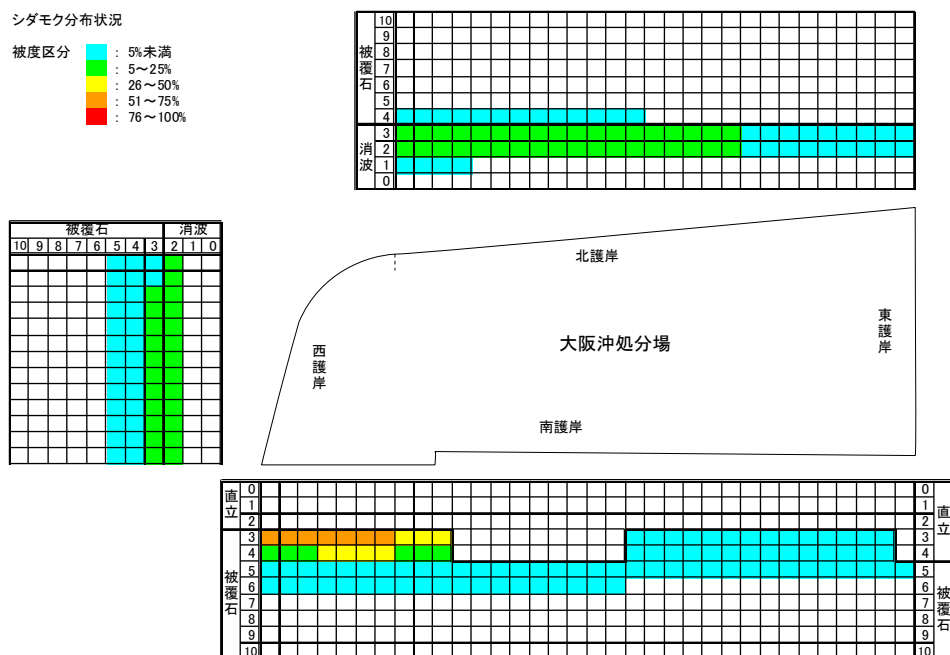


図 3-32 (3) 分布状況の推移 (カジメ) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

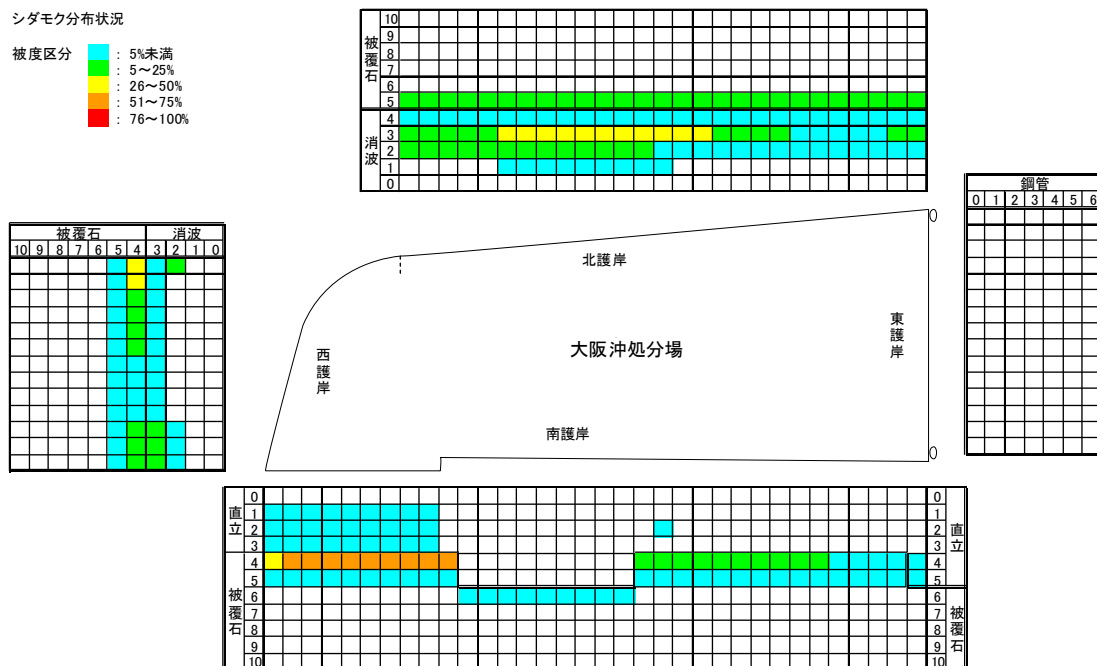
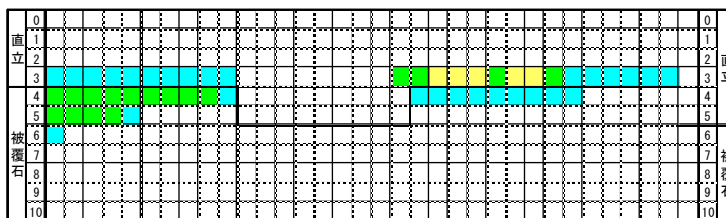
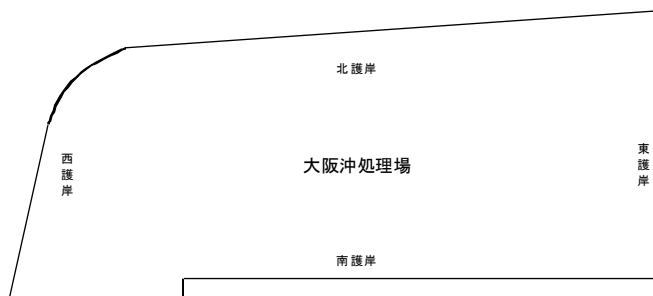
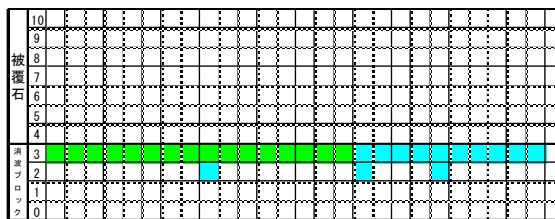
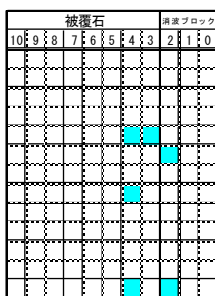


図 3-33 (1) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

シダモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

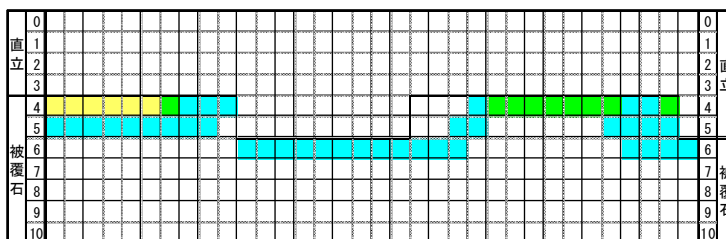
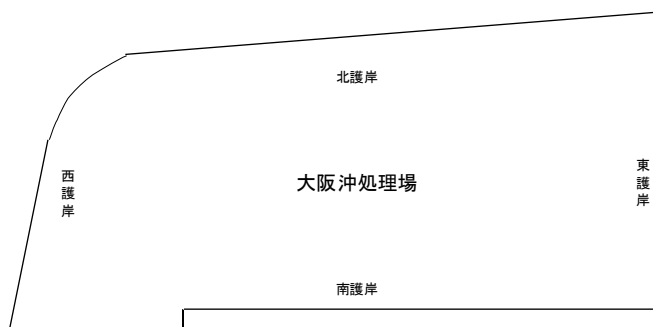
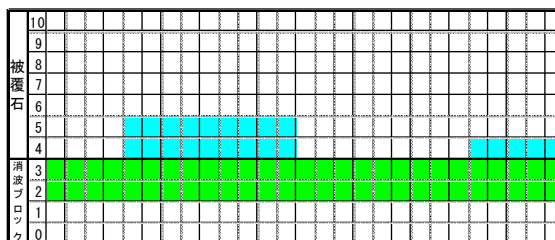
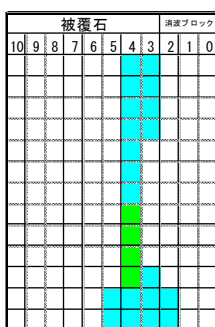


図 3-33 (2) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

シダモク分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

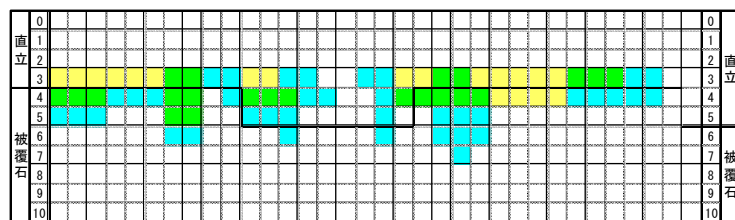
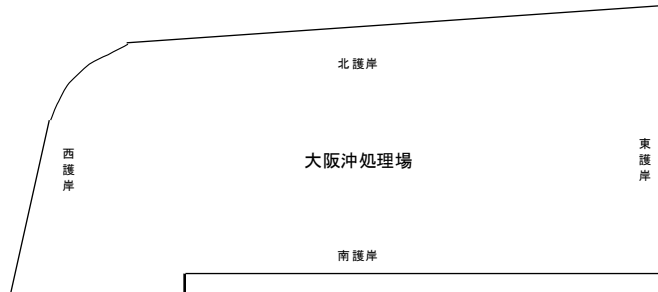
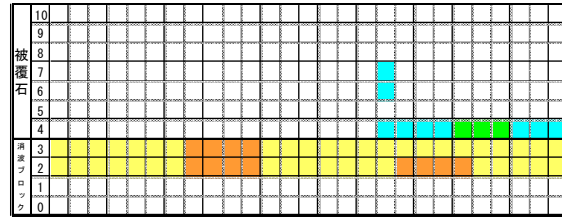
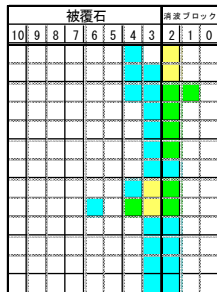
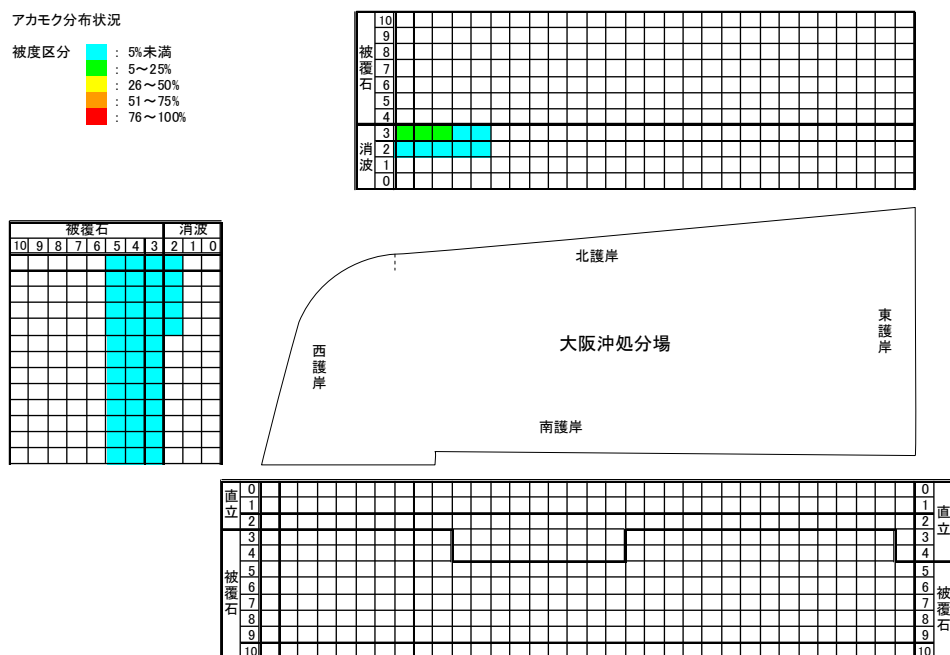


図 3-33 (3) 分布状況の推移 (シダモク) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

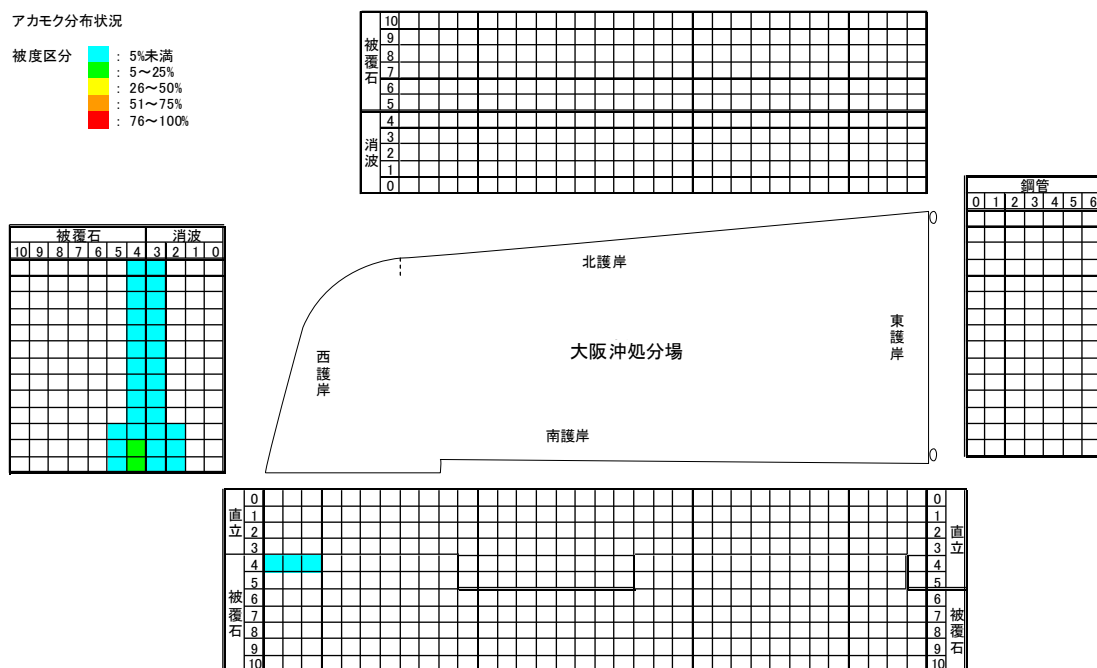
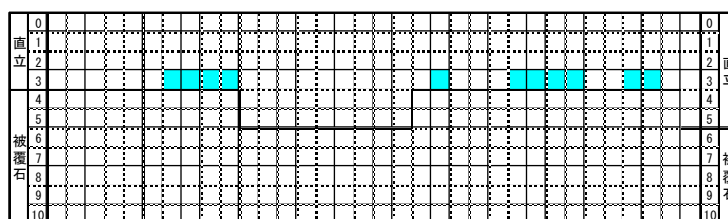
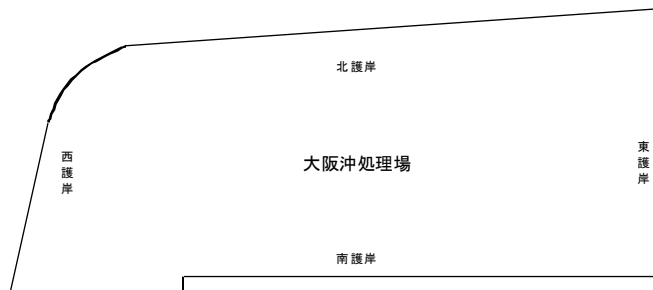
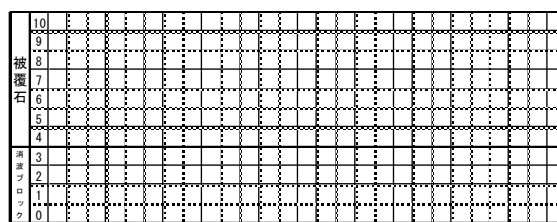
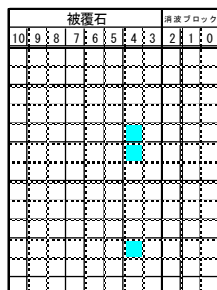


図 3-34 (1) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

アカモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

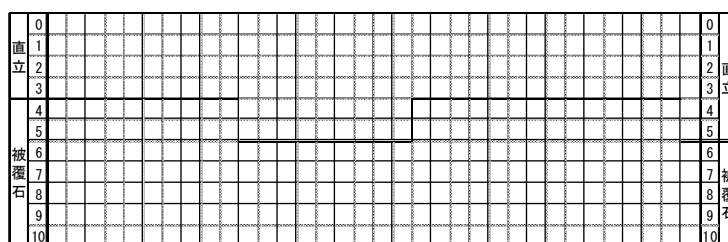
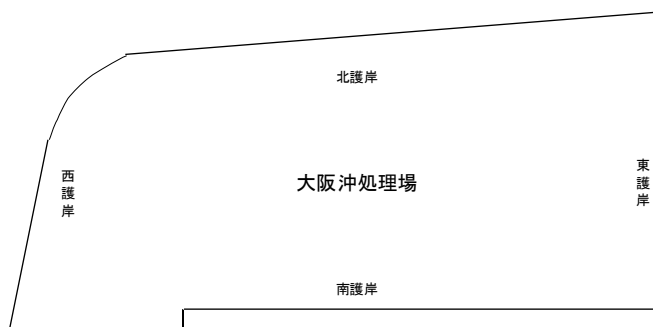
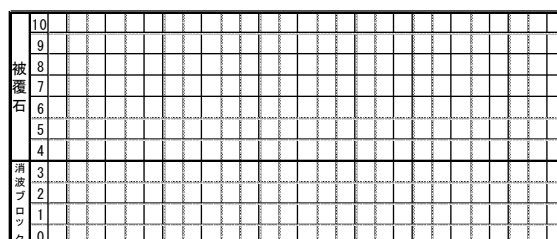
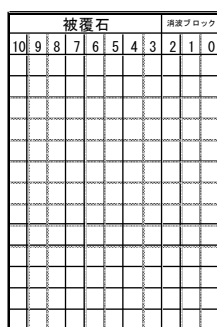


図 3-34 (2) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

アカモク分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

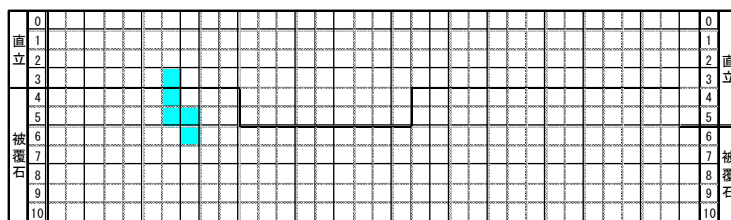
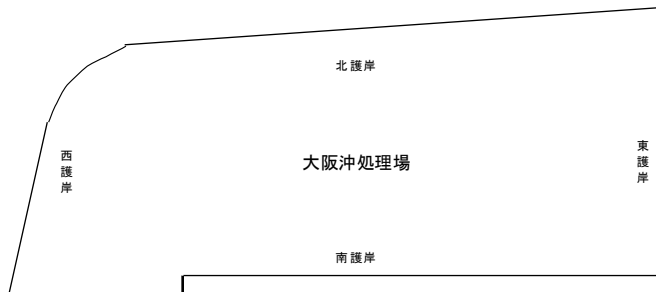
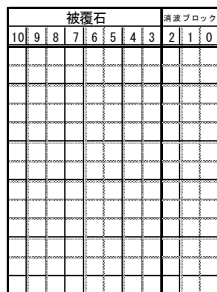
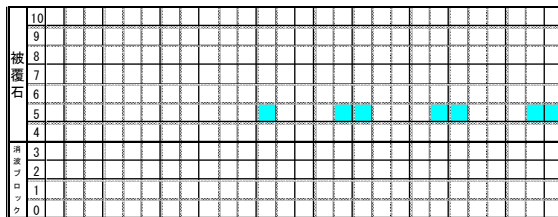
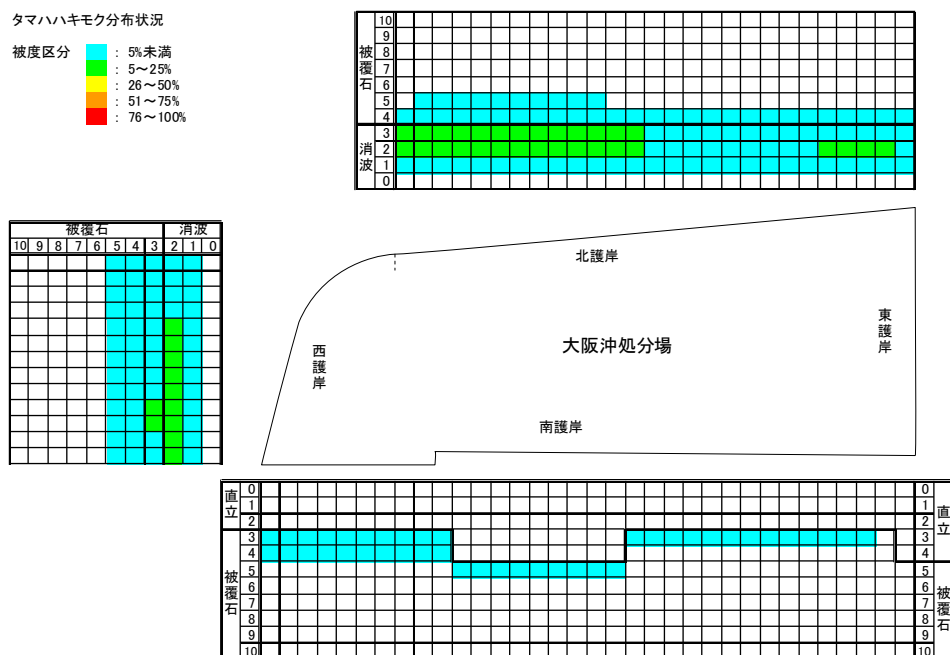


図 3-34 (3) 分布状況の推移 (アカモク) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

タマハハキモク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

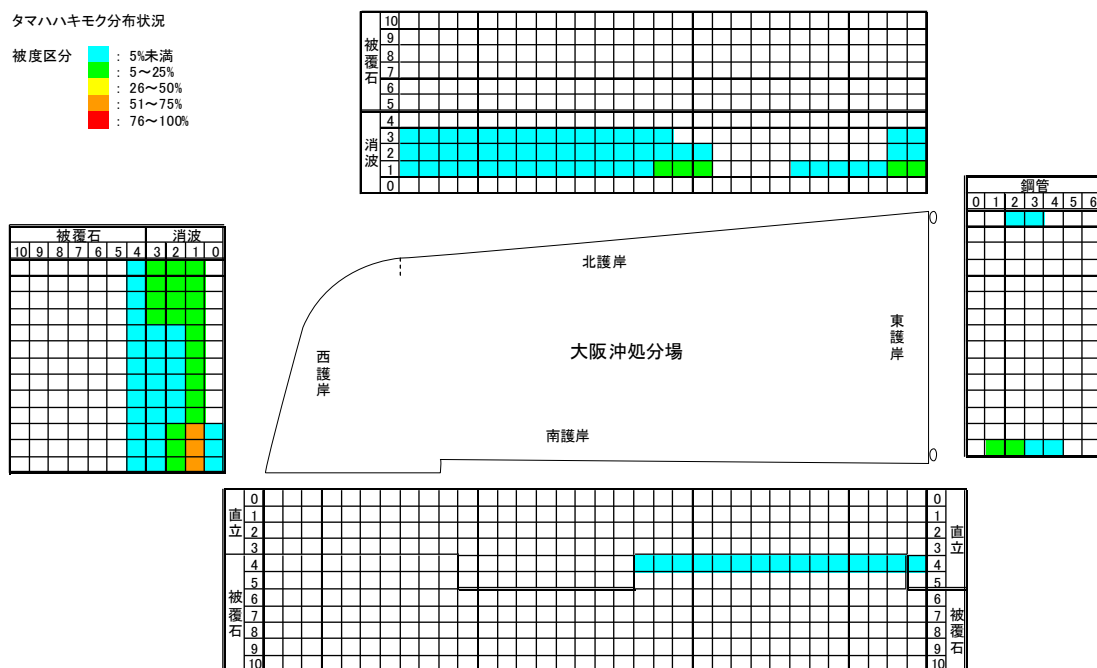
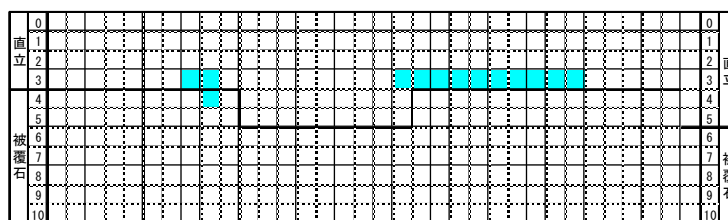
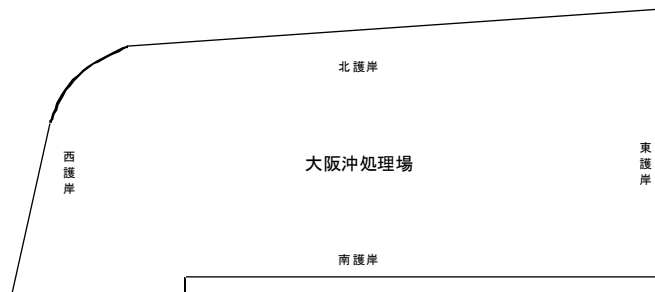
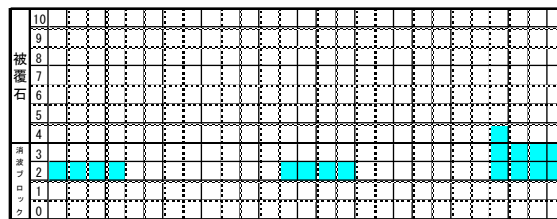
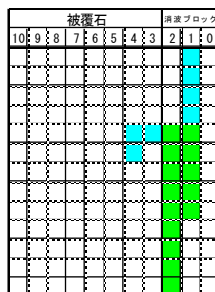
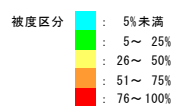


図 3-35 (1) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

タマハハキモク分布状況



〔平成26年春季〕

タマハハキモク分布状況

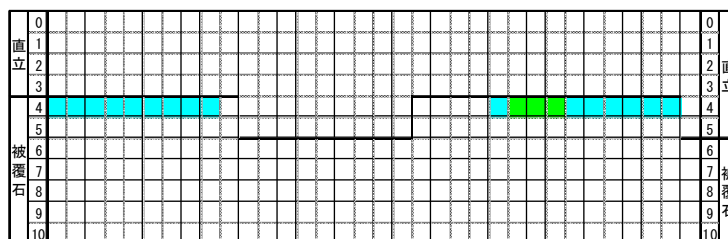
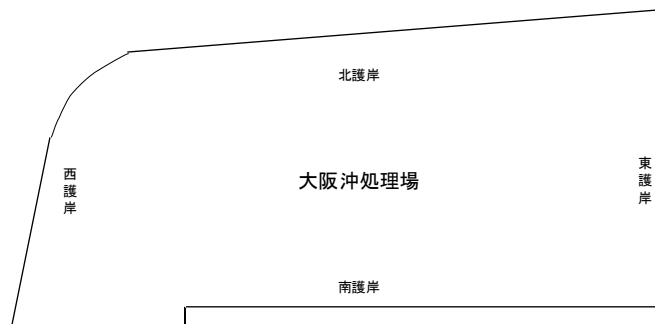
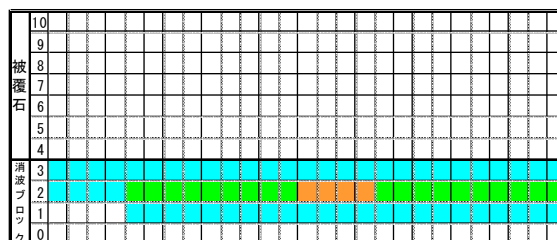
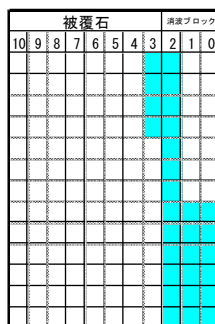
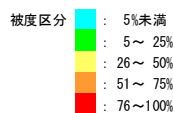


図 3-35 (2) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

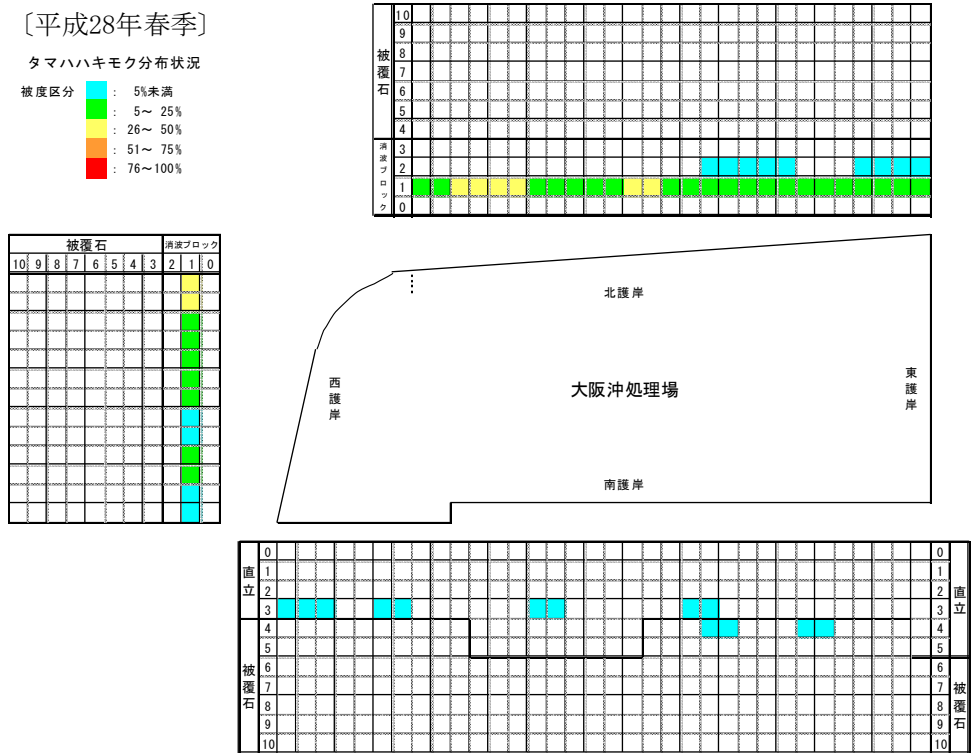


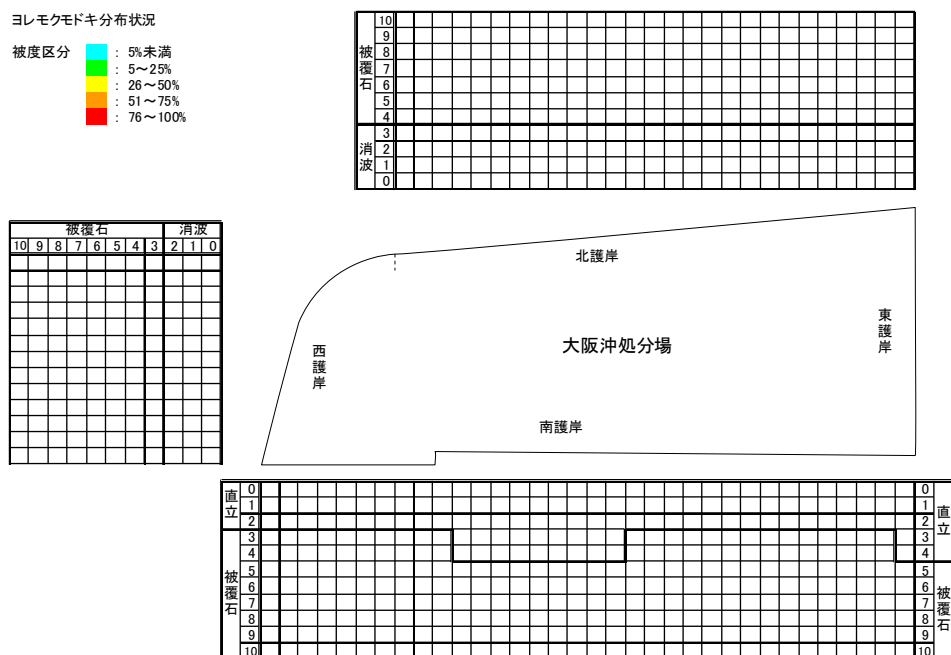
図 3-35 (3) 分布状況の推移 (タマハハキモク) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分

5%未満
5～25%
26～50%
51～75%
76～100%



[平成 22 年春季]

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分

5%未満
5～25%
26～50%
51～75%
76～100%

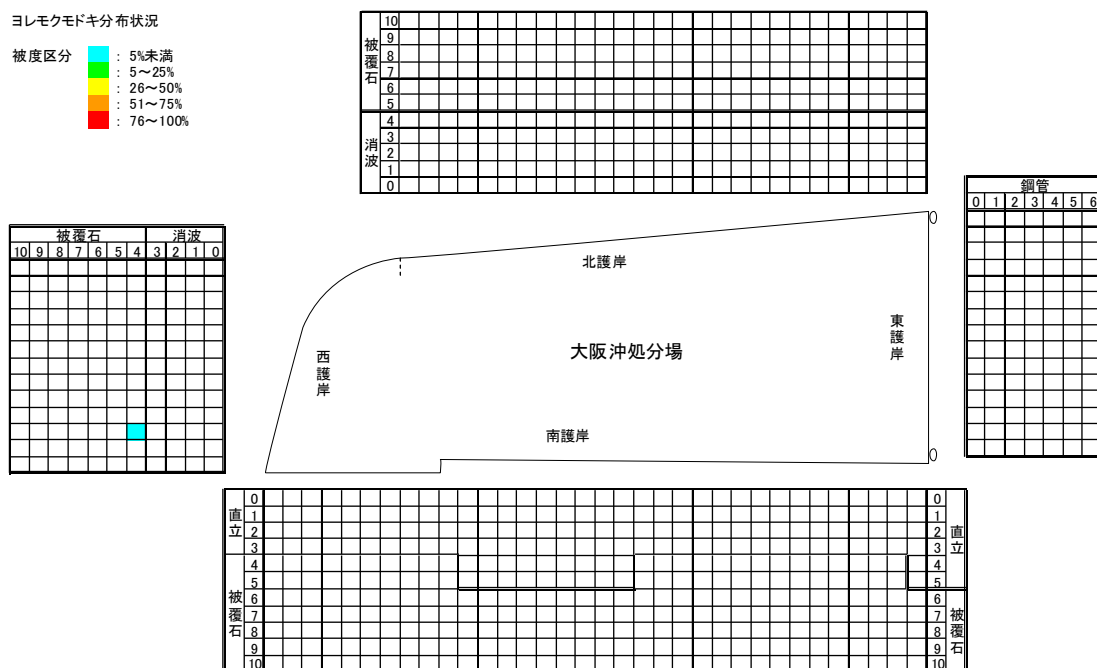
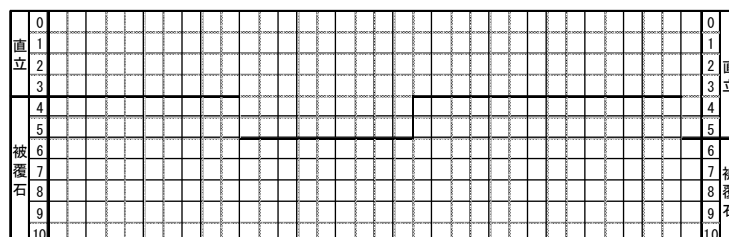
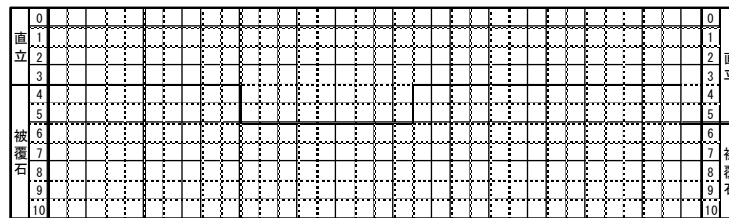


図 3-36 (1) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 大阪沖 平成 21～22 年度調査



〔平成28年春季〕

ヨレモクモドキ分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

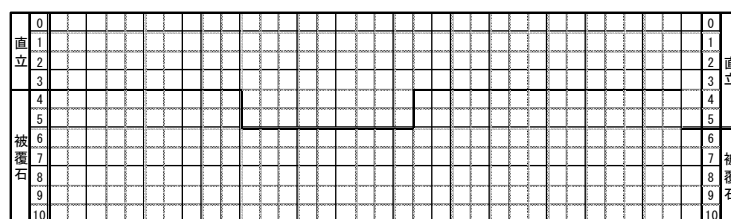
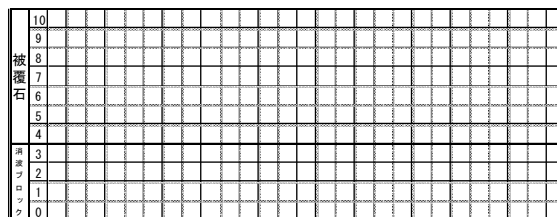
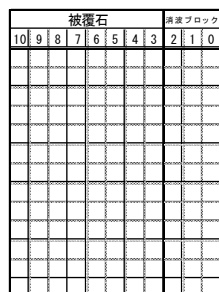


図 3-36 (3) 分布状況の推移 (ヨレモクモドキ) 大阪沖 平成 28 年度調査

【その他 主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 26 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、マクサ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。

① アオサ属（図 3-37）

アオサ属は、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-7m の範囲で広く分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて各護岸の分布範囲は減少傾向にあった。今回の調査では、各護岸の±0～-4m 付近で分布が確認されたが、平成 26 年度と比較して、南護岸を中心として分布範囲の増加傾向がみられた。

② ススカケベニ（図 3-38）

ススカケベニは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-10m 付近で広く分布が確認された。今回の調査では、各護岸の-3～-10m で広く分布が確認されたが、北護岸、南護岸では過年度と比較して分布範囲の減少がみられた。

③ フダラク（図 3-39）

フダラクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-9m 付近で広く分布が確認された。今回の調査では、各護岸の±0～-3m 付近で広く分布が確認されたが、南護岸ではやや分布範囲の縮小傾向を示した。

④ ベニスナゴ（図 3-40）

ベニスナゴは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度および平成 26 年度は平成 22 年度と比較して被度の増加がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-10m で広く分布が確認されたが、平成 24 年度、平成 26 年度に比較して、北護岸では分布範囲および被度の減少が、西護岸では被度の減少がみられた。

⑤ カバノリ（図-41）

カバノリは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度に各護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度は分布が確認されなかった。平成 26 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で広く分布が確認された。今回の調査でも、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認された。

⑥ マクサ (図 3-42)

マクサは、平成 21～22 年度の調査では分布が確認されなかったが、平成 24 年度に北護岸と南護岸の各 1 箇所では分布が確認された。平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。今回の調査では、南護岸の-3m で分布を確認した。

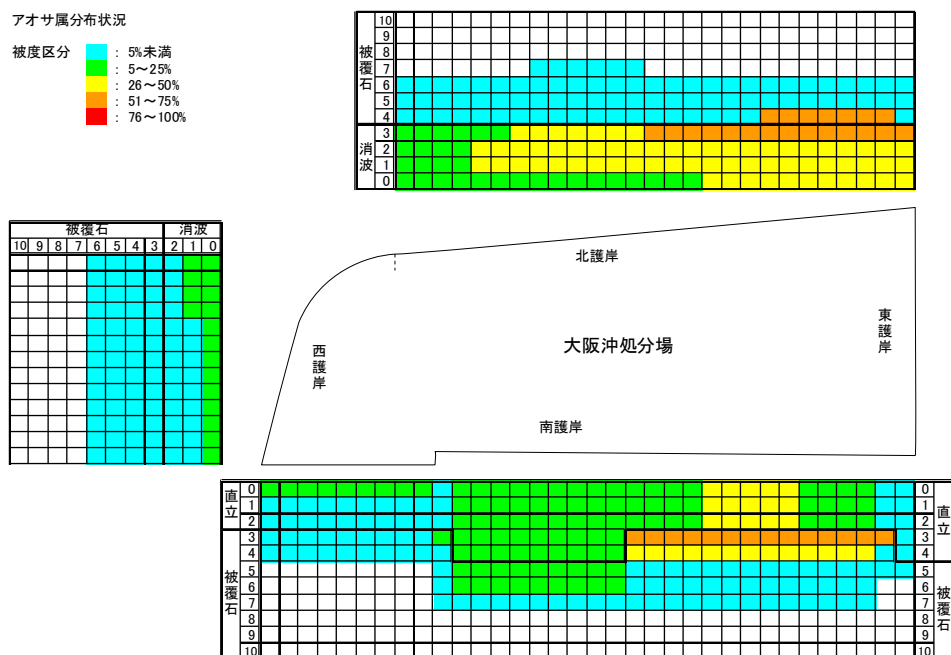
⑦ ツルツル (図 3-43)

ツルツルは、平成 21～22 年度の調査で分布は確認されなかった。平成 24 年度は各護岸の±0～-5m で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸に分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して南護岸、西護岸で分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の 0～-2m に分布が確認され、平成 26 年度と比較して北護岸では分布範囲の減少が、西護岸、南護岸では分布範囲の増加がみられた。

[平成 21 年春季]

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

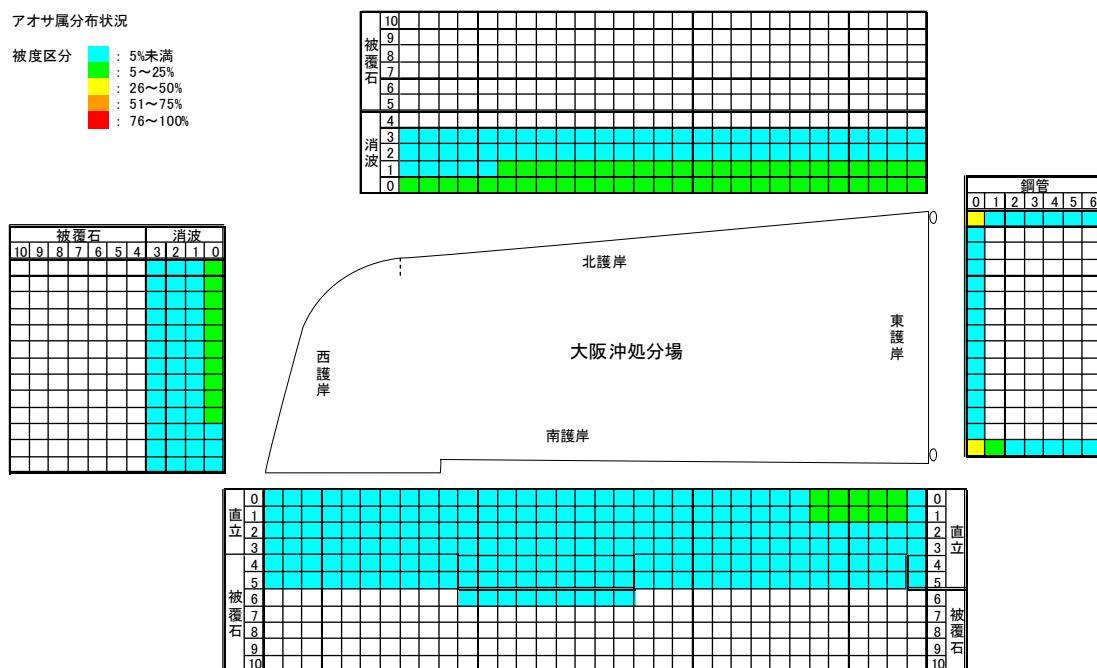
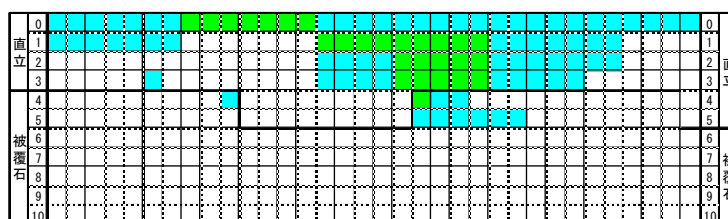
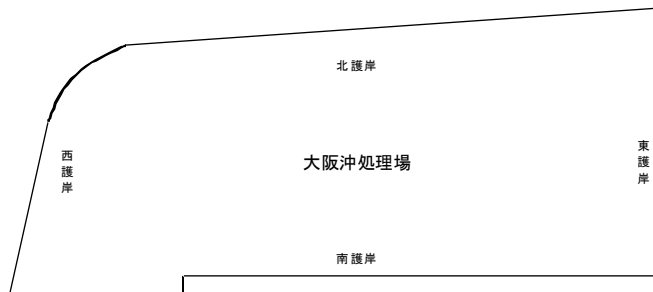
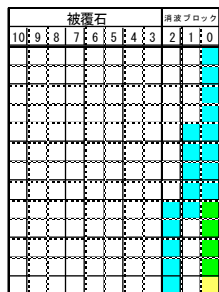


図 3-37 (1) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

アオサ属分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

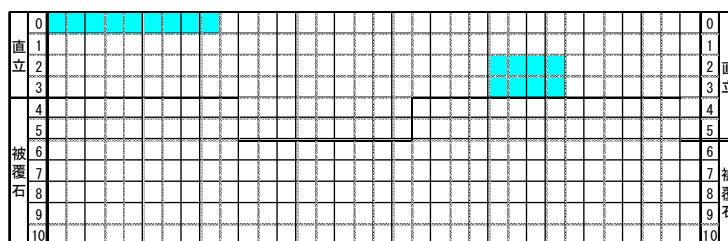
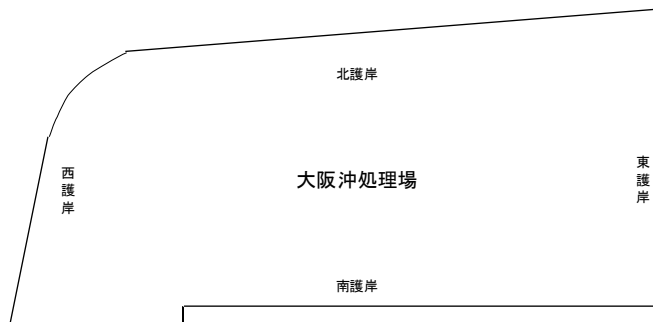
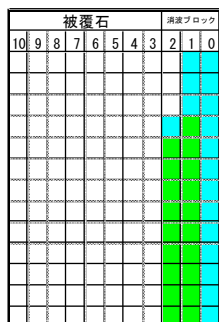


図 3-37 (2) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

アオサ属分布状況

被度区分

5%未満	5%未満
5～25%	5～25%
26～50%	26～50%
51～75%	51～75%
76～100%	76～100%

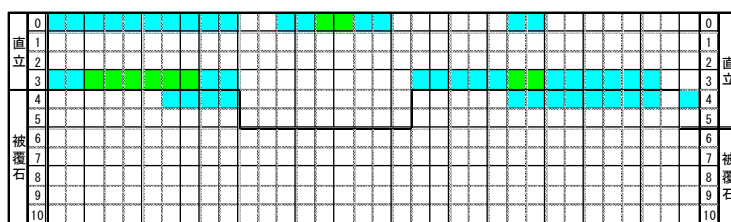
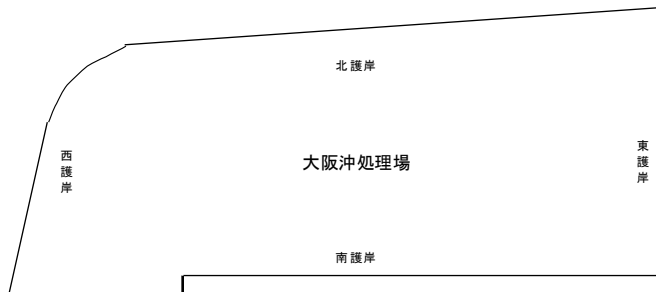
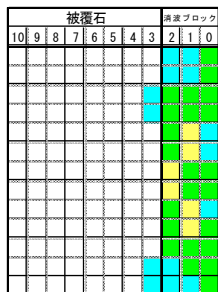
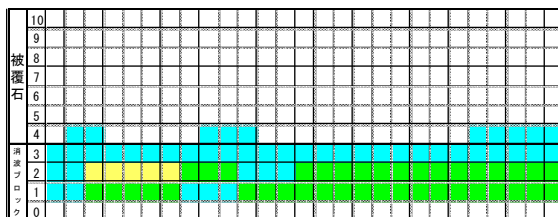


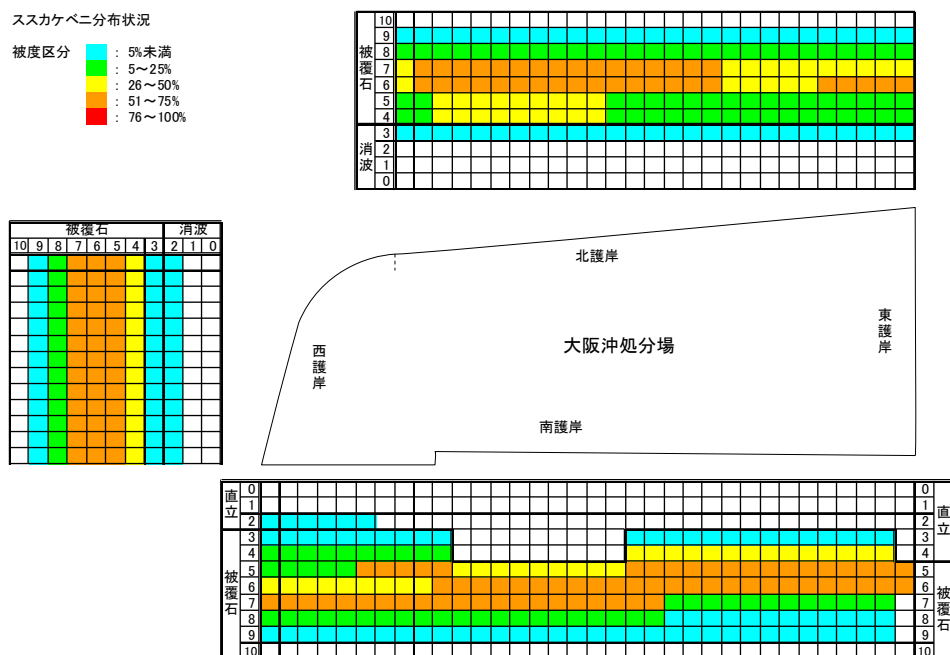
図 3-37 (3) 分布状況の推移 (アオサ属) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分

- 5%未満
- 5～25%
- 26～50%
- 51～75%
- 76～100%



[平成 22 年春季]

ススカケベニ分布状況

被度区分

- 5%未満
- 5～25%
- 26～50%
- 51～75%
- 76～100%

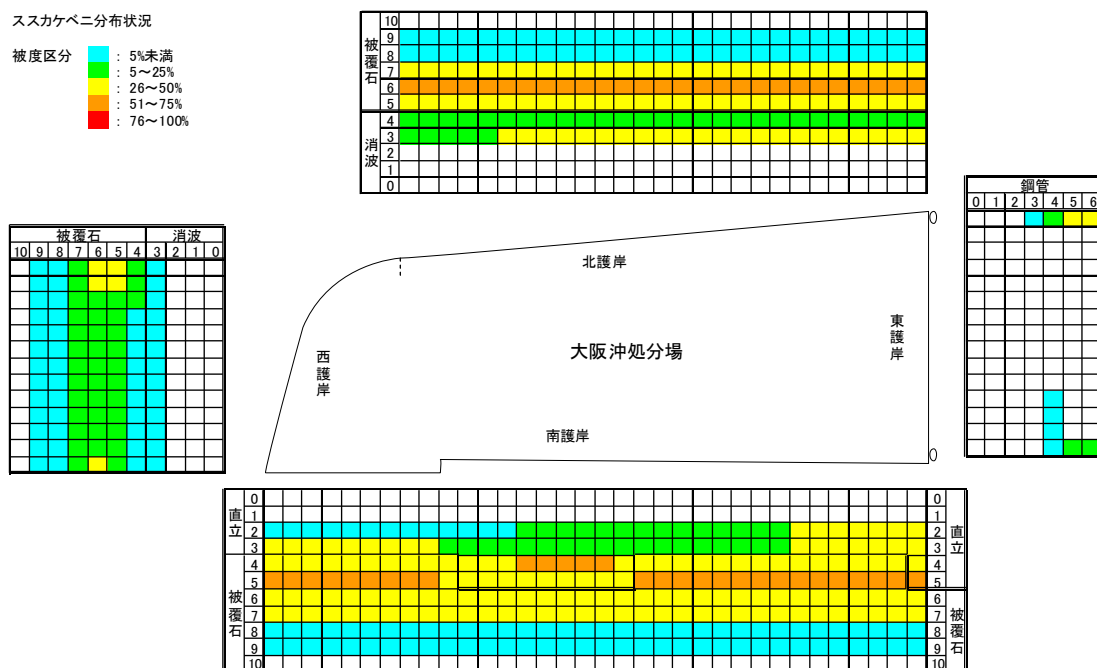
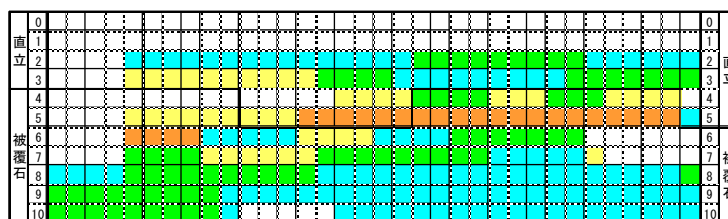
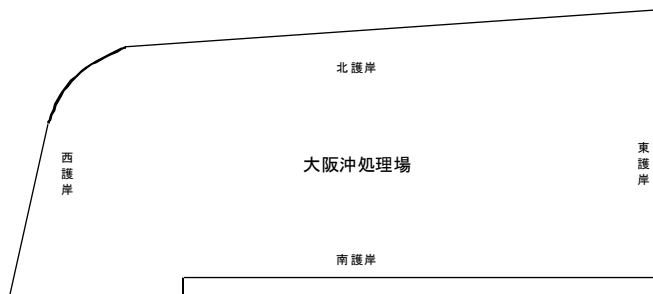
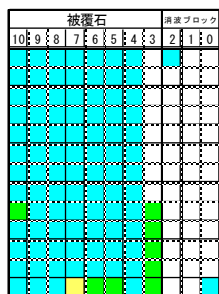
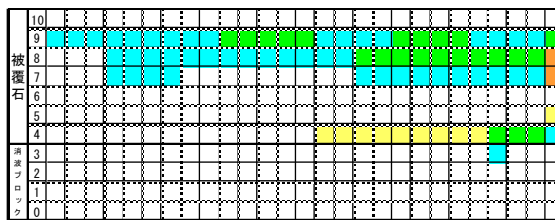


図 3-38 (1) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%



〔平成26年春季〕

ススカケベニ分布状況

被度区分
 5%未満
 5～25%
 26～50%
 51～75%
 76～100%

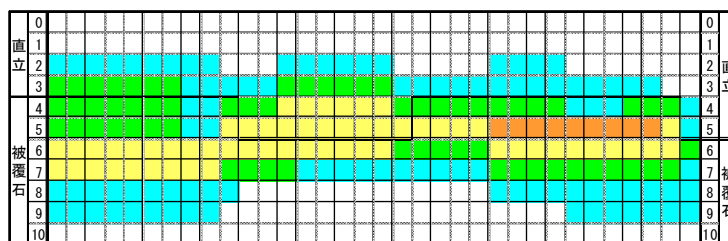
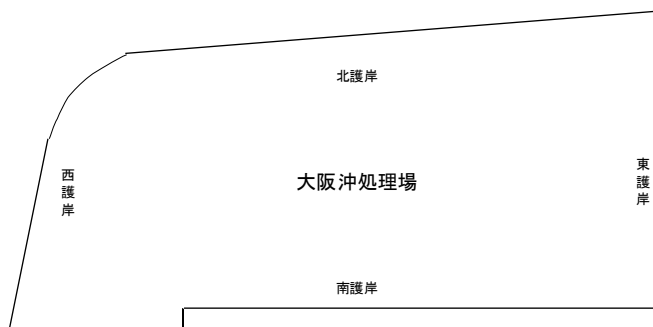
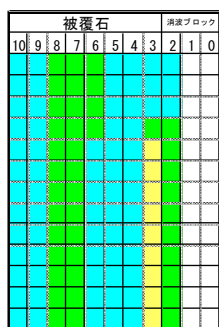
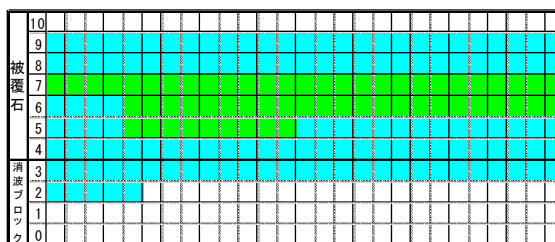


図 3-38 (2) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

ススカケベニ分布状況

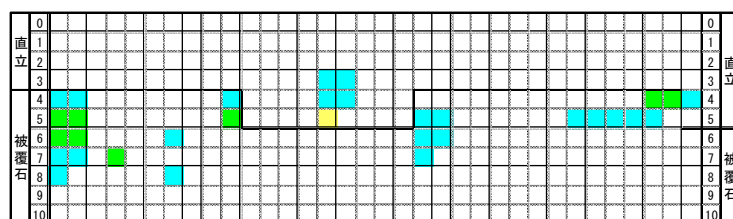
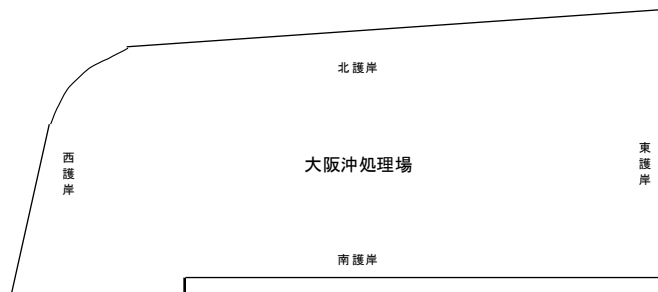
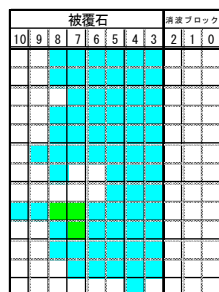
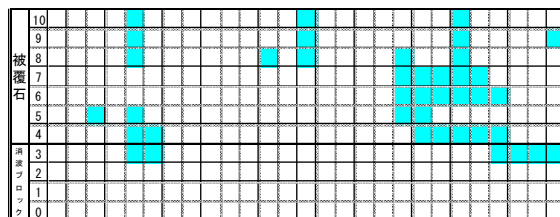
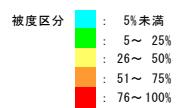
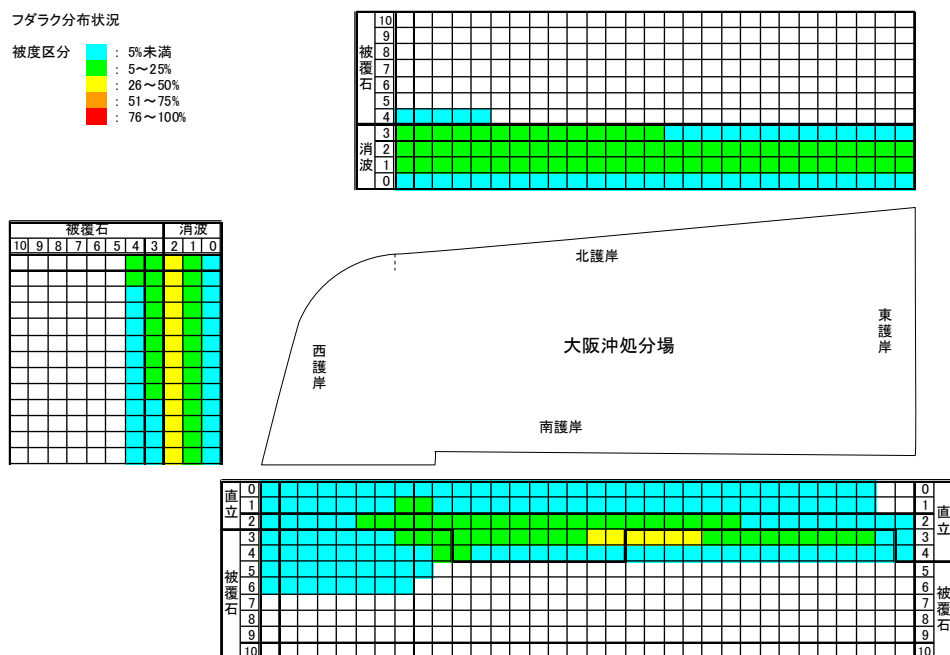


図 3-38 (3) 分布状況の推移 (ススカケベニ) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%



[平成 22 年春季]

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5~25%
■ : 26~50%
■ : 51~75%
■ : 76~100%

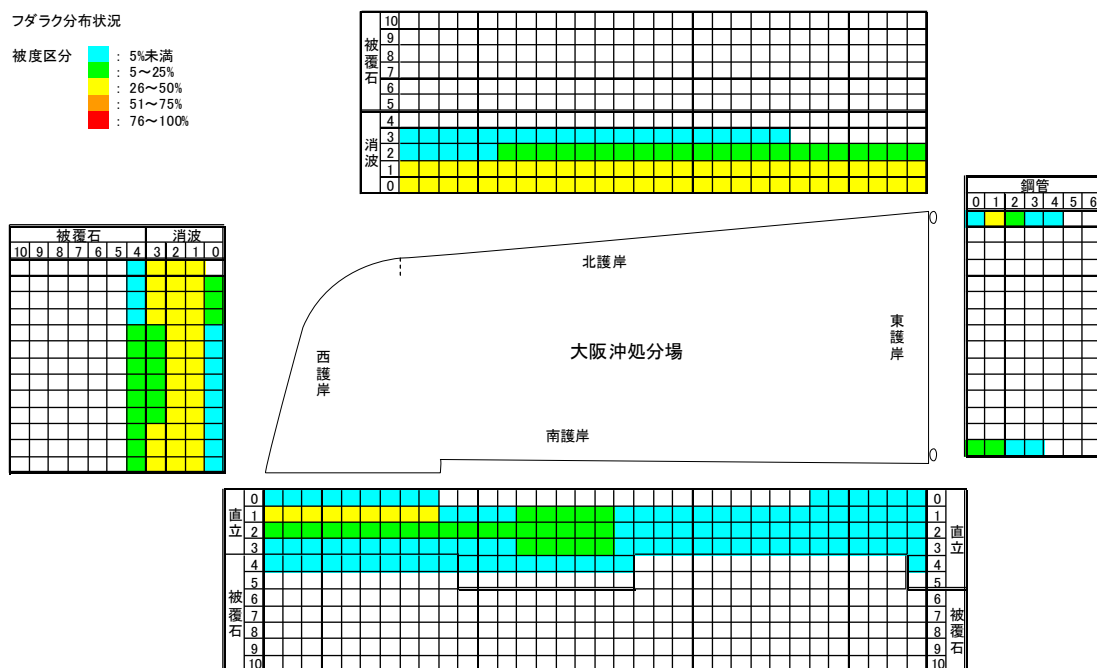
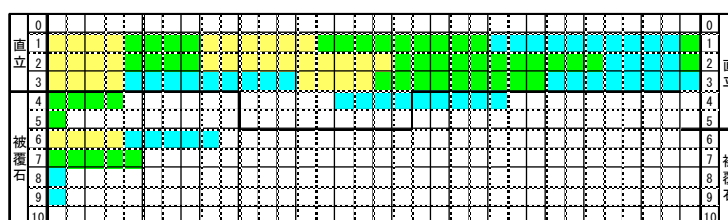
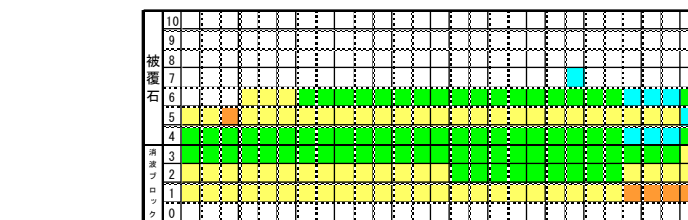
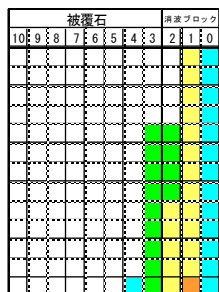


図 3-39 (1) 分布状況の推移 (フダラク) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

フダラク分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

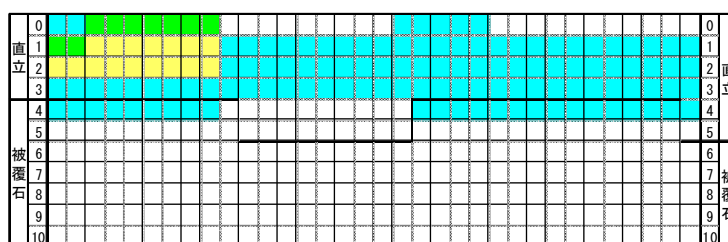
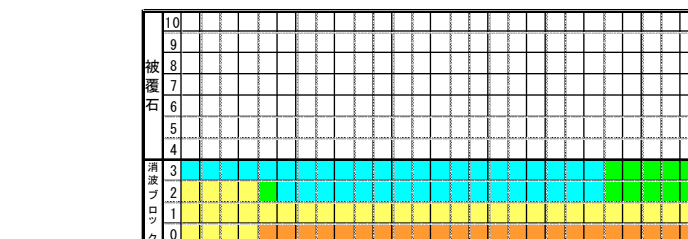
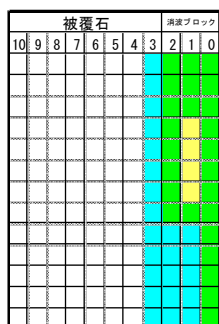


図 3-39 (2) 分布状況の推移 (フダラク) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

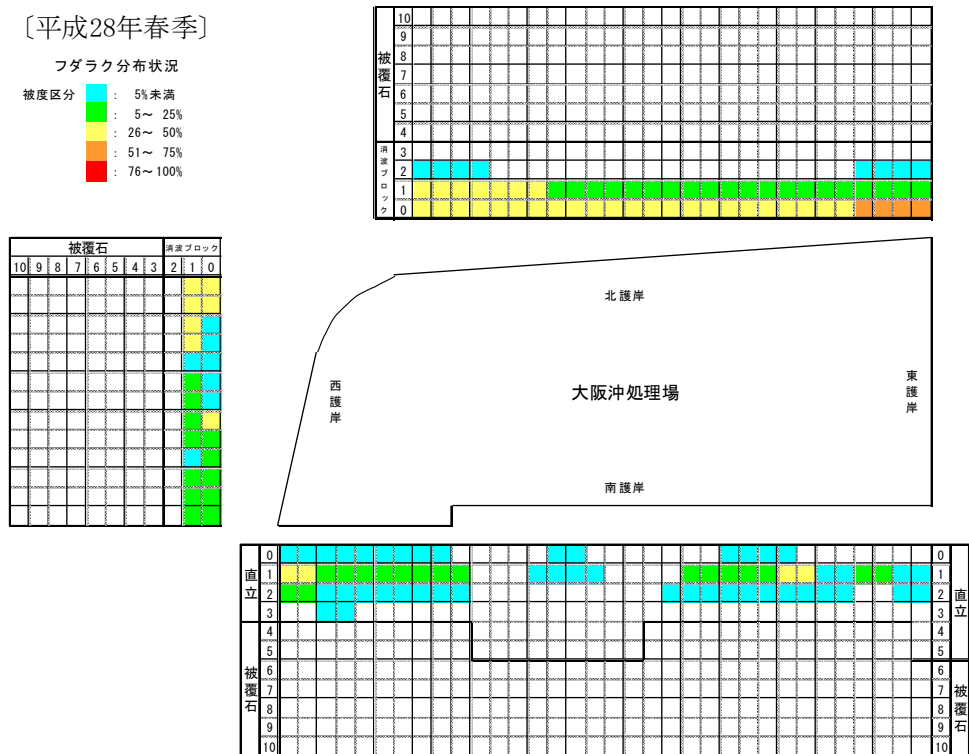
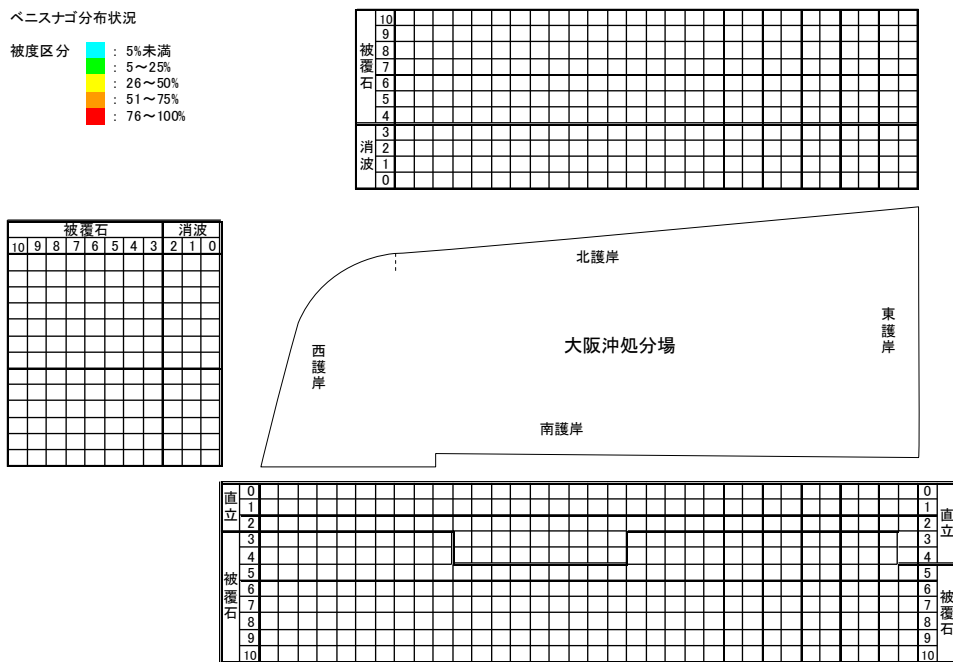


図 3-39 (3) 分布状況の推移 (フダラク) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

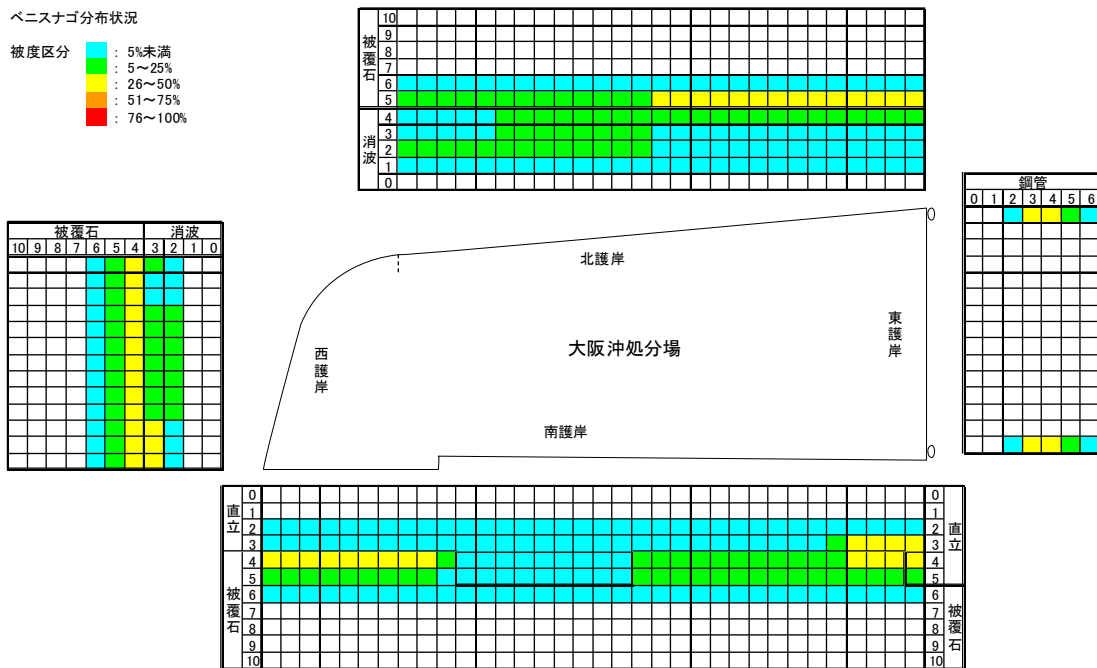
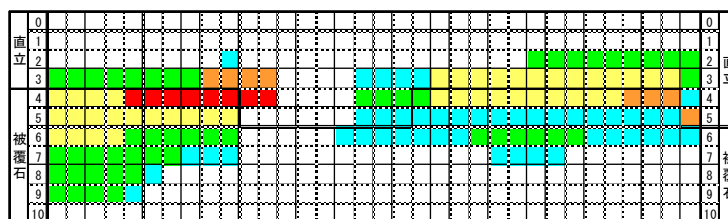
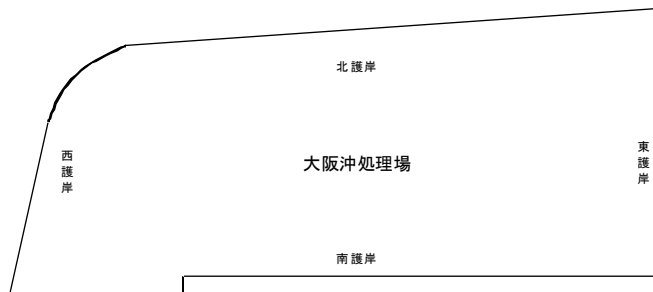
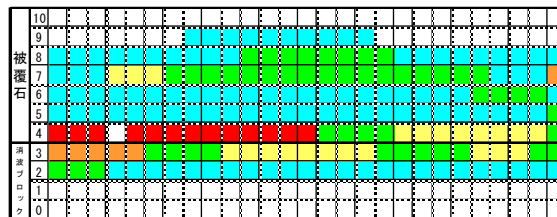
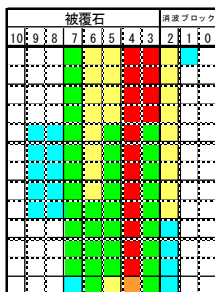


図 3-40 (1) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

ベニスナゴ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

ベニスナゴ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

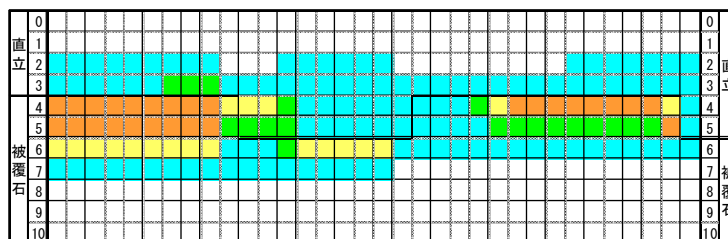
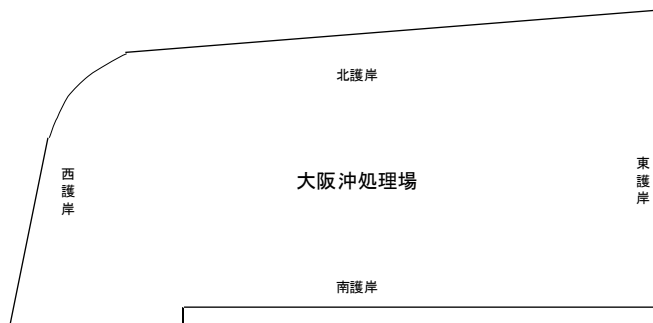
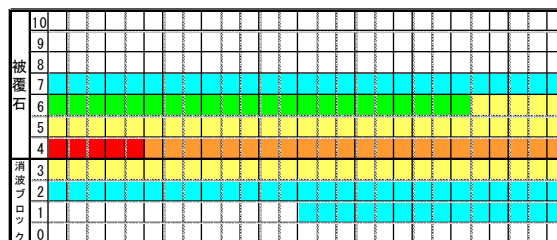
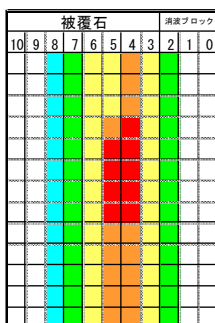


図 3-40 (2) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

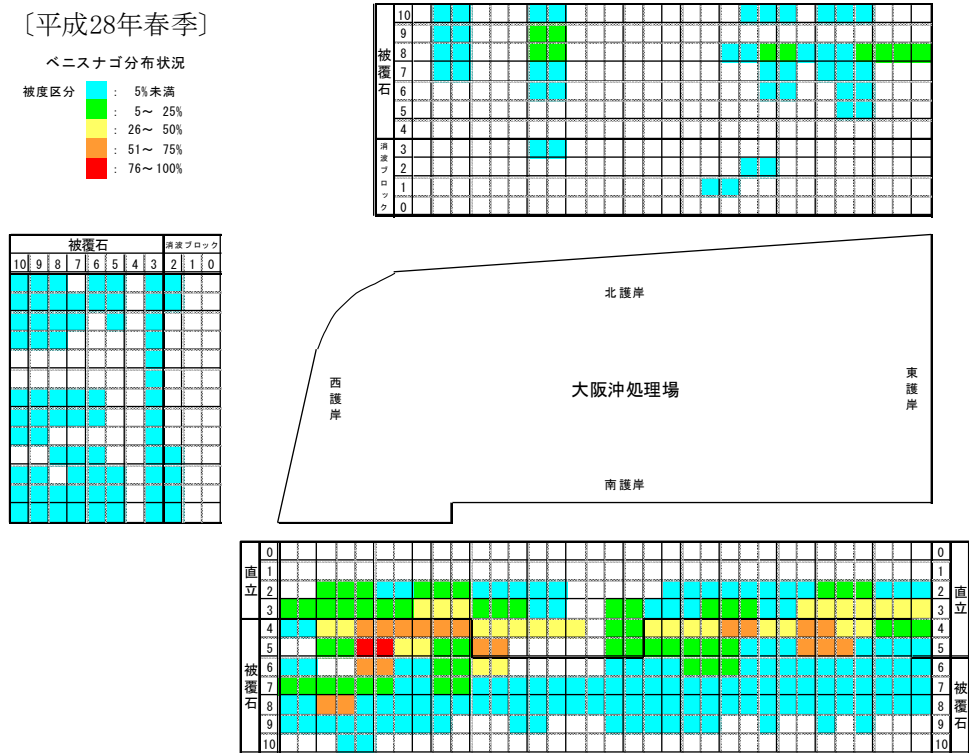
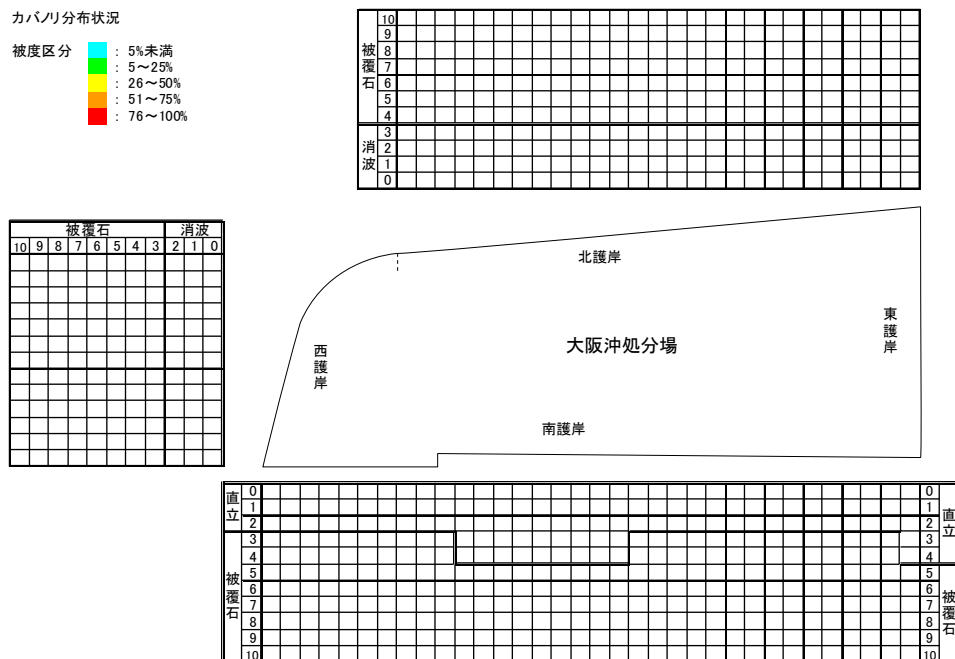


図 3-40 (3) 分布状況の推移 (ベニスナゴ) 大阪沖 平成 28 年度調査

[平成 21 年春季]



[平成 22 年春季]

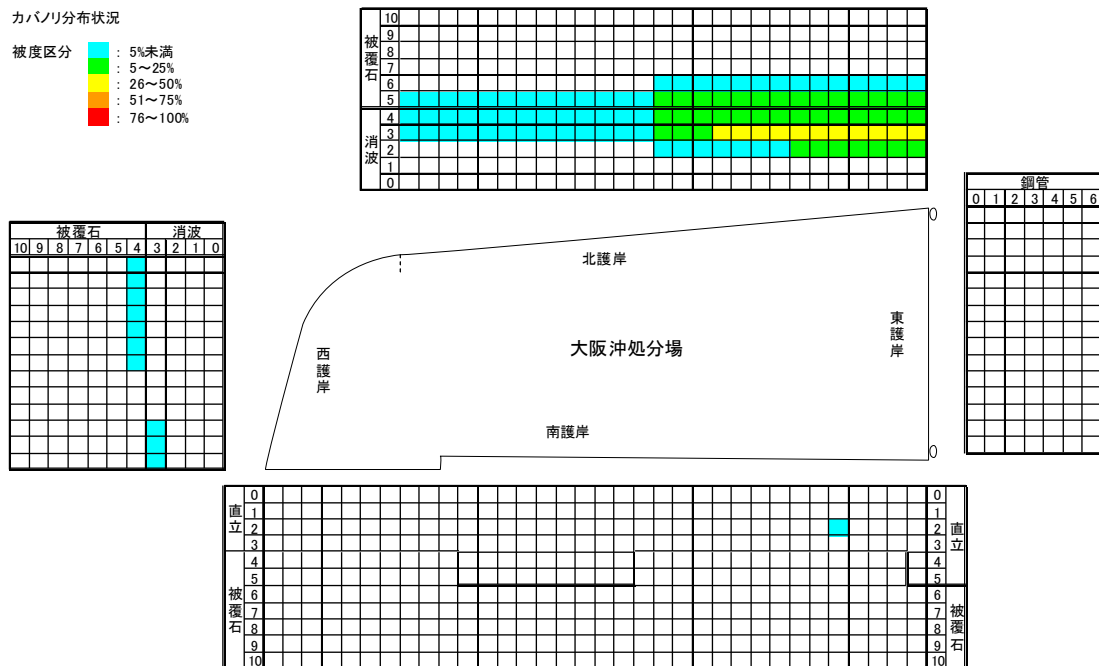
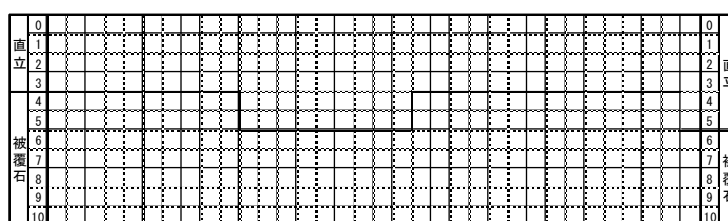
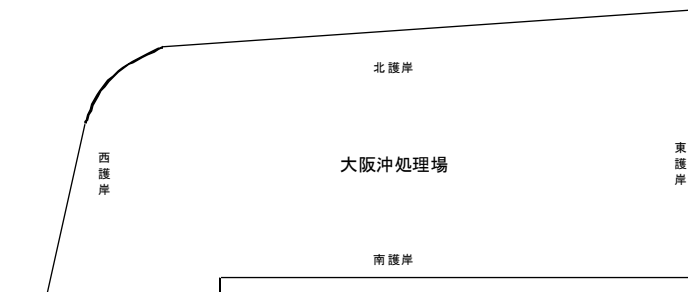
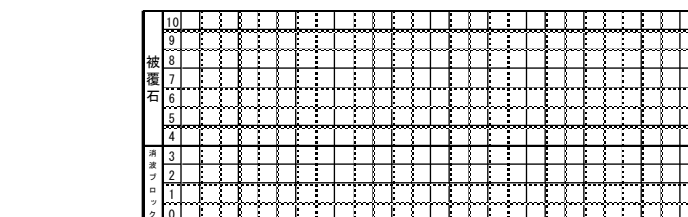
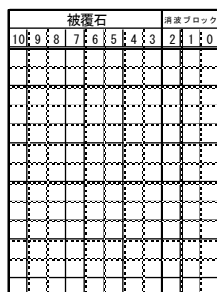


図 3-41 (1) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 平成 21~22 年度調査

〔平成24年春季〕

カバノリ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%



〔平成26年春季〕

カバノリ分布状況

被度区分
■ : 5%未満
■ : 5～25%
■ : 26～50%
■ : 51～75%
■ : 76～100%

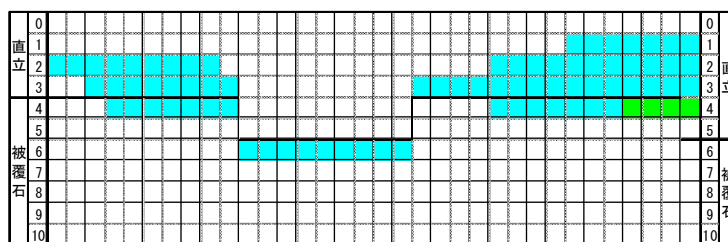
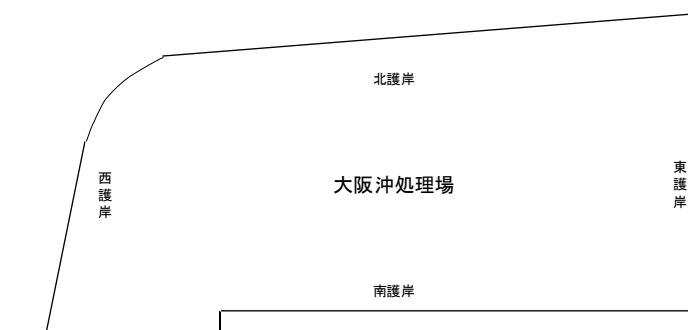
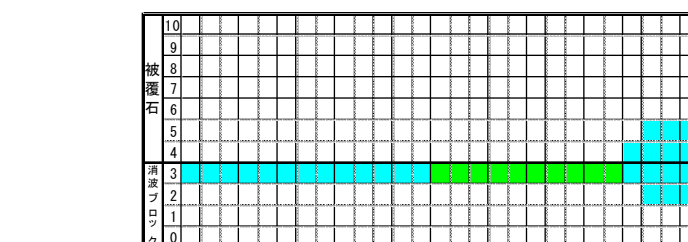
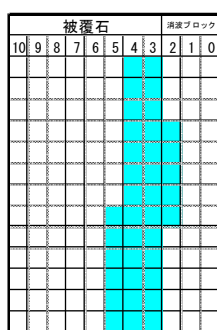


図 3-41 (2) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

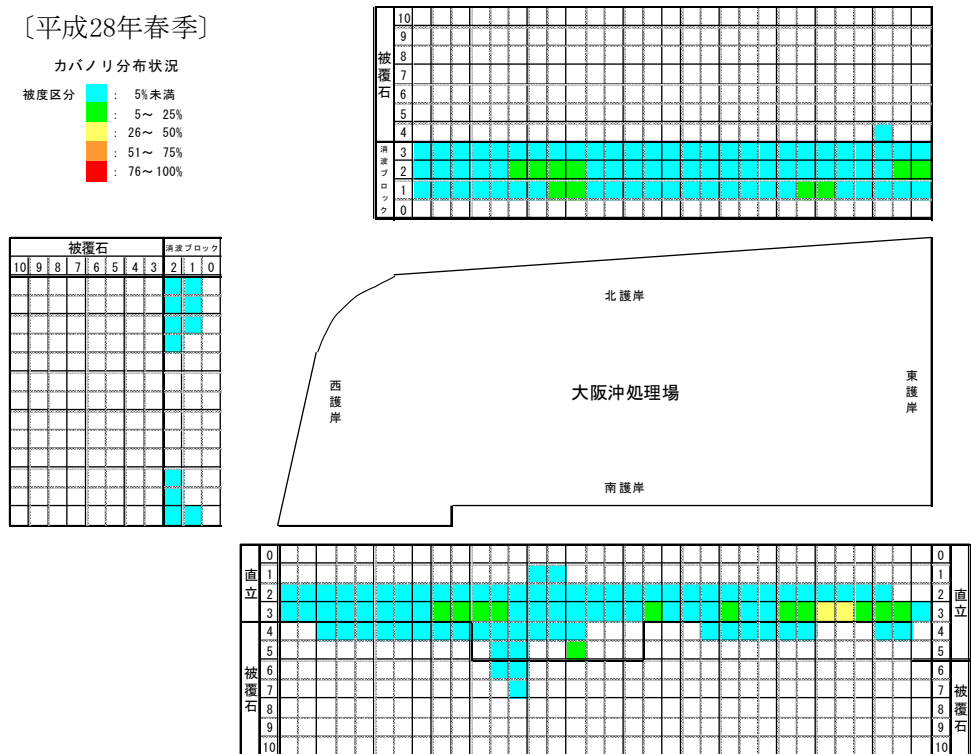
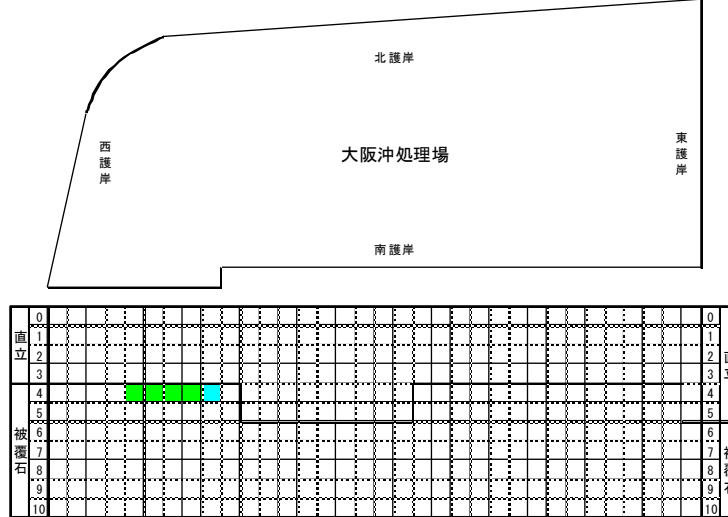
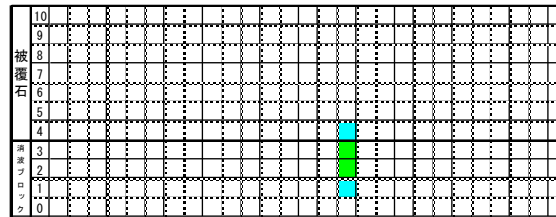
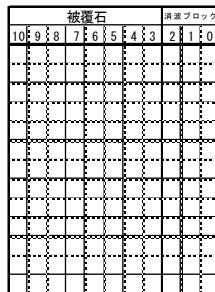


図 3-41 (3) 分布状況の推移 (カバノリ) 大阪沖 平成 28 年度調査

マクサ分布状況

被度区分	5%未満
	5～25%
	26～50%
	51～75%
	76～100%



マクサ分布状況

被度区分		:	5%未満
		:	5～25%
		:	26～50%
		:	51～75%
		:	76～100%

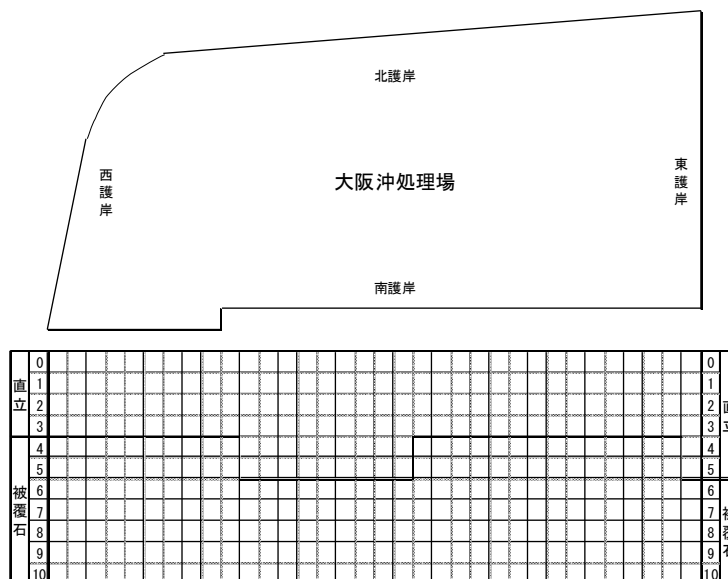
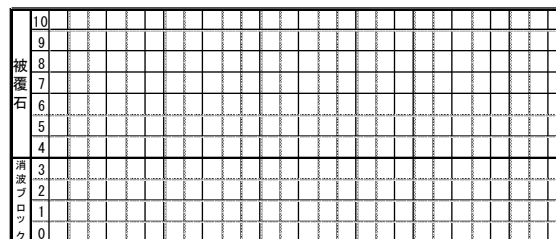
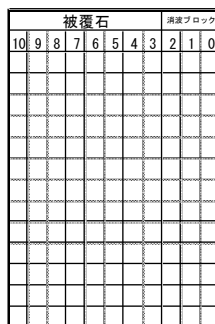


図 3-42 (1) 分布状況の推移 (マクサ) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕

マクサ分布状況

被度区分

- 5%未満
- 5～25%
- 26～50%
- 51～75%
- 76～100%

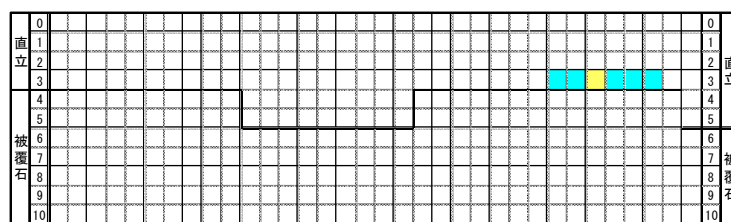
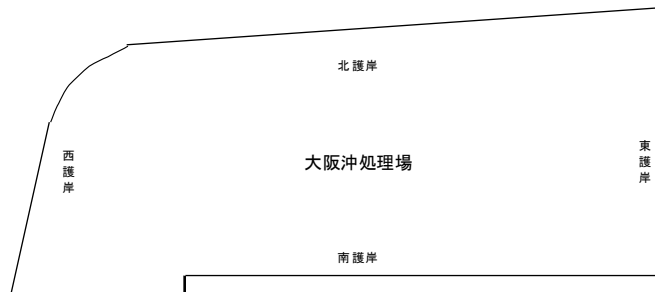
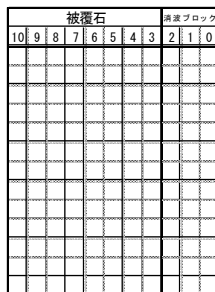
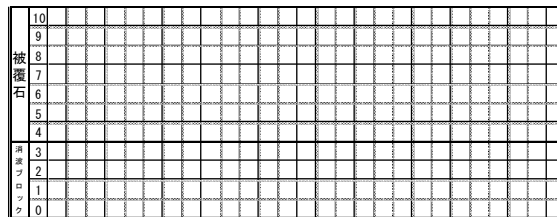
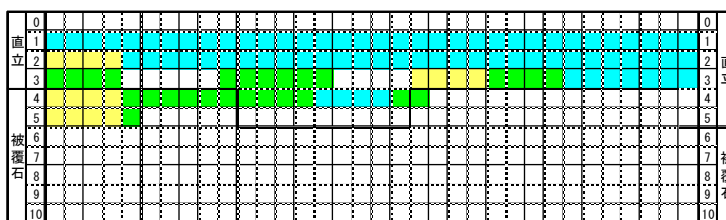
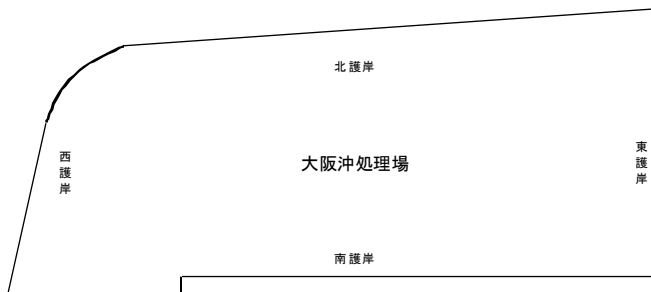
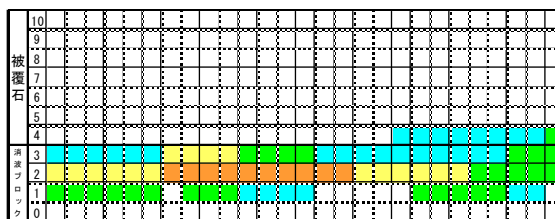
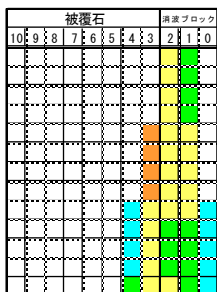
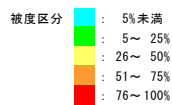


図 3-42 (2) 分布状況の推移 (マクサ) 大阪沖 平成 28 年度調査

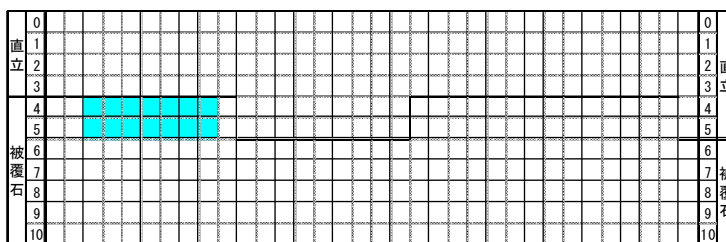
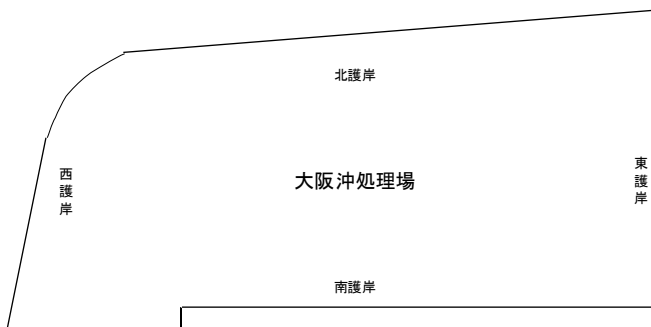
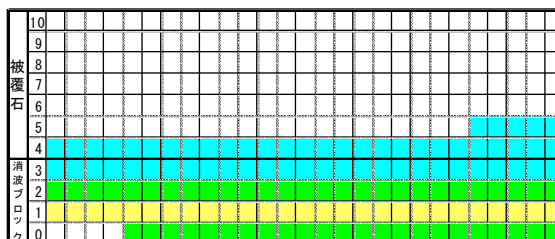
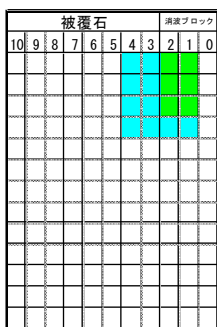
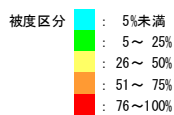
〔平成24年春季〕

ツルツル分布状況



〔平成26年春季〕

ツルツル分布状況



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-43 (1) 分布状況の推移 (ツルツル) 大阪沖 平成 24～26 年度調査

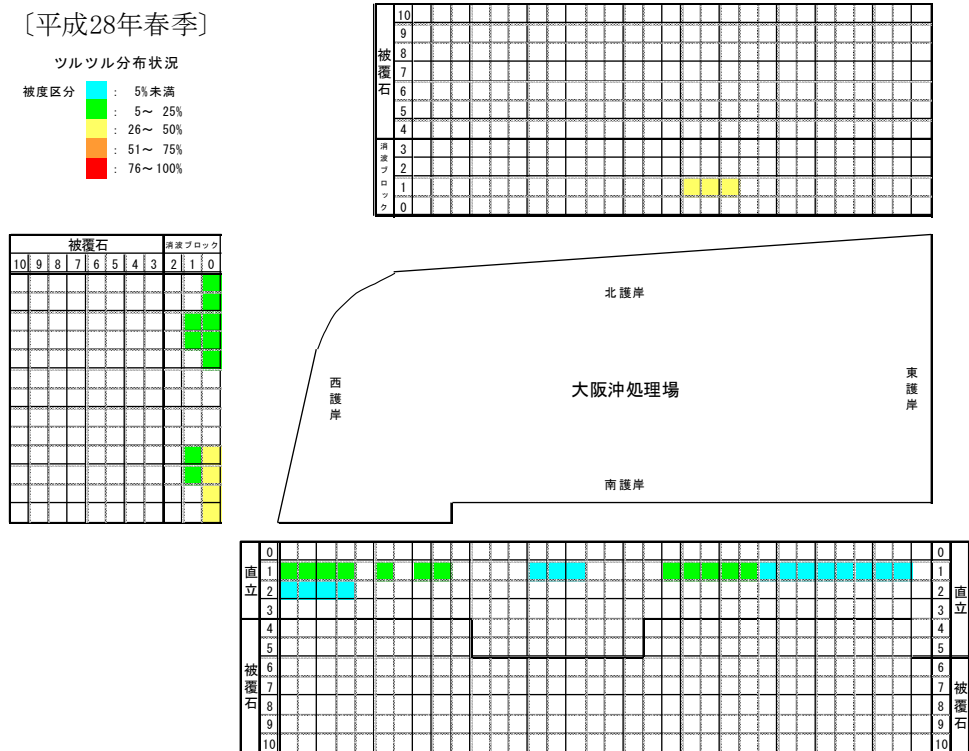


図 3-43 (2) 分布状況の推移 (ツルツル) 大阪沖 平成 28 年度調査

4 結果のまとめ

4-1 付着動植物の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-1 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で緑藻のアオサ属が湿重量の 100% を占め、中層ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 87%、次いで紅藻のマクサが 9% を占めていた。下層ではマクサが 79%、次いで紅藻のイギス科が 9% を占め、紅藻類が優占する状況であった。

過年度の海藻の出現傾向は、平均水面付近（上層）の波当たりの大きい水深帯で緑藻のシオグサ属、アオサ属等の小型藻類が優占し、中層付近でタマハハキモク、ワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が出現し、下層でマクサやススカケベニなどの紅藻類が優占する帯状分布に大きな変化はみられなかった。

表 4-1 坪刈り調査結果概要（植物） 神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
神戸沖 A-2	平成22年 5月30日	出現種類数	11	13	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	28.96	130.83	202.92
		優占種	第1位 シオグサ属 43%	タマハハキモク 84%	マクサ 51%
			第2位 ツノマタ属 36%	イトグサ属 5%	カバノリ 22%
			第3位 アオサ属 18%	フダラク 4%	ススカケベニ 13%
	平成24年 5月26日	出現種類数	4	13	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	254.04	74.91	722.72
		優占種	第1位 アオサ属 99%	ムカデノリ 33%	ススカケベニ 55%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	タマハハキモク 30%	ベニスナゴ 26%
			第3位 アオノリ属 <0.1%	イトグサ属 22%	マクサ 14%
	平成26年 6月1日	出現種類数	4	17	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	32.53	125.78	71.83
		優占種	第1位 アオサ属 100%	ムカデノリ 60%	マクサ 38%
			第2位 シオグサ属 0.1%	タマハハキモク 30%	ムカデノリ 27%
			第3位 アオノリ属 <0.1% イソダンツウ <0.1%	フダラク 5%	カバノリ 24%
	平成28年 5月28日	出現種類数	6	14	14
		総湿重量 (g/0.25m ²)	93.09	159.32	4.7
		優占種	第1位 アオサ属 100%	ワカメ 87%	マクサ 79%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	マクサ 9%	イギス科 9%
			第3位 藍藻綱 <0.1% マルバアマノリ <0.1% イソダンツウ <0.1% イギス科 <0.1%	カバノリ 4%	カバノリ 7%

〔 動 物 〕

表 4-2 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 98%、湿重量において 94% で大半を占めていた。中層では、環形動物のミズヒキゴカイ科（移動性）が個体数において 52%、湿重量において 75% で過半を占めていた。下層では甲殻類の Aoroides 属（移動性）が個体数において 45% を占め、次いで二枚貝類のキヌマトイガイ（固着性）が 23% を占めていた。湿重量においてはイトマキヒトデ（移動性）が 40%、次いで巻貝類のイボニシ（移動性）が 13% を占めていた。

これまでの調査と比較して、上層ではムラサキイガイの占める割合が高くなっており、中層～下層ではキヌマトイガイ、微小甲殻類（移動性）、ヒトデ類（移動性）が優占している状況に大きな変化はみられないが、中層でミズヒキゴカイ科が個体数、湿重量ともに最優占したことは、今までにない傾向である。

表 4-2 坪刈り調査結果概要（動物） 神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
神戸沖 A-2	平成22年 5月30日	出現種類数	24	63	65
		総個体数 (個体/0.25m ²)	246	13662	3296
		総湿重量 (g/0.25m ²)	2.38	237.47	103.7
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 33%	マルエワレカラ 49%	マルエワレカラ 38%
			第2位 ヒゲカヨコヒ属 18%	エガサネナガシ 23%	オサデワレカラ 16%
			第3位 ユスリ科幼虫 13%	キヌマトイガイ 11%	ムギガイ 13%
		優占種 (湿重量)	第1位 カラマツガイ 35%	イトマキヒトデ 34%	イトマキヒトデ 28%
			第2位 ムラサキイガイ 13%	エガサネナガシ 32%	レイシガイ 23%
			第3位 チゴケムシ 13%	ムギガイ 9%	ムギガイ 17%
	平成24年 5月26日	出現種類数	20	37	48
		総個体数 (個体/0.25m ²)	2105	15472	7178
		総湿重量 (g/0.25m ²)	21.13	126.97	95.2
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 41%	キヌマトイガイ 50%	Zeuxo属 17%
			第2位 ユスリ科幼虫 24%	Zeuxo属 33%	トゲワレカラ 17%
			第3位 タマキビ 7%	マルエワレカラ 4%	キヌマトイガイ 13%
		優占種 (湿重量)	第1位 カラマツガイ 34%	キヌマトイガイ 29%	イトマキヒトデ 28%
			第2位 マガキ 24%	レイシガイ 17%	キヌマトイガイ 11%
			第3位 ムラサキイガイ 18%	イトマキヒトデ 15%	レイシガイ 10%
	平成26年 6月1日	出現種類数	17	70	92
		総個体数 (個体/0.25m ²)	3401	5434	7175
		総湿重量 (g/0.25m ²)	72.14	45.32	64.2
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 91%	キヌマトイガイ 45%	Caprella属 22%
			第2位 ユスリ科幼虫 3%	マルエワレカラ 15%	キヌマトイガイ 18%
			第3位 イワフジツボ 2%	トゲワレカラ 10%	Monocorophium属 11%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 88%	キヌマトイガイ 56%	キヌマトイガイ 27%
			第2位 マガキ 6%	マルエワレカラ 8%	キヒトデ 10%
			第3位 カラマツガイ 2%	ムギガイ 7%	Cirratulus属 9%
	平成28年 5月28日	出現種類数	24	43	41
		総個体数 (個体/0.25m ²)	21669	3197	503
		総湿重量 (g/0.25m ²)	265.77	117.25	11.47
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 98%	ミスヒキゴカイ科 52%	Aoroides属 45%
			第2位 シロマダラリス 0.5%	Caprella属 15%	キヌマトイガイ 23%
			第3位 シラソウミゼミ 0.3%	キヌマトイガイ 7%	ムギガイ 5%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 94%	ミスヒキゴカイ科 75%	イトマキヒトデ 40%
			第2位 イボニシ 4%	イトマキヒトデ 8%	イボニシ 13%
			第3位 ヒトツブゴカイ 1%	Thelepus属 4%	キヌマトイガイ 11%

・目視観察による調査結果

[植 物]

表 4-3 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点では、平均水面付近の主要種は経年的にアオサ属、アオノリ属などの小型の緑藻類であった。これまでの調査では水深-1～-4m で主要種となっていたタマハハキモク（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）は、今回の調査では少なかった。また、今回の調査では-3～-6m では紅藻のイギス目が主要種となっていた。

A-4 の地点では、平均水面付近の主要種は緑藻のアオサ属やシオグサ属、紅藻のツノマタ属やフダラクなどであった。また、これまでの調査で主要種になったことのあるタマハハキモク、ワカメ（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）が、今回の調査ではみられなかった。今回の調査では、-4～-7m では紅藻のカバノリやイギス目が主要種となっていた。

A-5 の地点では、これまでの調査では-1m 付近でアオサ属が確認され、-2m 以深でベニスナゴ、サビ亜科、イギス目などの紅藻が多くみられたが。今回の調査では、-2～-4m では紅藻のイギス目が主要種となっていた。

表 4-3 目視調査結果概要（植物） 神戸沖埋立処分場

A-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケ-ソ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	藍藻綱	アオサ属 珪藻綱	タマハハキモク ツルツル フダラク	ムカデノリ属 イギス科 マクサ ベニスナゴ	シダモク イギス科 マクサ ベニスナゴ	マクサ ベニスナゴ カバノリ	イギス科 マクサ カバノリ ススカケベニ	イギス科 タオヤギソウ ススカケベニ	イギス科 ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	アオノリ属	アオサ属	タマハハキモク	ツルツル イギス目	ツルツル	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ タオヤギソウ	-	イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	アオサ属	-	タマハハキモク ムカデノリ カバノリ	タマハハキモク マクサ カバノリ	タマハハキモク マクサ	ムカデノリ イトグサ属	イトグサ属	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	-	アオサ属	-	-	イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	6	8	8	7	8	7	6	3	2	1	0	-
	平成24年5月26日	1	8	11	10	8	6	5	8	7	3	1	2	-
	平成26年6月1日	1	2	7	10	9	7	7	6	4	1	2	1	0
	平成28年5月28日	2	3	6	9	7	8	6	6	4	1	1	1	-

A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	フ-ロ	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	-	シオグサ属 ツノマタ属 フダラク	シオグサ属 フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク	アオサ属 フダラク ベニスナゴ イギス科 カバノリ	ベニスナゴ イギス科	ベニスナゴ サンゴモ目 ススカケベニ	サンゴモ目 ススカケベニ	ススカケベニ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	アオサ属	ツルツル	ツルツル イギス目	ツルツル カバノリ イギス目	フダラク ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ イギス目	-	-	-
	平成26年6月1日	-	-	フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク ツノマタ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	-	マクサ	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	-	アオサ属	-	-	-	カバノリ イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	5	7	11	11	6	6	5	2	2	0	0	-
	平成24年5月26日	0	5	8	9	8	12	6	5	5	5	1	0	-
	平成26年6月1日	0	2	5	9	8	7	11	6	4	4	2	2	1
	平成28年5月28日	0	5	6	7	6	4	3	5	4	4	1	0	-

A-5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	ケ-ソ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	-	アオノリ属 珪藻綱	アオサ属 珪藻綱	アオサ属 シオグサ属	-	サンゴモ目 イワノカワ科	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	-	-	-
	平成24年5月26日	-	-	アオサ属	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	イギス目	イギス目	-	-
	平成26年6月1日	-	-	アオサ属 フダラク	ベニスナゴ	ベニスナゴ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	ススカケベニ	-
	平成28年5月28日	-	-	-	イギス目	イギス目	イギス目	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	3	7	5	2	4	3	2	3	2	1	0	-
	平成24年5月26日	0	0	5	6	5	6	6	8	7	4	3	4	0
	平成26年6月1日	0	0	6	3	6	8	8	6	5	3	3	2	0
	平成28年5月28日	0	0	2	4	4	3	4	4	2	2	2	2	0

※主要種：観察時の出現被度が10%以上の種を抽出

〔 動 物 〕

表 4-4 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のタマキビ、アラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面以深では二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）やカンザシゴカイ科（固着性）が多く出現した。今回の調査も同様の傾向であるが、これまでの調査と比較して、ヒトデ類（移動性）があまりみられなかった。

A-4 の地点の今回の調査では、平均水面付近の主要種はアラレタマキビ、コモレビコガモガイなどの移動性の貝類、前回までの調査では見られなかった二枚貝類のイタボガキ科、ムラサキイガイであった。-2~-3m 付近でカンザシゴカイ科、-3m 以深ではキヒトデが多くなっており、これまでの調査と同様の傾向を示した。

A-5 の地点の今回の調査では、平均水面+1m では、アラレタマキビが多くみられた。平均水面付近の主要種は、イワフジツボ（固着性）であった。-1~-2m で巻貝のレイシガイ（移動性）、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科が、-3m 以深ではカンザシゴカイ科、キヒトデ、イトマキヒトデ、マナマコが多くみられた。これまでの調査と同様の傾向を示した。

表 4-4 目視調査結果概要（動物） 神戸沖埋立処分場

A-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケ-ソ-ン	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ	-	カンザシゴカイ科 レイシガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ	イボニシ カラマンガイ	イボニシ	イボニシ	イボニシ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	ムギガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	カラマンガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱	-	キヒトデ	-	-	-	-
	平成28年5月28日	タマキビ アラレタマキビ	ムラサキイガイ	-	-	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	7	5	3	4	4	4	5	3	1	2	0	-
	平成24年5月26日	4	4	5	4	4	11	7	11	6	4	4	3	-
	平成26年6月1日	3	5	5	6	7	7	8	6	5	5	4	5	0
	平成28年5月28日	3	5	6	4	5	6	9	9	4	3	2	0	-

A-4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック	フ-ロ-ック砂泥	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 イボニシ	ネモレツギンチウ カンザシゴカイ科 コケムシ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ イワフジツボ	レイシガイ イボニシ キクノハナガイ	レイシガイ サンカクフジツボ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科	-	レイシガイ	-	キヒトデ	イトマキヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	タマキビ アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	海綿動物門 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	コモレビコ ムラサキイガイ イタボガキ科	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 キヒトデ	裸鰓目 キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	2	8	7	5	3	5	1	2	1	0	0	1	-
	平成24年5月26日	4	5	9	9	6	9	11	7	7	4	4	1	-
	平成26年6月1日	3	8	6	7	8	8	5	4	4	2	2	1	1
	平成28年5月28日	2	7	7	7	11	10	8	7	7	4	4	2	-

A-5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
	調査日 基質	ケ-ソ-ン	ケ-ソ-ン	ケ-ソ-ン	ケ-ソ-ン	ケ-ソ-ン	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	タマキビ アラレタマキビ	-	レイシガイ イトマキヒトデ	レイシガイ ヨ-ロッパフジツボ	ヨ-ロッパフジツボ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-
	平成24年5月26日	-	イワフジツボ クロフジツボ	レイシガイ イトマキヒトデ	レイシガイ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	サンカクフジツボ	カゴメガイ イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ	キヒトデ	-	-
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	ヨメカサガイ コモレビコ カラマンガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	苔虫綱	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-	-	-	-
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	マナマコ	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	4	6	5	3	6	6	6	4	5	2	1	0	-
	平成24年5月26日	1	5	7	9	8	5	5	5	8	8	5	6	0
	平成26年6月1日	1	9	8	12	13	13	13	13	10	6	6	6	1
	平成28年5月28日	2	7	8	9	12	9	10	6	6	7	7	5	0

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

(2) 大阪沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-5 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で緑藻のアオサ属が 78%を占めており、中層ではツノマタが 57%、次いでオオバツノマタが 15%と、紅藻類が優占していた。下層では、紅藻のフクロノリが 61%を占めていた。

これまでの調査と比較すると、上層では緑藻のアオサ属など小型藻類が優占している状況は同じであったが、中層では前回調査の藻場を構成するワカメやタマハハキモクといった大型褐藻類の出現はなく、平成 22 年度、平成 24 年度と同様に紅藻類が優占していた。また、下層では前回以前の紅藻類に代わって小型褐藻類のフクロノリが優占していた。

表 4-5 坪刈り調査結果概要（植物） 大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (M.W.L. -2m)	下層 (M.W.L. -4m)
大阪沖 C-2	平成22年 5月29日	出現種類数	6	17	16
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.98	132.22	368.18
		優占種	第1位 アオサ属 89%	ススカケベニ 51%	ススカケベニ 93%
			第2位 アオノリ属 8%	ベニスナゴ 15%	フダラク 7%
			第3位 シオグサ属 3%	フダラク 14%	ツノマタ属 <0.1%
	平成24年 6月3日	出現種類数	5	14	16
		総湿重量 (g/0.25m ²)	7.46	1819.04	849.48
		優占種	第1位 アオサ属 95%	フダラク 89%	ベニスナゴ 61%
			第2位 ツノマタ属 2%	オオバツノマタ 8%	ワカメ 21%
			第3位 コスジフツナギ 1%	タマハハキモク 3%	オオバツノマタ 3%
	平成26年 5月31日	出現種類数	3	14	15
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1.45	626.89	362.29
		優占種	第1位 アオサ属 98%	ワカメ 42%	ベニスナゴ 81%
			第2位 藍藻綱 2%	タマハハキモク 40%	ツルツル 13%
			第3位 シオグサ属 <0.1%	ムカデノリ属 6%	ワカメ 4%
	平成28年 5月29日	出現種類数	10	12	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	12.6	465.33	4.69
		優占種	第1位 アオサ属 78%	ツノマタ 57%	フクロノリ 61%
			第2位 シオグサ属 16%	オオバツノマタ 15%	アオサ属 14%
			第3位 ツノマタ 4%	フダラク 14%	ワカメ 14%

〔 動 物 〕

表 4-6 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 83%、湿重量において 91%を占めていた。中層では、マルエラワレカラ（移動性）が個体数において 57%、二枚貝のマガキ（固着性）が湿重量において 41%を占めていた。下層では、Aoroides 属（移動性）が個体数において 37%、尋常海綿綱（固着性）が湿重量において 40%を占めていた。

これまでの調査と比較して、ムラサキイガイやワレカラ類等が優占種となっている状況に大きな変化はみられないが、中層では優占種であったカンザシゴカイ類やムラサキイガイに代わって、マガキが優占種となっていた。また、下層の湿重量において尋常海綿綱がシマメノウフネガイやコシダカガンガラに変わり優占種となっていた。

表 4-6 坪刈り調査結果概要（動物） 大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L. ±0m)	中層 (M.W.L. -2m)	下層 (M.W.L. -4m)
大阪沖 C-2	平成22年 5月29日	出現種類数	18	60	56
		総個体数 (個体/0.25m ²)	11998	5541	348
		総湿重量 (g/0.25m ²)	201.84	127.1	72.77
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	キヌマトイガイ 16%	ムギガイ 14%
			第2位 クマトリゴカイ <0.1%	マルエワレカラ 15%	オサデワレカラ 14%
			第3位 ユンボソコヒ 属 <0.1%	アリアケトノダムシ 14%	Thelepus属 11%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 100%	Thelepus属 38%	コシダカンガウ 53%
			第2位 クマトリゴカイ <0.1%	エゾカサネカンザシ 17%	コベルツネガイ 13%
			第3位 シロダラシリス <0.1% キクノハナガイ <0.1%	キヌマトイガイ 8%	Thelepus属 8%
	平成24年 6月3日	出現種類数	15	35	49
		総個体数 (個体/0.25m ²)	788	7094	179
		総湿重量 (g/0.25m ²)	72.06	55.73	7.97
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 77%	Monocorophium属 42%	Caprella属 20%
			第2位 Amphithoe 属 7%	エゾカサネカンザシゴカイ 36%	トゲワレカラ 13%
			第3位 イボニシ 4%	マルエワレカラ 9%	ウエトノダムシ 4% Melita属 4%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 62%	エゾカサネカンザシゴカイ 40%	コシダカンガウ 30%
			第2位 ヨメガカサ 23%	Thelepus属 10%	レイシガイ 26%
			第3位 ムラサキイガイ 3%	マサゴコカイ 9%	ムギガイ 8%
	平成26年 5月31日	出現種類数	23	59	54
		総個体数 (個体/0.25m ²)	11802	6437	784
		総湿重量 (g/0.25m ²)	653.98	53.08	22.98
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 94%	マルエワレカラ 40%	Caprella属 42%
			第2位 イワフジソボ 5%	ムラサキイガイ 25%	トゲワレカラ 11%
			第3位 キクノハナガイ 0.2%	キヌマトイガイ 13%	ユンボソコヒ科 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 96%	ムラサキイガイ 36%	シマノフネガイ 52%
			第2位 ヒザラガイ 1%	マルエワレカラ 16%	コシダカンガウ 19%
			第3位 キクノハナガイ 1%	キヌマトイガイ 11%	ムギガイ 10%
	平成28年 5月29日	出現種類数	26	57	52
		総個体数 (個体/0.25m ²)	14125	5863	1655
		総湿重量 (g/0.25m ²)	6579.56	67.31	56.82
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 83%	マルエワレカラ 57%	Aoroides属 37%
			第2位 マルエワレカラ 14%	ムラサキイガイ 11%	Caprella属 22%
			第3位 Hyale属 0.7%	Aoroides属 10%	Syllinae亜科 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 91%	マガキ 41%	尋常海綿綱 40%
			第2位 マガキ 5%	マルエワレカラ 19%	オオヘビガイ 22%
			第3位 イタボガキ科 3%	ムギガイ 7%	ミズヒキコカイ科 10%

・ 目視観察による調査結果

〔 植 物 〕

表 4-7 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点の今回の調査では、+1～-4m まで、目立った主要種はなかった。-5m 以深では、前回までの調査と同様にツルツル、サンゴモ科、ベニスナゴ、ススカケベニなどの紅藻が主要種となっていた。これまでの調査と較べて、藻場を構成する一年生の大型褐藻類は比較的少なかった。

C-2 の地点の今回の調査では、-1 m と-3m では、緑藻のアオサ属が主要種となっており、-1～-2m ではツノマタ属、フダラクなどの紅藻類が、-2 m では藻場を構成する一年生の大型褐藻類であるワカメが主要種となっていた。-4m 以深では紅藻類のサンゴモ科が主要種となっていた。これまでの調査と、大きな分布傾向の変化は認められなかった。

C-3 の地点の今回の調査では、±0～-2m では緑藻のシオグサ属の被度が高くなっていた。その他、-1m では紅藻類のフダラク、-3m では緑藻類のアオサ属が主要種となっていた。-5m 以深では紅藻類のサンゴモ科、イワノカワ科が主要種となっていた。これまでの調査と較べて、藻場を構成する一年生の大型褐藻類は比較的少なかった。

表 4-7 目視調査結果概要（植物） 大阪沖埋立処分場

C-1	平均水面 (m) 調査日 基質	+1 ケ-ソソ	±0 ケ-ソソ	-1 ケ-ソソ	-2 ケ-ソソ	-3 ケ-ソソ	-4 ケ-ソソ	-5 巨礫	-6 巨礫	-7 巨礫	-8 巨礫	-9 巨礫	-10 巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	-	フダラク	フダラク	イギス科 ススカケベニ	シダモク ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	-	-	-
	平成24年6月3日	-	-	イギス目	ムカデノリ	ムカデノリ	シダモク ツルツル	ツルツル ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
	平成26年5月31日	-	-	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ フダラク	シダモク フダラク ツルツル ベニスナゴ	ワカメ サビ垂科 フダラク ツルツル ベニスナゴ イトグサ属	ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	-
	平成28年5月29日	-	-	-	-	-	-	ツルツル	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ススカケベニ	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	4	2	5	5	3	3	2	1	1
	平成24年5月26日	0	2	5	6	5	12	6	5	4	4	1	1
	平成26年5月31日	0	3	3	4	4	8	12	10	10	6	3	3
	平成28年5月29日	0	2	5	5	1	8	8	6	6	3	3	0

C-2	平均水面 (m) 調査日 基質	+1 フ ⁺ ロツク	±0 フ ⁺ ロツク	-1 フ ⁺ ロツク	-2 フ ⁺ ロツク	-3 フ ⁺ ロツク	-4 フ ⁺ ロツク	-5 巨礫	-6 巨礫	-7 巨礫	-8 巨礫	-9 巨礫	-10 巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	ススカケベニ イギス科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科 ススカケベニ サンゴモ目	イワノカワ科 ススカケベニ	イワノカワ科 ススカケベニ	-	-
	平成24年6月3日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク ツルツル	ツノマタ属 フダラク	ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツルツル ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ カバノリ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ススカケベニ	サンゴモ科
	平成26年5月31日	-	-	ワカメ フダラク オオバツノマタ ツノマタ	ワカメ タマハハキモク フダラク	ワカメ フダラク オオバツノマタ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ カバノリ	シダモク サビ垂科 ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ垂科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ垂科
	平成28年5月29日	-	-	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツノマタ属	アオサ属	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	-	-
種類数	平成22年5月30日	0	1	7	6	5	7	5	5	4	3	1	0
	平成24年5月26日	0	0	6	7	7	8	7	4	3	4	5	2
	平成26年5月31日	0	2	8	9	7	7	7	11	7	5	5	3
	平成28年5月29日	0	1	5	7	5	5	4	1	1	1	3	2

C-3	平均水面 (m) 調査日 基質	+1 フ ⁺ ロツク	±0 フ ⁺ ロツク	-1 フ ⁺ ロツク	-2 フ ⁺ ロツク	-3 フ ⁺ ロツク	-4 フ ⁺ ロツク	-5 巨礫	-6 巨礫	-7 巨礫	-8 巨礫	-9 巨礫	-10 巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	アオサ属	アオサ属 シオグサ属 フダラク	フダラク ベニスナゴ	シダモク	シダモク イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	-
	平成24年6月3日	-	アオサ属	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル カバノリ	ツルツル フダラク ベニスナゴ カバノリ	ベニスナゴ	ベニスナゴ	サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科	サビ垂科 ススカケベニ
	平成26年5月31日	-	アオサ属	フダラク ツルツル	シオグサ属 フダラク ツルツル	タマハハキモク フダラク ツルツル カバノリ	ワカメ シダモク ツルツル ベニスナゴ カバノリ	サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ垂科 ベニスナゴ	サビ垂科	-
	平成28年5月29日	-	シオグサ属	シオグサ属 フダラク	シオグサ属	アオサ属	-	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	6	4	4	2	4	5	4	3	1
	平成24年5月26日	0	2	6	7	9	7	3	3	3	4	4	2
	平成26年5月31日	0	2	5	6	7	10	6	6	5	5	5	3
	平成28年5月29日	0	4	8	7	8	8	3	2	3	3	3	1

※主要種：観察時の出現被度が10%以上の種を抽出

〔 動 物 〕

表 4-8 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点では+1m で主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝類のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。±0m 付近ではコモレビコガモガイ（移動性）、カラマツガイ（移動性）、ムラサキイガイ（固着性）などの貝類が多かった。-1 および-3m 付近では前回調査と同様にカンザシゴカイ科（固着性）の被度が高くなっていたが、今まで主要種となっていなかった尋常海綿綱（固着性）の被度も高くなっていた。前回以前の調査と比較して、ヒトデ類（移動性）の出現個体数は少なかった。

C-2 の地点では+1m ではアラレタマキビが多く出現し、±0m ではコモレビコガモガイ、イボニシ（移動性）、カラマツガイ、キクノハナガイ（移動性）、イタボガキ科（固着性）などの貝類が多くみられた。-3m 付近ではカンザシゴカイ科、-5m 付近では尋常海綿綱、-6m 付近では苔虫綱の被度が高かった。前回までの調査と比較して、大きな変化は認められない。

C-3 の地点では+1m ではアラレタマキビが多く出現し、±0m ではキクノハナガイに加え、前回同様にムラサキイガイの被度が高くなっていた。-1m ではイボニシ（移動性）やムラサキイガイが多くみられ、前回調査では-2~-4m で主要種となっていたカンザシゴカイ科は今回は-3m 付近でのみ主要種となっていた。今回の調査では-4m 以深では目立った主要種は確認されなかった。

表 4-8 目視調査結果概要（動物） 大阪沖埋立処分場

C-1	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 レイシガイ ホヤ綱	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 ホヤ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	-	-	-	コケムシ綱	コケムシ綱	コケムシ綱
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	ホヤ綱	-	イトマキヒトデ	-	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	アラレタマキビ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	-	-	-	-	-	キヒトデ	-
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ マギキ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	3	8	5	8	5	3	3	4	6	2	2
	平成24年5月26日	2	11	8	6	5	7	6	7	4	3	3	3
	平成26年5月31日	3	8	8	8	9	5	6	3	3	4	3	2
	平成28年5月29日	2	8	6	7	9	6	5	4	3	3	2	2

C-2	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	コンダカガンガラ イトマキヒトデ	コンダカガンガラ サンカクフジツボ	-	-	-	-	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ イワフジツボ	イボニシ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	-	-	イトマキヒトデ	-	キヒトデ	-	-
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	ヨメガカサ ウツアシ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ	ムギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ イタボガキ科	-	-	カンザシゴカイ科	-	尋常海綿綱	苔虫綱	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	2	3	8	5	4	6	4	5	6	5	2
	平成24年5月26日	2	10	4	7	7	6	7	6	4	3	7	4
	平成26年5月31日	3	10	7	7	10	4	4	2	3	2	1	3
	平成28年5月29日	2	10	6	6	6	4	5	5	3	4	3	2

C-3	平均水面 (m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	調査日 基質	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	フロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	-	ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ヤドリカサ科	カンザシゴカイ科	コケムシ綱	-	コケムシ綱	コケムシ綱	-
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 苔虫綱 ムギガイ	コンダカガンガラ	イトマキヒトデ	-	-	-	-
	平成26年5月31日	-	イボニシ ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科	-	-	-	苔虫綱	苔虫綱	アミコケムシ科
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ	イボニシ ムラサキイガイ	-	カンザシゴカイ科	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月30日	1	5	1	3	5	6	4	6	5	5	3	3
	平成24年5月26日	1	7	3	6	4	5	4	4	3	4	2	3
	平成26年5月31日	3	6	6	9	8	7	7	5	3	3	3	3
	平成28年5月29日	1	4	3	7	7	7	4	4	2	2	1	0

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

(3) 泉大津沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

[植 物]

表 4-9 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 では、上層で 74%、中層で 99%、下層で 85%といずれの層もワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が最優占していた。これまでの調査では上層と下層でベニスナゴ、タオヤギソウ、ムカデノリ属、カバノリなどの紅藻が優占的であったので、変化が認められる。中層については、ワカメが最優占している点で変化がない。

D-3 では、上層で緑藻のシオグサ属が 100%を占め、中層ではワカメが 98%を占めていた。下層ではワカメが 44%を占め、次いで紅藻のタオヤギソウが 28%を占めていた。平成 26 年度調査では上層と下層でコスジフシツナギ、タオヤギソウなどの紅藻が、中層ではワカメが優占する状況であったので、上層と下層については変化がみられる。

表 4-9 坪刈り調査結果概要（植物） 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
泉大津沖 D-2	平成22年 5月21日	出現種類数	7	7	13
		総湿重量 (g/0.25m ²)	7.77	4662.46	960.24
		優占種	第1位 ベニスナゴ 40%	ワカメ 100%	タオヤギソウ 65%
			第2位 イトグサ属 26%	ベニスナゴ <0.1%	ワカメ 25%
			第3位 フダラク 19%	ツノマタ属 <0.1%	ツノマタ属 5%
	平成26年 6月2日	出現種類数	11	17	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	19.88	242.82	475.51
		優占種	第1位 ムカデノリ属 50%	ワカメ 85%	カバノリ 46%
			第2位 フダラク 34%	ムカデノリ 5%	ワカメ 33%
			第3位 アオサ属 12%	アオサ属 3%	タオヤギソウ 17%
	平成28年 6月4日	出現種類数	18	19	11
		総湿重量 (g/0.25m ²)	592.1	1080.39	391.83
		優占種	第1位 ワカメ 74%	ワカメ 99%	ワカメ 85%
			第2位 フダラク 15%	フダラク 0.8%	カバノリ 8%
			第3位 ツルツル 5%	ムカデノリ属 0.2%	タオヤギソウ 6%
泉大津沖 D-3	平成22年 5月21日	出現種類数	3	4	8
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.13	0.4	1.82
		優占種	第1位 シオグサ属 100%	ミル 70%	ワカメ 84%
			第2位 アオノリ属 <0.1%	ダリア属 28%	アオサ属 15%
			第3位 アオサ属 <0.1%		
	平成26年 6月2日	出現種類数	2	8	6
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.04	475.27	99.13
		優占種	第1位 コスジフシツナギ 100%	ワカメ 94%	タオヤギソウ 97%
			第2位 シオグサ属 <0.1%	タオヤギソウ 6%	ススカケベニ 3%
			第3位 出現なし	ススカケベニ 0.2%	イギス科 0.3%
	平成28年 6月4日	出現種類数	2	11	12
		総湿重量 (g/0.25m ²)	0.49	45.8	136.19
		優占種	第1位 シオグサ属 100%	ワカメ 98%	ワカメ 44%
			第2位 アオノリ属 <0.1%	ベニスナゴ 1%	タオヤギソウ 28%
			第3位 出現なし	藍藻綱 1%	ススカケベニ 23%

〔 動 物 〕

表 4-10 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点では、上層で個体数においては二枚貝のムラサキイガイ（固着性）が 92%を占め、湿重量においては巻貝のイボニシ（移動性）が 48%を占め、次いでムラサキイガイが 38%を占めていた。中層では個体数においてマルエラワレカラ（移動性）が 29%、二枚貝のキヌマトイガイ（固着性）が 15%、ムラサキイガイが 13%の順であり、湿重量においては裸鰓目（移動性）が 53%で過半を占めていた。下層では個体数においてキヌマトイガイが 51%で半数以上を占め、湿重量においてはキヌマトイガイが 18%、巻貝のコシダカガンガラ（移動性）が 12%、エゾカサネカンザシゴカイ（固着性）が 12%で優占的であった。これまでの調査と比較すると、上層でムラサキイガイ、下層でキヌマトイガイ、コシダカガンガラが優占的である点は同様であった。中層では各年度で優占種が変化する傾向がみられた。

D-3 の地点では、上層ではムラサキイガイが個体数において 98%、湿重量において 89%を占めていた。中層では、Phoronis 属（固着性）が個体数において 59%を占め、湿重量においてはムラサキイガイが 85%を占めていた。下層では個体数においてキヌマトイガイが 25%、次いでマルエラワレカラが 12%を占め、湿重量においてはフサコケムシ科（固着性）が 24%、次いでアミコケムシ科（固着性）が 18%を占めていた。これまでの調査と比較すると、全体的にはムラサキイガイ、Phoronis 属、キヌマトイガイが優占的である点で同様の傾向を示した。

表 4-10 坪刈り調査結果概要（動物） 泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項 目	上層 (M.W.L ±0m)	中層 (M.W.L -2m)	下層 (M.W.L -4m)
泉大津沖 D-2	平成22年 5月21日	出現種類数	22	53	52
		総個体数 (個体/0.25m ²)	18592	1929	1131
		総湿重量 (g/0.25m ²)	807.48	24.63	21.44
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	Zeuxo属 23%	Polydora属 24%
			第2位 マサゴコカイ 0.3%	Jassa属 20%	アリアケ'ロダムシ 19%
			第3位 シロダタリシ 0.2%	ムラサキイガイ 15%	マルエワレカウ 10%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 97%	ネンエキボヤ 30%	シダカ'カウ 60%
			第2位 レイシガイ 2%	シダカ'カウ 20%	コブコケムシ科 6%
			第3位 マサゴコカイ 0.2%	レイシガイ 16%	ヒラコケムシ科 6%
	平成26年 6月2日	出現種類数	31	53	54
		総個体数 (個体/0.25m ²)	16584	2425	432
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1242.48	37.92	30.13
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 49%	キヌマトイガイ 24%
			第2位 イボニシ 0.3%	キヌマトイガイ 20%	ヨ'ロツハ'ジツホ' 12%
			第3位 Acanthochitona属 0.2%	ヨ'ロツハ'ジツホ' 6%	Jassa属 8%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 94%	ムラサキイガイ 68%	シダカ'カウ 40%
			第2位 イボニシ 5%	キヌマトイガイ 10%	ヒラコケムシ科 27%
			第3位 Acanthochitona属 1%	レイシガイ 8%	レイシガイ 6%
	平成28年 6月4日	出現種類数	41	59	74
		総個体数 (個体/0.25m ²)	10321	1627	1064
		総湿重量 (g/0.25m ²)	202.8	43.28	31.24
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 92%	マルエワレカウ 29%	キヌマトイガイ 51%
			第2位 マルエワレカウ 5%	キヌマトイガイ 15%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 8%
			第3位 キヌマトイガイ 0.9%	ムラサキイガイ 13%	Zeuxo属 4%
		優占種 (湿重量)	第1位 イボニシ 48%	裸鰓目 53%	キヌマトイガイ 18%
			第2位 ムラサキイガイ 38%	ヒラコケムシ科 7%	シダカ'カウ 12%
			第3位 レイシガイ 5%	尋常海綿綱 5%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 12%
泉大津沖 D-3	平成22年 5月21日	出現種類数	24	60	74
		総個体数 (個体/0.25m ²)	38331	14785	3401
		総湿重量 (g/0.25m ²)	1719.05	972.33	216.93
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 71%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 23%
			第2位 Typosyllis属 0.2%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 18%	アリアケ'ロダムシ 19%
			第3位 タマキビ 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ドロクダムシ属 8%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 98%	ムラサキイガイ 75%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 16%
			第2位 カラマツガイ 1%	エ'ノ'カサ'カ'ナ'ザ'シ'コ'カイ 10%	アミコケムシ科 15%
			第3位 マガキ 1%	レイシガイ 3%	キクザル属 14%
	平成26年 6月2日	出現種類数	35	89	92
		総個体数 (個体/0.25m ²)	38999	13938	7910
		総湿重量 (g/0.25m ²)	3736.04	216.08	178.95
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 99%	Phoronis属 58%	Pugettia属 25%
			第2位 キヌマトイガイ 0.4%	キヌマトイガイ 22%	キヌマトイガイ 16%
			第3位 紐形動物門 0.1%	Dodecaceria属 7%	Caprella属 10%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 20%	フサコケムシ科 33%
			第2位 イボニシ 1%	キヌマトイガイ 18%	ムラサキイガイ 15%
			第3位 Ostrea属 1%	フサコケムシ科 13%	ハ'グ'チ'カ'ム'シ'科 13%
	平成28年 6月4日	出現種類数	30	68	89
		総個体数 (個体/0.25m ²)	60745	17276	2069
		総湿重量 (g/0.25m ²)	5408.33	1332.02	168.55
		優占種 (個体数)	第1位 ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 59%	キヌマトイガイ 25%
			第2位 Syllinae亜科 0.6%	ムラサキイガイ 30%	マルエワレカウ 12%
			第3位 紐形動物門 0.5%	キヌマトイガイ 4%	ムラサキイガイ 7%
		優占種 (湿重量)	第1位 ムラサキイガイ 89%	ムラサキイガイ 85%	フサコケムシ科 24%
			第2位 マガキ 10%	Phoronis属 6%	アミコケムシ科 18%
			第3位 紐形動物門 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ムラサキイガイ 9%

・目視観察による調査結果

[植 物]

表 4-11 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点では、±0～-5m ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）とともに、フダラク、ツルツル、カバノリなどの紅藻、緑藻のアオサ属が主要種となっていた。-6m 以深ではマクサ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻が主要種となっていた。これまでの調査でも同様の出現傾向を示していた。

D-3 の地点では、-1～-5m でワカメとともに、ススカケベニ、タオヤギソウなどの紅藻が主要種となっていた。-6m 以深ではススカケベニ、タオヤギソウが主要種となっていた。平成 26 年度調査でも同様の出現傾向を示していた。

D-5 の地点では、壁面、遊水室ともに海藻がみられなかった。平成 26 年度調査では+1m で藍藻が主要種となっていた。

D-6 の地点では、壁面では±0m でワカメとフダラク、-1m でムカデノリ、-3m でワカメとタオヤギソウ、-4～-5m でススカケベニとタオヤギソウが主要種となっていた。遊水室ではアオサ属や紅藻がわずかにみられたのみであった。平成 26 年度調査でも同様の出現傾向を示していた。

表 4-11 目視調査結果概要（植物） 泉大津沖埋立処分場

D-2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日 基質	ブ' Bツク	ブ' Bツク	ブ' Bツク	ブ' Bツク	ブ' Bツク	ブ' Bツク	ブ' Bツク	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	-	-	ワカメ フダラク オオバツノマダ	ワカメ ムカデノリ属 ツルツル	ワカメ ムカデノリ属 ベニスナゴ オオバツノマダ	ワカメ オオバツノマダ ベニスナゴ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	ワカメ ベニスナゴ カバノリ タオヤギソウ	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	シオグサ属	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ ムカデノリ カバノリ	ワカメ ムカデノリ タオヤギソウ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	カバノリ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ カバノリ イトグサ属	イトグサ属	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ フダラク ツルツル	アオサ属 ワカメ	ワカメ	ワカメ カバノリ	ワカメ	カバノリ タオヤギソウ	マクサ カバノリ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	0	4	9	7	9	8	6	7	4	3	0	0	0	0	0
	平成26年6月2日	0	4	7	7	8	6	4	4	5	4	2	3	2	1	0
	平成28年6月4日	0	2	8	8	8	2	6	7	7	5	3	2	2	0	0

D-3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日 基質	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	-	-	ワカメ	-	-	-	-	-	イギス科 ベニスナゴ	イギス科 ススカケベニ	イギス科	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	-	-	ワカメ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	-	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	イトグサ属	イトグサ属	-	-
	平成28年6月4日	-	-	ワカメ	ワカメ	ワカメ ススカケベニ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	0	2	3	1	2	0	0	0	5	4	3	1	0	0	0
	平成26年6月2日	0	3	1	1	3	2	2	2	4	4	2	2	1	1	0
	平成28年6月4日	0	0	3	6	2	4	3	3	4	3	2	2	1	1	0

		エコ岸壁					遊水室		
D-5	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3			
	調査日 基質	ケ-ツク	石網	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	藍藻綱	-	-	-	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-
種類数	平成26年6月2日	1	0	0	0	0	0	0	0
	平成28年6月4日	0	0	0	0	0	0	0	0

		エコ岸壁												
		壁面								遊水室				
D-6	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室		
	調査日 基質	ケ-ツク	石網	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	ケ-ツク	上面	側面	下面	上面	側面	下面
主要種※	平成22年5月21日	アオノリ属	アオノリ属 アオサ属	アオサ属 ワカメ	アオサ属 ワカメ	ワカメ	-	-	-	-	-	-	-	-
	平成26年6月2日	-	アオサ属	ツルツル	-	ワカメ タオヤギソウ	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ	-	-	-	-	-	-
	平成28年6月4日	-	ワカメ フダラク	ムカデノリ	-	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	-	-	-	-	-	-
種類数	平成22年5月21日	2	6	6	5	6	6	2	0	0	1	0	0	3
	平成26年6月2日	0	1	4	4	7	3	2	0	0	2	0	0	3
	平成28年6月4日	0	7	5	8	5	2	2	0	0	3	0	2	6

※主要種：観察時の出現被度が10%以上の種を抽出

[動物]

表 4-12 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点では、+1m で主に潮間帯上部から飛沫帯に生息するアラレタマキビ（移動性）、±0m ではコモレビコガモガイ（移動性）、ウノアシ（移動性）、イボニシ（移動性）などの巻貝類に加えて、イワフジツボ（固着性）が多くみられた。-2～-5m では尋常海綿綱、ヒドロ虫綱、Phoronis 属、苔虫綱、カンザシゴカイ科といった固着性の動物の被度が高かった。また、-6m 以深ではコシダカガンガラ（移動性）、サンショウウニ（移動性）などが多くみられた。

D-3 の地点では、+1m でアラレタマキビ、±0m ではコモレビコガモガイ、アラレタマキビ、イボニシ、カラムツガイ（移動性）などの巻貝が多くみられ、二枚貝のムラサキイガイ（固着性）の被度も高くなっていた。-1～-2m では尋常海綿綱、ムラサキイガイの被度が高く、-3～-6m では Phoronis 属、苔虫綱、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などの固着性の動物の被度が高かった。また、-7m 以深ではシメノウフネガイ（移動性）、サンショウウニ（移動性）などが多くみられた。

D-5 の地点では、壁面では+1m でアラレタマキビ、±0～-3m まで、イボニシ、レイシガイなどの巻貝が多くみられ、-2m ではイトマキヒトデ（移動性）も多くみられ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱などの被度が高くなっていた。遊水室内では苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデ（移動性）、マナマコ（移動性）、カンザシゴカイ科、レイシガイ（移動性）、ムラサキイガイ、サンショウウニなどが多くみられた。

D-6 の地点では、+1m でアラレタマキビ、イワフジツボが多く、±0～-1m ではムラサキイガイの被度が高かった。-1m 以深では、カンザシゴカイ科、苔虫綱、サンカクフジツボ（固着性）、ホヤ綱（単体性）（固着性）などの被度が高く、-1m ではキヒトデ、-3m ではサンショウウニも多くみられた。遊水室内では、上室、下室共に、レイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデ、ヤドカリ上科（移動性）、ウミフクロウ（移動性）などが主要種となっていた。

D-2、D-3、D-5、D-6 とともに、これまでの調査と比較して、主要種の出現状況に大きな変化はみられなかった。

表 4-12 目視調査結果概要（動物） 泉大津沖埋立処分場

D-2	平均水面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日	基質	7'ロック	7'ロック	7'ロック	7'ロック	7'ロック	7'ロック	7'ロック	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ カラマツガイ	レイシガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキガイ イワフジツボ	ムササキガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱 ホヤ綱群体性	苔虫綱	-	イトマキヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	ヨメガサガイ イボニシ ムラサキガイ	イボニシ ムラサキガイ	カンザシゴカイ科	苔虫綱	コシダカバンガラ カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱	シマメノフスガイ	-	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コレシゴカイ科 ウノアシ イボニシ イワフジツボ	-	尋常海綿綱 ヒドロ虫綱	Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	コシダカバンガラ サンショウウニ	コシダカバンガラ	-	サンショウウニ	サンショウウニ	サンショウウニ	-	-	-
種類数	平成22年5月21日		5	5	3	3	3	6	3	4	4	4	3	4	3	2	1
	平成26年6月2日		2	4	8	6	7	9	7	10	6	5	6	8	7	4	0
	平成28年6月4日		3	9	9	7	9	7	7	8	7	6	6	6	5	2	0

D-3	平均水面(m)		+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
	調査日	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキガイ	ムラサキガイ	レイシガイ ムラサキガイ アミコケムシ科 キヒトデ ホヤ綱群体性	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱群体性	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱群体性	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱群体性	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱群体性	-	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	ヨメガサガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキガイ イワフジツボ	イボニシ ムラサキガイ	海綿動物門 レイシガイ ムラサキガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	アミコケムシ科 苔虫綱	アミコケムシ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱群体性	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 イボニシ 苔虫綱 キヒトデ	-	-	キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	-
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コレシゴカイ科 アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキガイ	尋常海綿綱 ムラサキガイ	尋常海綿綱 ムラサキガイ	Phoronis属 苔虫綱 レイシガイ ムラサキガイ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	サンショウウニ	サンショウウニ	シマメノフスガイ サンショウウニ	サンショウウニ	苔虫綱 サンショウウニ	-	-
種類数	平成22年5月21日		2	4	4	11	7	8	7	8	5	3	4	3	3	1	0
	平成26年6月2日		2	7	7	12	11	12	9	14	5	5	6	6	6	7	0
	平成28年6月4日		1	8	3	8	11	9	7	10	6	5	6	4	4	3	0

		エコ岸壁										遊水室				
D-5	調査日	平均水面(m)		壁面												
		基質	ケーソン	石網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	下面					
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ イボニシ ムラサキガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 アスカムシ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 アスカムシ科 苔虫綱	イボニシ イトマキヒトデ キヒトデ	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ					
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ					
種類数	平成26年6月2日	1	5	9	11	11	10	8	11							
	平成28年6月4日	1	3	8	9	9	10	8	10							

		エコ岸壁										遊水室				
D-6	調査日	平均水面(m)		壁面			遊水室					上室		下室		
		基質	ケーソン	石網	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	上面	側面	側面	側面	側面	側面	側面
主要種※	平成22年5月21日	イワフジツボ	レイシガイ ムラサキガイ マナマコ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキガイ イボニシ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	ムラサキガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科	キヒトデ	キヒトデ
	平成26年6月2日	アラレタマキビ イワフジツボ	イボニシ カンザシゴカイ科	ムラサキガイ イボニシ イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	シマメノフスガイ レイシガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	シマメノフスガイ レイシガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ
	平成28年6月4日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキガイ	ムラサキガイ イボニシ イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	-	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキガイ ヤドリカサ科 カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 シマメノフスガイ レイシガイ ウミフクロウ ヤドリカサ科 カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ マナマコ	カンザシゴカイ科 シマメノフスガイ レイシガイ ウミフクロウ ヤドリカサ科 カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ マナマコ
種類数	平成22年5月21日		2	13	12	10	8	8	5	7	6	4	6	3	2	2
	平成26年6月2日		2	4	7	7	10	8	10	11	11	13	10	10	14	
	平成28年6月4日		3	5	8	9	5	8	8	9	12	12	8	11	16	

※主要種：観察時の個体数が3個体以上または出現被度が10%以上の種を抽出

4-2 遊泳魚類等の状況

表 4-13 に各処分場における遊泳魚類等の目視観察結果の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

(1) 神戸沖埋立処分場

今回の調査では、遊泳魚類等としてカサゴ、メバル、アサヒアナハゼ、アイナメ、クロダイ、キチヌ、スズメダイ、メジナ、コブダイ、キュウセン、マダコの計 11 種が目視確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類の殆どは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロックがこれら魚類の良好な生息環境となっていると考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、平成 22 年度以降、同程度からやや増加傾向にあり、個体数については、平成 26 年度調査時に最大であり、今回の調査ではやや減少したと思われる。

(2) 大阪沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてボラ、カサゴ、メバル、スズメダイ、メジナ、スズキ、ホシササノハベラ、キュウセンの 8 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類の殆どは（ボラは回遊）、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっており、ボラなど回遊魚にとっても餌場などとして利用されているものと考えられる。

なお、これまでの調査と比較すると、種類数については、平成 22 年度は 2 種と少なかったが、平成 24 年度以降は 8～11 種であり、同程度で推移していると考えられる。個体数については、経年的に増加傾向にあると思われる。

(3) 泉大津沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてゴンズイ、ボラ、ボラ科、カサゴ、メバル、アイナメ、アナハゼ、キジハタ、クロダイ、キチヌ、ウミタナゴ、スズメダイ、メジナ、ホシササノハベラ、キュウセン、ウマヅラハギ、クサフグの計 17 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類の殆どは（ボラは回遊）、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっており、ボラなど回遊魚にとっても餌場などとして利用されているものと考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、今年度調査で大きく増加している。個体数については、平成 22 年度調査では、cc:51 個体以上の出現頻度が高くなっているが、平成 26 年度および今回の調査でも、多数の魚類の生息状況がうかがわれる。

表 4-13 遊泳魚類等目視観察結果の概要

場所		神戸沖				大阪沖				泉大津沖		
調査年度		H22	H24	H26	H28	H22	H24	H26	H28	H22	H26	H28
個体数	c (11～50個体) の出現頻度	0	2	4	1	1	3	6	8	4	6	7
概要	cc (51個体以上) の出現頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1
出現種類数		7	8	10	11	2	8	11	8	11	12	17

注 1) 個体数概要においては、各魚種ごとの観察水深帯別の c:11～50 個体または cc:51 個体以上の出現頻度を集計したものであり、神戸沖埋立処分場 3 地点 (A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 地点 (C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 地点 (D-2、D-3、D-5、D-6) の合計である。

注 2) 個体数の少ない rr:1～2 個体、r:3～10 個体については種類数には集計しているが、個体数の集計は割愛した。

4-3 水質等の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

表 4-14 に神戸沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（DO）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。相対光量が 1% 以下になる水深は 11～13m であり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

平成 22 年、平成 24 年、平成 26 年と比較すると、今回の調査では各地点とも DO の最低値が低くなっていたが、海藻の生育する水深帯ではほぼ 5mg/L 以上となっており、海生生物に与える影響は過年度と大差ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-14 水質等調査結果の概要（神戸沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
神戸沖	A-2	平成22年5月30日	3.0	15.7 ～ 17.6	27.1 ～ 32.1	4.6 ～ 10.6	0.1 ～ 62.5
		平成24年5月26日	4.1	15.4 ～ 19.4	25.8 ～ 32.2	3.4 ～ 10.7	0.1 ～ 29.8
		平成26年6月1日	1.8	16.0 ～ 22.0	24.1 ～ 32.2	3.8 ～ 11.7	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.3	16.6 ～ 21.0	23.1 ～ 32.0	2.6 ～ 11.3	0.2 ～ 100.0
	A-4	平成22年5月30日	2.8	15.8 ～ 17.3	27.6 ～ 32.1	4.7 ～ 11.2	0.1 ～ 73.3
		平成24年5月26日	3.8	15.6 ～ 19.0	25.5 ～ 32.1	3.6 ～ 10.3	0.1 ～ 31.8
		平成26年6月1日	3.0	16.5 ～ 24.5	25.5 ～ 32.2	4.3 ～ 11.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.2	16.8 ～ 20.9	22.8 ～ 32.0	2.9 ～ 10.5	0.3 ～ 100.0
	A-5	平成22年5月30日	2.3	16.1 ～ 16.8	29.1 ～ 31.8	5.5 ～ 10.3	0.1 ～ 59.8
		平成24年5月26日	3.5	15.7 ～ 18.2	23.4 ～ 32.1	5.1 ～ 9.6	0.1 ～ 73.5
		平成26年6月1日	5.5	16.8 ～ 21.5	29.4 ～ 32.2	4.7 ～ 9.2	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.9	17.1 ～ 20.1	27.7 ～ 32.0	3.3 ～ 8.8	0.3 ～ 100.0

(2) 大阪沖埋立処分場

表 4-15 に大阪沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（D O）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。

平成 22 年、平成 24 年、平成 26 年と比較すると、今回の調査では各地点とも透明度がやや高く、最低水温がやや高くなっていたが、その他に大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-15 水質等調査結果の概要（大阪沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
大阪沖	C-1	平成22年5月29日	3.6	15.8 ~ 16.5	27.2 ~ 32.1	4.8 ~ 7.2	0.3 ~ 72.1
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ~ 20.4	24.3 ~ 32.2	5.5 ~ 13.5	0.1 ~ 40.6
		平成26年5月31日	2.3	16.3 ~ 23.2	26.2 ~ 32.2	3.9 ~ 11.6	0.0 ~ 100.0
		平成28年5月29日	4.8	17.1 ~ 20.1	26.5 ~ 32.1	3.5 ~ 8.8	0.6 ~ 100.0
	C-2	平成22年5月29日	3.3	16.2 ~ 16.6	28.5 ~ 32.0	5.6 ~ 8.0	0.4 ~ 66.5
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ~ 19.4	17.3 ~ 32.4	5.2 ~ 10.9	0.1 ~ 61.7
		平成26年5月31日	2.5	16.5 ~ 24.5	26.5 ~ 32.0	5.0 ~ 12.4	0.2 ~ 100.0
		平成28年5月29日	6.2	18.1 ~ 20.5	22.6 ~ 32.1	5.7 ~ 8.1	4.5 ~ 100.0
	C-3	平成22年5月29日	5.3	16.0 ~ 19.0	22.4 ~ 32.1	5.3 ~ 8.6	0.1 ~ 59.9
		平成24年6月3日	5.5	16.7 ~ 18.7	30.1 ~ 32.2	6.4 ~ 9.1	0.5 ~ 67.2
		平成26年5月31日	2.5	16.1 ~ 24.4	26.8 ~ 32.2	3.4 ~ 12.6	0.0 ~ 100.0
		平成28年5月29日	7.1	17.8 ~ 19.7	28.9 ~ 32.2	5.9 ~ 7.2	1.4 ~ 100.0

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 4-16 に泉大津沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（DO）に地点間での大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。相対光量が 1%以下になる水深は 8～9m 以下であり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

平成 26 年と比較すると、今回の調査では各地点とも最低水温がやや高く、最高水温がやや低くなっていたが、その他に大きな傾向の違いはみられなかった。平成 22 年度については、透明度が高く、水底近くの相対光量も高くなっている。

表 4-16 水質等調査結果の概要（泉大津沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度 (m)	水温 (°C)	塩分 (ー)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
泉大津沖	D-2	平成22年5月21日	7.5	14.7 ～ 19.6	29.4 ～ 32.0	3.8 ～ 9.9	1.5 ～ 62.4
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.2	17.8 ～ 19.9	30.9 ～ 32.1	2.9 ～ 13.1	0.2 ～ 100.0
	D-5	平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.3	17.0 ～ 20.1	30.6 ～ 32.1	3.0 ～ 11.2	0.2 ～ 100.0
	D-6	平成22年5月21日	7.3	14.6 ～ 22.0	24.4 ～ 32.0	2.8 ～ 10.3	1.4 ～ 56.9
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	3.0	17.8 ～ 20.2	27.2 ～ 32.1	2.8 ～ 9.7	0.7 ～ 100.0

4-4 藻場分布の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（10 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、タマハハキモク等からなる藻場の分布が確認された。

表 4-17 に確認された藻場構成種ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。前回と比較してシダモク、タマハハキモクは藻場が縮小する傾向がみられた一方、多年生のヨレモクモドキは分布域の拡大がみられた。ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻で西護岸を中心に分布域の減少の傾向がみられた。

表 4-17 確認された藻場構成種と分布状況の変化 神戸沖埋立処分場

区 分	種 類	分布域の変化	被度の変化 (生育密度)	備 考
藻場 構成種	ワカメ	前回と同程度	前回より減少	51%以上の濃密域がない
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ南護岸で確認
	シダモク	減少傾向	前回と同程度	西護岸、南護岸で減少、東護岸で増加
	タマハハキモク	前回よりやや減少	前回よりやや減少	西護岸で未確認
	ヒジキ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ西護岸の 1 箇所を確認
	ヨレモクモドキ	前回より増加	前回と同程度	各護岸で確認
その他 主要海藻	アオサ属	前回と同程度	前回より増加	特に南護岸で被度が増加
	マクサ	前回と同程度	前回よりやや増加	分布域は西護岸で減少、南護岸、東護岸でやや増加、被度はやや増加
	ススカケベニ	前回より減少	前回と同程度	西護岸、東護岸で減少、南護岸で増加
	フダラク	前回より減少	前回と同程度	各護岸で減少
	ベニスナゴ	前回より減少	前回と同程度	南護岸の 1 箇所のみで確認
	カバノリ	前回と同程度	前回と同程度	西護岸で減少、東護岸で増加
	ツルツル	前回より減少	前回より減少	分布未確認

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）



図 4-1 神戸沖埋立処分場 護岸配置

(2) 大阪沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（10 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモクからなる藻場の分布が確認された。

表 4-18 に確認された藻場構成種ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。前回と比較してワカメ、アカモクについては分布域の拡大が、ワカメ、アカモク、シダモクについては被度の増加がみられた。また、アオサ属、マクサなどの海藻で増加傾向がみられた。

表 4-18 確認された藻場構成種と分布状況の変化 大阪沖埋立処分場

区 分	種 類	分布域の変化	被度の変化 (生育密度)	備 考
藻場 構成種	ワカメ	増加傾向	前回より増加	分布域は南護岸で増加
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H22、H24 にわずかに確認
	シダモク	前回と同程度	前回より増加	被度 51%以上の濃密域も出現
	アカモク	前回より増加	前回より増加	北護岸と南護岸で確認、前回未確認
	タマハハキモク	前回と同程度	前回と同程度	H26 と同程度
	ヨレモクモドキ	今回未確認	今回未確認	H22 に 1 箇所でのみ確認
その他 主要海藻	アオサ属	前回よりやや増加	前回と同程度	南護岸で増加
	ススカケベニ	前回より減少	前回より減少	北護岸、南護岸で減少
	フダラク	前回よりやや減少	前回と同程度	南護岸でわずかに減少
	ベニスナゴ	前回より減少	前回より減少	分布は北護岸で、被度は北護岸、西護岸で減少
	カバノリ	前回と同程度	前回と同程度	H26 と同程度、
	マクサ	前回より増加	前回より増加	南護岸で確認、前回は未確認
	ツルツル	前回と同程度	前回と同程度	分布域は北護岸で減少、西護岸、南護岸で増加、

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

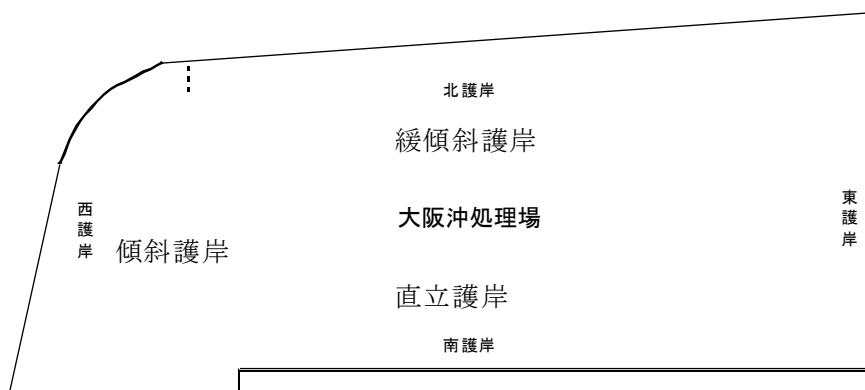


図 4-2 大阪沖埋立処分場 護岸配置

4-5 まとめ(要約)

フェニックス埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として、神戸沖埋立処分場・大阪沖埋立処分場において、坪刈りと目視による付着動植物調査、遊泳魚類調査、水質調査、藻場分布調査を平成 28 年春季に実施した。

4-5-1 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場護岸では、付着植物(海藻)として平均水面付近では緑藻のアオサ属が多くみられ、藻場構成種となる大型褐藻では-2m 付近の緩傾斜護岸でタマハハキモクが確認された。この他、-4m 付近の傾斜護岸では紅藻のカバノリが多くみられ、各護岸の-2m 以深では紅藻のイギス目が多くみられた。

付着動物は平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビやタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキイガイ、イタボガキ科や固着性のイワフジツボなどが多くみられた。-1~-3m では、ムラサキイガイや固着性のカンザシゴカイ科や移動性の巻貝であるレイシガイが多くみられた。-3m 以深では移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが多くみられた。

魚類ではカサゴ、メバル、キュウセンなどの定住性の魚類が各護岸の-2~-11m 付近で確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深帯 6~11m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量については護岸上の 10m 以浅の水深帯では相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモク、多年生のヨレモクモドキの分布が確認された。藻場としては一年生のタマハハキモクが傾斜護岸の南護岸、緩傾斜護岸の東護岸で広範囲に確認された。多年生のヨレモクモドキは少量ながら各護岸でみられた。

前回平成 26 年度調査と比較すると、ワカメの被度の減少、シダモクの分布域の縮小、タマハハキモクの分布域、被度の減少など藻場の縮小が確認され、特に直立護岸である西護岸での縮小が顕著であった。また、遊泳魚類についても、平成 26 年度調査から個体数の減少傾向がうかがわれる。次回の調査でこうした状況の推移を確認していく必要がある。

4-5-2 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として平均水面付近では緑藻のアオサ属、シオグサ属が多くみられ、藻場構成種となる大型褐藻類では-1~-5m でワカメ、タマハハキモク、シダモクが確認された。この他、-1~-2m 付近の緩傾斜および傾斜護岸ではツノマタ属、フダラクなどの紅藻類が多く、-4m 以深の各護岸ではサンゴモ科、ツルツル、イワノカワ科、ベニスナゴなどの紅藻類が多くみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では固着性二枚貝のムラサキイガイ、マガキ、イタボガキ科、移動性の巻貝であるコモレビコガモガイ、イボニシ、カラマツガイ、キクノハナガイなどが多く生息していた。-1~-3m のケーソンや護岸ブロック表面では固着性の尋常海綿綱やカンザシゴカイ科などの被度が高かった。

魚類ではカサゴ、メバル、スズメダイ、メジナなどの定住性の魚類が各護岸の-2~-9m 付近で多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深 9m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量については護岸上の 13m 以浅の水深帯で相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモクの分布が確認された。藻場としては一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認され、前回調査と比較して分布域の増加傾向がみられた。また、今回調査では前回確認されなかったアカモクも確認されている。

大阪沖埋立処分場は、平成 21 年 7 月の護岸概成以降 7 年近くが経過した。藻場の増大、遊泳魚類等の個体数の増加傾向が認められ、海域環境、生物の生息基盤としての護岸環境の安定化が進んでいると考えられる。本調査を通じて、今後の推移を確認しておく必要がある。

4-5-3 泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として、藻場構成種となる大型褐藻では±0～-5m でワカメが多く確認された。この他、±0～-2m 付近の緩傾斜および傾斜護岸や護岸ブロックではフダラク、ツルツル、ムカデノリなどの紅藻が多くみられ、-3m 以深ではマクサ、ススカケベニ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻が多くみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多く確認された他、固着性のイワフジツボも部分的に多かった。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキガイ、移動性の巻貝であるコモレビコガモガイ、アラレタマキビ、イボニシなどが多く確認された。-1～-3m のケーソンや護岸ブロック表面では固着性の尋常海綿綱、ムラサキガイ、苔虫綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱、ホヤ綱（単体性）などが多くみられ、-4m 以深では、苔虫綱、カンザシゴカイ科、移動性のサンショウウニなどが多くみられた。遊水室内では、苔虫綱、カンザシゴカイ科や移動性の巻貝であるシマメノウフネガイ、レイシガイ、移動性のヤドカリ上科、イトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが多く生息していた。

魚類ではメバル、ウミタナゴ、キュウセンなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m 付近及び遊水室内で多く確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深 9m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量について、護岸上の 13m 以浅の水深帯において相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下した地点もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。